

麻生谷遺跡・麻生谷新生園遺跡調査報告

—平成4～7年度、主要地方道小矢部伏木港線道路改良工事に伴う調査—

1997年3月

高岡市教育委員会

序

富山県と石川県との境に聳える大門山に発した小矢部川は、福光町付近で平野部に出て、砺波平野、射水平野を北流して、高岡市伏木より富山湾へと注いでいます。

平野部へ出てからは、砺波平野の大部分を占める庄川扇状地の西側外縁部を曲流します。西方には、宝達山系の丘陵部が並んでおり、この間に狭い沖積低地部を形成しています。

庄川扇状地を流れるものを含め、多くの支流を併せ、水量が豊かで、流れが穏やかなこの河川は、人々の往来や物資の運搬に、地域の動脈として利用されてきました。またこの川の左岸部も、近世では水見や高岡と金沢方面を結ぶ、主要なルートであり、律令期の北陸道やそれ以前の道もこのルートに比定されております。

この小矢部川左岸部の重要性は、丘陵部や山麓にみる数々の遺跡が示しており、このなかの一つが、麻生谷遺跡・麻生谷新生園遺跡です。この付近は、南西側の律令期の砺波郡衙や坂本駅の比定地と、北東側の越中国府跡との中間地点に当たり、川入駅の推定地もあります。

主要地方道小矢部伏木港線道路改良工事にかかる麻生谷遺跡・麻生谷新生園遺跡の発掘調査は、平成4年度の試掘調査に始まり、平成5～7年度の本調査、そして平成8年度の整理作業を経て、ここに報告書を刊行する運びとなりました。

この調査により、平安時代頃の遺跡を中心に、古墳時代から中世に至る、遺構や遺物が発見されました。平安時代頃の掘立柱建物址は、川入駅に関するものである可能性も出てきました。

末尾になりましたが、長期間に亘る調査実施に当たり、関係機関や地元の皆様には、ご理解とご協力を得ました。ここに厚くお礼申しあげます。

平成9年3月

高岡市教育委員会

教育長 細呂木 六良

例　　言

1. 本書は、主要地方道小矢部伏木港線道路改良工事に伴う、麻生谷・麻生谷新生園遺跡発掘調査の報告書である。
2. 当調査は、富山県高岡土木事務所の委託を受け、高岡市教育委員会社会教育課（組織改正により、平成7年度からは文化財課）が実施した。
3. 調査地区は、富山県高岡市麻生谷である。
4. 発掘調査は、平成4年度実施の試掘調査と、その結果を受けて実施した、平成5～7年度の本調査である。
5. 本調査の区分及び実施方法は以下のとおりである。
 - 〔1〕平成5年度麻生谷遺跡調査地区
高岡市教育委員会直営
 - 〔2〕平成6年度麻生谷新生園遺跡調査地区
山武考古学研究所に委託
 - 〔3〕平成7年度麻生谷遺跡調査地区
山武考古学研究所に委託
6. 報告書作成事業は、平成8年度事業として実施した。
7. 調査関係者は次のとおりである。

〔高岡市教育委員会、平成4～6年度〕
社会教育課長：野村一郎
課長補佐；鹿島誠一（平成5年度）、森 恵夫（平成6年度）
文化係長；大石 茂
係員；山口辰一、榎木和代（平成4～5年度）、根津明義（平成6年度）
〔高岡市教育委員会、平成7～8年度〕
文化財課長；田村晴彦
埋蔵文化財係
主幹兼係長；石浦正雄
係員；山口辰一、根津明義、荒井隆

〔山武考古学研究所〕
所長；平岡和夫
係長；武部喜光
調査員；高柳正春、大越直樹
8. 本書の執筆分担は、次のとおりである。
第1・2・5章；山口辰一、第3章；武部喜光、第4章；高柳正春

凡　例

- 遺　構
1. 図面の方位は、第7座標系の方眼北を指している。
 2. 断面図におけるレベルは、海拔高を指している。
 3. 遺構記号は次のとおりである。
SA—柵址、SB—掘立柱建物址、SD—溝、SE—井戸址、SK—土坑、SX—その他
 4. 遺構番号は各調査地区ごとに、次のように付けた。
平成5年度麻生谷遺跡；101～
平成7年度麻生谷遺跡；201～
平成6年度麻生谷新生園遺跡；301～
- 遺　物
1. 遺物実測図の縮尺は原則的に次のとおりである
土器類；3分の1　　土製品；2分の1
 2. 遺物番号は次のとおりである

平成4年度麻生谷遺跡試掘調査地区	平成4年度麻生谷新生園遺跡試掘調査地区
1101～1167 県道地区土器類	7101～7135 土器類
1201～1220 市道地区土器類	7201～7204 土製品
平成5年度麻生谷遺跡本調査地区	7301～7302 石製品
2101～2140 第1区土器類	平成6年度麻生谷新生園遺跡本調査地区
3101～3213 第2区土器類	8101～8184 土師器
3301～3305 第2区石製品	8201～8281 須恵器
4101～4127 第3区土器類	8301～8318 珠洲
平成7年度麻生谷遺跡本調査地区	8401～8413 中世陶磁器
5101～5115 第1区土器類	8501～8506 近世陶器
5201～5204 第1区土製品	9101～9133 土製品
5301～5401 第1区木製品	9201～9230 木製品
5701～5709 第1区自然遺物	9301～9302 銅製品
6101～6187 第2区土器類	9401～9415 石製品
6201～6227 第2区土製品	
6301～6390 第2区木製品	
6601～6507 第2区銅・鉄製品	
6601 第2区石製品	

麻生谷遺跡・麻生谷新生園遺跡調査報告

目 次

序

例言

目次

第1章 序 説	21
第1節 遺跡概観	23
第2節 調査概観	27
第3節 試掘調査の遺物	34
第2章 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	37
第1節 調査地区的概観	39
第2節 第1区の遺構	41
第3節 第2区の遺構	42
第4節 第3区の遺構	47
第5節 第1区の遺物	48
第6節 第2区の遺物	49
第7節 第3区の遺物	51
第8節 小結	52
第3章 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	53
第1節 調査地区的概観	55
第2節 第1区の遺構	57
第3節 第2区の遺構	60
第4節 第1区の遺物	67
第5節 第2区の遺物	69
第6節 小結	72

第4章 麻生谷新生園遺跡平成6年度調査地区 73

第1節 調査地区の概観	75
第2節 遺構	78
第3節 遺物	80
第4節 小結	84

第5章 総括 85

第1節 麻生谷遺跡	87
第2節 麻生谷新生園遺跡	89

挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図〔1〕(1／10万).....	22
第2図 遺跡位置図〔2〕(1／5万).....	24
第3図 麻生谷遺跡周辺の遺跡地図(1／1万5千).....	25
第4図 道路工事予定図(1／7,500).....	28
第5図 試掘調査風景	29
第6図 試掘調査地区位置図(1／5,000).....	30
第7図 本調査地区位置図(1／5,000).....	32
第8図 麻生谷遺跡平成5年度調査地区位置図(1／3,000).....	38
第9図 麻生谷遺跡平成5年度調査地区全体図(1／600)	40
第10図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区位置図(1／3,000).....	54
第11図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区全体図(1／600)	56
第12図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区掘立柱建物址模式図〔1〕	60
第13図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区掘立柱建物址模式図〔2〕	61
第14図 新生園遺跡平成6年度調査地区位置図(1／3,000).....	74
第15図 新生園遺跡平成6年度調査地区基本堆積土層図(1／10)	75
第16図 新生園遺跡平成6年度調査地区全体図(1／600)	76
第17図 調査地区周辺の現況	86

図面目次〔1〕 遺構実測図

図面101	遺構実測図 麻生谷遺跡平成5年度調査地区 遺構図 (1/400)	95
図面102	遺構実測図 麻生谷遺跡平成5年度調査地区 第1区遺構図 (1/200)	96
図面103	遺構実測図 麻生谷遺跡平成5年度調査地区 第2区西半部遺構図 (1/200)	97
図面104	遺構実測図 麻生谷遺跡平成5年度調査地区 第2区東半部遺構図 (1/200)	98
図面105	遺構実測図 麻生谷遺跡平成5年度調査地区 第3区遺構図 (1/200)	99
図面106	遺構実測図 麻生谷遺跡平成5年度調査地区 第2区溝S D 109 実測図 (1/80)	100
図面107	遺構実測図 麻生谷遺跡平成5年度調査地区 第2区溝S D 133～135 実測図 (1/80)	101
図面108	遺構実測図 麻生谷遺跡平成5年度調査地区 第2区溝S D 136～138 実測図 (1/80)	102
図面109	遺構実測図 麻生谷遺跡平成5年度調査地区 第3区井戸址S E 101 実測図 (1/60) 第3区溝S D 140～142 実測図 (1/80)	103
図面110	遺構実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 第1区遺構図 (1/400)	104
図面111	遺構実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 第1区西側遺構図 (1/200)	105
図面112	遺構実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 第1区中央部遺構図 (1/200)	106
図面113	遺構実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 第1区東側遺構図 (1/200)	107
図面114	遺構実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 第1区井戸址S E 201 平面・土層断面図 (1/30)	108
図面115	遺構実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 第1区井戸址S E 201 井戸側面図 (1/30)	109
図面116	遺構実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 第1区土坑S K 201～205, 209, 210, 226～230 実測図 (1/60)	110
図面117	遺構実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 第1区溝S D 201～203, 207, 208 実測図 (1/80)	111
図面118	遺構実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 第1区溝S D 235～237 実測図 (1/80)	112
図面119	遺構実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 第1区ピットP 228, 233, 234, 237 実測図 (1/60)	113
図面120	遺構実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 第2区遺構図 (1/400)	114
図面121	遺構実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 第2区西側遺構図 (1/200)	115
図面122	遺構実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 第2区東側遺構図 (1/200)	116
図面123	遺構実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 第2区掘立柱建物址S B 202 実測図 (1/80)	117
図面124	遺構実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 第2区掘立柱建物址S B 201, S B 203 実測図 (1/80)	118
図面125	遺構実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 第2区掘立柱建物址S B 204, S B 209 実測図 (1/80)	119
図面126	遺構実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 第2区掘立柱建物址S B 205, S B 206 実測図 (1/80)	120

図面 127	遺構実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 第2区掘立柱建物址S B 207 実測図 (1/80)	121
図面 128	遺構実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 第2区掘立柱建物址 S B 208 実測図 (1/80)	122
図面 129	遺構実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 第2区櫛址 S A 201～206 実測図 (1/80)	123
図面 130	遺構実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 第2区井戸址 S E 202 上層遺物出土状態図 (1/30)	124
図面 131	遺構実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 第2区井戸址 S E 202 平面・土層断面図 (1/30)	125
図面 132	遺構実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 第2区井戸址 S E 202 井戸側壁開図 (1/30)	126
図面 133	遺構実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 第2区井戸址 S E 203 平面・土層断面図 (1/30)	127
図面 134	遺構実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 第2区上坑 S K 206～208, 211, 213～215, 221, 222, 225, 231, 232 実測図 (1/60)	128
図面 135	遺構実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 第2区溝 S D 220, 221, 223 実測図 (1/80)	129
図面 136	遺構実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 第2区溝 S D 222, 224, 225, 227 実測図 (1/80)	130
図面 137	遺構実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 第2区溝 S D 228, 229 実測図 (1/80)	131
図面 138	遺構実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 第2区溝 S D 230, 231 実測図 [1] (1/80)	132
図面 139	遺構実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 第2区溝 S D 230, 231 実測図 [2] (1/80)	133
図面 140	遺構実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 第2区溝 S D 238, 239, 244 実測図 (1/80)	134
図面 141	遺構実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 第2区溝 S D 241, 243, 245 実測図 (1/80)	135
図面 142	遺構実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 第2区ピット P 222, 224～226, 244, 247, 249～251 実測図 (1/60)	136
図面 143	遺構実測図 新生園遺跡平成6年度調査地区 遺構図 (1/400)	137
図面 144	遺構実測図 新生園遺跡平成6年度調査地区 西側遺構図 (1/200)	138
図面 145	遺構実測図 新生園遺跡平成6年度調査地区 中央部遺構図 (1/200)	139
図面 146	遺構実測図 新生園遺跡平成6年度調査地区 竪穴住居址 S I 301 実測図 (1/60)	140
図面 147	遺構実測図 新生園遺跡平成6年度調査地区 土坑 S K 301～303 実測図 (1/60)	141
図面 148	遺構実測図 新生園遺跡平成6年度調査地区 土坑 S K 304～307 実測図 (1/60)	142
図面 149	遺構実測図 新生園遺跡平成6年度調査地区 溝 S D 301 実測図 (1/60)	143
図面 150	遺構実測図 新生園遺跡平成6年度調査地区 溝 S D 302 実測図 (1/60)	144

図面目次〔2〕 遺物実測図

図面 201	遺物実測図 麻生谷遺跡平成4年度調査地区	県道地区土器類（1／3）	147
図面 202	遺物実測図 麻生谷遺跡平成4年度調査地区	県道地区土器類（1／3）	148
図面 203	遺物実測図 麻生谷遺跡平成4年度調査地区	県道地区土器類（1／3）	149
図面 204	遺物実測図 麻生谷遺跡平成4年度調査地区	市道地区土器類（1／3）	150
図面 205	遺物実測図 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	第1区土器類（1／3）	151
図面 206	遺物実測図 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	第1区土器類（1／3）	152
図面 207	遺物実測図 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	第2区土器類（1／3）	153
図面 208	遺物実測図 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	第2区土器類（1／3）	154
図面 209	遺物実測図 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	第2区土器類（1／3）	155
図面 210	遺物実測図 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	第2区土器類（1／3）	156
図面 211	遺物実測図 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	第2区土器類（1／3）	157
図面 212	遺物実測図 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	第2区石製品（1／2, 実大）	158
図面 213	遺物実測図 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	第3区土器類（1／3）	159
図面 214	遺物実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第1区土器類（1／3）	160
図面 215	遺物実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第1区土製品（1／2）	161
図面 216	遺物実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第1区木製品（1／2）	162
図面 217	遺物実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第1区木製品（1／2）	163
図面 218	遺物実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第1区木製品（1／3）	164
図面 219	遺物実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第1区木製品（1／3）	165
図面 220	遺物実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第1区木製品（1／3）	166
図面 221	遺物実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第1区木製品（1／3, 1／8）	167
図面 222	遺物実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第1区木製品（1／8）	168
図面 223	遺物実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第1区木製品（1／8）	169
図面 224	遺物実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第1区木製品（1／8）	170
図面 225	遺物実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第1区木製品（1／8）	171
図面 226	遺物実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第2区土器類（1／3）	172
図面 227	遺物実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第2区土器類（1／3）	173
図面 228	遺物実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第2区土器類（1／3）	174
図面 229	遺物実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第2区土器類（1／3）	175
図面 230	遺物実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第2区土器類（1／3）	176
図面 231	遺物実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第2区土器類（1／3）	177
図面 232	遺物実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第2区土器類（1／3）	178
図面 233	遺物実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第2区土製品（1／2）	179
図面 234	遺物実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第2区土製品（1／2）	180
図面 235	遺物実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第2区木製品（1／2）	181
図面 236	遺物実測図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第2区木製品（1／2）	182

図面 237	遺物実測図	麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第2区木製品(1/3)	183
図面 238	遺物実測図	麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第2区木製品(1/3)	184
図面 239	遺物実測図	麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第2区木製品(1/3)	185
図面 240	遺物実測図	麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第2区木製品(1/3)	186
図面 241	遺物実測図	麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第2区木製品(1/3)	187
図面 242	遺物実測図	麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第2区木製品(1/3)	188
図面 243	遺物実測図	麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第2区木製品(1/8)	189
図面 244	遺物実測図	麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第2区木製品(1/8)	190
図面 245	遺物実測図	麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第2区木製品(1/8)	191
図面 246	遺物実測図	麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第2区木製品(1/8)	192
図面 247	遺物実測図	麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第2区木製品(1/8)	193
図面 248	遺物実測図	麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第2区木製品(1/8)	194
図面 249	遺物実測図	麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第2区木製品(1/8)	195
図面 250	遺物実測図	麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第2区木製品(1/8)	196
図面 251	遺物実測図	麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第2区木製品(1/8)	197
図面 252	遺物実測図	麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第2区銅製品他(1/2他)	198
図面 253	遺物実測図	新生園遺跡平成4年度調査地区	土器類(1/3)	199
図面 254	遺物実測図	新生園遺跡平成4年度調査地区	土器類(1/3)	200
図面 255	遺物実測図	新生園遺跡平成4年度調査地区	土製品、石製品(1/2)	201
図面 256	遺物実測図	新生園遺跡平成6年度調査地区	土器類(1/3)	202
図面 257	遺物実測図	新生園遺跡平成6年度調査地区	土器類(1/3)	203
図面 258	遺物実測図	新生園遺跡平成6年度調査地区	土器類(1/3)	204
図面 259	遺物実測図	新生園遺跡平成6年度調査地区	土器類(1/3)	205
図面 260	遺物実測図	新生園遺跡平成6年度調査地区	土器類(1/3)	206
図面 261	遺物実測図	新生園遺跡平成6年度調査地区	土器類(1/3)	207
図面 262	遺物実測図	新生園遺跡平成6年度調査地区	土器類(1/3)	208
図面 263	遺物実測図	新生園遺跡平成6年度調査地区	土器類(1/3)	209
図面 264	遺物実測図	新生園遺跡平成6年度調査地区	土器類(1/3)	210
図面 265	遺物実測図	新生園遺跡平成6年度調査地区	土器類(1/3)	211
図面 266	遺物実測図	新生園遺跡平成6年度調査地区	土器類(1/3)	212
図面 267	遺物実測図	新生園遺跡平成6年度調査地区	土器類(1/3)	213
図面 268	遺物実測図	新生園遺跡平成6年度調査地区	土器類(1/3)	214
図面 269	遺物実測図	新生園遺跡平成6年度調査地区	土器類(1/3)	215
図面 270	遺物実測図	新生園遺跡平成6年度調査地区	土器類(1/3)	216
図面 271	遺物実測図	新生園遺跡平成6年度調査地区	土製品(1/3)	217
図面 272	遺物実測図	新生園遺跡平成6年度調査地区	土製品(1/3)	218
図面 273	遺物実測図	新生園遺跡平成6年度調査地区	土製品、銅製品(1/2, 実大)	219
図面 274	遺物実測図	新生園遺跡平成6年度調査地区	木製品(1/3)	220

図面 275	遺物実測図	新生園遺跡平成6年度調査地区	木製品(1/3)	221
図面 276	遺物実測図	新生園遺跡平成6年度調査地区	木製品(1/3)	222
図面 277	遺物実測図	新生園遺跡平成6年度調査地区	木製品(1/3)	223
図面 278	遺物実測図	新生園遺跡平成6年度調査地区	木製品(1/6)	224
図面 279	遺物実測図	新生園遺跡平成6年度調査地区	木製品(1/6)	225
図面 280	遺物実測図	新生園遺跡平成6年度調査地区	木製品(1/8)	226
図面 281	遺物実測図	新生園遺跡平成6年度調査地区	木製品(1/8)	227
図面 282	遺物実測図	新生園遺跡平成6年度調査地区	石製品(1/2)	228
図面 283	遺物実測図	新生園遺跡平成6年度調査地区	石製品(1/3)	229
図面 284	遺物実測図	新生園遺跡平成6年度調査地区	石製品(1/3)	230

図版目次〔1〕 遺構写真

図版 101	遺構 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	1. 全景（南東） 2. 全景（東）	233
図版 102	遺構 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	1. 第1区全景（西） 2. 第1区全景（西）	234
図版 103	遺構 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	1. 第1区全景（北） 2. 第1区全景（南）	235
図版 104	遺構 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	1. 第2区西側全景（北） 2. 第2区西側全景（南）	236
図版 105	遺構 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	1. 第2区東側全景（北） 2. 第2区東側全景（南）	237
図版 106	遺構 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	1. 第2区土坑S K 108 全景（南東） 2. 第2区竪穴状遺構S X 104 全景（南西）	238
図版 107	遺構 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	1. 第2区溝S D 109 全景（南東） 2. 第2区溝S D 109 全景（北西）	239
図版 108	遺構 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	1. 第2区溝S D 109 土層断面（南東） 2. 第2区溝S D 109 土層断面（北）	240
図版 109	遺構 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	1. 第2区溝S D 129 遺物出土状態（南西） 2. 第2区溝S D 129 遺物出土状態（北西）	241
図版 110	遺構 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	1. 第2区溝S D 134 遺物出土状態（南西） 2. 第2区溝S D 134 遺物出土状態（北西）	242
図版 111	遺構 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	1. 第2区溝S D 136 全景（西） 2. 第2区溝S D 138 全景（北西）	243
図版 112	遺構 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	1. 第2区調査風景（西） 2. 第2区調査風景（東） 3. 第2区調査風景（南東）	244
図版 113	遺構 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	1. 第3区全景（北） 2. 第3区全景（南）	245
図版 114	遺構 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	1. 第3区全景（東） 2. 第3区全景（東）	246
図版 115	遺構 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	1. 第3区井戸址S E01全景（南） 2. 第3区井戸址S E01全景（北）	247
図版 116	遺構 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	1. 第3区井戸址S E01近景（北） 2. 第3区井戸址S E01土層断面（南）	248
図版 117	遺構 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	1. 第3区井戸址S E01遺物出土状態（東） 2. 第3区井戸址S E01遺物出土状態（南東）	249
図版 118	遺構 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	1. 第3区溝S D 142 全景（南東）	

	2. 第3区溝S D 142 全景（北西）	250
図版 119 遺構 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	1. 第3区溝S D 142 土層断面（南）	
	2. 第3区溝S D 142 土層断面（南）	251
図版 120 遺構 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	1. 第3区調査風景（南東）	
	2. 第3区調査風景（南西）	
	3. 第3区調査風景（南東）	252
図版 121 遺構 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	1. 第1区西側全景（南上方）	
	2. 第1区西側全景（上方）	253
図版 122 遺構 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	1. 第1区西側全景（西上方）	
	2. 第1区西側全景（東上方）	254
図版 123 遺構 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	1. 第1区西側全景（南上方）	
	2. 第1区西側全景（北上方）	255
図版 124 遺構 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	1. 第1区東側全景（東上方）	
	2. 第1区東側全景（西上方）	256
図版 125 遺構 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	1. 第1区東側全景（北上方）	
	2. 第1区東側全景（南上方）	257
図版 126 遺構 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第1区東側近景（東）	
図版 127 遺構 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	1. 第1区井戸址S E 201 板材出土状態（南東）	
	2. 第1区井戸址S E 201 板材出土状態（北）	259
図版 128 遺構 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	1. 第1区井戸址S E 201 木組検出状態（北）	
	2. 第1区井戸址S E 201 木組検出状態（北）	260
図版 129 遺構 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	1. 第1区井戸址S E 201 木組検出状態（東）	
	2. 第1区井戸址S E 201 木組検出状態（西）	261
図版 130 遺構 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	1. 第1区溝S D 201.203 全景（北）	
	2. 第1区溝S D 235 全景（南）	262
図版 131 遺構 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	1. 第1区調査風景（東）	
	2. 第1区調査風景（東）	
	3. 第1区調査風景（北西）	263
図版 132 遺構 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	1. 第2区西側全景（東上方）	
	2. 第2区西側全景（西上方）	264
図版 133 遺構 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	1. 第2区西側全景（北西上方）	
	2. 第2区西側全景（北東）	265
図版 134 遺構 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	1. 第2区東側全景（北西上方）	
	2. 第2区東側全景（南東上方）	266
図版 135 遺構 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	1. 第2区東側全景（西上方）	
	2. 第2区東側全景（南上方）	267
図版 136 遺構 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	1. 第2区中央部全景（北上方）	
	2. 第2区井戸址付近全景（土方）	268

図版 137	遺構 麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	1. 第 2 区掘立柱建物址 S B 201.203 検出状態（南東） 2. 第 2 区掘立柱建物址 S B 201.203 全景（南東）	269
図版 138	遺構 麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	1. 第 2 区掘立柱建物址 S B 202.204 検出状態（南東） 2. 第 2 区掘立柱建物址 S B 202.204 全景（北東）	270
図版 139	遺構 麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	1. 第 2 区掘立柱建物址 S B 205 全景（東） 2. 第 2 区掘立柱建物址 S B 206 全景（東）	271
図版 140	遺構 麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	1. 第 2 区掘立柱建物址 S B 207 検出状態（北） 2. 第 2 区掘立柱建物址 S B 207 全景（東）	272
図版 141	遺構 麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	1. 第 2 区掘立柱建物址 S B 208 全景（東） 2. 第 2 区掘立柱建物址 S B 208 全景（西）	273
図版 142	遺構 麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	1. 第 2 区掘立柱建物址 S B 209 全景（東） 2. 第 2 区柵址 S A 204 全景（東）	274
図版 143	遺構 麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	1. 第 2 区井戸址 S E 202 上層遺物出土状態（西） 2. 第 2 区井戸址 S E 202 窯串出土状態（南）	275
図版 144	遺構 麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	1. 第 2 区井戸址 S E 202 木組検出状態（西） 2. 第 2 区井戸址 S E 202 木組検出状態（西）	276
図版 145	遺構 麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	第 2 区井戸址 S E 202 木組検出状態（西）	277
図版 146	遺構 麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	1. 第 2 区井戸址 S E 202 木組南西隅（西） 2. 第 2 区井戸址 S E 202 木組北西隅（西）	278
図版 147	遺構 麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	1. 第 2 区井戸址 S E 203 全景（南） 2. 第 2 区井戸址 S E 203 近景（西）	279
図版 148	遺構 麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	1. 第 2 区土坑 S K 215 全景（西） 2. 第 2 区土坑 S K 232 全景（西）	280
図版 149	遺構 麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	1. 第 2 区溝 S D 220.221 全景（東） 2. 第 2 区溝 S D 222 全景（北）	281
図版 150	遺構 麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	1. 第 2 区溝 S D 223 全景（北） 2. 第 2 区溝 S D 227 全景（北）	282
図版 151	遺構 麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	1. 第 2 区溝 S D 228 全景（北） 2. 第 2 区溝 S D 230 全景（南）	283
図版 152	遺構 麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	1. 第 2 区調査風景（西） 2. 第 2 区調査風景（北） 3. 第 2 区調査風景（南）	284
図版 153	遺構 新生園遺跡平成 6 年度調査地区	1. 全景（南東上方） 2. 全景（上方）	285
図版 154	遺構 新生園遺跡平成 6 年度調査地区	全景（南東上方）	286
図版 155	遺構 新生園遺跡平成 6 年度調査地区	1. 全景（北東） 2. 基本土層断面（北西）	287

図版 156	遺構 新生園遺跡平成 6 年度調査地区	1. 壁穴住居址 S I 301 全景（東） 2. 壁穴住居址 S I 301 廉蔵室内種子出土状態（南） 288
図版 157	遺構 新生園遺跡平成 6 年度調査地区	1. 土坑 S K 301 土層断面（南） 2. 土坑 S K 301 遺物出土状態（南西） 289
図版 158	遺構 新生園遺跡平成 6 年度調査地区	1. 土坑 S K 302 土層断面（北西） 2. 土坑 S K 302 曲物出土状態（北東） 290
図版 159	遺構 新生園遺跡平成 6 年度調査地区	1. 土坑 S K 302 曲物出土状態（北東） 2. 土坑 S K 302 曲物出土状態（北東） 291
図版 160	遺構 新生園遺跡平成 6 年度調査地区	1. 土坑 S K 303 全景（南東） 2. 土坑 S K 303 遺物出土状態（南東） 292
図版 161	遺構 新生園遺跡平成 6 年度調査地区	1. 土坑 S K 305 土層断面（南） 2. 土坑 S K 305 鋤先出土状態（南） 293
図版 162	遺構 新生園遺跡平成 6 年度調査地区	1. 土坑 S K 306 土層断面（南） 2. 土坑 S K 304, 306, 307 全景（北東） 294
図版 163	遺構 新生園遺跡平成 6 年度調査地区	1. 溝 S D 301 全景（北西） 2. 溝 S D 301 全景（南東） 295
図版 164	遺構 新生園遺跡平成 6 年度調査地区	1. 溝 S D 301 遺物出土状態全景（南東） 2. 溝 S D 301 遺物出土状態近景（北東） 296
図版 165	遺構 新生園遺跡平成 6 年度調査地区	1. 溝 S D 301 高坏出土状態（南） 2. 溝 S D 301 木製品出土状態（南） 297
図版 166	遺構 新生園遺跡平成 6 年度調査地区	1. 溝 S D 301 土層断面（南） 2. 溝 S D 302 遺物出土状態近景（北西） 298
図版 167	遺構 新生園遺跡平成 6 年度調査地区	1. 溝 S D 302 鋤先（9201）出土状態近景（南） 2. 溝 S D 302 板材（9227）出土状態近景（南） 299
図版 168	遺構 新生園遺跡平成 6 年度調査地区	1. 杖（9219）出土状態近景（南西） 2. 杖（9218）出土状態近景（南西） 300
図版 169	遺構 新生園遺跡平成 6 年度調査地区	1. 杖（9222）出土状態近景（南西） 2. 杖（9217）出土状態近景（南西） 301
図版 170	遺構 新生園遺跡平成 6 年度調査地区	1. 杖（9216）出土状態近景（西） 2. 杖（9211）出土状態近景（南西） 302
図版 171	遺構 新生園遺跡平成 6 年度調査地区	1. 調査風景（北東） 2. 調査風景（西） 3. 調査風景（北東） 303
図版 172	遺構 新生園遺跡平成 6 年度調査地区	1. 調査風景（南） 2. 講壇風景（南西） 3. 調査風景（北西） 304

図版目次〔2〕 遺物写真

図版 201 遺物 麻生谷遺跡平成4年度調査地区	1. 県道地区土師器・瓦質土器 2. 県道地区須恵器	307
図版 202 遺物 麻生谷遺跡平成4年度調査地区	1. 県道地区須恵器 2. 県道地区珠洲 3. 県道地区須恵器	308
図版 203 遺物 麻生谷遺跡平成4年度調査地区	1. 市道地区土師器・須恵器・珠洲 2. 市道地区珠洲 3. 市道地区青磁	309
図版 204 遺物 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	1. 第1区土師器・須恵器 2. 第1区須恵器 3. 第1区須恵器 4. 第1区珠洲	310
図版 205 遺物 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	1. 第2区土師器 2. 第2区土師器 3. 第2区土師器 4. 第2区土師器	311
図版 206 遺物 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	1. 第2区須恵器 2. 第2区須恵器 3. 第2区須恵器 4. 第2区珠洲	312
図版 207 遺物 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	1. 第2区須恵器 2. 第2区須恵器	313
図版 208 遺物 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	第2区 石製品	314
図版 209 遺物 麻生谷遺跡平成5年度調査地区	1. 第3区土師器 2. 第3区須恵器 3. 第3区須恵器 4. 第3区土師器	315
図版 210 遺物 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第1区土師器・須恵器・珠洲	316
図版 211 遺物 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第1区土製品	317
図版 212 遺物 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第1区木製品	318
図版 213 遺物 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第1区木製品	319
図版 214 遺物 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第1区木製品	320
図版 215 遺物 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第1区木製品	321
図版 216 遺物 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第1区木製品	322
図版 217 遺物 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第1区木製品	323
図版 218 遺物 麻生谷遺跡平成7年度調査地区	第1区木製品	324

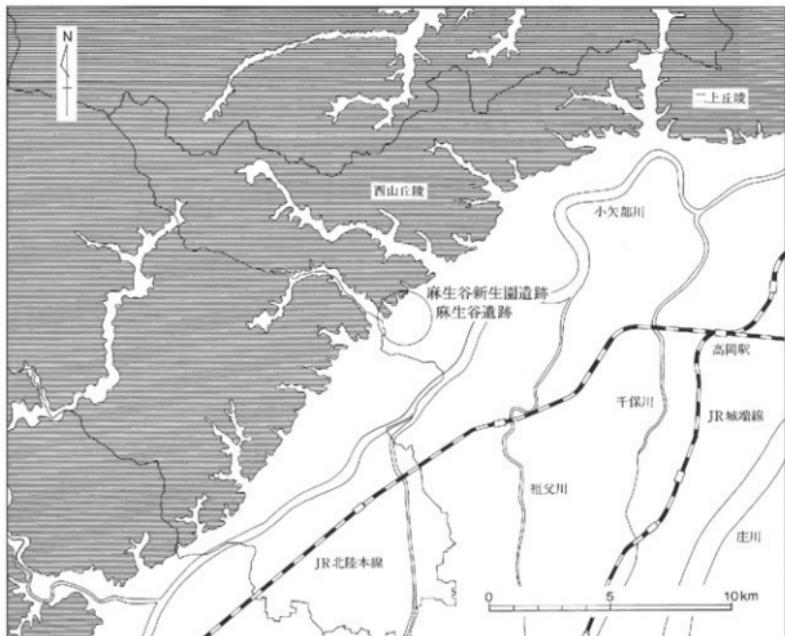
図版 219	遺物	麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	第 1 区木製品	325
図版 220	遺物	麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	第 1 区木製品	326
図版 221	遺物	麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	第 1 区木製品	327
図版 222	遺物	麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	第 1 区昆虫遺存体・種子類	328
図版 223	遺物	麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	第 1 区種子類	329
図版 224	遺物	麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	第 1 区種子類	330
図版 225	遺物	麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	第 1 区種子類	331
図版 226	遺物	麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	第 2 区土師器	332
図版 227	遺物	麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	第 2 区須恵器	333
図版 228	遺物	麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	第 2 区須恵器	334
図版 229	遺物	麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	第 2 区須恵器	335
図版 230	遺物	麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	第 2 区珠洲	336
図版 231	遺物	麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	第 2 区珠洲	337
図版 232	遺物	麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	第 2 区縄文陶器・伊万里・瀬戸美濃	338
図版 233	遺物	麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	第 2 区土製品	339
図版 234	遺物	麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	第 2 区木製品	340
図版 235	遺物	麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	第 2 区木製品	341
図版 236	遺物	麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	第 2 区木製品	342
図版 237	遺物	麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	第 2 区木製品	343
図版 238	遺物	麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	第 2 区木製品	344
図版 239	遺物	麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	第 2 区木製品	345
図版 240	遺物	麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	第 2 区木製品	346
図版 241	遺物	麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	第 2 区木製品	347
図版 242	遺物	麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	第 2 区木製品	348
図版 243	遺物	麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	第 2 区木製品	349
図版 244	遺物	麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	第 2 区木製品	350
図版 245	遺物	麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	第 2 区木製品	351
図版 246	遺物	麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	第 2 区木製品	352
図版 247	遺物	麻生谷遺跡平成 7 年度調査地区	第 2 区銅製品・鉄製品・石製品・植物遺存体	353
図版 248	遺物	新生園遺跡平成 4 年度調査地区	1. 土師器 2. 土師器 3. 須恵器・珠洲	354
図版 249	遺物	新生園遺跡平成 4 年度調査地区	1. 土製品 2. 石製品	355
図版 250	遺物	新生園遺跡平成 6 年度調査地区	土師器	356
図版 251	遺物	新生園遺跡平成 6 年度調査地区	土師器	357
図版 252	遺物	新生園遺跡平成 6 年度調査地区	土師器	358
図版 253	遺物	新生園遺跡平成 6 年度調査地区	土師器	359

図版 254	遺物	新生園遺跡平成 6 年度調査地区	土師器	360
図版 255	遺物	新生園遺跡平成 6 年度調査地区	土師器	361
図版 256	遺物	新生園遺跡平成 6 年度調査地区	須恵器	362
図版 257	遺物	新生園遺跡平成 6 年度調査地区	須恵器	363
図版 258	遺物	新生園遺跡平成 6 年度調査地区	須恵器	364
図版 259	遺物	新生園遺跡平成 6 年度調査地区	須恵器	365
図版 260	遺物	新生園遺跡平成 6 年度調査地区	須恵器	366
図版 261	遺物	新生園遺跡平成 6 年度調査地区	珠洲	367
図版 262	遺物	新生園遺跡平成 6 年度調査地区	珠洲	368
図版 263	遺物	新生園遺跡平成 6 年度調査地区	白磁・青磁・灰釉陶器	369
図版 264	遺物	新生園遺跡平成 6 年度調査地区	土製品	370
図版 265	遺物	新生園遺跡平成 6 年度調査地区	土製品	371
図版 266	遺物	新生園遺跡平成 6 年度調査地区	土製品・銅製品	372
図版 267	遺物	新生園遺跡平成 6 年度調査地区	木製品	373
図版 268	遺物	新生園遺跡平成 6 年度調査地区	木製品	374
図版 269	遺物	新生園遺跡平成 6 年度調査地区	木製品	375
図版 270	遺物	新生園遺跡平成 6 年度調査地区	木製品	376
図版 271	遺物	新生園遺跡平成 6 年度調査地区	木製品	377
図版 272	遺物	新生園遺跡平成 6 年度調査地区	木製品	378
図版 273	遺物	新生園遺跡平成 6 年度調査地区	石製品	379
図版 274	遺物	新生園遺跡平成 6 年度調査地区	石製品	380
図版 275	遺物	新生園遺跡平成 6 年度調査地区	種子類	381

第1章 序 説

第1章 序説 目次

第1節 遺跡概観	23
1. 環境	23
2. 遺跡の分布状況	24
第2節 調査概観	27
1. 調査に至る経緯	27
2. 本調査の概観	33
第3節 試掘調査の遺物	34
1. 麻生谷遺跡県道地区出土遺物	34
2. 麻生谷遺跡市道地区出土遺物	35
3. 麻生谷新生園遺跡出土遺物	35



第1図 遺跡位置図〔1〕(1/10万)

第1節 遺跡概観

1. 環境

麻生谷集落

「麻生谷」集落は、高岡市域の西端部、市域の西側を北東方に流れ、富山湾へと注いでいる小矢部川の左岸に位置する。

「麻生谷」は現在高岡市の大字であるが、江戸時代の麻生谷村に該当し、加賀藩領で砺波郡五位莊に含まれる。その後近代に至り、石堤村の大字麻生谷となった。この村の役場は、ここ麻生谷に設置された。石堤村が高岡市と合併してからは、高岡市的一大字となった地区である。麻生谷の北西は柴野（かつての「柴野村」、以下同様）、東は四日市、西は石堤である。柴野の枝村に十日市、石堤の枝村に六日市があり、また南西方の福岡町には三日市がある。麻生谷の地名は、これらの「市」で、栽培して織った麻布を光っていたことによると言われている。また浅井神社の幣を作り、よって麻生と称したことより、麻生谷となったとの言い伝えもある。

小矢部川左岸

小矢部川は、急流河川の多い富山県にあって、例外的に緩流の大河であり、水運に重要な役割を果たしてきた。高岡市域はこの川の下流部である。富山湾へ注ぐ河口の左岸台地は、越中国府跡の所在地である伏木台地であり、対岸の河口右岸の新湊市域には、中世の守護所が設置された。

小矢部川左岸には、狭隘な平野部を隔てて、西山丘陵がこの川と平行する形で走っている。この川と丘陵との間には、2本の歴史的道が存在し、現在もその名残を止めている。氷見往来と山根道である。この2本の道は、同一のルートを通る場合もあるが、氷見往来は小矢部川沿いの平野部を主に通り、山根道は山麓を主に通っていたとされている。氷見往来は、漁業の中心地の氷見と加賀藩の中心地の金沢を結ぶ重要路線であり、治水の安定した江戸時代になって整備され、小矢部川の右岸を通る本街道に対する脇街道として利用された。山根道は、古代以来の道とされており、古代～中世においては、越中国を東西に結ぶ大動脈であった。また律令制の北陸道の官道には、この山根道が当てられている。

古代北陸道と駅

加賀国より山を越えて越中国に入った古代北陸道は「坂本駅」に達する。ここは越中国府が所在する射水郡の南側の砺波郡である。現在の有力な比定地は小矢部市市沼で、付近には砺波関や砺波郡衙の所在も推定されている所である。そして、小矢部川左岸、丘陵の裾部の山根道を進み「川入駅」を経て、二上山の南麓から、二上山の東麓に位置する越中国府に達していたとされている。越中国府付近には、「亘理駅」があつたとされている。

川入駅と麻生谷

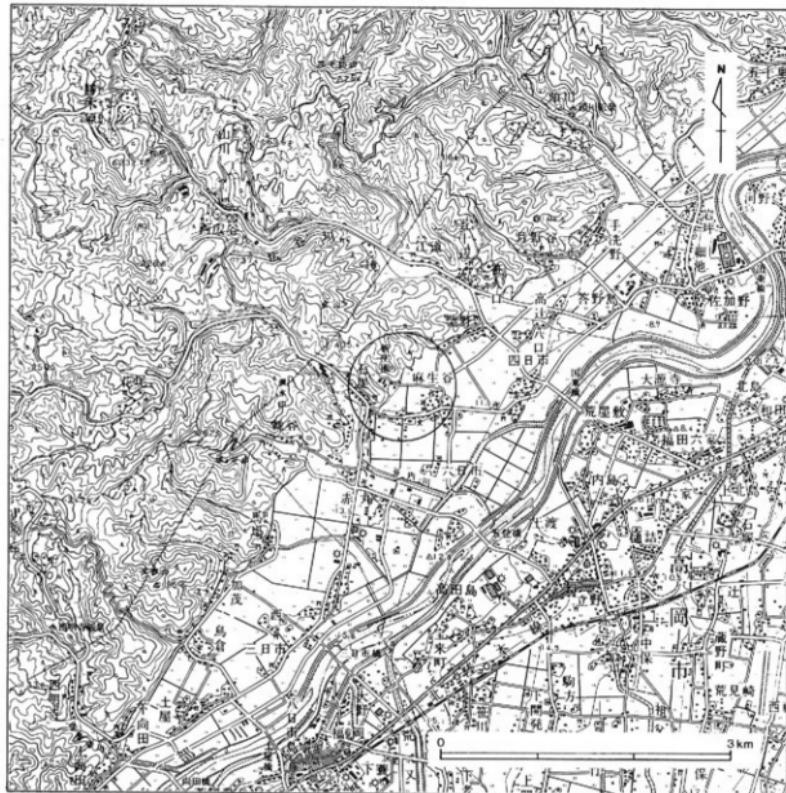
「川入駅」は砺波郡にあり、射水郡との境は、さらに数km、越中國府側となっている。「川入駅」の推定地は、高岡市とその西側の福岡町との境付近で、高岡市麻生谷・石堤・福岡町赤丸付近である。砺波郡の中核施設が想定されている付近の「坂本駅」と、古代・中世の越中国の中核施設があった、小矢部川河口付近の「亘理駅」との中間に「川入駅」がある。すなわち麻生谷周辺地区が、これらの重要地点を結ぶ中間点に位置すると見える。

2. 遺跡の分布状況

麻生谷遺跡と近隣の遺跡

現在麻生谷付近の遺跡分布については、次のように把握されている。麻生谷集落の西側一帯に麻生谷遺跡、この北東側一帯、山麓の柴野集落にかけて柴野遺跡、北西側山麓部の県立新生園付近に麻生谷新生園遺跡がそれぞれ分布している。

昭和47年3月刊行の『富山县遺跡地図』では、これらの遺跡について、点的に知られていたに過ぎず、それぞれ、麻生谷A・B・C遺跡、アサバタケA・B遺跡、麻生谷新生園A・B遺跡とされていた。その後、



第2図 遺跡位置図〔2〕(1/5万)



第3図 麻生谷遺跡周辺の遺跡地図（1／1万5千）

11. 麻生谷遺跡、12. 麻生谷新生圓丘遺跡、13. 柴野遺跡、14. 石堤長光寺遺跡、15. 石堤A遺跡、16. 赤丸古墳遺跡、17. 柴野守普寺遺跡、18. 八口遺跡、19. 徒八口遺跡、20. 宮田遺跡、21. 月野谷大谷内遺跡、22. 月野谷干草遺跡、23. 石堤柏堂古墳群、24. 麻生谷殿谷内古墳群、25. 麻生谷殿谷内城跡、26. 柴野口割Ⅰ古墳群、27. 柴野口割Ⅱ古墳群、28. 柴野口割Ⅲ古墳群、29. 柴野口割Ⅳ古墳群、30. 柴野城ヶ平城跡、31. 柴野高の宮城跡、32. 柴野春日古墳、33. 积迦堂古墳群、34. 男傍古墳群、35. 並八口谷内古墳群、36. 徒八口古墳群、37. 积迦堂遺跡、38. 円通庵遺跡、39. 江道横穴墓群

昭和53年から数箇年に亘り、富山考古学会員西井龍儀氏による丘陵部の踏査による古墳群の発見、いくつかの開発工事による出土遺物、昭和60年度に実施した高岡市教育委員会による遺跡分布調査等、これらによって当地域に広範囲に遺跡が分布していることが判明してきている。

麻生谷遺跡は、麻生谷集落の北西側から丘陵の裾部まで拡がっている遺跡である。範囲は北東～南西 2.5 km × 北西～南東 1.2 km である。発掘調査例はないが、工事による遺物の出土等から、弥生時代後期から中世に至る遺跡であることが把握されている。この遺跡の北西側の谷部に、「県立新生園」がある。これは精神発達遅滞者のための県立授産施設である。昭和46年に、この施設の土地整備やグランド造成時に遺跡が発見された。縄文土器、打製石斧、土師器、須恵器等が出土した。当時麻生谷新生園北遺跡や麻生谷新生園南遺跡とされたが、現在はこの付近一帯を埋蔵文化財包蔵地と把握し「麻生谷新生園遺跡」と称している。麻生谷遺跡の北東側には柴野遺跡が拡がっている。山麓の柴野集落付近から南東側の市道手洗野麻生谷 1 号線までを一応の範囲と考えている。遺跡の一部は麻生谷集落の東側まで及んでいる。この部分がかつてアサバタケ A 遺跡、アサバタケ B 遺跡とされた所である。麻生谷集落の北部に石堤保育園が所在するが、昭和55年にこの保育園の移転改築に伴い、アサバタケ A 遺跡として発掘調査が実施された。この結果掘立柱建物4棟等の遺構が検出され、土師器や須恵器等の遺物が出土した。昭和60年度に西山丘陵埋蔵文化財分布調査事業の一環として、当石堤地区が対象となったが、アサバタケ A・B 遺跡が柴野遺跡に包含されることになった。平成3年度には、石堤保育園の車庫兼物置の建設に伴い発掘調査を実施した。昭和55年度調査地区的東側である。この調査では、奈良時代～平安時代中期の柵址・溝・ピットが検出され、土師器・須恵器が出土した。また弥生時代末から古墳時代初期の土器類が凹地に堆積していた。柴野遺跡からは中世の珠洲や輸入青磁等も採集されており、弥生時代後期から中世に至る長期間の遺跡であることが判明している。

麻生谷遺跡と周辺の遺跡

麻生谷集落の西側約 2 km で、福岡町との境になるが、麻生谷遺跡の西側の範囲はこの手前で終わるようである。この付近から北西側は谷内川に沿う谷部となるが、この入口付近の山麓に延喜式内社浅井神社がある。ここから約 600 m の福岡町赤丸にも浅井神社があり、近世以来本家論争がなされている。この谷をやや進んだ所に淨土真宗本願寺派長光寺があり、以前より遺跡となっている。平成7年度に墓地造成に伴い発掘調査を実施した。遺構はその性格を明確にすることできなかったが、多量の奈良時代～平安時代前期頃の須恵器が出土した。墨書き土器・骨蔵器の蓋と推定される特殊な蓋、土馬も出土しており、注目された。また弥生土器や土師器も出している。

麻生谷遺跡の北東側の柴野遺跡のさらに北東側には、広谷川が西南西方向に流れている。間折谷をなした後、この川が平野部に出る付近には、並八口遺跡、八口遺跡、守善寺遺跡の一般包蔵地がほぼ接近して拡がっている。

麻生谷遺跡、麻生谷新生園遺跡、柴野遺跡の北西側の丘陵尾根上には、7群の古墳群が存在する。北側より、柴野春日古墳・柴野口割 I 古墳群・柴野口割 II 古墳群・柴野山口割 III 古墳群・柴野口割 IV 古墳群・麻生谷殿谷内古墳群・石堤柏堂古墳群である。さらに広谷川の北側の丘陵上にも、幾つかの古墳群が所在すると共に、谷部をやや入った所には、江道横穴墓群が所在している。これは20基以上からなる横穴墓群で、7世紀前半～中頃のものである。時代が下がって中世の遺跡としては、柴野城ヶ平城跡を初め、山城や砦状の遺構が確認されている。また石造文化財も豊かである。守善寺遺跡のある谷の奥には、天文21年（1552年）の銘のある觀音石仏が所在する。柴野集落の一角には地蔵堂塚があったとされている。ここから出土したとされる石仏・石塔類は木造の祠に収められ、集落の一角に保管されている。

第2節 調査概観

1. 調査に至る経緯

道路工事の計画

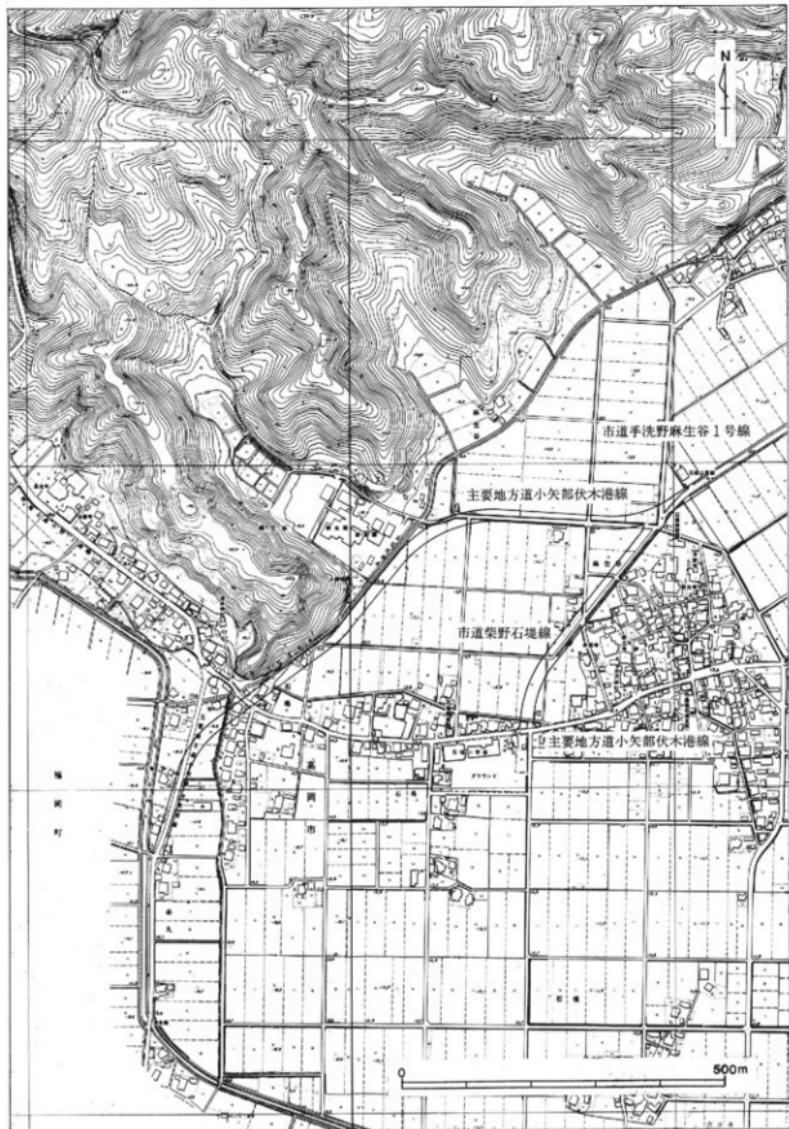
県道の「主要地方道小矢部伏木港線」は、高岡市伏木地区と小矢部市とを結ぶ主要な道路である。伏木地区より、高岡市の守山地区、国吉地区、石堤地区、そして福岡町の小矢部川左岸の地区を貫き、小矢部市へと達している。このルートはかつての氷見往来や山根道を踏襲している所が多い。高岡市方面より、小矢部市方面へ行く場合、小矢部川の右岸を通る国道8号線のバイパスとしての役割も果たしている。

この道路について、守山地区から国吉地区的手洗野までは、昭和50年代に改修工事が進み、直線的な道路として整備が完了していた。そしてこの「小矢部伏木港線」はこの手洗野で南側に折れ、答野鳥へ達し、ここで西側に再び折れ曲がり、歴史的なルートを残す、答野鳥・四日市・十日市・麻生谷・石堤の各集落を結ぶ道路に乗り、さらに南西側の福岡町方面へと向かうものである。一方、手洗野からは「市道手洗野麻生谷1号線」が直線的な「小矢部伏木港線」を延伸する形で南西側へ向かい、麻生谷集落の北側に位置する石堤公民館付近までは、直線的な道路として整備されていた。しかし、石堤公民館付近からは1車線の狭い道路を経て進む必要があった。市境付近の変則的な交差点にも問題があり、折からの交通量の増大と共に早急にこの地区的道路を改良する必要が生じていた。

昭和63年度に、工事担当の富山県高岡土木事務所より、高岡市教育委員会社会教育課へ、計画ルートにかかる埋蔵文化財の取扱について照会があった。基本的なルートは、石堤公民館付近から南西に向かい、市境を越えて福岡町に達するものである。公民館前から、県立新牛岡南側までは、東西に走る市道を抜幅するルートで問題はなかったが、ここから福岡町へ抜けるルートについては2つの案があった。1つは山裾の平野部を通る案であるが、民家が数軒あり移転の必要があった。もう一つの案は、民家を避け、山側へ迂回する案である。これについては、丘陵を掘削する必要があるが、ここには石堤柏堂古墳群が所在しており、問題があった。どちらの案を採用するにしても、平野部には「麻生谷遺跡」と「麻生谷新生園遺跡」が広範囲に抜がっており、また仮に別のルートにするにしても、これらの埋蔵文化財包蔵地を通らざるを得ないものであった。

ルートについては、公民館付近より、南側へ向かう案も計画されたが、上記の山裾を通るルートに決定され、平成元年度から3年度にかけて、測量や用地買収が行われ、平成3年度末には、土木工事に着手できる見通しとなった。また土木工事は平成4年度から平成6年度の間に実施する計画案が立てられた。一方小矢部伏木港線の新ルート決定と共に、公民館西側の交差点より、南側の答野鳥・四日市・十日市・麻生谷・石堤を結ぶ小矢部伏木港線へ向かうものとして、高岡市道路建設課により「市道柴野石堤線」が計画された。

平成3年度に至り、埋蔵文化財調査について、具体的な協議が数回持たれ、平成4年度に高岡市教育委員会社会教育課が調査主体となり、試掘調査を実施することになった。この試掘調査は、富山県高岡土木事務所による「主要地方道小矢部伏木港線」にかかるものと、高岡市道路建設課による「市道柴野石堤線」にかかるものとの両方である。また前者は、道路工事本体部分と民家移転部分とを含んでいる。遺跡については、「麻生谷遺跡」と「麻生谷新生園遺跡」の両方があるが、その境が明確でないこともあり、「麻生谷遺跡」で代表させて協議を行い、その後の調査を実施した。



第4図 道路工事予定図 (1 / 7,500)

試掘調査の実施

試掘調査は平成4年度に、高岡市教育委員会社会教育課の直営として実施した。「主要地方道小矢部伏木港線」と「市道柴野石堤線」の道路工事本体部分と、「主要地方道小矢部伏木港線」の民家移転部分2箇所を対象としたものである。県道地区（主要地方道小矢部伏木港線）と市道地区（市道柴野石堤線）の調査は、近接した地区でもあり、調査の効率を考えて、ほぼ同時に実施した。

それぞれの調査内容については以下の通りである。

1. 平成4年度4月13日

「主要地方道小矢部伏木港線」民家移転先地区・尾崎1地区

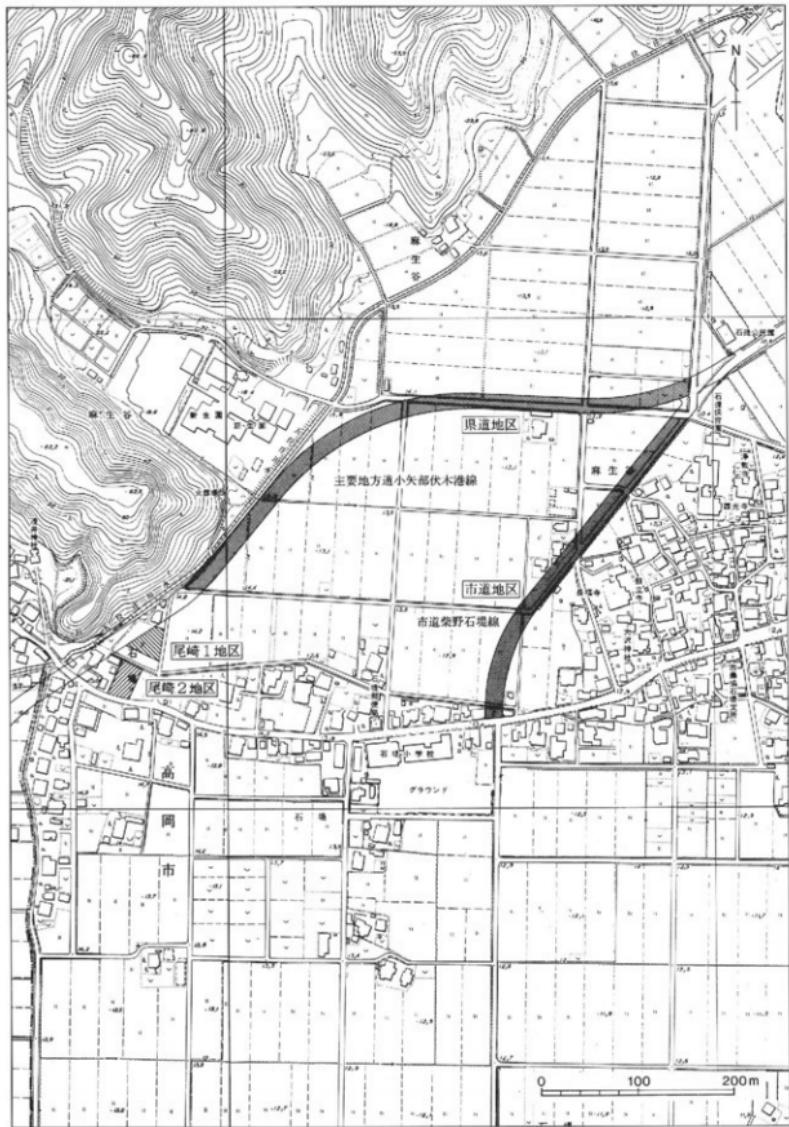
社会教育課山口辰一を担当者として実施した。調査対象面積660m²で、4m³の試掘を実施した。検出遺構・出土遺物はなかった。



第5図 試掘調査風景

上—県道地区

下—市道地区



第6図 試掘調査地区位置図 (1/5,000)

2. 平成4年7月1日～同年12月18日

「主要地方道小矢部伏木港線」道路工事本体部分

社会教育課山口辰一、同榎木和代を担当者として実施した。調査対象面積10,850m²で、966 m²の試掘を実施した。調査は7月1日～7月29日の前期調査と、12月1日～12月18日の後期調査とに分けて実施し、前期調査は山口が、後期調査は榎木が担当した。

試掘坑は33箇所設定した。東側地区からは、土坑・溝・柱穴等が検出され、柱穴のなかには、掘立柱建物址としてまとまる可能性のあるものも検出された。出土遺物は、奈良・平安時代の土師器・須恵器を中心に、中世の土師器・珠洲も出土した。新生園南東側の中央部からは、遺構を検出するまでには至らなかったが、古墳時代の土師器を中心とした遺物が出土した。西側地区からは、検出遺構・出土遺物はなかった。また、東側地区と中央部との間には、検出遺構・出土遺物がない所があり、谷状の凹地となっていた。この部分を麻生谷遺跡と麻生谷新生園遺跡との境と判断した。

3. 平成4年7月8日～同年12月18日

「市道柴野石堤線」道路工事本体部分

社会教育課山口辰一、同榎木和代を担当者として実施した。調査対象面積1,739 m²で、260 m²の試掘を実施した。調査は7月8日～7月29日の前期調査と、12月1日～12月18日の後期調査とに分けて実施し、前期調査は山口が、後期調査は榎木が担当した。

北側部分で、土師器・須恵器・珠洲等の遺物が出土したが、遺構は検出されなかった。また、全体的に深く、谷部へ遺物が流れ込んだ所と考えた。本調査の実施は必要ないと判断した。

4. 平成4年度10月17日

「主要地方道小矢部伏木港線」民家移転先地区・尾崎2地区

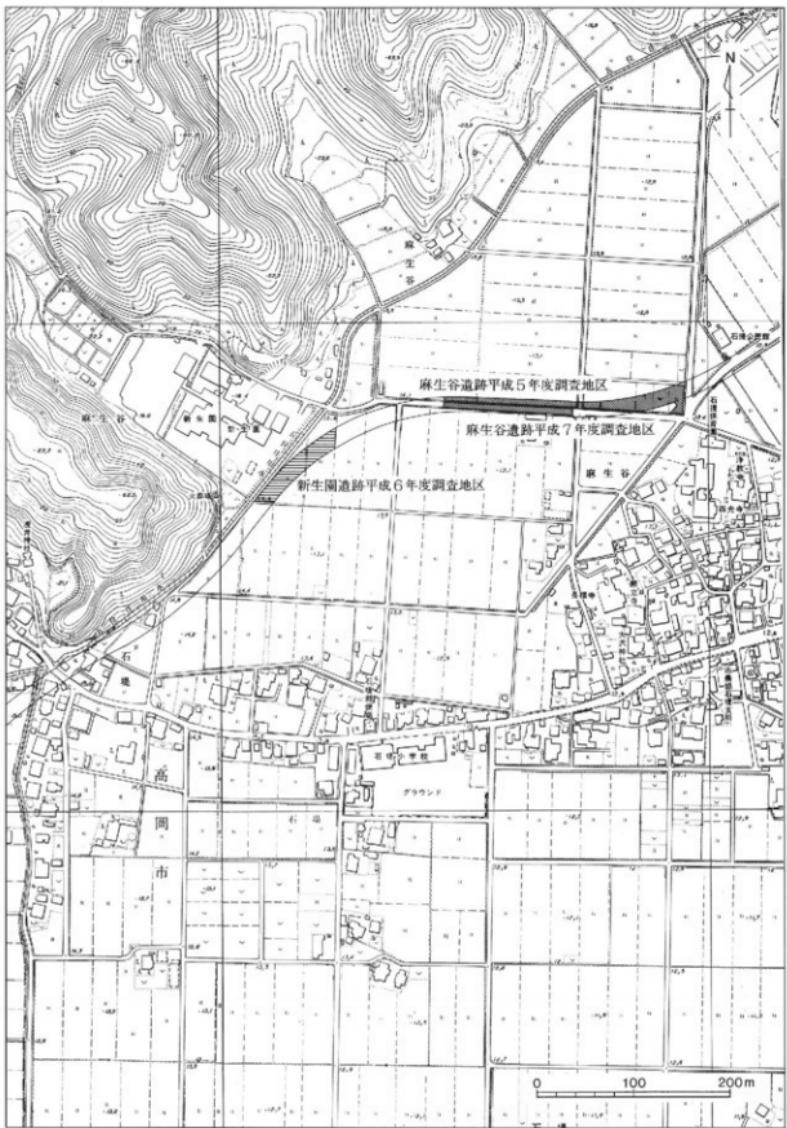
社会教育課山口辰一、同榎木和代を担当者として実施した。調査対象面積745 m²で、6 m²の試掘を実施した。検出遺構・出土遺物はなかった。

本調査の計画

本調査が必要なのは、小矢部伏木港線工事予定地の東側地区（石堤公民館の西側地区）と中央部地区（県立新生園の南東側地区）の2箇所である。この間は谷部となり、遺物も出土しなかったので、埋蔵文化財の包蔵地外と判断した。東側地区は麻生谷遺跡であり、調査対象面積は4,650 m²（幅15.5m×長さ300m）である。中央部地区は麻生谷新生園遺跡に含めて理解した。調査対象面積は1,550m²（幅15.5m×長さ100m）である。合計6,200 m²が調査対象地である。

本調査の実施に向けて、富山県教育委員会（富山県埋蔵文化財センター）、高岡市教育委員会社会教育課、富山県高岡土木事務所、高岡市建設部道路建設課で協議を重ねた。高岡市教育委員会社会教育課としては、調査体制の現状からみて、手に余る内容であり、富山県の事業でもあり、富山県教育委員会による調査実施を要望した。しかし、富山県教育委員会の意向や指導もあり、高岡市教育委員会で実施することで、協議が整った。

高岡市教育委員会では、市の事業等、他の開発関係に伴う埋蔵文化財調査を行う必要もあり、調査対象地を1度に（1箇年で）実施することは不可能であった。そこで調査対象地を3区分して、平成4～6年度の間で、1箇年で1地区の調査を実施し、つごう3箇年で現地調査を終える計画を立てた。また、この区分は調査が終了した地区から、土木工事が実施できることをも考慮したものである。高岡土木事務所の了解も得たので、このような形で、平成5年度から本調査を開始するに至った。



第7図 本調査地区位置図 (1/5,000)

2. 本調査の概観

本調査の区分

調査地区的区分は以下の通りである。

1. 平成5年度調査実施予定地区、麻生谷遺跡西側地区

公民館方面から新生園へ向かう道路の北側地区である。調査対象面積は1,300 m²である。

2. 平成6年度調査実施予定地区、麻生谷新生園遺跡

新生園の南西側地区である。調査対象面積は1,550 m²である。

3. 平成7年度調査実施予定地区、麻生谷遺跡東側地区

公民館方面から新生園へ向かう道路（現在の路面下）地区及び公民館の西側地区である。調査対象面積は3,350 m²である。

麻生谷遺跡平成5年度調査地区

公民館方面から新生園へ向かう道路の北側地区で、発掘調査時までは水田であった所である。高岡市教育委員会の直営で発掘調査を実施した。調査担当者は社会教育課榎木和代で、社会教育課山口辰一が調査の後半になって援助した。現地調査期間は平成5年8月10日から同年12月28日までである。発掘面積は920 m²である。

麻生谷新生園遺跡平成6年度調査地区

新生園の南東側地区である。発掘調査時までは水田であった所である。当初、高岡市教育委員会の直営で発掘調査を実施する予定であったが、市の開発工事にかかる他の遺跡の調査を優先する必要が生じたので、関係機関と何度も協議した結果、民間の研究機関である山武考古学研究所（所長平岡和夫）に委託して調査を実施することになった。調査担当者は山武考古学研究所の高柳正春で、山武考古学研究所大越直樹が補佐した。現地調査期間は平成6年8月25日から同年12月9日までである。発掘面積は1,400 m²である。

麻生谷遺跡平成7年度調査地区

公民館方面から新生園へ向かう道路（現在の路面下）地区及び公民館の西側地区である。発掘調査時までは道路及び水田であった所である。当初、高岡市教育委員会の直営で発掘調査を実施する予定であったが、調査体制の都合により、民間の研究機関である山武考古学研究所の協力を得て調査を実施することになった。調査担当者は文化財課根津明義と山武考古学研究所の武部喜充で、文化財課山口辰一と荒井隆が一部協力した。現地調査期間は平成7年7月3日から同年11月30日までである。発掘面積は1,800 m²である。

整理作業と報告書作成

現地調査が予定の体制できなかったことを反映して、報告書作成作業は、融通性をもちつつ、分割して実施した。これについては次の通りである。

1. 麻生谷遺跡平成5年度調査地区。平成5年度に基礎整理作業を行い、平成8年度に報告書作成作業を行った。担当者は高岡市教育委員会山口辰一である。

2. 麻生谷新生園遺跡平成6年度調査地区。平成8年度に基礎整理作業及び報告書作成作業を行った。担当者は山武考古学研究所の高柳正春である。

3. 麻生谷遺跡平成7年度調査地区。平成7年度に基礎整理作業を行い、平成8年度に報告書作成作業を行った。担当者は文化財課根津明義と山武考古学研究所の武部喜充である。

報告書作成の最終的な編集実務は山口辰一と武部喜充がこれに当たった。

第3節 試掘調査の遺物

1. 麻生谷遺跡、県道地区出土遺物

県道地区の試掘調査で出土した遺物の内、西側の「麻生谷遺跡」から出土したものである。出土遺物は土器類のみで、土師器・瓦質土器・須恵器・珠洲である。図面201～203に67点図示した。奈良～平安時代の土師器・須恵器と、中世の土師器・瓦質土器・珠洲である。

1. 土師器

椀底部 図面 201－1101～1112。ロクロ使用の椀の底部である。底部は糸切りのままであるが、磨滅しているため明確でないものも多い。

椀口縁部 図面 201－1113、1114。ロクロ使用の椀の口縁部である。

皿 図面 201－1115～1118。非ロクロの小皿である。口縁部は横ナデしている。1117と1118の口端部は上方へ摘み上げたようになっている。1115は内外面とも黒色化されている。

甕 図面 201－1119～1122。甕の口縁部。1119はくの字形に折れる口縁部である。1120～1122は屈曲する口端部となっている。

鍋 図面 201－1123。口端部が肥厚して上方へ伸びる。

2. 瓦質土器

擂鉢 図面 201－1124、1125。擂鉢の口縁部と底部である。1124にはオロシ目が付くが、小破片のためどの程度なされているかは不明である。

3. 須恵器

杯A 図面 202－1126～1133。高台の付かない杯である。底部の切り離し手法は、1126～1131がヘラ切り、1132、1133が糸切りである。

杯B 図面 202－1134～1139。高台付の杯である。

杯口縁部 図面 202－1140～1142。杯の口縁部片である。

杯B蓋 図面 202－1143～1145。杯Bと組み合うとされる蓋である。1143は完形であるが、1144と1145は口縁部片である。

椀 図面 202－1146。高台付の椀である。

鉢 図面 202－1147。小型の鉢と考えたものである。全体の形態は不明で、底部片である。底部は糸切りのままである。

壺A 図面 202－1148、1149。短頸壺の口縁・肩部片である。

壺B 図面 202－1150～1152。広口壺の口縁片である。

壺口縁部 図面 202－1153。壺の口縁部片である。

壺胴部 図面 203－1154～1160。壺の胴部片である。

4. 珠洲

擂鉢 図面 203－1161。擂鉢の口縁部片である。

壺底部 図面 203－1162～1164。壺ないし小型壺の底部片である。

壺胴部 図面 203－1165～1167。壺ないし小型壺の胴部片である。

2. 麻生谷遺跡、市道地区出土遺物

麻生谷遺跡の市道地区で出土した遺物である。出土遺物は土器類のみで、土師器・須恵器・珠洲・青磁である。図面 204 に20点図示した。奈良～平安時代の土師器・須恵器と、中世の土師器・珠洲・青磁である。

1. 土師器

椀底部 図面 204 - 1201。ロクロ使用の椀の底部である。底部は糸切りのままである。

皿 図面 204 - 1202。ロクロ使用と思われる皿である。

2. 須恵器

杯A 図面 204 - 1203～1205。高台の付かない杯である。底部はヘラ切りである。

杯B 図面 204 - 1206。高台付の杯である。

杯口縁部 図面 204 - 1207, 1208。杯の口縁部である。

杯B蓋 図面 204 - 1209。杯Bと組み合うとされる蓋である。つまみ部は欠損している。

壺 図面 204 - 1210。小型の壺の底部で高台が付く。

壺口縁部 図面 204 - 1211, 1212。壺の口縁部である。

壺肩部 図面 204 - 1213, 1214。壺の肩部である。

3. 珠洲

擂鉢 図面 204 - 1215, 1216。擂鉢の口縁部片と底部片である。両者ともオロシ目が付く。

壺肩部 図面 204 - 1217。梅目文四耳壺の肩部片である。小破片のため耳部は1箇所しか確認できないが四耳壺とした。耳部の下に、櫛引き波状文が付く。

壺底部 図面 204 - 1218。小型の壺の底部片である。

壺 図面 204 - 1219。壺の口縁・肩部片である。口径は37.5cmである。

4. 青磁

椀 図面 204 - 1220。輸入青磁の椀である。約4分の1ほどの破片であるが、全体の形態が判明する。口縁・体部の外側には鎬が付く花弁が刻まれている。

3. 麻生谷新生園遺跡出土遺物

界道地区的試掘調査で出土した遺物の内、東側の「麻生谷新生園遺跡」から出土したものである。出土遺物は、土器類、土製品、石製品である。土器類は、土師器・須恵器・珠洲である。図面 253 と図面 254 で35点図示した。古墳時代の土師器・須恵器・奈良時代～平安時代前期の須恵器・中世の土師器・珠洲である。土製品は置き甕である。石製品は砥石である。土製品と石製品は図面 255 で示した。

1. 土師器

高杯 図面 253 - 7101～7104。高杯の柱状部の7101と裾部の7102～7104である。

椀 図面 253 - 7105～7108。椀の口縁部の7105～7107と底部の7108である。7105～7107は内黒土器であり、磨減しているため明確ではないが、7108も内黒になる可能性がある。7105と7106は、単純に内彫して拵がる口縁部であるが、7107は内面に段をなして外方へ拵がる。

皿 図面 253 - 7109。非ロクロの皿である。

甕 図面 254 - 7110~7122。甕の口縁・胴上部である。張りの少ない肩部より、口縁部は外反気味に外上方へ拡がる。磨滅しているため明確ではないが、胴上部外面は刷毛目である。

把手 図面 253 - 7123。瓶の把手になると思われる破片である。

2. 須恵器

杯身 図面 253 - 7124。杯身の口縁部である。立ち上がりは内傾度が大きい。受部は外上方へ拡がる。端部は両方とも丸くなる。

杯蓋 図面 253 - 7125~7128。受部をもつ身と組みあう蓋で、天井部片の7125~7127と口縁部片の7128である。7125~7127の天井部はヘラ削りされている。天井部と口縁部との境には、凹線が入る。口縁部と端面とを分ける稜線は、内面は明確であるが、外面はやや弱いものとなっている。

杯A 図面 253 - 7129。高台の付かない杯の底部である。底部はヘラ切りのままである。

杯口縁部 図面 253 - 7130。杯の口縁部である。

甕口縁・肩部 図面 253 - 7131, 7132。甕の口縁・頸部と頸・肩部片である。

甕胴部 図面 253 - 7133, 7134。甕の胴部片である。

3. 珠洲

鉢 図面 253 - 7135。播鉢の底部に近い部分である。オロシ目は確認できない。

4. 土製品

置き甕 図面 255 - 7201。置き甕の裾部である。直径は約34cmに復元できる。これのみ図示し、その他の裾部片3点、7202~7204は、図版249 - 1として、写真でのみ示した。

5. 石製品

砥石 図面 255 - 7301, 7302。

第2章 麻生谷遺跡平成5年度調査地区

第2章 麻生谷遺跡平成5年度調査地区 目次

第1節	調査地区の概観	39
第2節	第1区の遺構	41
1.	溝	41
2.	竪穴状遺構	41
第3節	第2区の遺構	42
1.	土坑	42
2.	溝	43
3.	竪穴状遺構	46
第4節	第3区の遺構	47
1.	井戸址	47
2.	溝	47
第5節	第1区の遺物	48
	土器類	48
第6節	第2区の遺物	49
1.	土器類	49
2.	石製品	50
第7節	第3区の遺物	51
	土器類	51
第8節	小結	52



第1節 調査地区の概観

調査地区の位置

石堤公民館や石堤保育園から、西側の山麓に位置する県立新生園には、ほぼ東西に走る幅員約5mの道路がある。この付近ではこの道路を北側の水田へ拡幅する形で、今回の道路工事が計画されている地区である。平成5年度の麻生谷遺跡発掘調査地区は、この現有道路の北側への拡幅部分である。現有道路部分と東側地区は平成7年度の調査地区と予定し、また西側は谷部となり、遺跡の範囲外としたので、幅（南北）約8m、長さ（東西）約163mが調査対象地となった。実際掘削できたのは、幅約6mであり、この道路と交差する2本の南北の農道部分を除外したので、実際掘削した長さの合計は150mとなった。またこの2本の農道部分が調査地区を3区分する形となったので、西より、第1区・第2区・第3区と称することにする。

調査経過

発掘調査は、平成5年8月10日から同年12月28日まで実施した。実働調査日数は70日である。表土の除去はバックフォーで行った。排水場所は、今回の調査地区外の道路工事予定地とした。遺構は、は塙整備事業等により上部削平を受けており、また暗渠排水等の擾乱も多く、残存状態はよくなかった。調査対象面積は1,300m²で、920m²の発掘を実施した。各区ごとの発掘面積は、第1区190m²、第2区620m²、第3区110m²である。

検出遺構

検出遺構全体は以下のとおりである。

井戸址1基（S E 101）、土坑10基（S K 101～110）、溝45条（S D 101～145）。

堅穴状遺構6基（S X 101～106）。

各区ごとの遺構は以下のとおりである。

1. 第1区；溝8条（S D 101～108）、堅穴状遺構1基（S X 101）。

2. 第2区；土坑10基（S K 101～110）、溝31条（S D 109～139）、堅穴状遺構5基（S X 102～106）。

3. 第3区；井戸址1基（S E 101）、溝6条（S D 140～145）。

出土遺物

出土遺物は以下のとおりである。

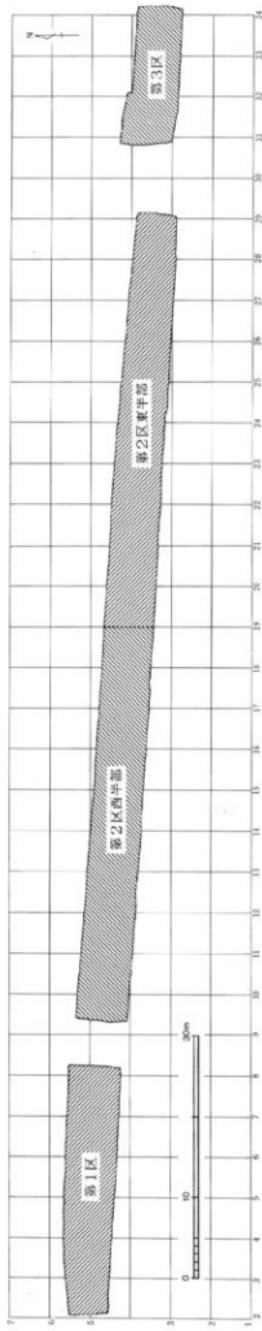
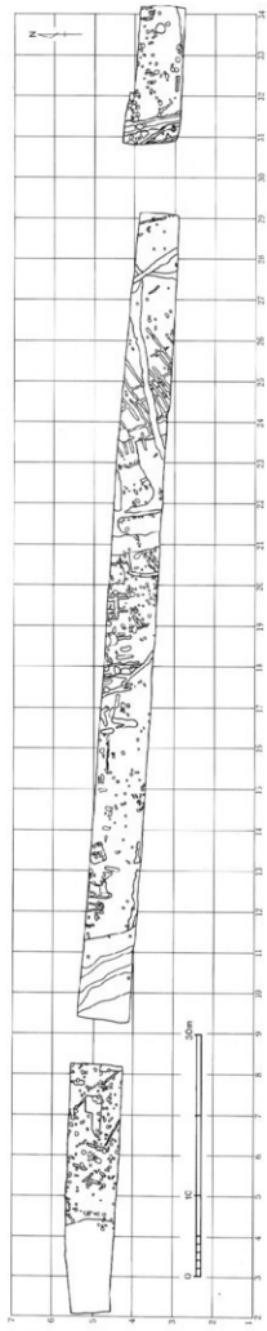
土器類；土師器、須恵器、瓦質土器、珠洲、近世～現代陶磁器。

石製品；砥石、石礫、磨製石斧。

近世～現代陶磁器については図示しなかった。これらは、近世のものは極めて少なく、ほとんどのものが昭和時代頃のものであったからである。

グリッド

調査地区的グリッドは平面直角座標系の第7座標系（原点は北緯36° 00' 00"、東経137° 10' 00"）に合わせた。X=1、Y=1の地点は、原点より、西へ16.235km、北へ81.255kmの位置である。遺構図のメッシュは5m区画である。



第9図 麻生谷灌漑平成5年度調査地区全体図（1／600）

第2節 第1区の遺構

1. 溝

溝 S D 101

第1区の中央部で検出された。ほぼ南北に走る溝である。規模は幅35~45cm、深さ11cmを計る。1.40mに亘り検出され、北側はS D 102に、南側はピットに切られている。出土遺物は須恵器片が1点のみである。

溝 S D 102

第1区の中央部で検出された。北西~南東方向に走る溝である。規模は長さ1.70m、幅20~25cm、深さ14cmを計る。S D 101を切っている。出土遺物はない。

溝 S D 103

第1区の中央部で検出された。ほぼ南北に走る溝である。規模は長さ1.85m、幅25~35cm、深さ10cmを計る。ピットに切られている。出土遺物は、土師器である。

溝 S D 104

第1区の中央東寄りで検出された。ほぼ南北に走る溝である。規模は幅25~50cm、深さ5cmを計る。2.25mに亘り検出され、南側はピットに切られている。出土遺物は、土師器、須恵器で土師器が多い。

溝 S D 105

第1区の中央東寄りで検出された。北西~南東方向に走る溝である。規模は長さ3.80m、幅15~25cm、深さ10cmを計る。ピットに切られている。出土遺物はない。

溝 S D 106

第1区の東側で検出された。北西~南東方向に走る溝である。規模は幅25~35cm、深さ6cmを計る。1.85mに亘り検出され、北西側は擾乱に、南西側も擾乱に切られている。出土遺物はない。

溝 S D 107

第1区の東側で検出された。南北に走る溝である。規模は幅20~50cm、深さ11cmを計る。1.75mに亘り検出され、北側は調査地区外となる。ピットに切られている。出土遺物はない。

溝 S D 108

第1区の東側で検出された。北西~南東方向に走る溝である。規模は幅20~25cm、深さ6cmを計る。2.00mに亘り検出され、南東側はS X 101に切られている。また中央を擾乱に切られている。出土遺物はない。

2. 壓穴状遺構

竪穴状遺構 S X 101

第1区の東側隅部で検出された。平面形は方形状に披がる。規模は南北2.80m以上、東西1.00m以上、深さ11cmを計る。東側と南側は調査地区外になる。またピットに切られている。出土遺物は、土師器、須恵器である。図示したものは、須恵器椀（図面205~2124）である。

第3節 第2区の遺構

1. 土坑

土坑SK 101

第2区西部地区東側で検出された。平面形は長楕円形を呈し、規模は長軸1.55m、短軸0.55m、深さ14cmを計る。出土遺物はない。

土坑SK 102

第2区西部地区東側で検出された。平面形は長楕円形を呈し、規模は長軸1.25m、短軸0.55m、深さ25cmを計る。出土遺物はない。

土坑SK 103

第2区西部地区東側で検出された。平面形は半円形を呈し、規模は長軸0.95m、短軸0.55m以上、深さ9cmを計る。出土遺物はない。

土坑SK 104

第2区西部地区東側で検出された。平面形は略円形を呈し、規模は長軸0.75m、短軸0.75m以上、深さ13cmを計る。西側はSD 120と重複する。出土遺物はない。

土坑SK 105

第2区西部地区東側で検出された。平面形は半円形を呈し、規模は長軸1.45m、短軸0.75m以上、深さ11cmを計る。西側はSD 121に切られている。また中央部を東西に搅乱が走る。出土遺物は、土師器である。

土坑SK 106

第2区西部地区東側で検出された。平面形は略円形を呈し、規模は長軸1.00m、短軸0.75m、深さ38cmを計る。出土遺物は、土師器である。

土坑SK 107

第2区西部地区東側で検出された。一部のみの検出であり、平面形は不明である。規模は南北0.45m以上、東西0.5m以上、深さ8cmを計る。北側は調査地区外となる。東側はSD 124に切られている。出土遺物はない。

土坑SK 108

第2区西部地区東隅部で検出された。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸1.25m以上、短軸1.70m以上、深さ17cmを計る。北側は調査地区外となる。SD 128を切っている。出土遺物は、土師器、須恵器である。図示したものは、土師器挽（図面207-3104, 3107）である。

土坑SK 109

第2区東部地区西隅部で検出された。一部のみの検出であり、平面形は不明である。規模は南北0.45m以上、東西0.70m、深さ12cmを計る。北側は調査地区外となる。出土遺物はない。

土坑SK 110

第2区東部地区中央部で検出された。平面形は円形に近いものであるが、南側に一部突出している。規模は南北1.85m以上、東西1.80m、深さ17cmを計る。北側は調査地区外となる。出土遺物は、土師器片2点である。

2. 溝

溝 S D 109

第2区西部地区西側で検出された。北北西～南南東へ走る溝である。規模は幅7.40～7.95m、深さ73cmを計る。7.50mに亘り検出され、北側、南側とも調査地区外になる。2段掘りされている溝である。南東側でS D 110と一部重複する。また擾乱に一部切られている。出土遺物は土師器、須恵器、砥石である。図示したものは、須恵器杯（図面209-3140、3169）である。砥石は図示した3301（図面212）である。

溝 S D 110

第2区西部地区西側で検出された。東西に走る溝である。規模は長さ10.80m、幅40～70cm以上、深さ22cmを計る。一部途切れるが同一の溝とした。また南側は調査地区外となる。西側はS D 109と一部重複する。ピット、擾乱に一部切られている。出土遺物はない。

溝 S D 111

第2区西部地区西側で検出された。南北に走る溝である。規模は幅0.75～1.05m、深さ14cmを計る。2.00mに亘り検出され、北側は調査地区外になる。またピットに切られている。出土遺物は、土師器片1点である。

溝 S D 112

第2区西部地区西側で検出された。ほぼ南北に走る溝である。規模は長さ1.90m、幅35～40cm、深さ17cmを計る。この溝の中央北寄りを、分断する形で擾乱が走っている。出土遺物は、土師器である。

溝 S D 113

第2区西部地区中央東寄りで検出された。ほぼ東西に走る溝である。規模は長さ3.35m、幅15～20cm、深さ4cmを計る。ピットに切られている。出土遺物はない。

溝 S D 114

第2区西部地区東側で検出された。ほぼ南北に走る溝である。規模は長さ1.80m、幅20～30cm、深さ6cmを計る。S D 115から派生した形となり、南側はこのS D 115と重複する。ピットに切られている。出土遺物は、須恵器片1点である。

溝 S D 115

第2区西部地区東側で検出された。ほぼ南北に走る溝である。規模は長さ3.20m、幅50～90cm、深さ10cmを計る。南西側はS D 114と重複する。ピットに切られている。出土遺物は、須恵器片1点である。

溝 S D 116

第2区西部地区東側で検出された。屈曲する溝であるが、北側は調査地区外となり、平面形は明確ではない。規模は幅30～50cm、深さ5cmを計る。出土遺物はない。

溝 S D 117

第2区西部地区東側で検出された。東西に走る溝である。規模は長さ1.70m、幅40～50cm、深さ8cmである。出土遺物はない。

溝 S D 118

第2区西部地区東側で検出された。北北西～南南東へ走る溝である。規模は幅40～60cm、深さ12cmを計る。3.85mに亘り検出され、北側は調査地区外になる。また南側は2又に分かれ。この部分の幅は25～30cm前後となる。また南東側はS D 119と一部重複する。出土遺物は、土師器である。図示したものは、土師器壺

（図面 208 -3123）である。

溝 S D 119

第2区西部地区東側で検出された。北西～南東へ走る溝である。規模は幅40～50cm、深さ13cmを計る。5.50mに亘り検出され、北西側は攪乱に切られ、一部はS D 118と重複する。南西側は調査地区外になる。またS D 121.123がこの溝に取り付く形となっている。北西側は攪乱に切られている。出土遺物は、土師器である。

溝 S D 120

第2区西部地区東側で検出された。北北西～南南東へ走る溝である。規模は幅25～35cm、深さ14cmを計る。1.10mに亘り検出され、北側は調査地区外になる。出土遺物は、土師器である。図示したものは、土師器甕（図面 208 -3122）である。

溝 S D 121

第2区西部地区東側で検出された。ほぼ南北に走る溝である。規模は幅20～30cm、深さ9cmを計る。3.00mに亘り検出され、北側は調査地区外となり、南側はS D 119に達している。S K 105を切っている。また攪乱に一部切られている。出土遺物はない。

溝 S D 122

第2区西部地区東側で検出された。ほぼ南北に走る溝である。規模は幅10～25cm、深さ5cmを計る。0.95mに亘り検出され、北側は調査地区外になる。出土遺物はない。

溝 S D 123

第2区西部地区東側で検出された。ほぼ南北に走る溝である。規模は幅15～30cm、深さ3cmを計る。1.40mに亘り検出され、南側はS D 119に達している。出土遺物はない。

溝 S D 124

第2区西部地区東側で検出された。ほぼ南北に走る溝である。規模は幅30～40cm、深さ17cmを計る。4.40mに亘り検出され、北側は調査地区外になる。S K 107・S D 125と一部重複している。またピット・攪乱に切られている。出土遺物は、土師器、須恵器である。

溝 S D 125

第2区西部地区東側で検出された。東北東～西南西に走る溝である。規模は幅20～30cm、深さ11cmを計る。S D 124から派生した形となり、0.95mに亘り検出された。出土遺物は、土師器である。

溝 S D 126

第2区西部地区東側で検出された。ほぼ南北に走る溝である。規模は長さ2.10m、幅20～35cm、深さ17cmを計る。攪乱に切られている。出土遺物はない。

溝 S D 127

第2区西部地区東側で検出された。ほぼ南北に走る溝である。規模は長さ1.30m、幅35～45cm、深さ5cmを計る。攪乱に切られている。出土遺物はない。

溝 S D 128

第2区西部地区東側で検出された。ほぼ南北に走る溝である。規模は幅25～40cm、深さ12cmを計る。1.80mに亘り検出され、北側はS K 108に取り付く形となっている。ピット・攪乱に切られている。出土遺物はない。

溝 S D 129

第2区東半部西側で検出された。北東～南西に走る溝である。規模は長さ1.80m、幅30～40cm、深さ8cmを計る。ピットに切られている。出土遺物は、図示した土師器碗（図面207-3112）1点である。

溝 S D 130

第2区東半部西側で検出された。ほぼ南北に走る溝である。規模は幅25～40cm、深さ6cmを計る。2.40mに亘り検出され、北側は調査地区外となる。中央部でS D 132と交差している。ピット・擾乱に切られている。遺物はない。

溝 S D 131

第2区東半部西側で検出された。ほぼ南北に走る溝である。規模は幅30～35cm、深さ25cmを計る。2.20mに亘り検出され、北側は調査地区外となる。中央部でS D 132と交差している。出土遺物は、土師器片2点と図示した須恵器瓶（図面210-3184）1点である。

溝 S D 132

第2区東半部西側で検出された。ほぼ東西に走る溝である。規模は長さ3.15m、幅30～50cm、深さ8cmを計る。S D 130.131と交差している。東端部はピットに切られている。またこれ以外にもピットに切られている。出土遺物は、土師器である。

溝 S D 133

第2区東半部西側で検出された。南北及び東西に走り、L字形に屈曲する溝である。北東側はやや拡がる。この部分を除いた規模は、幅35～55cm、深さ5cmを計る。拡がった部分の規模は、南北1.05m、東西1.15m、深さ6cmを計る。南北3.80m、東西2.70mに亘り検出され、東側はS D 134に切られ、南側は調査地区外となる。またピットに切られている。出土遺物は、土師器、須恵器で土師器が多い。図示したものは、土師器碗（図面207-3110）1点と須恵器杯（図面209-3151）1点である。

溝 S D 134

第2区東半部西側で検出された。ほぼ南北に走る溝である。規模は幅2.20～2.40m、深さ38cmを計る。6.00mに亘り検出され、北側・南側ともに調査地区外となる。西側でS D 133を、東側でS D 135を切っている。出土遺物は、土師器、須恵器、珠洲、陶磁器、砥石である。砥石は図示した3302（図面212）である。

溝 S D 135

第2区東半部西側で検出された。ほぼ南北に走る溝である。規模は幅1.80～2.35m、深さ28cmを計る。5.40mに亘り検出され、南側は調査地区外となる。西側はS D 134に切られている。またピットに切られている。出土遺物は、土師器、須恵器、珠洲である。図示したものは、須恵器杯（図面209-3155）1点と須恵器壺（図面210-3190）1点である。

溝 S D 136

第2区東半部の中央部から東側にかけて検出された。東北東～西南西に走る溝である。規模は幅0.65～1.40m、深さ15cmを計る。23.60mに亘り検出され、東北東側、西南西側ともに調査地区外となる。東北東側はS D 138に切られている。西南西側はS X 106を切っている。直線的に延びているが、東北東側は膨らんでいる。西南西側はやや屈曲している。出土遺物は、土師器、須恵器、珠洲である。図示したものは、須恵器鉢（図面210-3183）1点である。

溝 S D 137

第2区東半部東側で検出された。ほぼ南北に走る溝である。規模は幅0.55～1.15m、深さ9cmを計る。3.35mに亘り検出され、北側はS D 138に切られている。南側は調査地区外となる。出土遺物は、土師器、須

惠器である。図示したものは、須恵器杯（図面 209-3158）1点である。

溝 S D 138

第2区東半部東側で検出された。北西～南東に走る溝である。規模は幅60～90cm、深さ37cmを計る。6.60m検出され、北西側、南東側ともに調査地区外となる。S D 136.137を切っている。出土遺物は、土師器、須恵器である。図示したものは、須恵器杯（図面 209-3152, 3156）2点である。

溝 S D 139

第2区東半部東隅部で検出された。北北西～南南東へ走る溝である。規模は幅20～30cm、深さ6cmを計る。3.40mに亘り検出され、北北西側は調査地区外となる。南南東側で、一旦途切れるが同一の溝とした。ピットに切られている。出土遺物は、土師器片1点である。

3. 竪穴状遺構

竪穴状遺構 S X 102

第2区西半部西側で検出された。平面形はほぼ方形状に括がり、やや突出する部分もある。規模は2.80m以上、東西1.95m、深さ9cmを計る。北側は調査地区外になる。攪乱に切られている。出土遺物は、須恵器片1点である。

竪穴状遺構 S X 103

第2区西半部西側で検出された。平面形はほぼ方形状に括がる。規模は南北1.85m、東西2.30m、深さ10cmを計る。北側は調査地区外になる。出土遺物は、土師器、須恵器である。

竪穴状遺構 S X 104

第2区東半部西側で検出された。平面形はほぼ方形状に括がる。規模は南北1.70m以上、東西2.60m、深さ13cmを計る。北側は調査地区外になる。ピットに切られている。出土遺物は、土師器、須恵器、珠洲である。図示したものは、土師器壺（図面 208-3118, 3121, 3126, 3130, 3131）5点、須恵器蓋（図面 210-3175, 3181）2点である。

竪穴状遺構 S X 105

第2区東半部西側で検出された。平面形はほぼ方形状に括がる。規模は南北0.80m以上、東西4.95m、深さ5cmを計る。北側は調査地区外になる。出土遺物は、土師器、須恵器である。

竪穴状遺構 S X 106

第2区東半部西側で検出された。平面形は不整形である。規模は南北4.90m以上、東西8.80m、深さ15cmを計る。南側は調査地区外となる。S D 136に切られている。出土遺物は、土師器、須恵器、石礎である。石礎は、図示した3304（図面 212）である。

第4節 第3区の遺構

1. 井戸址

井戸址 S E 101

第3区東隅部で検出された。素掘り井戸址である。平面形は円形で、規模は径1.20~1.30mを計る。深さは1.55mで、底径は0.80mである。出土遺物は、土師器、須恵器である。図示したものは、土師器皿（図面213-4103. 4104）2点、須恵器杯（図面213-4110）1点である。

2. 溝

溝 S D 140

第3区の西隅部で検出された。北北西~南南東へ走る溝の東側肩部である。規模は幅55cm以上、深さ27cm以上を計る。3.55mに亘り検出され、北側・南側ともに調査地区外となる。出土遺物は、土師器、須恵器である。図示したものは、須恵器杯（図面213-4118）1点である。

溝 S D 141

第3区の西隅部で検出された。北西~南東へ走る溝である。規模は幅30~60cm、深さ17cmを計る。5.00mに亘り検出され、北側・南側ともに調査地区外となる。また南側はS D 142に切られている。出土遺物は、土師器片2点である。

溝 S D 142

第3区の西隅部で検出された。北北西~南南東へ走る溝である。規模は幅1.20~1.70m、深さ63cmを計る。7.00mに亘り検出され、北側・南側ともに調査地区外となる。また南側はS D 141を切っている。出土遺物は、土師器、須恵器、珠洲である。図示したものは、土師器楕（図面213-4101）1点、須恵器杯（図面213-4107. 4109. 4112. 4117）4点、須恵器蓋（図面213-4121）1点である。

溝 S D 143

第3区の中央南側で検出された。東西に走る溝である。規模は幅25~50cm、深さ15cm、長さ2.00mを計る。出土遺物はない。

溝 S D 144

第3区の南東隅部で検出された。東北東~西南西へ走る溝の北側肩部である。規模は幅1.05m以上、深さ27cmを計る。5.30mに亘り検出され、東側・西側ともに調査地区外となる。出土遺物は土師器、珠洲である。

溝 S D 145

第3区の北東隅部で検出された。屈曲して走る溝である。規模は幅20~40cm、深さ8cm、長さ2.00mを計る。ピットに切られている。出土遺物はない。

第5節 第1区の遺物

第1区からの出土遺物は土器類のみで、土師器・須恵器・珠洲である。図面205～206に40点図示した。時期的には、古墳時代前期の土師器・奈良・平安時代の土師器・須恵器、中世の珠洲である。古墳時代前期のものと中世のものとは少なく、奈良・平安時代の土器類が中心である。

1. 土師器

椀底部 図面205～2101, 2102。ロクロ使用の椀の底部である。底部は糸切りのままであるが、磨滅しているため明確でない。

甕A 図面205～2103, 2104。古墳時代前期の甕の口縁部である。いわゆる布留系の甕で、口端部内面が肥厚する。色調は暗褐色土を呈し、胎土は砂粒を多く含んでいる。

甕B 図面205～2105～2109。甕の口縁部。口端部は屈曲する。

2. 須恵器

杯A 図面205～2110～2113。高台の付かない杯である。底部は糸切りのままである。2111は焼成不良で、褐色を呈し軟質である。

杯口縁部 図面205～2114～2120。杯の口縁部片である。

杯B蓋 図面205～2121～2123。杯Bと組み合うとされる蓋である。天井部は欠損している。

椀 図面205～2124。3分の2程度残存している椀である。底部は糸切りのままで、浮き上がっている。このため揚げ底氣味となっている。

壺 図面205～2125。短頭壺の口縁部片である。

甕口縁部 図面205～2126, 2127。甕の口縁部片である。

甕胴部 図面206～2128～2138。甕の胴部片である。

3. 珠洲

甕胴部 図面206～2139, 2140。甕の胴部片である。

第6節 第2区の遺物

第2区からの出土遺物は土器類と石製品である。

1. 土器類

第2区の土器類は、土師器・須恵器・珠洲である。図面207~211に113点図示した。時期的には、奈良・平安時代の土師器・須恵器と、中世の土師器・珠洲である。中世のものは少ない。

1. 土師器

椀 図面207~3101~3111。ロクロ使用の椀の底部である。高台は付かない。底部は糸切りのままであるが、磨滅しているため明確でないものが多い。

椀 図面207~3112、3113。ロクロ使用の椀で高台付きのものである。3112は全体の形態が判明する。口縁・体部は直線的に外上方に折り返し、口端部はやや肥厚する。高台部は小さく、外下方へ向かうものである。3113は高台部片で、比較的長い高台である。高台付の皿になる可能性もある。

椀口縁部 図面207~3114~3116。ロクロ使用の椀の口縁部である。

皿 図面207~3117。非ロクロの皿である。

甕 図面208~3118~3132。甕の口縁部である。口端部の形態は、屈曲するものや内方へ巻き込むものが多い。

鍋 図面208~3133。鍋の口縁部である。口端部は内方に後をなして立ち上がる。

2. 須恵器

杯A 図面209~3134~3151。高台の付かない杯である。底部はヘラ切りのままである。3134のみ全体の形態が判明する。3134は口縁・体部が外上方へ開くものである。

杯B 図面209~3152~3167。高台付の杯である。底部はヘラ切りである。3152のみ全体の形態が判明する。高台部はややふんばるものである。口端部の立ち上がりは、直上方に近いものである。

杯口縁部 図面209~3168~3173。杯の口縁部片である。

杯B蓋 図面210~3174~3181。杯Bと組み合うとされる蓋である。3174はつまみ部である。3175~3181は天井部が欠損している。3181は口径が17.8cmと大きいものである。

皿 図面210~3182。皿の口縁部と判断した破片である。口径は27.8cmを計る。

鉢 図面210~3183。小型の鉢の口縁部と判断した破片である。口端部は平坦になる。

壺 図面210~3184~3186。壺の底部片で、高台付の3184と3185、高台が付かない3186である。

瓶A 図面210~3187。徳利形の小瓶の胴・底部片である。

瓶B 図面210~3188。横瓶の一部と判断した破片である。

甕口縁部 図面210~3189~3192。甕の口縁部片である。

甕胴部 図面211~3193~3208。甕の胴部片である。

3. 珠洲

擂鉢 図面207~3209。擂鉢の口縁部の小破片である。オロシ目は確認できない。

甕口縁部 図面 207-3210。甕の口縁部片である。

甕脛部 図面 207-3211-3213。甕の脛部片である。

2. 石製品

第2区の石製品は、砥石、石鎚、磨製石斧である。図面212に5点図示した。

1. 砥石

図面212-3301-3303。大型の3301と小型の3302、3303である。3301は長側面の2面が使用面となっている。端面の一方は欠損している。3302は長側面の2面が使用面となり、中央部が薄くなっている。全体的に形は整えられている。端面の一方は欠損している。3303は長側面の1面が使用面となっている。端面の一方は欠損している。

2. 石鎚

図面212-3304。形態的には有茎鎚で基部が直線的になっている。長さ2.4cmである。

3. 磨製石斧

図面212-3305。蛇紋岩製の定角式磨製石斧である。刃部は両刃で頭部の棱は弱い。長さ8.7、最大幅4.7、厚さ2.1cmを計る。

第7節 第3区の遺物

第3区からの出土遺物は土器類のみで、上師器・須恵器・珠洲である。図面213に27点図示した。時期的には、奈良・平安時代の上師器・須恵器、中世の土師器・珠洲である。中世のものは少なく、奈良・平安時代が中心である。珠洲は小破片が少量のみで図示していない。

1. 土師器

椀底部 図面213-4101, 4102。ロクロ使用の椀の底部である。底部は糸切りのままであるが、磨滅していく、明確ではない。

皿 図面213-4103。ロクロ使用の皿である。底部は糸切りのままである。

皿 図面213-4104。非ロクロの皿である。磨滅していく、調整手法は明確ではない。

鍋 図面213-4105, 4106。鍋の口縁部片である。

2. 須恵器

杯A 図面213-4107~4114。高台の付かない杯である。底部はヘラ切りのままである。4107のみ全体の形態が判明する。比較的浅い杯である。

杯B 図面213-4115, 4116。高台付の杯である。4115は全体の形態がほぼ判明する。小型の輪形となっている。高台部は外下方へふんばるものではない。

杯口縁部 図面213-4117, 4118。杯の口縁部片である。

杯B蓋 図面213-4119~4122。杯Bと組み合うとされる蓋である。4119はつまみ部と天井部である。口縁部は欠損している。4120~4122は天井部が欠損している。

鉢 図面213-4123, 4124。鉢の口縁部と考えたものである。4123は、口縁部が内弯するものである。4124は、直上方へ立ち上がる口縁部である。

壺口縁部 図面213-4125。壺の口縁部片である。

壺胴部 図面213-4126, 4127。壺の胴部片である。

第8節 小 結

検出された遺構は、井戸址1基、土坑10基、溝45条、竪穴状遺構6基である。このように遺構の数としては相当量検出されたが、大部分のものは削平を受け、遺構の底面近くのみ残存していたに過ぎず、本来の形態を復元することが不可能なものがほとんどである。

これらのなかにあって、井戸址と数条の溝は、比較的明確なものであった。

井戸址は、素掘りのもので、中世に位置付けることができる。これ以外に中世の明確な遺構は存在していない。

溝の内、S D 109, 133, 135～140, 142は、明確なものである。これらの時期については、奈良～平安時代前期頃であることは確実であり、S D 142については、奈良時代後期に遡る可能性がある。S D 133は平安時代のものである。

このような主要な遺構や出土遺物からみて、今回の調査地区は、平安時代前期が中心と言える。中世については、井戸址以外、該期の遺構と確実に言えるものがない。また出土遺物もそれほど多くはなかった。

第3章 麻生谷遺跡平成7年度調査地区

第3章 麻生谷遺跡平成7年度調査地区 目次

第1節 調査地区の概観	55	第4節 第1区の遺物	67
第2節 第1区の遺構	57	1. 土器類	67
1. 井戸址	57	2. 土製品	67
2. 土坑	57	3. 木製品	67
3. 溝	58	第5節 第2区の遺物	69
4. ピット	59	1. 土器類	69
第3節 第2区の遺構	60	2. 土製品	70
1. 捩立柱建物址	60	3. 木製品	70
2. 樋址	61	4. 銅・鉄製品	71
3. 井戸址	62	5. 石製品	71
4. 土坑	62	第6節 小結	72
5. 溝	63		
6. ピット	65		



第10図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区位置図（1／3,000）

第1節 調査地区の概観

調査地区の位置

調査地区第1区は西端が県立新生園から東へ約70mに位置し、調査区東端まで約5m幅で直線的に100m延びる。調査地区第2区は東端が石堤公民館や石堤保育園から西へ約50mに位置し、西端から現道を挟んで西へ10mの位置に調査地区第1区の東端がある。

調査経過

発掘調査は、平成7年7月3日から同年11月30日まで実施した。実働調査日数は87日である。表土の除去はバックフォーで行った。第1区・第2区とも排土置場は同じ調査区内のため、排土切り返しの2回に分けた表土の除去となった。遺構は、は場整備事業等により上部削平を受けており、また暗渠排水等の攪乱も多く、残存状態はよくなかった。また、調査地が低地のため、雨が降ることに冠水し、排水作業に手間取った。各区の発掘調査面積は第1区650m²、第2区1,150m²、合計で1,800m²である。

検出遺構

各区ごとの遺構は以下のとおりである。

1. 第1区；井戸址1基（S E 201）、土坑13基（S K 201～205, 209, 210, 224, 226～230）
溝8条（S D 201～203, 207, 208, 235～237）、ピット15基（本書では以下の4基だけを掲載した。P 228, P 233, P 234, P 237）。
2. 第2区；掘立柱建物址9棟（S B 201～209）、柵址6条（S A 201～206）
井戸址2基（S E 202, 203）、土坑12基（S K 206～208, 211, 213～215, 221, 222, 225, 231, 232）、溝17条（S D 220～225, 227～231, 238, 239, 241, 243～245）、ピット15基（本書では以下の9基だけを掲載した。P 222, 224～226, 244, 247, 249～251）

出土遺物

出土遺物は以下のとおりである。

土器類；土師器、須恵器、灰釉陶器、綠釉陶器、珠洲、白磁、青磁、瀬戸、伊万里、越前。

土製品；土錠。

木製品；簀串、呪符、箸、挽物、曲げ物、柄杓、井戸側板材。

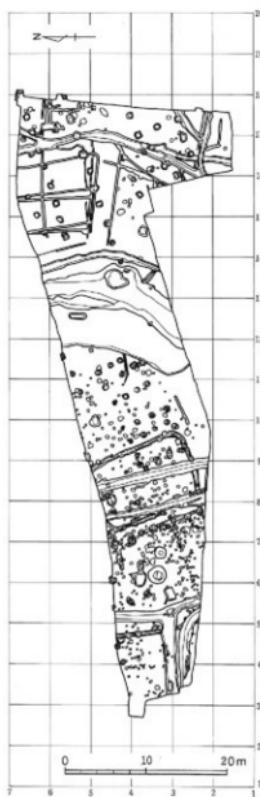
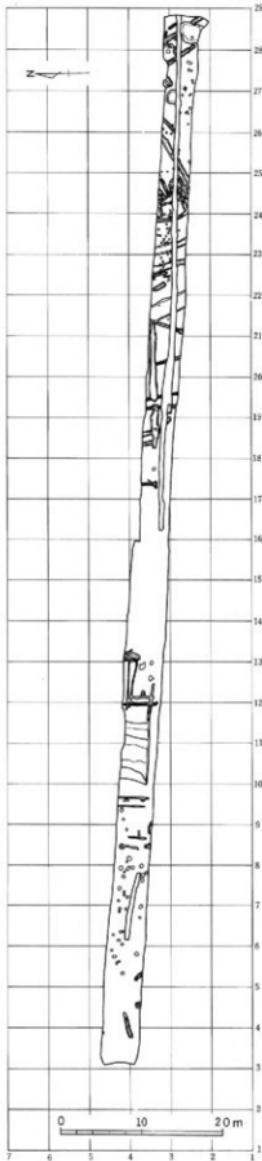
石製品；磨石。

銅・鉄製品；錢貨、釘、鐵滓。

自然遺物；昆虫遺存体（イネクイハムシなど）、種子類（オニグルミ・モモ・ウメ・ヒヨウタン・イネなど）。

グリッド

調査地区的グリッドは平面直角座標系の第7座標系（原点は北緯36° 00' 00"、東経137° 10' 00"）に合わせた。第1区のX=1、Y=1の地点は、原点より、西へ19.775km、北へ82.400kmの位置である。第2区のX=1、Y=1の地点は、原点より、西へ19.605km、北へ82.405kmの位置である。遺構のメッシュは5m区画である



第11図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区全体図 (1/600)

第2節 第1区の遺構

1. 井戸址

井戸址 S E 201

第1区東側で検出された木組井戸である。掘り方は長軸1.70m、短軸1.30mの不整方形で、深さは確認面から1.64mである。底面は透水層である青灰色細砂層に掘り込まれ、平坦である。壁は垂直気味に立ち上がり、上方でやや開く。井戸側は一辺が0.78m～0.80mの方形縦板組横桟どめのもので、掘り方のほぼ中央に掘えられている。縦板の上方は朽ちていたものの井戸側の遺存状態は概ね良好である。井戸側の縦板は幅20～30cm、厚さ1cm前後の板材で、一辺に7～9枚使用されている。また、約半数の縦板の下端中央部に径1cm前後の孔がみられる。横桟には幅20～30cm、厚さ4～6cmの角材が用いられ、4段組みである。上から1段目の横桟は相欠き柄で組み、2・3段目は角材を用いて目違いの凸柄と凹柄で組まれている。井戸側内の埋没土に人為的な堆積はみられなかった。出土遺物は、井戸側を構成する材（図面221-5369～図面225-5401）と井戸側内の埋没土に混入したものに分けられる。埋没土に混入した遺物には、呪符（図面216-5301）、箸（図面216-5302～図面217-5350）、曲げ物（図面221-5368）、須恵器瓶（図面214-5113）、種子類（オニグルミ・モモ・ウメ・イネ・ウリ類・エゴマ類・ヒョウタン・トチノキ）、昆蟲遺存体（イネクイハムシ・ヒメコガネなど）がある。

2. 土坑

土坑 S K 201

第1区東側の（27、2・3）区で検出された。平面形は椭円形で、規模は長軸1.38m以上、短軸0.78m、深さ46cmを計る。北側は調査地区外となる。出土遺物は須恵器片2点である。

土坑 S K 202

第1区東側の（28、2）区で検出された。平面形は椭円形で、規模は長軸2.40m以上、短軸1.85m、深さ40cmを計る。埋没土は極暗褐色土を主体とし、人為的な堆積はみられない。出土遺物は土師器片（図面214-5101、5102）、須恵器片（図面214-5106、5107、5114）である。本址の帰属時期は大まかに中世から平安時代にかけてとみられる。

土坑 S K 203

第1区西側の（5、4）区で検出された。平面形は椭円形で、規模は長軸0.52m、短軸0.34m、深さ30cmを計る。出土遺物はない。

土坑 S K 204

第1区西側の（5、4）区で検出された。平面形は椭円形で、規模は長軸0.42m、短軸0.36m、深さ14cmを計る。出土遺物はない。

土坑 S K 205

第1区西側の（6・7、3）区で検出された。平面形は椭円形で、規模は長軸0.50m、短軸0.45m、深さ

36cmを計る。出土遺物はない。

土坑SK 209

第1区西側の（7，3）区で検出された。平面形は長方形で、規模は長軸0.60m、短軸0.35m、深さ15cmを計る。出土遺物はない。

土坑SK 210

第1区西側の（7，3）区で検出された。平面形は橢円形で、規模は長軸0.50m、短軸0.35m、深さ32cmを計る。出土遺物はない。

土坑SK 224

第1区西側の（7・8，3）区で検出された。平面形は橢円形で、規模は長軸0.50m、短軸0.35m、深さ30cmを計る。出土遺物はない。

土坑SK 226

第1区西側の（8，4）区で検出された。平面形は方形で、規模は長軸0.58m、短軸0.50m、深さ75cmを計る。出土遺物はない。

土坑SK 227

第1区中央部の（12，3）区で検出された。平面形は橢円形で、規模は長軸0.50m、短軸0.32m、深さ20cmを計る。出土遺物はない。

土坑SK 228

第1区中央部の（12，3）区で検出された。平面形は橢円形で、規模は長軸1.00m、短軸0.50m、深さ15cmを計る。出土遺物はない。

土坑SK 229

第1区中央部の（12・13，3）区で検出された。平面形は方形で、規模は長軸0.42m、短軸0.38m、深さ15cmを計る。出土遺物はない。

土坑SK 230

第1区西側の（5，3）区で検出された。平面形は橢円形で、規模は長軸0.55m、短軸0.45m、深さ30cmを計る。出土遺物はない。

3. 溝

溝SD 201

第1区中央部の（21・22，2・3）区を北西から南東へ走る溝である。規模は、長さが4.8mに亘り検出され、幅は1.95～1.85m、深さ40cmである。は場整備前の昭和30年代まで使用されていた水路で、本杭が溝下端の両側に沿うように40～55cm間隔で打たれている。側板は確認できなかった。出土遺物は無い。

溝SD 202

第1区中央部の（18～21，3）区を西から東へ走る溝である。規模は、長さが16.0mに亘り検出され、幅は0.70～0.95m、深さ13cmを計る。溝底の比高は西端と東端で12cmである。出土遺物は土師器片（図面214-5103）、土鍤（図面215-5202）である。

溝SD 203

第1区中央部の(21, 2・3)区を北東から南西へ走る溝である。規模は、長さが4.4mに亘り検出され、幅は0.25~0.30m、深さ30cmを計る。溝内に径16cm前後の節を抜いた竹筒を櫛設している。地元の方から太平洋戦争前の簡易上水道とお聞きした。出土遺物は無い。

溝SD 207

第1区中央部の(23, 2・3)区を北北西から南南東へ走る溝である。規模は、長さが4.2mに亘り検出され、幅は0.73~1.05m、深さ30cmを計る。溝底の比高は北と南で6cmである。埋没土から水路とみられる。出土遺物はない。

溝SD 208

第1区中央部の(22, 2・3)区を北北西から南南東へ走る溝である。規模は、長さが4.2mに亘り検出され、幅は0.60~0.85m、深さ24cmを計る。溝底の比高は北と南で5cmである。埋没土から水路とみられる。出土遺物はない。

溝SD 235

第1区中央部の(10・11, 3・4)区を北北東から南南西へ走る溝である。規模は、長さが3.0mに亘り検出され、幅は5.65~6.35m、深さ70cmを計る。溝底の比高は北と南で8cmである。埋没土から水路とみられる。出土遺物は土師器片(図面214-5104)である。

溝SD 236

第1区西側の(5, 3)区を北西から南東へ走る溝である。規模は、長さが1.6mに亘り検出され、幅は0.35~0.40m、深さ20cmを計る。埋没土が黒みを帯びていたため、ここでは遺構として扱ったが、暗渠の可能性もある。出土遺物はない。

溝SD 237

第1区西側の(3・4, 3・4)区を西から東へ走る溝である。規模は、長さが3.0mに亘り検出され、幅は0.38~0.44m、深さ36cmを計る。ここでは遺構として扱ったが、暗渠の可能性もある。出土遺物はない。

4. ピット

ピットP 228

第1区西側の(6, 4)区で検出された。平面形は円形で、規模は径32cm、深さ15cmを計る。出土遺物はない。

ピットP 233

第1区西側の(7, 4)区で検出された。平面形は梢円形で、規模は長軸32cm、短軸25cm、深さ13cmを計る。出土遺物はない。

ピットP 234

第1区西側の(7, 4)区で検出された。平面形は円形で、規模は径34cm、深さ25cmを計る。出土遺物はない。

ピットP 237

第1区西側の(7, 4)区で検出された。平面形は円形で、規模は径32cm、深さ45cmを計る。出土遺物はない。

第3節 第2区の遺構

1. 堀立柱建物址

堀立柱建物址 S B 201

第2区中央部の(10・11, 4・5)区で検出された桁行3間(4.70m)×梁行2間(4.28m)の建物である。桁行方向はN-26度-Wである。柱穴の平面形はほぼ方形で、一辺52~60cmを計る。堀立柱建物址S B 203と重複しているが、新旧関係は本址の方が古い。出土遺物はない。

堀立柱建物址 S B 202

第2区中央部の(8~10, 2~4)区で検出された桁行4間(7.90m)×梁行2間(5.20m)の建物である。桁行方向はN-25度-Wである。柱穴の平面形はほぼ方形で、一辺48~78cmを計る。堀立柱建物址S B 204及び溝S D 229と重複しているが、新旧関係は本址の方が古い。柱穴内から土師器片(図面226-6114)が出土。

堀立柱建物址 S B 203

第2区中央部の(10・11, 3・4)区で検出された桁行2間+ α (4.05m+ α)×梁行2間+ α (4.38m+ α)の建物である。桁行方向はN-28度-Wである。柱穴の平面形はほぼ方形で、一辺42~60cmを計る。堀立柱建物址S B 201と重複しているが、新旧関係は本址の方が新しい。南東側を溝S D 230に切られ、全体の規模を明確に捉えられなかった。出土遺物はない。

堀立柱建物址 S B 204

第2区中央部の(8~10, 2・3)区で検出された桁行3間(5.05m)×梁行2間(3.94m)の建物である。桁行方向はN-25度-Wである。柱穴の平面形はほぼ方形で、一辺45~60cmを計る。堀立柱建物址S B 202及び溝S D 229と重複しているが、新旧関係はS B 202より新しく、S D 229より古い。出土遺物はない。

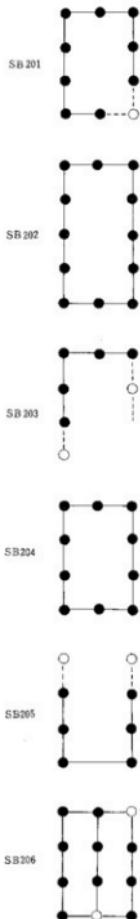
堀立柱建物址 S B 205

第2区西側の(4・5, 3・4)区で検出された桁行2間+ α (4.45m+ α)×梁行1間(4.28m)の建物である。桁行方向はN-17度-Wである。柱穴の平面形はほぼ方形で、一辺62~70cmを計る。北側が調査地区外となるため、桁行の規模が明確にできなかった。出土遺物はない。

堀立柱建物址 S B 206

第2区西側の(6・7, 3・4)区で検出された桁行3間(4.80m)×梁行2間(3.50m)の純柱建物である。桁行方向はN-27度-Wである。柱穴の平面形はほぼ方形で、一辺42~60cmを計る。出土遺物はない。

堀立柱建物址 S B 207



第12図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区堀立柱建物址模式図〔1〕

第2区東側の(15~17, 2~4)区で検出された桁行4間(9.20m)+ α ×梁行2間(5.42m)の総柱建物である。桁行方向はN-68度-Eである。柱穴の平面形はほぼ方形で、一辺52~76cmを計る。桁行方向は掘立柱建物址SB 208とほぼ同じである。出土遺物はない。

掘立柱建物址 SB 208

第2区東側の(14~17, 4~6)区で検出された桁行7間(16.2m)×梁行2間(5.28m)の建物である。桁行方向はN-73度-Eである。柱穴の平面形はほぼ方形で、一辺54~80cmを計る。桁行方向は掘立柱建物址SB 207とほぼ同じである。出土遺物はない。

掘立柱建物址 SB 209

第2区東側の(16·17, 5·6)区で検出された桁行2間+ α (4.25m+ α)×梁行1間+ α (3.04m+ α)の総柱建物である。桁行方向はN-23度-Wである。柱穴の平面形はほぼ方形で、一辺52~60cmを計る。掘立柱建物址SB 208と重複しているが、新旧関係は本址の方が古い。

2. 桁址

桁址 SA 201

第2区中央部の(10·11, 5)区で検出された2間+ α (4.82m+ α)の柱穴列である。軸線方向はN-65度-Eである。

柱間は2.40m(8尺)である。柱穴の平面形はほぼ方形で、一辺42~45cmを計る。

桁址 SA 202

第2区西側の(3·4, 4)区で検出された2間+ α (4.05m+ α)の柱穴列である。軸線方向はN-68度-Eである。柱間は2.00mである。柱穴の平面形はほぼ方形で、一辺52~58cmを計る。出土遺物はない。

桁址 SA 203

第2区中央部の(6~10, 2·3)区で検出された8間(17.0m)の柱穴列である。軸線方向はN-67度-Eである。柱間はややばらつきがあるものの約2.10m(7尺)である。柱穴の平面形は円形及び梢円形で、径38~50cmを計る。出土遺物はない。

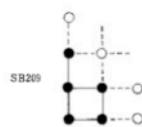
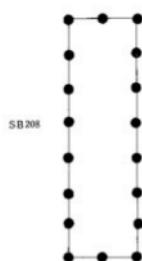
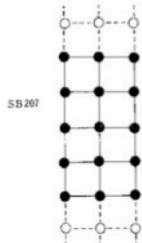
桁址 SA 204

第2区東側の(14·15, 6)区で検出された2間(4.85m)の柱穴列である。軸線方向はN-64度-Eである。柱間は2.40mである。柱穴の平面形はほぼ方形で、一辺60~68cmを計る。出土遺物はない。

桁址 SA 205

第2区東側の(15, 4)区で検出された2間(4.85m)の柱穴列である。軸線方向はN-68度-Eである。柱間は2.40mである。柱穴の平面形はほぼ方形で、一辺52~60cmを計る。出土遺物はない。

桁址 SA 206



第13図 麻生谷遺跡平成7年度調査地区掘立柱建物址模式図〔2〕

第2区東側の（15・16、3・4）区で検出された2間（4.82m）の柱穴列である。軸線方向はN-68度-Eである。柱間は2.40mである。柱穴の平面形はほぼ方形で、一边62~68cmを計る。出土遺物はない。

3. 井戸址

井戸址 S E 202

第2区西側の（6、3）区で検出された木綿井戸である。掘り方は一边2.20mの方形で、深さは確認面から2.50mである。底面は膨大な涌水量がある明青灰色細砂層に掘り込まれ、平坦である。壁は垂直気味に立ち上がり、上方でやや開く。井戸側は一边が0.58m~0.62mの方形で、上部が縦板組横桟どめ、下部が横板組みの併用型のものである。掘り方のはば中央に据えられている。井戸側の縦板は長さ1.05~1.25m、幅15~21cm、厚さ2~4cmの比較的厚いもので、一边に5~6枚使用されている。また、縦板と横桟の間に楔が数個打ち込まれている。横桟には長さ1.03~1.10m、幅14~17cm、厚さ4~6cmの厚い板材が用いられ、3段組みである。上から1段目の横桟は抜き取られており、井戸側上端部の四隅にはめ込むように組まれていたとみられる。2・3段目は目違いの内柄と外柄で組まれている。灰色粘質土を掘り方の埋土としている。井戸側上部の埋没土に人為的な堆積がみられた。出土遺物は井戸側を構成する材（図面243-6350~図面251-6390）及び井戸側内とその上部の埋没土に混入したものの3種類に分けられる。井戸側内に混入した遺物には、簀串（図面235-6301~6304、6306）、箸（図面236-6313、6316）、扇子骨（図面235-6307~6309）がある。また、その上部の遺物として「人長」の墨書が施された須恵器坏（図面227-6118）、土師器坏（図面226-6105）、土師器壺（図面226-6111、6112）、須恵器壺（図面227-6122、6126、6128）、須恵器蓋（図面228-6136）、須恵器甕（図面229-6158、6160、6162）が出土した。

井戸址 S E 203

第2区西側の（6、3）区で検出された素掘り井戸である。掘り方は長軸1.48m、短軸1.54mの不整形で、深さは確認面から1.20mである。底面は透水層である青灰色細砂層に掘り込まれ、平坦である。壁は垂直気味に立ち上がり、上方でやや開く。壁面には灰白色粘土が貼りつけられている。出土遺物は底面から曲げ物柄杓（図面240-6335）、簀串（図面235-6305）、中位から挽物坏（図面242-6346）、箸（図面236-6310~6315）、須恵器甕（図面229-6159）がある。

4. 土坑

土坑 S K 206

第2区西側の（6、4）区で検出された。平面形は椭円形で、規模は長軸0.51m、短軸0.48m、深さ13cmを計る。出土遺物はない。

土坑 S K 207

第2区西側の（6、4）区で検出された。平面形は不整椭円形で、規模は長軸0.72m、短軸0.31m、深さ16cmを計る。出土遺物はない。

土坑 S K 208

第2区西側の（8，3）区で検出された。平面形は不整椭円形で、規模は長軸0.67m、短軸0.30m、深さ10cmを計る。出土遺物はない。

土坑SK 211

第2区西側の（5，2・3）区で検出された。平面形は方形で、規模は長軸1.56m、短軸1.05m、深さ14cmを計る。出土遺物はない。

土坑SK 213

第2区西側の（6・7，3・4）区で検出された。平面形は方形で、規模は長軸1.53m、短軸1.50m、深さ14cmを計る。出土遺物はない。

土坑SK 214

第2区西側の（6，3）区で検出された。平面形は方形で、規模は長軸1.67m、短軸1.36m、深さ10cmを計る。出土遺物はない。

土坑SK 215

第2区中央部の（12，5）区で検出された。平面形は長方形で、規模は長軸2.02m、短軸0.63m、深さ28cmを計る。出土遺物はない。

土坑SK 221

第2区中央部の（7・8，4）区で検出された。平面形は椭円形で、規模は長軸1.27m、短軸1.00m、深さ6～18cmを計る。出土遺物はない。

土坑SK 222

第2区中央部の（8，4）区で検出された。平面形は不整椭円形で、規模は長軸1.20m、短軸0.78m、深さ18cmを計る。出土遺物はない。

土坑SK 225

第2区東側の（17，3）区で検出された。平面形は円形で、規模は径0.48m、深さ18cmを計る。出土遺物はない。

土坑SK 231

第2区中央部の（13，4）区で検出された。平面形は椭円形で、規模は長軸0.82m、短軸0.64m、深さ27cmを計る。出土遺物はない。

土坑SK 232

第2区中央部の（13，4）区で検出された。平面形は不整椭円形で、規模は長軸2.28m、短軸1.95m、深さ69cmを計る。溝SD 230と重複しており、本址の方が古い。底面は透水層である細砂層に掘り込まれており、本址は井戸址の可能性もある。出土遺物は須恵器片2点である。

5. 溝

溝SD 220

第2区西側の（3～5，2）区を西から東へやや弧状に走る溝で、近代の水路である。規模は、長さが9.7mに亘り検出され、幅0.84～1.50m、深さ約40cmを計る。出土遺物はない。

溝SD 221

第2区西側の（3・4、2・3）区を西から東へ直線的に走る溝で、東側で溝S D 223と繋がる。両者は同一の水路とみられる。底面に水酸化鉄の沈着がみられる。近代の水路である。規模は、長さが9.2mに亘り検出され、幅1.20~1.45m、深さ約30cmを計る。出土遺物は流入とみられる土師器片が2点である。

溝S D 222

第2区西側の（4・5、2～4）区を北から南へ直線的に走る溝である。規模は、長さが10.2mに亘り検出され、幅0.45~0.55m、深さ約30cmである。出土遺物はない。

溝S D 223

第2区西側の（5、2～4）区を北から南へ走る溝である。西側途中で溝S D 221と合流する底面に水酸化鉄の沈着がみられる。近代の水路である。規模は、長さが10.6mに亘り検出され、幅0.85~1.35m、深さ約25cmを計る。北と南の比高は約10cmである。出土遺物は須恵器片3点、珠洲片1点である。

溝S D 224

第2区西側の（6、4）区を西から東へ走る溝である。規模は、長さ3.65m、幅0.45~0.55m、深さ約30cmを計る。埋没土から中世から平安時代にかけて帰属するとみられる。出土遺物は須恵器片2点である。

溝S D 225

第2区西側の（7、2・3）区を北北西から南南東へ走る溝である。溝S D 229と同一遺構とみられ、水路ではなく、建物の雨落ち溝か区画溝とみられる。規模は、長さが8.2mに亘り検出され、幅0.25~0.50m、深さ約20cmを計る。埋没土から中世から平安時代にかけて帰属するとみられる。出土遺物は須恵器坏（図面227-6123）である。

溝S D 227

第2区西側の（7・8、2～4）区を北から東へ走る溝で、近代の水路である。規模は、長さが12.6mに亘り検出され、幅0.55~0.95m、深さ約25cmを計る。出土遺物は須恵器片が2点である。

溝S D 228

第2区西側の（8～9、2～4）区を北から南へ直線的に走る溝で、近代の水路である。規模は、長さが14.0mに亘り検出され、幅1.10~1.45m、深さ約50cmを計る。出土遺物は須恵器片が3点である。

溝S D 229

第2区中央部の（8・9、2～5）区を北北西から南南東へL字形に走る溝である。溝S D 225と同一遺構とみられ、底面に浅い凹凸があることから、建物の雨落ち溝か区画溝とみられる。埋没土から中世から平安時代にかけて帰属するとみられる。規模は、長さが16.0mに亘り検出され、幅0.50~0.58m、深さ約20cmを計る。出土遺物は須恵器片2点と珠洲鉢（図面230-6169）である。

溝S D 230

第2区中央部の（11～13、2～6）区を北東から南西へ弧状に走る大型溝である。底面に小礫や粗砂の堆積があったことと出土遺物から本址は近世末から近代にかけて使用されていた水路とみられる。本址西側の上端に走向に沿うかたちで幅3.60~4.10mの土手の基底部とみられる版築が認められた。また、本址と版築の間に護岸用とみられる丸木の杭列が認められた。規模は、長さが16.5mに亘り検出され、幅3.60~5.10m、深さ約1.50mを計る。出土遺物は大型収納箱に6箱分と膨大である。殆どが本址が営まれる以前の須恵器片、珠洲片である。特に第2区で図示した須恵器の坏・蓋・瓶・壺、珠洲の壺の殆どは本址から出土したものである。本址に伴うものとしては、近世陶磁器（図面232-6184、6185、6187）、木製品（図面240-6336、6337、図面241-6338~6341、図面242-6344、6345、6347~6349）である。また、土鍤の殆どは本址から

出土した。

溝 S D 231

第2区中央部の（13・14、3～6）区を溝S D 230に沿うかたちで北東から南西へ弧状に走る溝である。北側でS D 230と重複しており、本址の方が古い。規模は、長さが14.3mに亘り検出され、幅0.60～0.85m、深さ約30cmを計る。出土遺物は珠洲甕片（図面231-6180）である。

溝 S D 238

第2区東側の（15・16、2～6）区を北から南へやや弧状に走る溝である。溝下端の両側に丸木杭が並列し、それに側板が組まれた木組みの水路である。出土したガラス瓶などからは場整備前の昭和30年代まで使用されていたものとみられる。規模は、長さが24.0mに亘り検出され、幅0.65～1.20m、深さ約30cmを計る。出土遺物は須恵器片2点と他はガラス瓶などの昭和ゴミである。

溝 S D 239

第2区東側の（16、1～3）区を北東から南西へ走る溝で、S D 238に切られているが、北側のS D 244と同一遺構とみられる。また、埋没土より中世から平安時代にかけて畠属するとみられる。規模は、長さが8.2mに亘り検出され、幅1.55～1.85m、深さ約30cmを計る。出土遺物は須恵器蓋（図面228-6142）である。

溝 S D 241

第2区東側の（16・17、2）区を東から西へ走る溝で、溝S D 243と繋がる。暗渠の可能性がある。規模は、長さが7.90mに亘り検出され、幅0.55～0.85m、深さ約50cmを計る。出土遺物は土錐1点である。

溝 S D 243

第2区東側の（16・17、2）区を北東から南西へ走る溝で、溝S D 241と繋がる。暗渠の可能性がある。規模は、長さが4.80mに亘り検出され、幅0.65～0.95m、深さ約50cmを計る。出土遺物はない。

溝 S D 244

第2区東側の（16・17、6）区を北東から南西へ走る溝で、溝S D 239と同一遺構とみられる。規模は、長さが2.60mに亘り検出され、幅0.55～0.70m、深さ約20cmを計る。出土遺物はない。

溝 S D 245

第2区東側の（15・16、4・5）区を西から東へ走る浅い溝で、暗渠に切られている。規模は、長さが10.5mに亘り検出され、幅0.55～1.20m、深さ約15cmを計る。出土遺物は流入した灰釉陶器片1点である。

6. ピット

ピット P 222

第2区中央の（10、5）区で検出された。平面形は方形で、規模は長軸0.62m、短軸0.44m、深さ8cmを計る。出土遺物は無い。

ピット P 224

第2区西側の（5、2）区で検出された。平面形は橢円形で、規模は長軸0.54m、短軸0.43m、深さ20cmを計る。出土遺物は無い。

ピット P 225

第2区西側の（6，2）区で検出された。平面形は橢円形で、規模は長軸0.56m、短軸0.35m、深さ15cmを計る。出土遺物は無い。

ピットP 226

第2区西側の（6，4）区で検出された。平面形は方形で、規模は長軸0.70m、短軸0.60m、深さ40cmを計る。出土遺物は無い。

ピットP 244

第2区東側の（17，5）区で検出された。平面形は方形で、規模は長軸0.70m、短軸0.62m、深さ30cmを計る。出土遺物は無い。

ピットP 247

第2区東側の（17，5）区で検出された。平面形は方形で、規模は長軸0.55m、短軸0.45m、深さ30cmを計る。出土遺物は無い。

ピットP 249

第2区北東隅角の（17，6）区で検出された。平面形は方形で、規模は長軸0.40m + α、短軸0.50m、深さ38cmを計る。出土遺物は無い。

ピットP 250

第2区東側の（15，4）区で検出された。平面形は方形で、規模は長軸0.63m、短軸0.60m、深さ12cmを計る。出土遺物は無い。

ピットP 251

第2区東側の（15，4）区で検出された。平面形は方形で、規模は長軸0.55m、短軸0.35m以上、深さ10cmを計る。出土遺物は無い。

第4節 第1区の遺物

1. 土器類

第1区の土器類は土師器、須恵器、珠洲に分けて説明した。

1. 土師器

古墳時代・平安時代の土師器で、図面214-5101~5105の5点である。

坏A 図面214-5101~5103。ロクロ成形の坏である。5101、5103は底部回転糸切り未調整で、5102は底部切り離し後に撫で調整し断面三角形の高台を貼りつけている。

坏B 図面214-5104。非ロクロの浅い坏である。

高坏 図面214-5105。高坏の脚台部片である。脚部は直線的に外行し、坏部の内底部に粘土を充填している。

2. 須恵器

平安時代の須恵器で、図面214-5106~5114の9点である。

坏A 図面214-5106。大きめの底部から浅く立ち上がる。

坏B 図面214-5107、5108の2点。高台付で5107は胸部に丸みを持って外行する。

蓋 図面214-5109~5112。天井部を回転箋削り調整してつまみを貼り付け、端部は強く屈曲する。

瓶 図面214-5113。肩の張る器形である。

甕 図面214-5114。甕の胴部片で外面は平行叩き、内面は同心円のアテ具痕を残す。

3. 珠洲

擂鉢 図面214-5115。

2. 土製品

土錐 図面215-5201~5204。5203は全体が管状に細長く小さい。孔径も4mmである。他は原型で、5204は大型である。

3. 木製品

第1区の木製品は全て井戸址S E 201の井戸側に用いた材と井戸側内の埋没土中から出土したものである。中世の所産である。

呪符 図面216-5301。芯持ち材を薄板にし、一端をV字形に切り落としている。前面には「南」「急々如□□」と墨書きされ、恐らく「急々如律令」という道教の文句とみられる。また、背面には手斧痕がみられる。「急々如律令」の文句は『下学集』に、一切の惡鬼魔事邪道を行なうを教誡するの意とあり、速やかに鬼よ去れという意味をもつ。井戸魔除の儀礼か、災いを鎮めるために使われたものとみられる。

箸 図面 216－5302～5304、5306、5307、図面 217－5308～5350。両端を削り出して尖らせている。断面は方形や六角形が多い。

角棒状品 図面 216－5305、図面 220－5366。

方形曲げ物底板 図面 218－5351、5352。木釘痕が残る。同一側体とみられる。

円形曲げ物 図面 221－5368。側板は二重巻きで、側板の内面に木目と直交する縦にケビキを入れている。側板の総合せは2列2段継じである。底板と側板は木釘で結合している。

枕 図面 218－5355。角材の一端を削り尖らせたものである。

板 図面 218－5353、5354、図面 219－5356～5359。井戸側内の埋没土に混入していたもので、本來井戸側の縦板であったものが剥がれ落ちたものとみられる。

棟 図面 220－5360～5363、5365、5367。井戸側の縦板と横桟の隙間に入れ込んだものである。

芯持材 図面 220－5364。用途不明。枝を払い、一端を削り尖らせている。

井戸側縦板 図面 221－5369～5372、図面 222－5373～5375、図面 223－5383、5384、図面 224－5392～5395、図面 225－5396～5401。井戸側に組まれた縦板は合計37枚である。ここでは、そのなかの19枚を図示した。幅7～9cm、厚さ1cm、長さは上部は朽ちているが60～92cmを計る。木取りは全て板目である。また、下端中央から6cm程のところに径7mm前後の孔があるものが14枚認められた。

井戸側横桟 図面 222－5376～5382、図面 223－5385～5391。横桟は4段に組まれており、合計14本である。横桟は全て図示した。1段目は両端が相欠き柄の5376～5379で組まれ、2～4段目は両端が凸柄と凹柄の5380～5391で目違いに組まれている。

第5節 第2区の遺物

1. 土器類

第2区の土器類は土師器、須恵器、古代陶器、珠洲、中世磁器、近世陶磁器に分けて説明した。

1. 土師器

坏A 図面226-6101~6103。ロクロ使用の坏で、体部外面に弱い稜を持つものである。

坏B 図面226-6104~6110。ロクロ成形の坏で、いずれも底部が回転糸切り無調整である。6106は体部に暗文を垂下する。6107は口縁部が短く内脣するかわらけ様の坏である。

甕A 図面226-6114。有段口縁の甕である。

甕B 図面226-6111~6113。ロクロ成形の甕で、いずれも口縁部がくの字に外反し、端部はつまみ上げている。6111は胴部内外面とも櫛歯状工具による調整痕が残る。

2. 須恵器

坏A 図面227-6115~6118、6120。体部が直線的に外傾し、ロクロ成形後に底部を回転糸切り調整している坏である。6118は井戸址S E 202から出土したもので、「人長」の墨書きが施されている。

坏B 図面227-6119、6121~6130、6132。高台が付く坏である。

坏C 図面227-6131。器肉が薄く、体部は内脣する。底部は回転糸切り無調整である。

蓋 図面228-6133~6142。天井部が丸みを持つものと、扁平なものがみられる。いずれも天井部は削り調整しており、端部が強く屈曲する。

蓋つまみ 図面228-6143~6152。いずれも天井部を回転糸切り調整してボタン状のつまみを貼り付けている。

瓶 図面228-6153、6154。6153は肩部が丸く張る短頸瓶である。6154は双耳瓶の耳部片である。

用途不明品 図面228-6155。全体の形状は不明である。板状で中央に孔を持ち、端部は角を切り、恐らく八角形を呈すると思われる。

甕底部 図面229-6156、6157。6156は中型の甕で内外面に釉がかかる。6157はロクロ成形の小型の甕で胴下部は回転糸切りを施す。底部は静止糸切りである。須恵器の範疇に含めたが、珠洲の可能性もある。

甕胴部 図面229-6160~6162。外面は平行叩き、内面は同心円の当て具痕が残る。

3. 古代陶器

灰釉陶器 図面232-6163。高台断面形状は長方形で僅かに内脣する。内面に釉の一部が認められる。10世紀前半。

綠釉陶器 図面232-6164。水煎した胎土で、軟質の焼成である。

4. 珠洲

鉢 図面230-6165~6167、6169、6171。いずれも口縁部へ僅かに内脣して立ち上がる鉢である。

擂鉢 図面230-6168、6170、6172、図面231-6174~6176。6170は片口である。6168は14条1組、6175は10条1組、6176は8条1組のおろし日を施す。

甕口縁部 図面231-6177~6180。大型甕の口縁部片である。口縁部は短く外反する。

甕底部 図面231-6173、6181、6182。底部は静止糸切りである。

5. 中世磁器

青磁 図面 232 - 6183。体部外面に 8 条の梯目状刻線を施す碗である。内外面の釉は灰オリーブ色の発色で気泡が入る。

6. 近世陶磁器

伊万里 図面 232 - 6184, 6185。6184は青花染付の小皿である。内面は腰回りに 2 条の圓線を巡らして草花文を描き、見込みにコンニャク印判による五弁花文を押す。外面は蔓草文を描き、腰部と高台に圓線を 3 条巡らす。高台には内側に圓線と不明瞭な「満福」が記される。高台糸尻を除いて青味を帯びる釉がかかる。胎土は灰白色で、内面に重ね焼き痕が残る。18世紀後半。6185は小皿である。釉は内面と外面上半部に施す。見込みは蛇の目に釉剥ぎし、外面は漬掛けの痕跡が認められる。発色は乳濁したオリーブ色である。18世紀後半の波佐見窯産とみられる。

瀬戸 図面 232 - 6186, 6187。6186は燭台である。底部は回転糸切り無調整で、皿部内外面に暗褐色の鉄釉を施す。6187は強いクロ口を残す小型甌である。底部は回転糸切り無調整で、内外面に鉄釉がかかる。

2. 土製品

大半は溝 S D 230 から出土した土錘である。

土錘 図面 233 - 6201~6216, 図面 234 - 6217~6226。軟質の酸化焰焼成が殆どで、還元焰焼成は6207の 1 点だけである。形状から、俵型、丸型、算盤玉型に分けられる。

用途不明品 図面 234 - 6227。円錐状に尖った頂部に小孔を穿つ釣り錘状の土製品である。酸化焰焼成である。

3. 木製品

第 2 区の木製品は、平安時代に帰属する井戸址 S E 202 と井戸址 S E 203、近世末から近代にかけて帰属する溝 S D 230 から出土したものである。

斎串 図面 235 - 6301~6306。6304は他と形状を異にするもので、箸状で一端を削り込んで尖らせ、他端に割れ目を入れている。他はいずれも細長い板材の上端を圭頭状にし、下端を劍先状に削り込んでいる。木取りは板目で、上端近くの側面左右に上斜めから 2 ~ 3 回の切込みが入る。6302は上端に割れ目を入れている。6305は井戸址 S E 203 から出土し、他は井戸址 S E 202 からの出土。

扇子骨 図面 235 - 6307~6309。目の狭い硬い材を使用した断面長方形の薄板である。井戸址 S E 202 から出土。

箸 図面 236 - 6310~6316。両端を削り尖らせている。長さ 22cm 前後で、断面は方形や六角形が多い。6313, 6316は井戸址 S E 202 から出土。他は井戸址 S E 203 から出土。

角棒状品 図面 237 - 6317, 6318, 6320, 6321。図面 242 - 6349。溝 S D 230 から出土した 6349 を除いて他は井戸址 S E 202 から出土。

板 図面 237 - 6319, 6322, 6323、図面 238 - 6324~6326, 6328、図面 239 - 6333, 6334。大半は井戸址

S E 202 から出土。6323は継板の残欠とみられる。

鉤状品 図面 238 - 6327。鉤状に割り込んでいる。井戸址 S E 202 から出土。

楔 図面 239 - 6329 - 6332。いずれも井戸址 S E 202 から出土。

曲げ物柄杓 図面 240 - 6335。円形曲げ物を身にし、角棒状の柄を着けたもので、柄は欠損している。側板内面に縫にケビキをいれ、縫合せは2列4段綴じである。側板重合せ部分の上方に柄孔を方形に穿け、その対面に柄の先端を挿入する孔を穿け、周囲に柄先端を固定する紐を通す小孔がみられる。側板縁が摩滅し、使用痕が著しい。井戸址 S E 203 底部から出土。

三角板状品 図面 240 - 6336. 6337。用途不明品。木取りは板目である。溝 S D 230 から出土。

しゃもじ 図面 241 - 6338。漆塗りである。溝 S D 230 から出土。

曲げ物底板 図面 241 - 6339、図面 242 - 6344. 6345。いずれも溝 S D 230 から出土。木剣痕が残る。

杭 図面 241 - 6340. 6341。丸木の一端を全周から削り尖らしている。溝 S D 230 の護岸用の杭である。

挽き物 図面 242 - 6346 - 6348。6346はロクロ成形の坏である。漆の付着は認められなかった。井戸址 S E 203 から出土。6347. 6348は漆塗りの綱である。溝 S D 230 から出土。

井戸側継板 図面 243 - 6350 - 6354、図面 244 - 6355 - 6357、図面 245 - 6359 - 6362、図面 246 - 6363 - 6366、図面 247 - 6367. 6368、図面 248 - 6374. 6375、図面 249 - 6376 - 6379、図面 250 - 6380. 6381。6350. 6351. 6381は継板のあて板で、井戸側に実際に組まれた継板は合計23枚である。ここでは、その全てを図示した。木取りは柾目と板目が半々である。片面に手斧痕が残るものが多い。

井戸側横樋 図面 244 - 6358、図面 248 - 6373、図面 250 - 6382 - 6386。木取りは板目もあるが、柾目の方が多い。片面に手斧痕が残る。

井戸側横樋 図面 247 - 6369. 6370、図面 248 - 6371. 6372、図面 251 - 6387 - 6390。板の両側に凸と凹の切り込みを入れ、上下逆に組むものである。片面に手斧痕が残る。

4. 銅・鉄製品

鉄滓、釘は掘立柱建物址を構成する柱穴内から出土している。

錢貨 図面 252 - 6501. 6502。いずれも「寛永通宝」で、裏面は無文である。

鉄滓 図面 252 - 6503. 6504。気泡の多い鉄滓で、不定形である。

釘 図面 252 - 6505。頭部は折れ曲がり、断面は方形である。

用途不明品 図面 252 - 6506. 6507。いずれも板状鉄製品残欠で、全体形状は不明である。

5. 石製品

磨石 図面 252 - 6601。

第6節 小結

平安時代の遺構と遺物

麻生谷遺跡平成7年度調査地区の調査成果で主体を成したのは第2区で検出された平安時代の遺構群である。遺構群は掘立柱建物址9棟（SB 201～SB 209）、横址6条（SA 201～SA 206）、井戸址2基（SE 202・SE 203）、明確に平安時代に帰属する土坑3基（SK 201・202・232）、明確に平安時代に帰属する溝2条（SD 225・229）である。出土遺物から遺構群は8世紀後半から9世紀代まで営まれたものと考えられる。

掘立柱建物址は全て平行方向がN-25度-W前後若しくは90度振れたN-65度-E前後のいずれかにおさまる。また、横址の軸方向もN-65度-E前後におさまる。柱間は掘立柱建物址も横址も7尺か8尺を基本としている。掘立柱建物址の柱穴どうしが重複していることから、少なくとも建物址群の造営は2期以上におよぶとみられる。

井戸側に分厚い板材を使用し、深さ2.50mの膨大な湧水量の透水層まで掘り下げていることと、斎串を使った祭祀を行なっていることから井戸址SE 202は公的な性格をもった施設に付随する井戸址の可能性も充分考えられる。井戸址SE 202の埋没土上層出土の土器は9世紀代のものであるが、井戸側内から出土した斎串は形態から8世紀後半まで遡れるものである。平安時代の遺構群の初期を構成する井戸址とみられ、井戸址SE 203はそれより若干新しいものとみられる。後出する井戸址が貧弱になるのは、平安時代のこの場所での遺構群のもつ機能が廃れていったことが窺われる。遺構群の機能については、今回の調査成果だけでは言及できないが、本調査地区から約1km南に位置する福岡町赤丸から石堤にかけて律令期の北陸道「川人（川合）駅」推定地にあたるため、それとの関連も考えられ、なかでも須恵器坏の墨書「人長」は駅との関連をより想起させるものである。

第2区調査地区から南東へ約50mの位置に石堤保育園建設に伴う発掘調査で、平安時代に帰属する建物址が検出されていることから、現在麻生谷集落の在る南東方向へ平安時代の遺構群が延び広がると考えられる。

中世の遺構と遺物

中世遺構として明確に捉えられたのは木組形態から根拠づけた第1区の井戸址SE 201だけである。そのため中世遺構の性格付けは無理であるが、遺構に伴わない状況で中世の珠洲・白磁・青磁が出土していることから、第2区の中央部に点在する小ピット群（ハサ掛け痕と混在する。）は中世の建物址を構成するものの可能性もある。

井戸址SE 201の埋没土から昆虫遺存体（図版222-5701）と種子類（図版222-5702～図版225-5709）の自然遺物が出土したが当時の人々の食生活の一端が垣間見れる資料である。種子はトチノキ・モモ・オニグルミ・ウメ・ウリ類・ヒヨウタン・イネ・アカザ・ヒエ・エゴマが観察できた。昆虫遺存体はイネクイハムシ・ヒメコガネなどが観察できた。イネクイハムシは水田地帯や低地の周辺が開いた池沼・ため池に多く、稻作指標昆虫として有効である。全体に水性昆虫が多く、中世における本調査区周辺の環境が窺い知れる。

第4章 麻生谷新生園遺跡平成6年度調査地区

第4章 麻生谷新生園遺跡平成6年度調査地区 目次

第1節 調査地区的概観	75	第3節 遺物	80
第2節 遺構	78	1. 土器類	80
1. 堅穴住居址	78	2. 土製品	82
2. 土坑	78	3. 木製品	82
3. 構	79	4. 銅製品	83
		5. 石製品	83
		第4節 小結	84



第14図 新生園遺跡平成6年度調査地区位置図 (1/3,000)

第1節 調査地区の概観

調査地区の位置

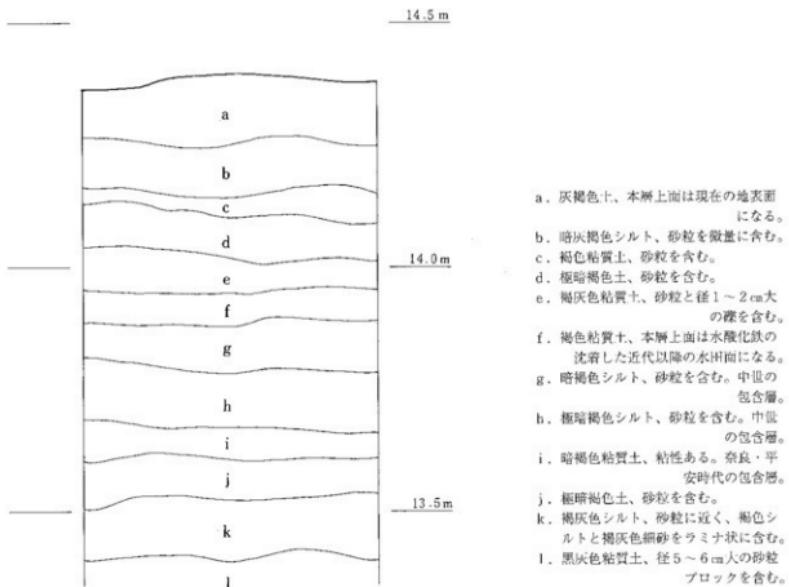
調査地区は県立新生園から南へ約30mに位置する。北西側に西山丘陵を背にして、山裾に立地するかたちである。本調査地区的西側に入り込む開拓谷から遺跡地は続いてくる。

調査経過

発掘調査は平成6年8月25日から同年12月9日まで実施した。実働調査日数は62日である。表土の除去はバックフォーで行った。調査開始当初は隣接する水田からの排水対策に追われた。調査は耕土置場の事情で2回に分けて実施した。2回目の開始は10月初めからで雨天続きで、やはり排水対策に苦慮した。発掘調査面積は1,400m²である。

基本層序

図示した基本堆積土層図は調査区中央部の(7・9)区で作図したものである。a層(表土)を除去すると砂質土となり、g・h層は中世の遺物包含層で珠洲や中世陶器が出土した。i層は平安時代の遺物包含層である。今回検出された遺構はj層上面からの掘り込みである。



第15図 新生園遺跡平成6年度調査地区基本堆積土層図 (1/10)

検出遺構

堅穴住居址 1 軒 (S I 301)

土坑 7 基 (S K 301 ~ 307)

溝 2 条 (S D 301 · 302)

出土遺物

土器類；土師器、須恵器、珠洲、青磁、白磁、灰釉陶器、近世陶器

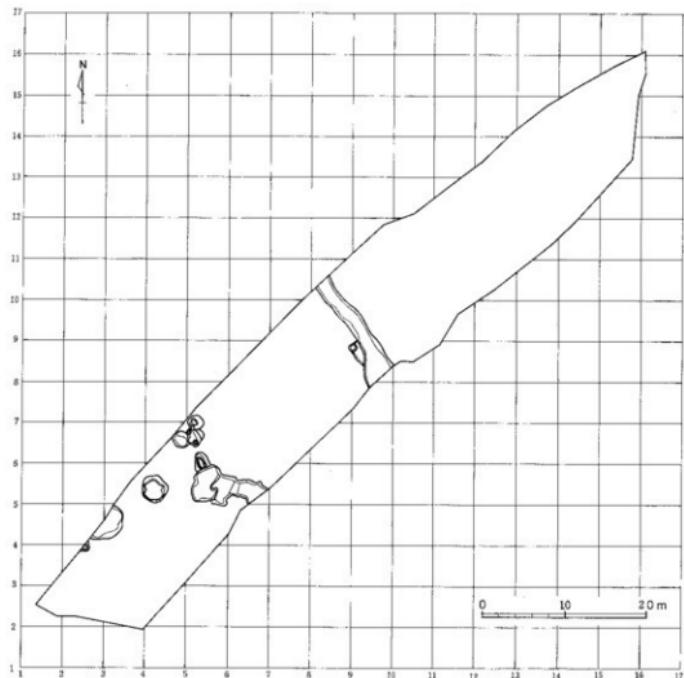
土製品；置き壺、土鍤、ミニチュア土器、支脚、輪羽口

木製品；鉢、鋸、曲げ物、杭

銅製品；錢貨

石製品；砥石、磨石、敲き石、こも編み石

自然遺物；種子類（モモ、オニグルミ）



第16図 新生園遺跡平成 6 年度調査地区全体図 (1 / 600)

グリッド

調査地区的グリッドは平面直角座標系の第7座標系（原点は北緯 $36^{\circ} 00' 00''$ 、東経 $137^{\circ} 10' 00''$ ）に合わせた。メッシュの表示は一辺5m四方を一つの区画とし、南北をX軸、東西をY軸とした。グリッドの南西隅の数値がそのグリッドを表すものとした。X=1、Y=1の地点は、原点より、西へ19.960km、北へ82.320kmの位置である。

第2節 遺構

1. 竪穴住居址

竪穴住居址 S I 301

調査地区中央部で溝 S D 301 に切られた形状で検出された。しかし、整理調査の知見では本址の出土遺物は 6世紀末から 7世紀初めに帰属するとみられ、S D 301 が 6世紀代に帰属することを考えれば、発掘調査時に重複の新旧関係を誤った可能性がある。平面形は方形で、規模は長辺 3.02m 以上、短辺 1.55m 以上、深さ 20~25cm を計る。北西隅角に、平面形が方形で、規模が長軸 73cm、短軸 68cm、深さが床面から 40cm を計る貯蔵穴状の穴が検出された。穴内から土師器片・須恵器片とともにモモ・オニグルミの種子（図版 275-95 01, 9502）が 13 個出土した。床面はほぼ平坦で、踏み固めのような堅密な部分は認められなかった。また、造り付けの甕や炉址の存在も認められなかった。埋没土は極暗褐色土を主体とし、人為的な堆積はみられない。出土遺物は土師器高杯（図面 257-8121, 8126）、土師器把手（図面 261-8176）、須恵器壺（図面 262-8202, 8203）、須恵器蓋（図面 263-8225, 8226）、須恵器甕（図面 267-8269）、置き甕（図面 271-9103）である。

2. 土坑

土坑 S K 301

調査地区的最も西側で検出された。平面形は梢円形で、規模は長軸 1.35m、短軸 0.70m 以上、深さ 85cm を計る。北西側は調査地区外となる。出土遺物は土師器甕（図面 259-8158）である。

土坑 S K 302

調査地区的西側で検出された。溝 S D 302 と重複し、新旧関係は本址の方が古い。平面形は梢円形で、規模は長軸 2.75m、短軸 2.05m、深さ 55cm を計る。出土遺物は土師器甕（図面 259-8156, 8157）、円形曲げ物側板（図面 278-9212）である。

土坑 S K 303

調査地区的西側で検出された。平面形は梢円形で、規模は長軸 3.25m、短軸 2.95m、深さ 85cm を計る。出土遺物は土師器甕（図面 259-8153, 8154）、杭（図面 280-9223）である。

土坑 S K 304

調査地区的西側で検出された。土坑 S K 306・土坑 S K 307 と重複し、新旧関係は本址の方が両者より古い。平面形は梢円形で、規模は長軸 2.55m、短軸 2.25m、深さ 70cm を計る。出土遺物は土師器甕（図面 259-8150, 8160）、須恵器甕（図面 267-8270, 8272, 8273）である。

土坑 S K 305

調査地区的西側で検出された。北西側は調査地区外になる。平面形は梢円形で、規模は長軸 4.85m、短軸 3.20m、深さ 85cm を計る。出土遺物は土師器瓶（図面 258-8133）、土師器甕（図面 259-8149）、須恵器甕（図面 267-8274）、組合せ鉢（図面 276-9206）、割材（図面 275-9204、図面 277-9210、図面 278-

-9214)、杭(図面 280-9221、図面 281-9228、9230)である。

土坑SK 306

調査地区の西側で検出された。土坑SK 304と重複し、新旧関係は本址の方が新しい。平面形は梢円形で、規模は長軸2.25m、短軸1.95m、深さ90cmを計る。出土遺物は土師器壺(図面 259-8161)、須恵器壺(図面 262-8210)、割材(図面 277-9209)である。

土坑SK 307

調査地区の西側で検出された。土坑SK 304と重複し、新旧関係は本址の方が新しい。平面形は梢円形で、規模は長軸1.95m、短軸1.80m、深さ80cmを計る。出土遺物は須恵器壺(図面 267-8275)、杭(図面-276-9207)である。

3. 溝

溝SD 301

調査地区中央部を北西から南東へ走る溝である。堅穴住居址SI 301と重複し、発掘調査時に本址の方が新しいとしたが、整理調査を経てSI 301より本址の方が古いという新知見を得た。規模は、長さが13.8mに亘り検出され、幅1.95~3.75m、深さ45~52cmを計る。溝底の比高は北西端と南東端で12cmである。埋没土は極暗褐色土を主体とし、概ね自然堆積である。遺物の出土量は本遺跡のなかでも最も多く、大型収納箱に7箱分である。図示した遺物は土師器壺(図面 256-8101、8102、8104~8111)、土師器高壺(図面 257-8116~8120、8122、8125、8128、8129)、土師器瓶(図面 258-8135)、土師器壺(図面 258-8132、8134、8137~8142、図面 259-8144、8145、8151、図面 260-8162~8165)、土師器把手(図面 261-8166、8167)、須恵器高壺(図面 262-8219)、須恵器壺(図面 263-8224、8233、8234)、須恵器瓶(図面 264-8251)、須恵器壺(図面 266-8260~8263、8265~8268)、置き壺(図面 271-9102、9107、9108、図面 272-9110~9114、9119)、支脚(図面 272-9125、図面 273-9130)、輪羽口(図面 273-9133)、杭(図面 280-9224)、こも籠み石(図面 284-9412~9414)、磨石(図面 284-9415)である。

溝SD 302

調査地区的西側で検出された。西から東へやや弧状に走り、東側は調査地区外へ延びる。土坑SK 302と重複し、新旧関係は本址の方が新しい。規模は、長さが7.50mに亘り検出され、幅2.05~3.60m、深さ78~85cmを計る。出土遺物量は大型収納箱に9箱分で、木製品が他構造に比べて多い。図示した遺物は土師器壺(図面 256-8113)、土師器壺(図面 258-8143)、須恵器壺(図面 262-8201)、須恵器壺(図面 263-8230、8236)、須恵器壺(図面 266-8264)、ナスビ型膝柄鉢(図面 274-9201)、割材(図面 274-9202)、曲げ物底板(図面 275-9203)、板(図面 275-9205、図面 281-9227)、杭(図面 278-9213、図面 280-9225、9226、図面 281-9229)である。

第3節 遺物

1. 土器類

土師器は6世紀代から7世紀初めまでのものが主体を占め、僅少であるが、4世紀代と9世紀代のものもみられる。殆どは溝S D 301と竪穴住居址S I 301から出土したものである。須恵器は6世紀末から7世紀初めのものが主体である。珠洲と古代・中世陶磁器は全て中世の遺物包含層から出土したものである。また、近世陶器は表土中から出土したものである。

1. 土器

坏A 図面256-8101~8103。丸底で体部が浅く、口縁部は大きく外反する。

坏B 図面256-8104~8106. 8108。丸底の体部から外反する稜をもって口縁部に立ち上がる。8108は内面底部に十字の刻線を施す。

坏C 図面256-8107. 8109~8113。明瞭な稜をもたないものである。

坏D 図面256-8114. 8115。高台をもつもので平安時代の所産である。平安時代の包含層から出土。

高坏 図面257-8116. 8117。坏部で体部に稜をもち口縁部は外反する。脚部は大きく開く。8116は内外面とも箋磨きで黑色処理されている。

高坏脚部 図面257-8118~8126. 8128. 8129。脚部は大きく開き、8118~8120. 8123. 8124のように脚部上半は円柱状のものが多い。

蓋つまみ 図面257-8127. 8130。ボタン状のつまみである。

瓶 図面258-8133. 8135。緩やかに外反する口縁部である。

甕口縁部A 図面258-8131. 8132. 8136。有段口縁である。

甕口縁部B 図面258-8134. 8137~8143。図面259-8144~8158。口縁部が「く」の字形に短く外反する。全体に胴の張るものが多い。

甕胴・底部 図面259-8159~8161、図面260-8162~8165。胴が張り、底部は丸味をもつ。8164は底部に叩き目を残す。

把手 図面261-8166~8184。ここでは鍋及び瓶の角状把手として扱ったが、なかには置き甕の把手になるものも混在している可能性がある。8182は水巣した胎土で瓶とみられる。

2. 須恵器

坏A 図面262-8201~8210。坏身である。底部は回転箋削りを施す。

坏B 図面262-8211。底部に回転箋削り後、箋記号を施す。ここでは坏としたが蓋の可能性もある。

坏C 図面262-8212~8218。高台付の坏である。全て平安時代の包含層であるⅰ層から出土した。

高坏 図面262-8219~8223. 8220. 8221は脚部で外面にカキ目を施し、方形の透孔口を3方向に配置する。8223は握端部である。

蓋 図面263-8224~8240。8224. 8236. 8239. 8240は坏蓋である。天井部に回転箋削りを施す。

鉢 図面263-8241。ロクロ撫で調整。胎土中に海總骨針を含む。

瓶A 図面264-8242. 8243. 8246。長頸瓶である。

瓶B 図面264-8244. 8245。短頸瓶である。

瓶C 図面 264 - 8247。小型の長頸瓶である。

瓶D 図面 264 - 8248~8251。横瓶である。体部外面に平行叩き目を施し、内面は同心円のアテ具痕を残す。

瓶E 図面 265 - 8252, 8253。提瓶の肩部である。肩部に吊手の剥離痕が認められる。体部の張りが少なく扁平である。8253は吊手の剥離痕の残る肩部片である。

瓶F 図面 265 - 8254~8256。8254は外面に櫛齒状工具による斜めの刻み口を施す。高坏の坏部の可能性もあるがここでは瓶の口縁部として扱った。8255は外面に波状文を施す口縁部である。

甕口縁部 図面 266 - 8257, 8258。

甕胴部 図面 266 - 8259~8268、図面 267 - 8269~8281。外面は平行叩き目を施し、内面は同心円の当て具痕を残すものが主体である。

3. 珠洲

鉢 図面 268 - 8301~8307。8306は内底面に使用による摩耗痕が認められる。

擂鉢 図面 268 - 8309~8311。8309, 8310は内傾して稜を持つ。8311は胴下部で内面に5条のおろし目を施す。使用による摩耗痕が認められる。

瓶 図面 268 - 8308。中型の瓶の底部である。胴下半に施削り痕が残る。

甕 図面 269 - 8312~8318。大型と中型があり、外面は平行叩き目で内面は無文の当て具痕の撫で消し調整が主体である。

4. 中世陶磁器

白磁 図面 270 - 8401, 8402, 8404。8401は無文の碗で、高台部疊付きを除いて白濁釉がかかる。8402は菊花文の小型碗である。口縁部に平坦面をもつ。8404は玉縁口縁の碗で、雅浅黄色の発色である。

青磁 図面 270 - 8403, 8405~8412。8403は簡状の香炉である。口縁部は平坦面をもって内傾する。釉は透明感のある明青灰色である。8406~8408, 8412は無文の碗である。釉は気泡が多く明オリーブ灰色である。8405は口縁部が外反する碗である。体部外面に櫛目状の刻線を施す。8406は口縁部が外反する碗で、釉は乳濁したオリーブ灰色である。8409は箇手蓮弁文碗で、片切彫りによる蓮弁を施す。釉は乳濁したオリーブ灰色である。8410は筒状の香炉で、外面に印花文を散らす。釉は薄い。8411は内面に片切彫りと櫛目刻線による草花文を施す碗である。釉はオリーブ灰色で外面に貫入が入る。

灰釉陶器 図面 270 - 8413。灰釉小皿の底部及び腰部である。

5. 近世陶器

瀬戸美濃 図面 270 - 8502, 8504, 8505。8502は筒碗である。内外面にロクロ目による稜をもち、釉は暗褐色である。8504は淡褐色釉碗である。内外面に細かい貫入が入る。8505は灰釉碗である。

志野縁部 図面 270 - 8501。鉄釉碗で見込みと外面に鉄絵を施し、釉は気泡が多く乳濁する。

志野 図面 270 - 8503。碗である。外面の腰部と高台に呉須による1条の圓線を巡らす。呉須は薄い発色である。見付きを除いて透明釉がかかる。

越前 図面 270 - 8506。擂鉢である。8条1単位のおろし目を施す。

2. 土製品

土製品は置き甕・支脚・土鍤・脚部土製品・ミニチュア土器・轆羽口である。置き甕・支脚は溝 S D 301 と堅穴住居址 S I 301 から出土したものである。轆羽口も溝 S D 301 から出土している。

置き甕 図面 271-9101~9109、図面 272-9110~9124。置き甕体部中位の把手と認識できたのは9101だけであった。図面 261 に鍋及び瓶の把手として扱ったものの中にも、置き甕の把手が混在している可能性がある。置き甕の体下部は粘土紐を積み上げて、内外面に刷毛目の粗い調整を施す。内面に被熱痕が認められる。明確な掛け口部は認識できなかったが、土師器甕として扱った図面 258-8138、図面 259-8151は内外面の刷毛目調整と内面の煤付着が著しいことから、その可能性が考えられる。図面 271-9102、9103は炊き口部である。図面 271-9104は削部片。図面 271-9105~9109、図面 272-9110~9124は底部片である。

土鍤 図面 273-9126、9127。俵型である。

支脚 図面 272-9125、図面 273-9130、9131。いずれも柱状で被熱痕が著しい。

脚部土製品 図面 273-9128、9129。円柱状で接地面とみられる端部を平坦に造り出し、一方には剥離痕がみられる。胎土と焼成から同一個体とみられる。

ミニチュア土器 図面 273-9132。台付の器形で、内底面に刷毛目痕を残す。底径 4.2 cm。

轆羽口 図面 273-9133。被熱による還元部分が認められる。

3. 木製品

木製品は土坑 S K 302・303・305・306・307、溝 S D 301・302 から出土している。大半が古墳時代の所産とみられる。

鍔 図面 274-9201。ナスビ型膝柄鉄の身である。刃部と頭部の両先端を欠損する。刃部と頭部の間にくの字状の抉りが入る。木取りは柾目である。溝 S D 302 出土。

錐 図面 276-9206。組合せ錐の身である。刃部は縁を薄くし、よく摩滅している。肩部は緩やかに立ち上がり、中央に長方形の柄孔を斜めにあけ、身の後面に対して60度の着柄角度をもつ。前面にあて板痕が残る。木取りは柾目である。土坑 S K 305 出土。

円形曲げ物 図面 278-9212。側板は二重巻きで、内側に木目と直交する縱方向の切り目が入る。側板の組合せは1列3段綴じである。土坑 S K 302 出土。

曲げ物底板 図面 275-9203。周縁側面に木釘痕がある。木取りは柾目である。溝 S D 302 出土。

分割材 図面 274-9202、図面 275-9204、図面 277-9209、9210、図面 278-9214。木を二分割や四分割にしている材である。表面に焦げ面があるものが多いことから枕として使用された可能性がある。

板 図面 275-9205、図面 281-9227。9227は長さ 174 cm、幅 30 cm、厚さ 7 cm の大型板である。全面に焦げが広がる。木取りは板目である。

杭 図面 276-9207、9208、図面 277-9211、図面 278-9213、9215、図面 279-9216~9220、図面 280-9221~9226、図面 281-9228~9230。一端を削り尖らしたものと削り平らにしたもののがみられる。また、径の大きいものは建物址の柱の可能性もある。9230は建築部材を再利用したとみられるもので、表面に焦げ面をもつものが多い。

4. 銅製品

銭貨はいずれも表土採集したものである。

銭貨 図面 273 - 9301, 9302。いずれも元祐通宝（西暦1086年）である。

5. 石製品

こも編み石は溝 S D 301 から出土したものである。他の石製品は全て表土採集したものである。

砥石 図面 282 - 9401 - 9404。9401は砥面が2面、他は3~4面の砥面を持つ。いずれも砥ぎ減りが著しく、凝灰岩製である。

打製石斧 図面 283 - 9405。片面に自然面を残し、刃部、両側抉り部、頂部に粗い調整を施す。頁岩製。

敲石 図面 283 - 9406 - 9409。敲打痕が両端や側面にみられる。

磨石 図面 283 - 9410、図面 284 - 9415。磨り面が1面である。

こも編み石 図面 283 - 9411、図面 284 - 9412 - 9414。溝 S D 301 から出土。

第4節 小 結

麻生谷新生園遺跡で検出された遺構は、堅穴住居址1軒、土坑7基、溝2条であるが、この全てが古墳時代に帰属すると考えられる。遺物は縄文時代の打製石斧から近代陶器まで出土しているが、圧倒的に主体を占めるのは古墳時代後半のものである。

古墳時代の遺構と遺物

検出された遺構は全て6世紀後半から7世紀初めにかけての範疇に入るものと考えられる。先出するのは最も遺物出土量の多かった溝SD301である。灌漑用の水路の可能性も考えられる溝である。他の遺構（堅穴住居址S1301、土坑SK301～307、溝SD302）は全て6世紀末期から7世紀初頭にかけて営まれたものとみられる。

平安時代の遺物

平安時代の遺物は、全て平安時代の遺物包含層（第15図 新生園遺跡基本堆積土層図：層）から出土したものである。9世紀代から10世紀初めの範疇に入るものである。器種は、土師器壺（図面256～8114、8115）、須恵器壺（図面262～8212～8218）である。

中世の遺物

中世の遺物は、全て中世の遺物包含層（第15図 新生園遺跡基本堆積土層図g層・h層）から出土したものである。珠洲壺鉢・鉢・甕（図面268・図面269）、白磁（図面270～8401、8402、8404）、青磁（図面270～8403、8405～8412）、灰釉陶器（図面270～8413）である。

近世の遺物

近世の遺物は、表土層（第15図 新生園遺跡基本堆積土層図a層）から出土した陶器（図面270～8501～8506）と砥石（図面282～9401～9404）、表土層直下で確認された杭（図面277～9211、図面278～9215、図面279～9216、9217、9219、9220、図面280～9222）である。杭の出土状態は図版168～図版170に掲載したが、いずれも配置に規則性はみられなかった。ハサ掛けなどに使用された可能性も考えられる。

第5章 總 括

第5章 総括目次

第1節 麻生谷遺跡 87 第3節 麻生谷新生園遺跡 89



第17図 調査地区周辺の現況

第1節 麻生谷遺跡

検出遺構

平成5年度と平成7年度との2回に分けて実施した麻生谷遺跡の検出遺構は次のとおりである。

井戸址 4基

掘立柱建物址 9棟

柵址 6条

土坑35基

溝70条

堅穴状遺構 6基

出土遺物

同じく2回に分けて実施した麻生谷遺跡の出土遺物は次のとおりである。

土器類；土師器、須恵器、灰釉陶器、綠釉陶器、瓦質土器、珠洲、越前、青磁、白磁、近世～現代に至る陶磁器

土製品；土鍬

木製品；柾串、呪符、箸、挽物、曲げ物、柄杓、井戸側板材

銅製品；銭貨

鉄製品；釘、鉄滓

石製品；砥石、石鎌、磨製石斧、磨石

自然遺物；昆虫遺存体（イネクイハムシなど）、種子類（オニグルミ・モモ・ウメ・ヒヨウタン・イネなど）

遺構と遺物の時期

検出遺構については、上部削平を受けており、本来の形態を推定復元するのが困難なものが多くあった。これについては、特に西側の地区において顕著であった。

出土土器類の主要なものは、土師器、須恵器である。時期的には奈良時代後半～平安時代前期頃を中心である。

上部削平を受けている遺構が多いことも原因して、遺構からの出土遺物は多くはない。平成7年度の調査地区については、古代・中世の土器類の多くが、近代の溝（S D 230）から出土したものである。

古代の遺構・遺物

主要な遺構は、平成7年度調査地区第2区から検出された掘立柱建物址群と井戸址である。掘立柱建物址9棟と井戸址2基であり、柵址も6条検出されている。

掘立柱建物址からの出土土器については、SB 202から出土の土師器壺片のみであるが、周囲から出土した須恵器壺・蓋類を参考に、8世紀後半から9世紀代のものとしておく。掘立柱建物址については、掘り方の切り合いや建物址の重複があり、1時期のものではない。主軸方向（棟の方向）の僅かな違いもあり、建て替えが推定される。掘り方の土層で窓がわれる建て替え状況は、上部削平のため、掘り方の残存状況が良好ではなく、果たせなかつた。

建物址の規模については、3間×2間、乃至これに近い規模のものが主体である。この中で、SB 208と

した東西棟は7間×2間で、今回では最大規模である。一般集落での建物址としては大規模なものと言ってよからう。SB 207はこのSB 208と平行する形で復元しているが、東側及び西側をこれ以上拡張して調査することができず、また周囲に幾つかの掘り方があり、このように確定できるものではない。

これらの建物址については、掘り方が方形で整ったものもあり、一部の建物址は、8世紀後半代に遡るものであることも想定される。主軸方向に統一性があり、計画的に建てられた建物址群と言える。

井戸址SE 202の時期については、出土した土師器壺(皿)6105を9世紀末から10世紀初め頃のものと捉え、この時期頃にこの井戸址が廃絶したものとしておく。SE 203についても近い時期のものであろう。

中世の遺構・遺物

主要な遺構は、井戸址2基であり、平成5年度調査地区の第3区と平成7年度調査地区の第1区から検出されている。

遺跡の時期

当「麻生谷遺跡」に、今回の調査や以前の調査、また周囲からの採集遺物等を勘案するに、遺跡の主要な時期は以下の3時期と言える。

1. 弥生時代末～古墳時代初頭
2. 奈良・平安時代、特に8世紀後半～9世紀
3. 中世

遺跡の性格

今回の調査での遺跡の主要な時期は、8世紀後半～9世紀の律令期である。この遺跡の古代、律令期での性格を考える上で、『延喜式』記載の「川人」駅が注目される。この駅の所在地として、高岡市の石堤から福岡町の赤丸が推定地として指摘されてきた。この推定地付近での律令期の集落の検出であり、この駅に何らかの形で関与した集落址である可能性がある。また井戸址SE 202から出土した須恵器壺の墨書「人長」もこの「川人駅」に関するものである可能性がある。

第2節 麻生谷新生園遺跡

検出遺構

検出遺構は次のとおりである。

竪穴住居址 1軒

土坑 7基

溝 2条

出土遺物

出土遺物は次のとおりである。

土器類；土師器、須恵器、珠洲、青磁、白磁、灰釉、近世陶器

土製品；置き壺、土錘、ミニチュア土器、支脚、輪羽口

木製品；鍤、鎚、曲げ物、杭

銅製品；鏡貨

石製品；砾石、磨石、敲石、こも縮み石

自然遺物；種子類（モモ、オニグルミ）

検出遺構の時期

検出された遺構はすべて古墳時代のものである。奈良・平安時代や中世については、遺物が出土したが、遺構は検出されていない。

検出された遺構については、主に出土した須恵器から、6世紀中葉から後葉のものと考えている。陶邑窯跡群の須恵器編年の型式では、高藏10型式（TK10）、〔陶器山85型式〕（MT85）、高藏43型式（TK43）に該当する段階と考えている。

竪穴住居址 S I 301 から出土した須恵器壺・蓋類をみると、壺身8202はTK43期としてよいと思われるのに対して、壺蓋8225・8226は、下端部内面に稜が付き、TK10期として良いと思われる。この遺構と切り合った関係にある溝 S D 301 から出土したものを見ると、須恵器壺蓋の8233は、下端部が丸く取まり、天井部との境も稜がなくなり、不明瞭なものとなっている。TK43期としてよいであろう。同じく溝 S D 301 から出土した須恵器壺蓋の8234は、小破片ではあるが、天井部と体部との境に稜が付き、TK10期に該当しよう。

これら以外の須恵器壺・蓋類をみると、TK10期とTK43期の両者がみられる。ややTK10期のものが多いように思える。遺構から出土したものは少ないが、これらは遺構の時期を示しているとしてよいであろう。

竪穴住居址 S I 301 と溝 S D 301 については、現地調査の時の所見では、溝が竪穴住居址を切っているものであったが、出土遺物から明確な時期差は指摘できないが、この新旧関係で良いものと判断される。溝に竪穴住居址に所属する遺物等、古いものが入る可能性を考慮すれば、竪穴住居址 S I 301 がTK10期・新段階から、TK43期、溝 S D 301 がTK43期と理解しておきたい。また溝 S D 301 出土の土師器の壺・高杯類については、ややバリエーションがあり、新旧に区分する必要があろう。土師器壺類についても同様である。これについては、今後検討して行きたい。

奈良・平安時代について

奈良・平安時代の遺物については、奈良時代後半から平安時代前期のものである。古墳時代後期、6世紀代の遺構確認面の上層に、該期の遺物包含層があり、今回は遺構の検出にまでは至らなかったが、近くにこ

の時期の遺構の存在を想定させるものである。中世の遺物についても同様である。

遺跡の範囲

当「麻生谷新生園遺跡」については、県立新生園のある谷部を中心とするものとして、漠然と捉えられてきた。東側には「麻生谷遺跡」が括がっている。今回の調査、平成4年度の試掘調査によって、新生園の西側に低地部が入ることや、平成6年度の本調査の結果、古墳時代後期、6世紀代の遺構・遺物が確認されたこともあり、新生園のある谷部と、その南西側に括がる平野部とを「麻生谷新生園遺跡」の範囲として、低地部を挟んで東側に括がっている「麻生谷遺跡」と区分しておきたい。

遺跡の性格

当「麻生谷新生園遺跡」は古墳時代を中心とした遺跡である。背後の丘陵部には、古墳群が営まれており、これらと関係のある集落跡である可能性が強いものである。

参考文献

- 石堤村史編集委員会 1959 『石堤村史資料』 石堤村
- 折原洋一 1995 『御殿二宮遺跡発掘調査報告書』 磐田市教育委員会
- 木下良徳 1980 『富山県歴史の道調査報告書－北陸街道－』 富山県教育委員会
- 木下良徳 1996 『古代を考える－古代道路』 吉川弘文館
- 酒井重洋、宮田進一他 1984 『北陸自動車道遺跡調査報告－上市町木製品・縄括縄－』 上市町教育委員会、富山県埋蔵文化財センター
- 高梨清志他 1996 『第8回北陸中世土器研究会・中世北陸の木製容器』 北陸中世土器研究会
- 田辺昭三 1996 『陶邑古窯址群Ⅰ』 平安学園考古学クラブ
- 田辺昭三 1981 『須恵器大成』 角川書店
- 奈良国立文化財研究所 1984 『木器集成図録－近畿古代篇－』
- 服部実喜、中田美他 1986 『千葉地東遺跡』 神奈川県立埋蔵文化財センター
- 古岡英明他 1991 『たかおか－歴史との出会い－』 高岡市制100年記念誌編集委員会
- 三浦謙一、松本達也 1995 『柳之御所跡』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 吉岡康暢 1983 『東大寺領横山庄遺跡』 松任市教育委員会・石川考古学研究会

調査参加者名簿

発掘

青山陽介、麻生正三、新谷友治、石浦玲子、石田たかね、今川悟、今川理絵、上田篤子、上田工、蛭川英知、大谷暉、大谷知可子、阿田裕二、岡部由香、沖田芳弘、奥伊太郎、尾崎和三、尾崎孝夫、尾山久美子、片山毅、門島信也、金岡武治、神初大介、菊地正、岡本明子、小林茂、小林謙子、坂林泰子、早苗太七郎、早苗玉子、佐野實、下井春次、新谷晴紀子、新保常二、新保丹寿、杉本広政、杉本光映、関泰輔、高田えみ子、高野佳香、高橋光之、竹澤久美子、橘秀和、田中あけみ、旅剛、地崎勉、塚原望、寺井久子、寺島源太郎、寺中隆人、道谷美奈子、中川恵子、中島和美、中田郁子、中田俊男、中村恭子、流森清、西岡俊雄、西岡美和子、樋真理子、長谷川共進、日高裕史、平野潤、廣沢隆太郎、細川正一、堀江勝長、前田しげこ、前田節子、前田武蔵、松田伊八、丸池哲哉、三島幸代、水外一部、明法守健一、室崎宗之、森元徹、矢板典子、山川正隆、山岸覺、山城一夫、山塚春朗、山木宏、山本真優美、横川貞奈美、横田充弘、吉川と志子、吉田敦子、吉田真美子、吉野能理子、若井正之。

整理（高岡市教育委員会）

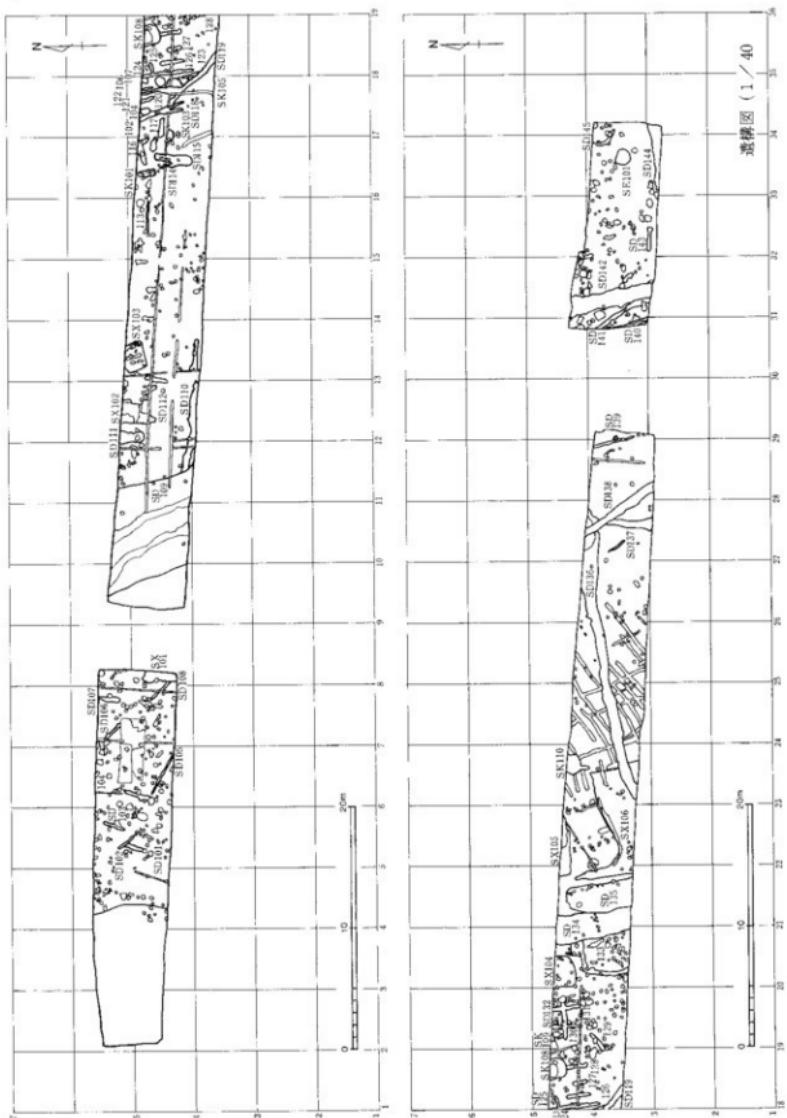
東加世子、池山宏子、池守凡子、石浦玲子、今田綾乃、岩永潤子、牛島敦子、小形理香、大庭麻起子、大田欣和、大谷知可子、小竹山紀子、尾山久美子、垣地慶子、加治助子、門島信也、河内由夏、岡本明子、刑部美和子、小林央、坂林泰子、芝田明子、新谷晴紀子、杉本光映、大槻まゆみ、高田えみ子、高橋静香、竹脇優子、竹澤久美子、田辺幸代、田辺京子、塚原望、寺井久子、土合良子、道谷美奈子、蒲田朋江、中尾賀要子、中嶋和美、中田郁子、中林靖子、中村恭子、橋真理子、嶋薰、畠山輝美、水見智子、放牛順子、前田節子、三國世理子、三島幸代、宮下奈津子、村中由加利、基峰明子、森恵希、安川裕子、山崎理乙子、山田宮子。

整理（山武考古学研究所）

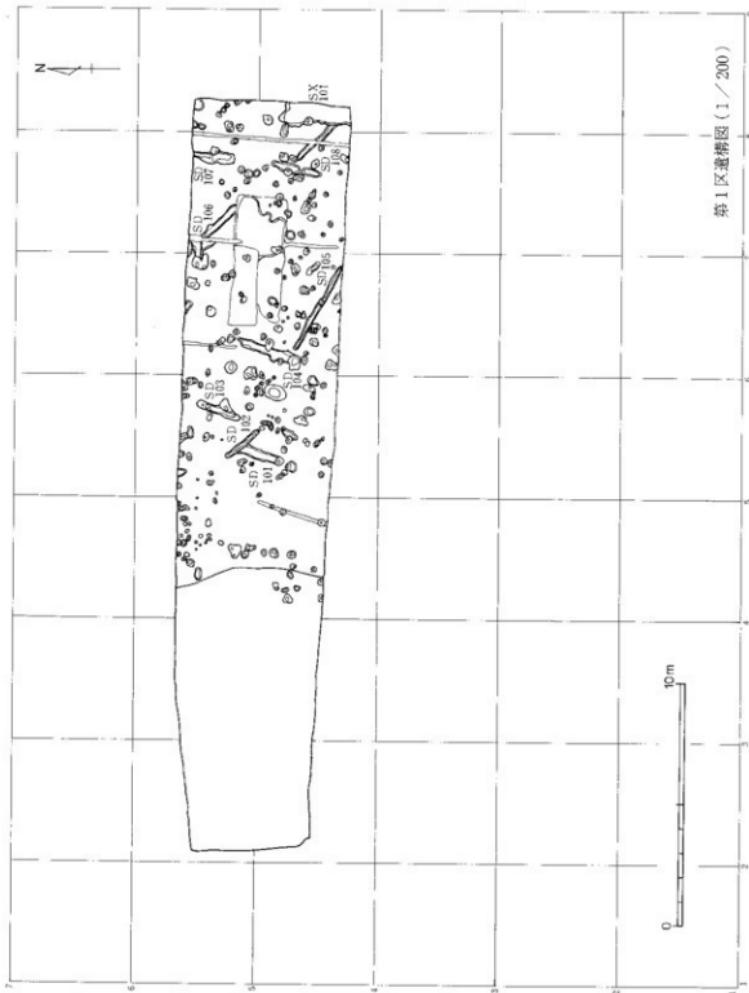
青木千賀子、石井照子、石田利子、石田満理、磯洋子、今成勝子、岡田うめ、小川悦子、萩原真理子、小野沢昌子、小林ちか子、釋沢美枝、中平吉子、根津珠代。

図面〔1〕遺構実測図

図面一〇一 遺溝実測図
麻生谷遺跡平成五年度調査地区



図面一〇二
遺溝実測図
麻生谷遺跡平成五年度調査地区



縮尺 1/200

図面一〇三 遺溝実測図 麻生六谷遺跡平成五年度調査地区



図面一〇四 遺構実測図 麻生谷遺跡平成五年度調査地区



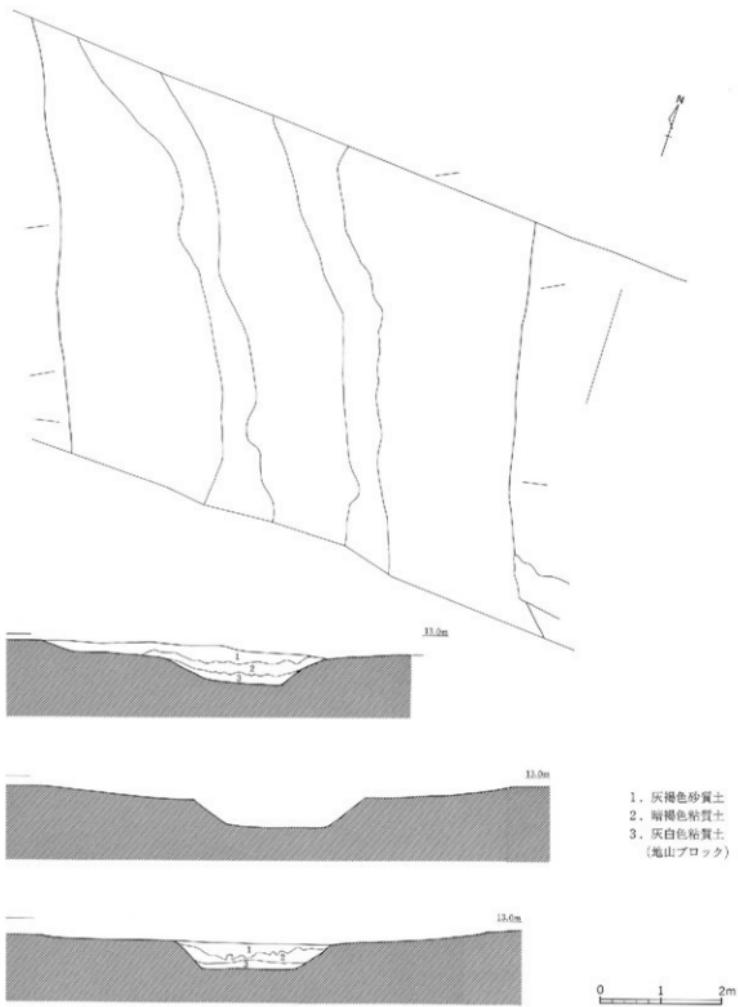
第3区遺構図(1/200)



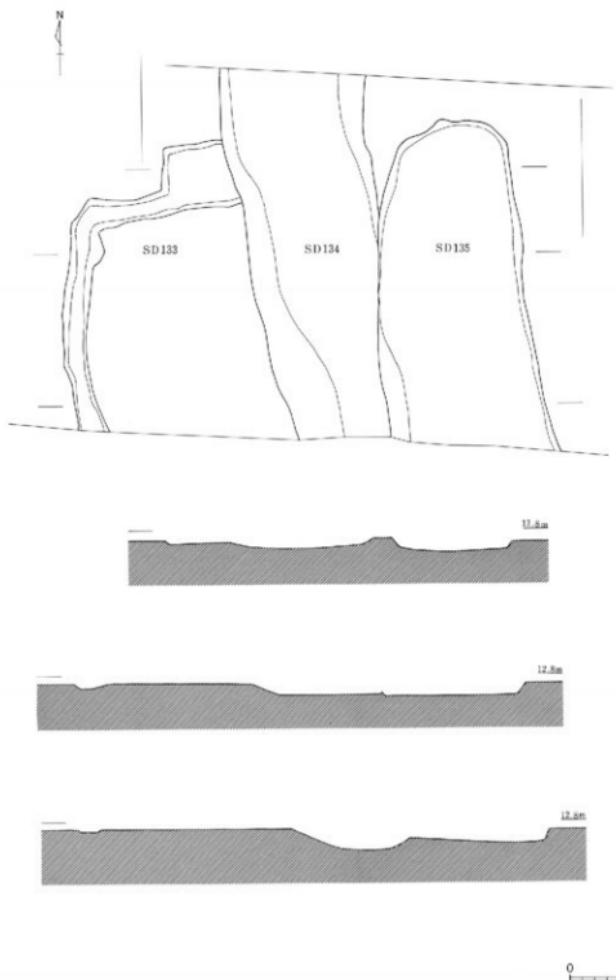
図面一〇六

遺溝実測図

麻生谷遺跡平成五年度調査地区



第2区溝S D 109 実測図 (1/80)

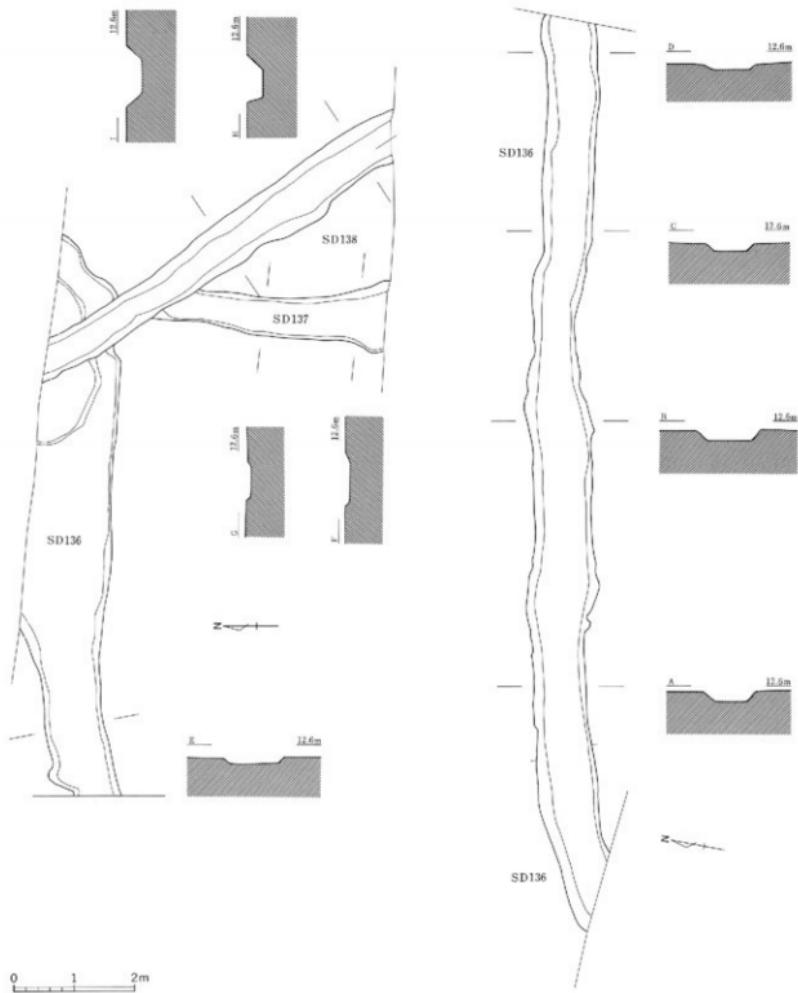


第2区溝SD 133～135実測図 (1/80)

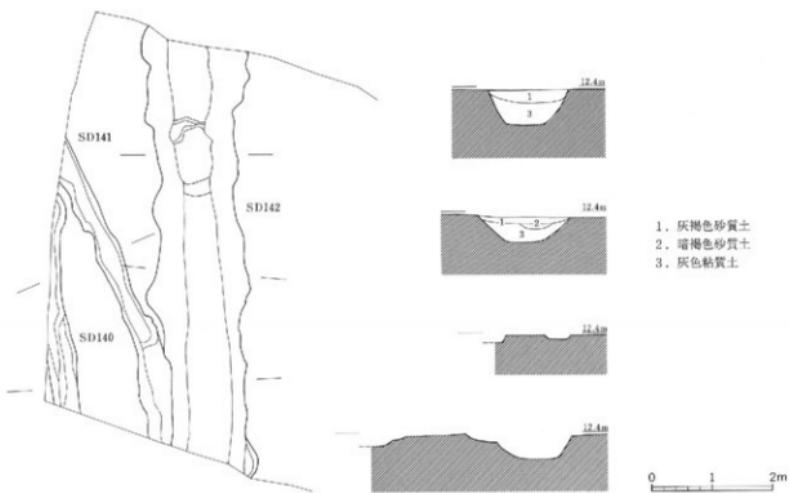
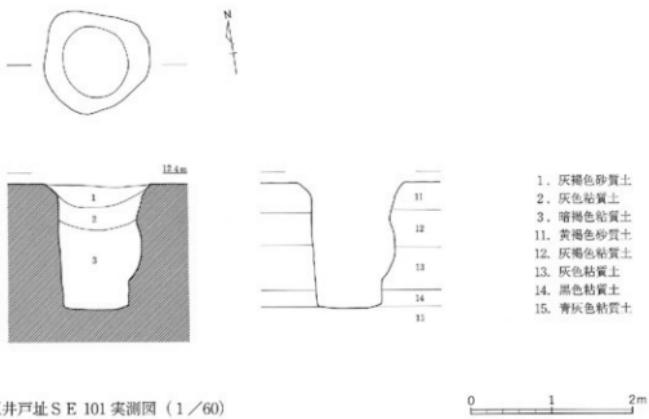
図面一〇八

遺構実測図

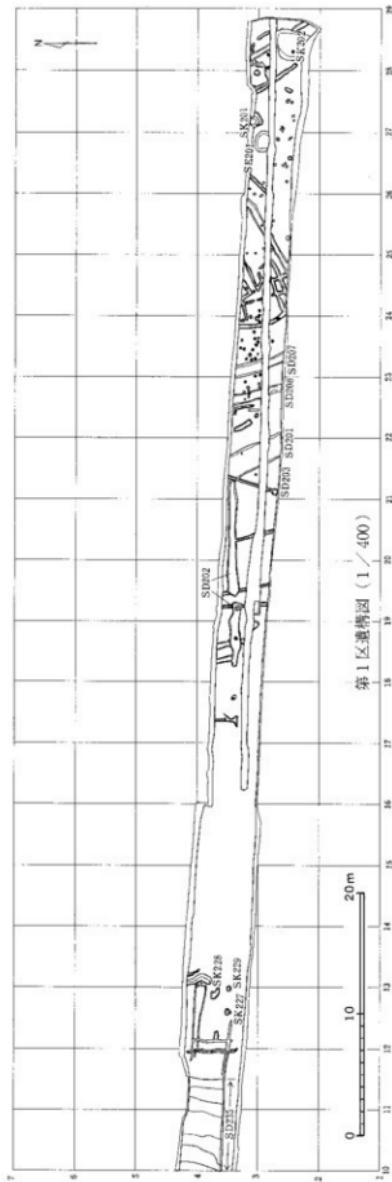
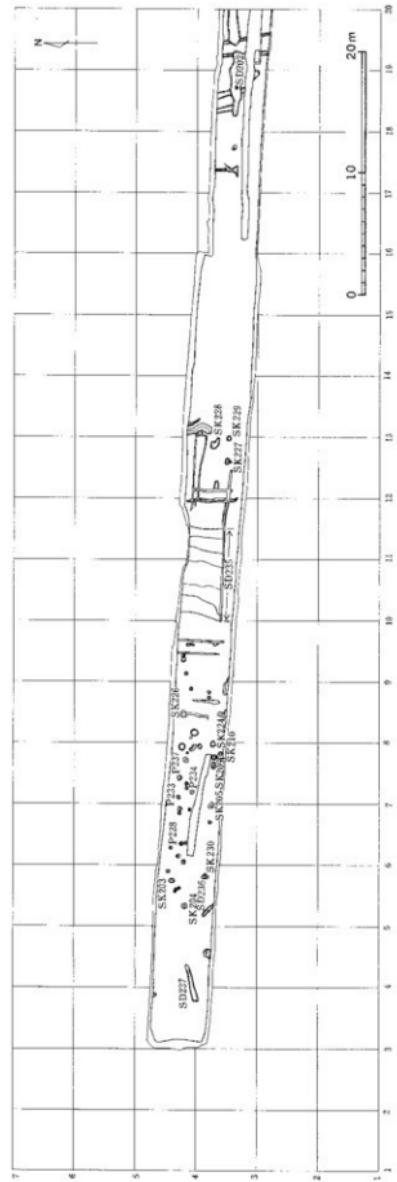
麻生谷遺跡平成五年度調査地区



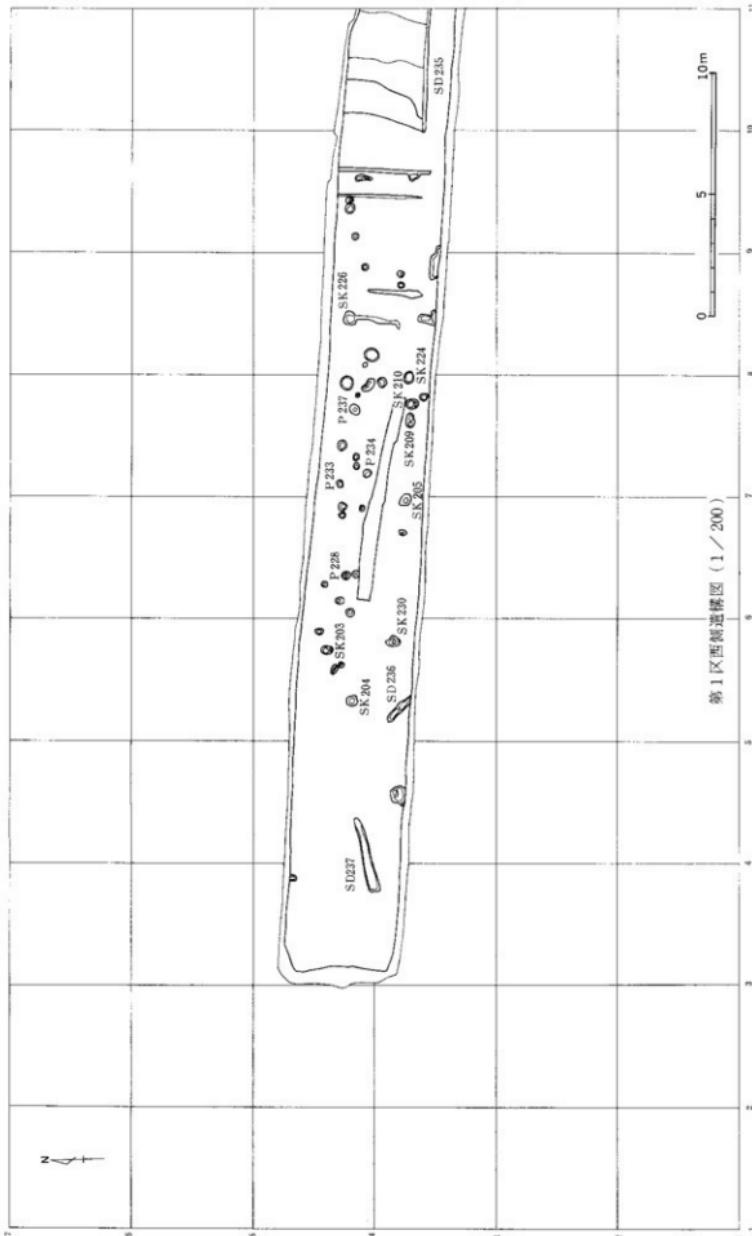
第2区溝S D 136～138 実測図 (1/80)



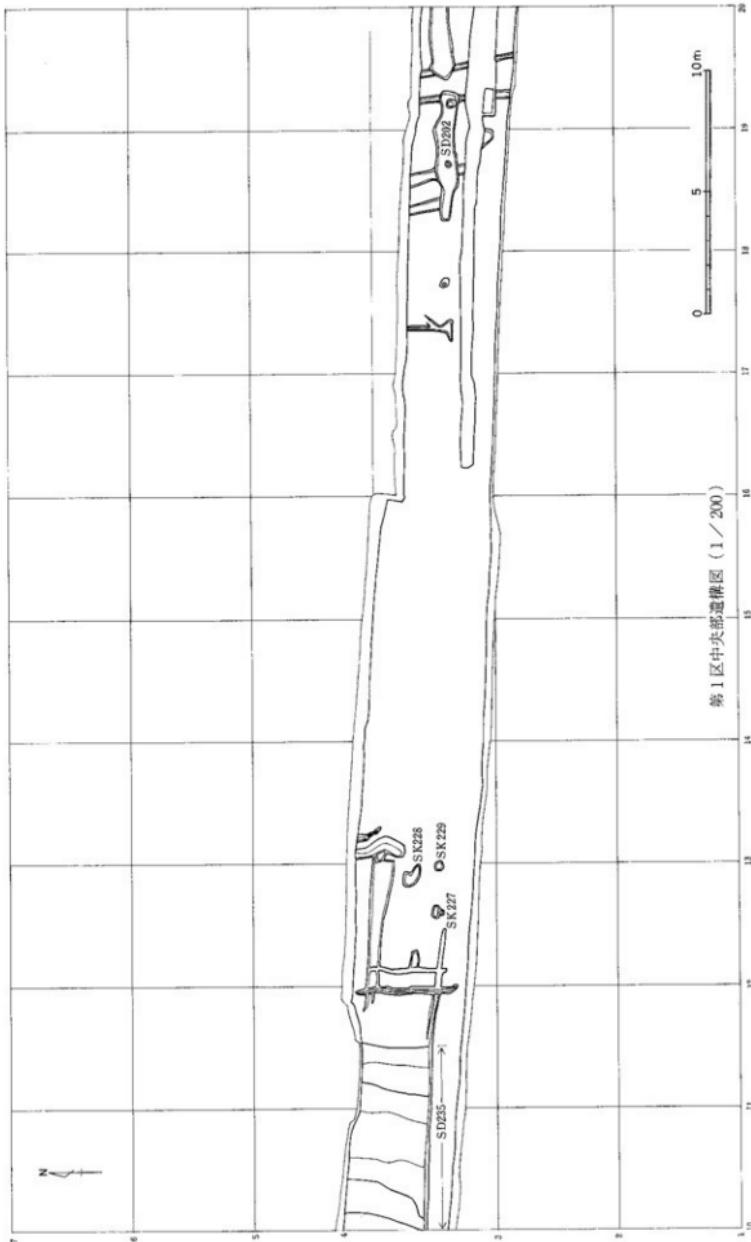
**図面一〇 遺構実測図
麻生谷遺跡平成七年度調査地区**



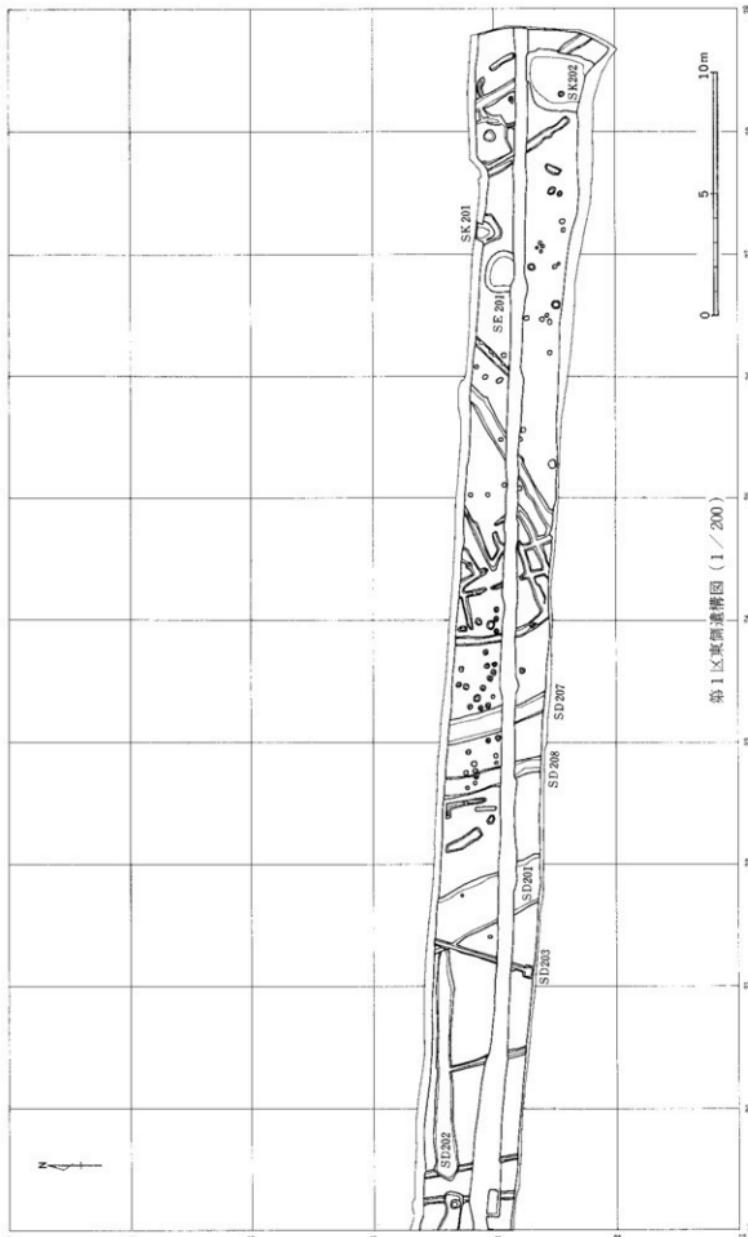
図面一一 遺構実測図 麻生谷遺跡平成七年度調査地区

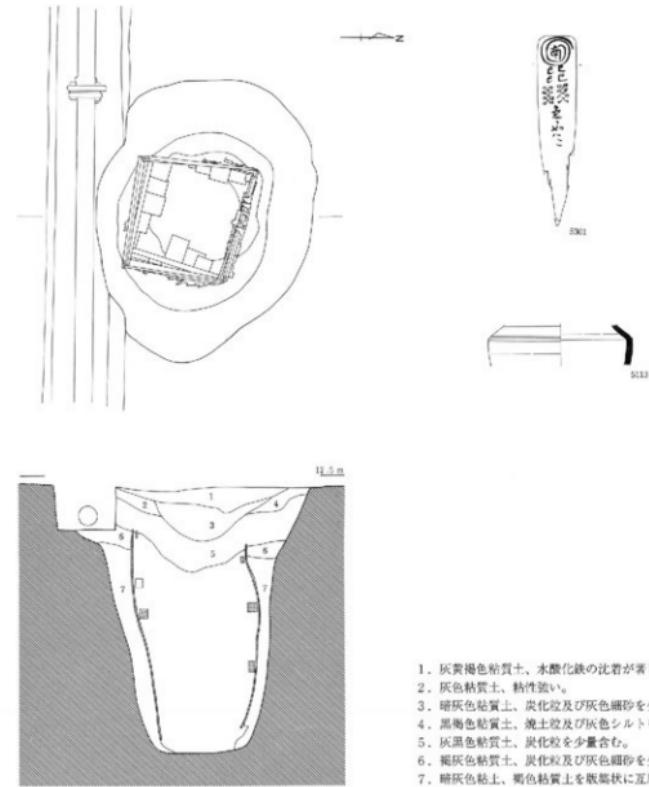


図一一 遺溝実測図 麻生谷遺跡平成七年度調査地区

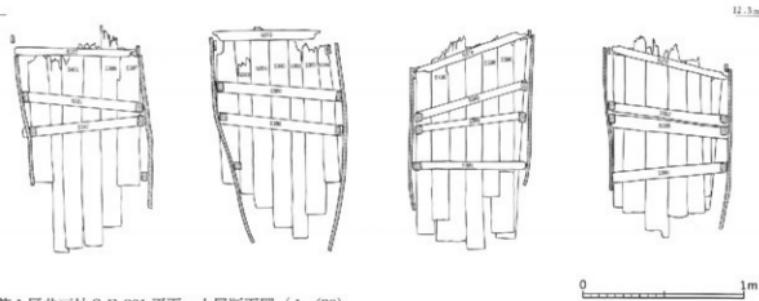


図面一一三 遺溝実測図
麻生谷遺跡平成七年度調査地区



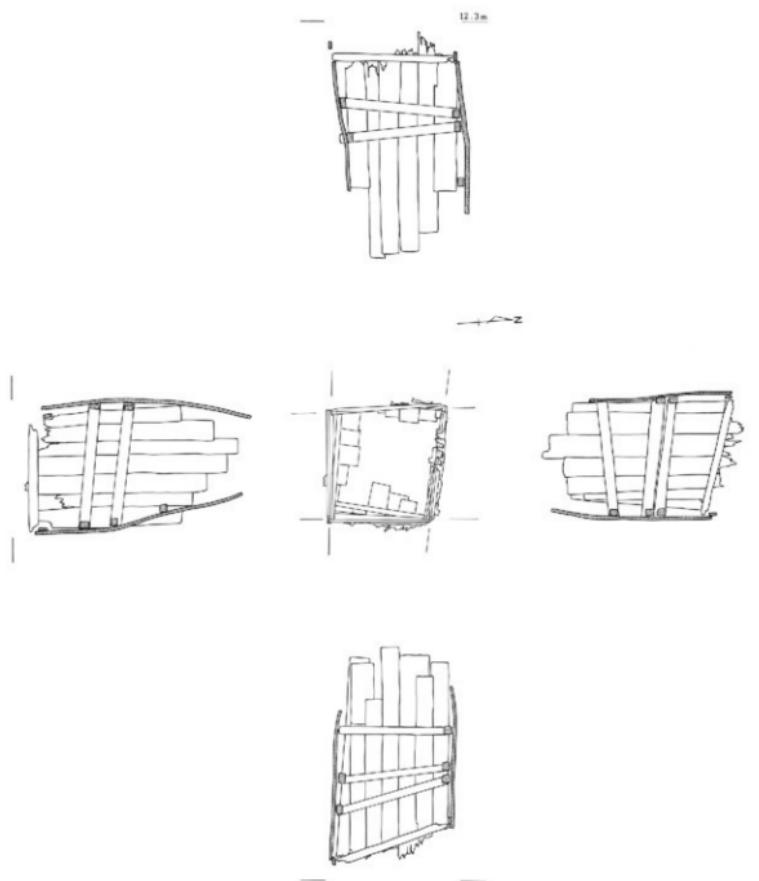


1. 灰黄褐色粘質土、水酸化鉄の沈着が著しい。
2. 灰色粘質土、熱性強い。
3. 暗灰色粘質土、炭化粒及び灰色細砂を少量含む。
4. 黒褐色粘質土、焼土粒及び灰色シルトを少量含む。
5. 灰黑色粘質土、炭化粒を少量含む。
6. 瓶灰色粘質土、炭化粒及び灰色細砂を少量含む。
7. 灰灰色粘土、褐色粘質土を版状に互層に含む。



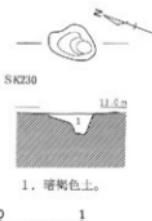
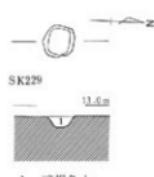
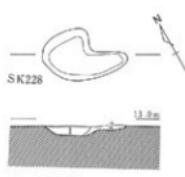
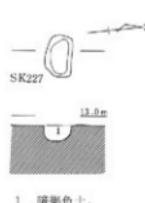
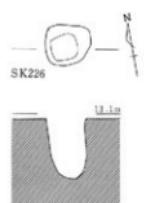
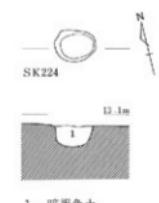
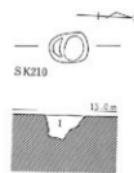
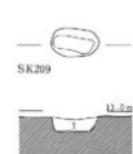
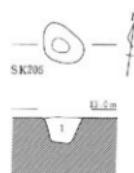
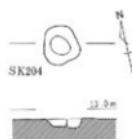
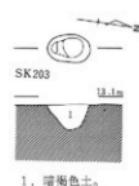
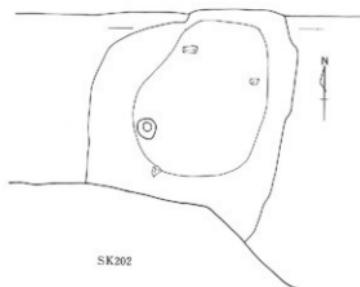
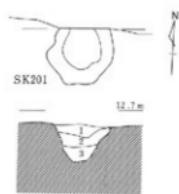
第1区井戸址 S E 201 平面・土層断面図 (1/30)

0 1m



第1区井戸址 S E 201 井戸側展開図 (1/30)

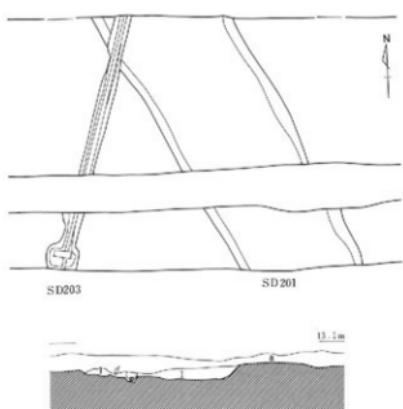
0 1m



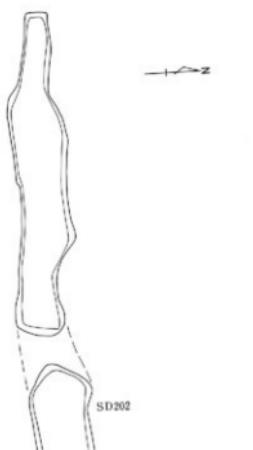
0 1 2m

第1区土坑SK201～205・209・210・226～230実測図(1/60)

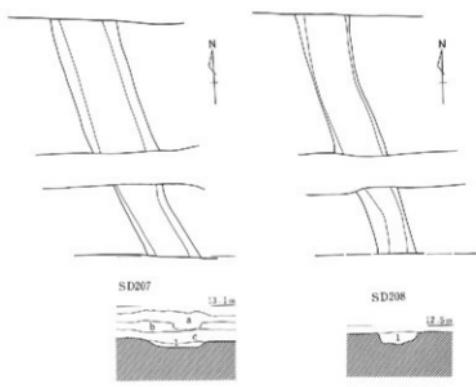
図面一一七 遺構実測図 麻生谷遺跡平成七年度調査地区



a. 褐色シルト。
1. 灰褐色シルト。



1. 灰褐色土。



SD207
a. 褐色土。
b. 灰褐色シルト。
c. 緑色シルト。
1. 灰褐色シルト。

SD208
1. 灰褐色シルト。

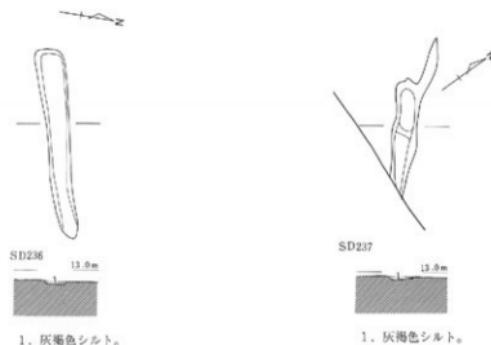
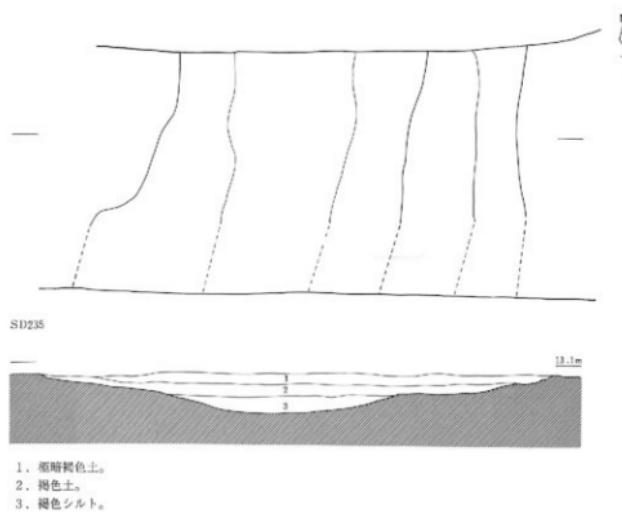
0 1 2m

第1区溝 S D 201 ~ 203 · 207 · 208 実測図 (1 / 80)

図面
一一八

遺溝実測図

麻生谷遺跡平成七年度調査地区



第1区溝 S D 235 ~ 237 実測図 (1/80)

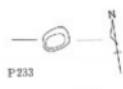




P228



1. 褐褐色土。



P233



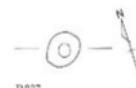
1. 褐褐色土。



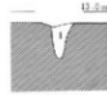
P234



1. 褐褐色土。



P237

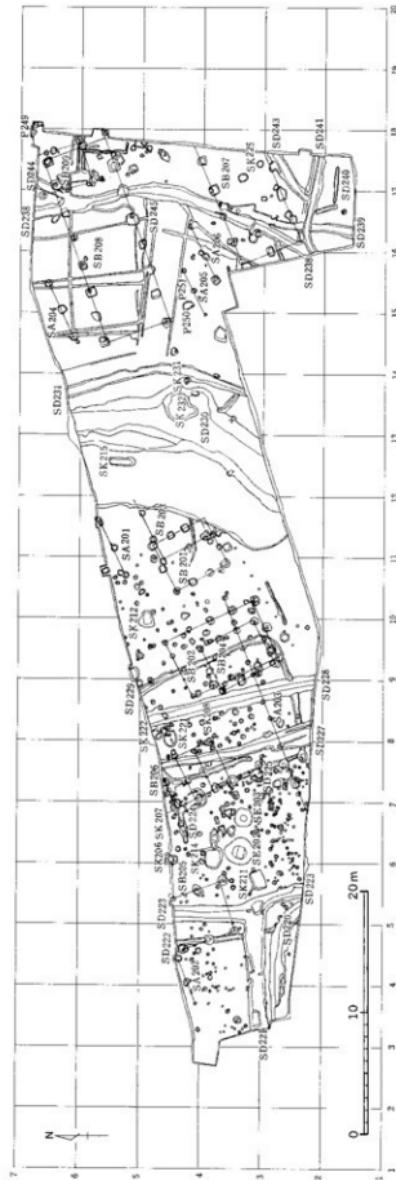


1. 褐褐色土。

第1区ピット P 228・233・234・237 実測図 (1/60)

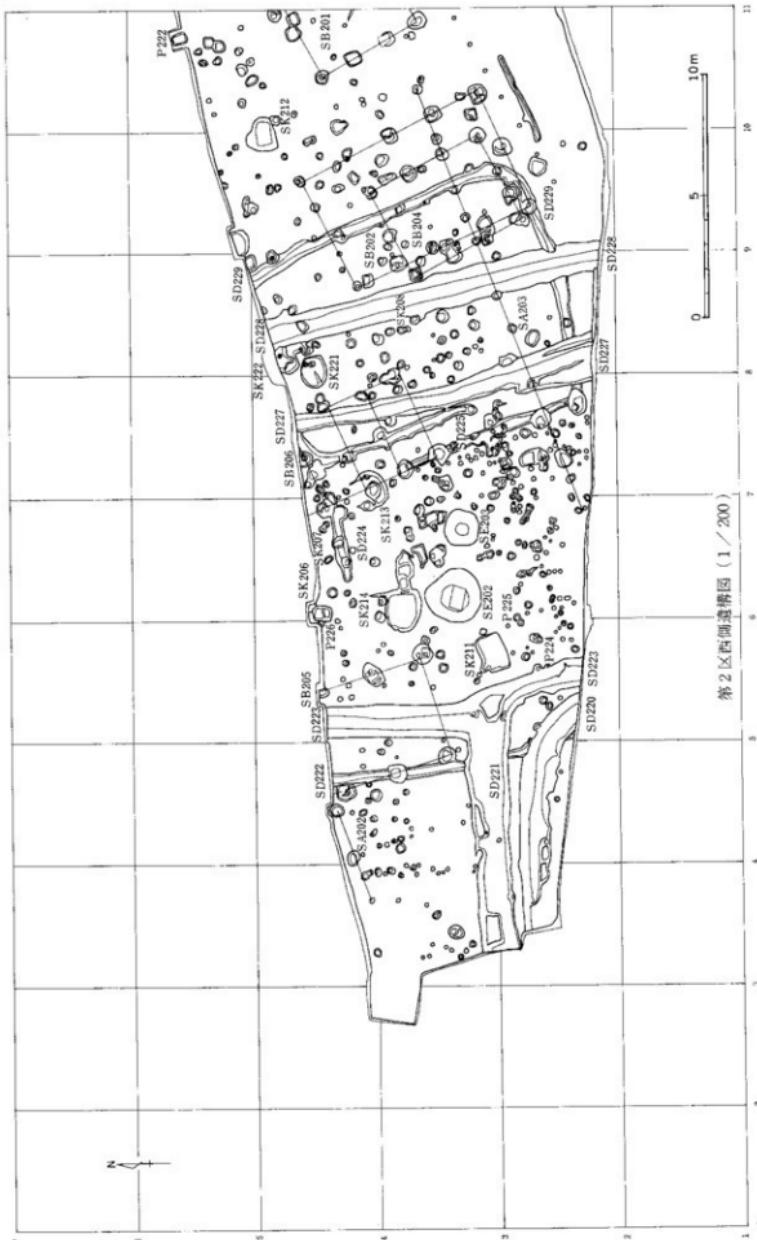


図面二二〇 遺溝実測図
麻生谷遺跡平成七年度調査地区

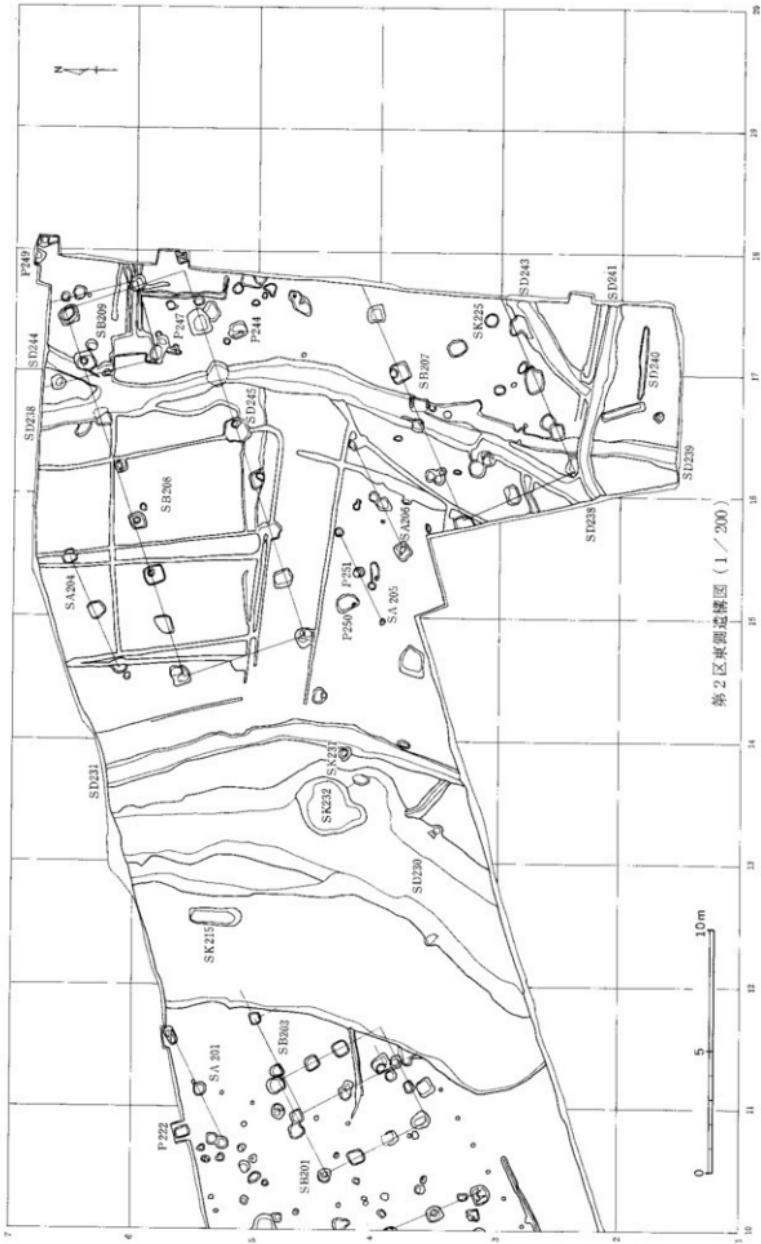


第2区遺構圖(1/400)

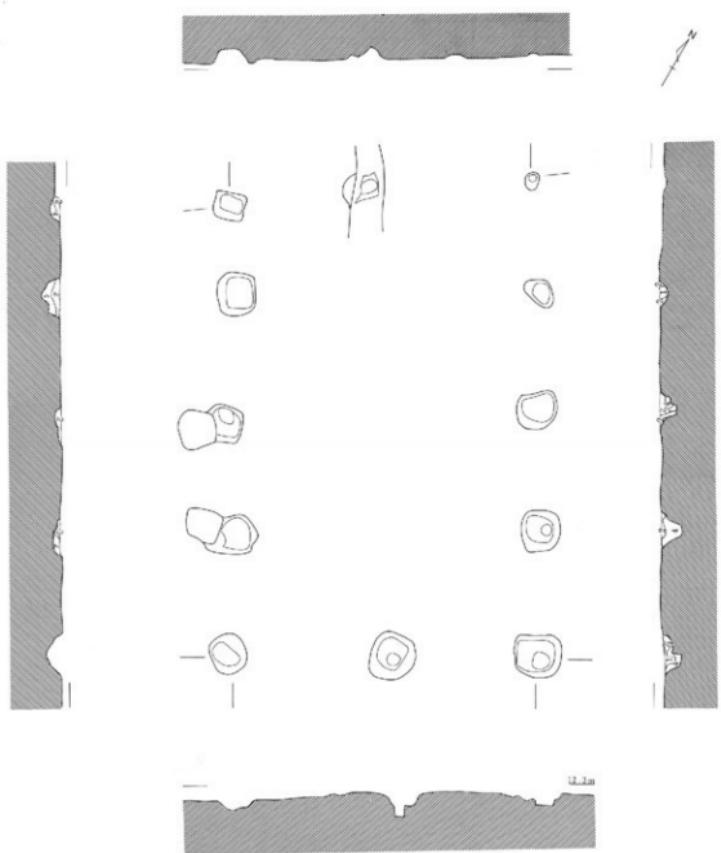
図面一一 遺溝実測図 麻生谷遺跡平成七年度調査地区



図面二二二 遺溝実測図 麻生谷遺跡平成七年度調査地区



圖面一二三 遺構実測図 麻生谷遺跡平成七年度調査地区

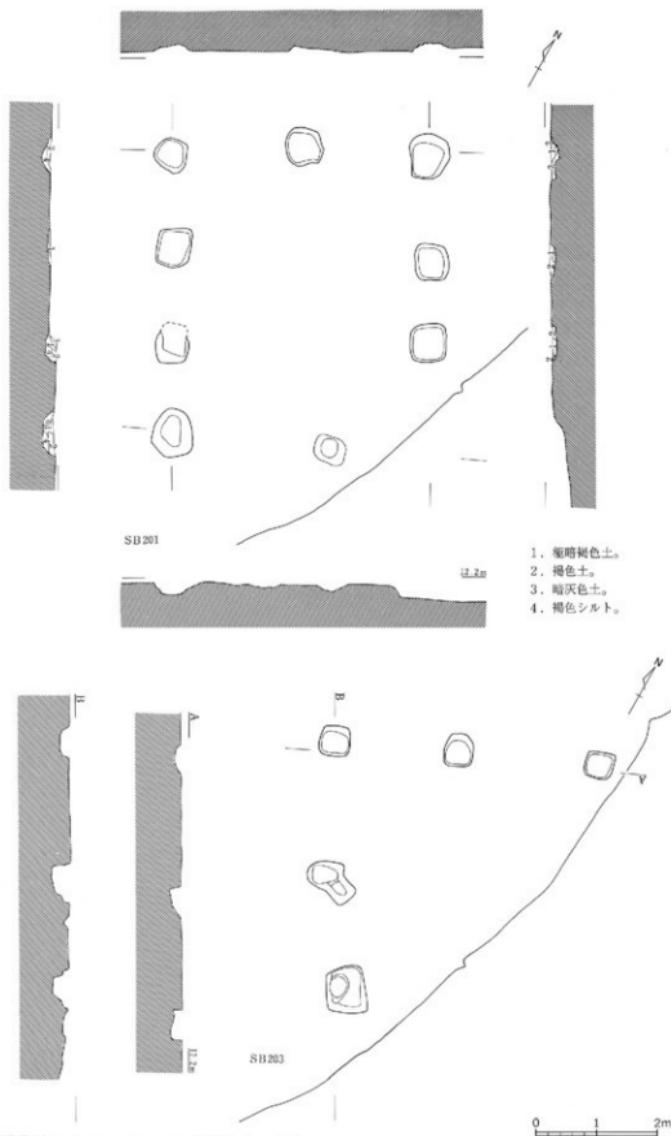


1. 暗褐色土。
2. 黄色土、褐色シルトブロック混じり。
3. 墓灰色土。
4. 黄色シルト。

図面一二四

遺溝実測図

麻生谷遺跡平成七年度調査地区

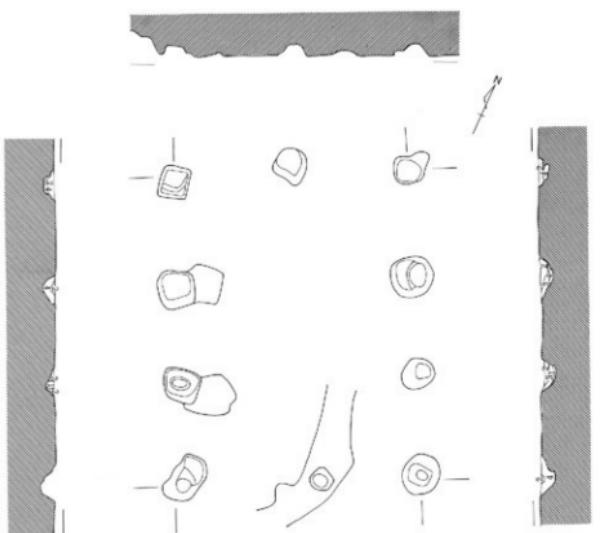


第2区据立柱建物址 S B 201・S B 203 実測図 (1/80)

図一二五

遺溝実測図

麻生谷遺跡平成七年度調査地区



SB204

1. 桂暗褐色土。
2. 褐色土。
3. 暗灰色土。
4. 暗灰色シルト。



1. 桂暗褐色土。
2. 褐色土。
3. 暗灰色土。

SB209

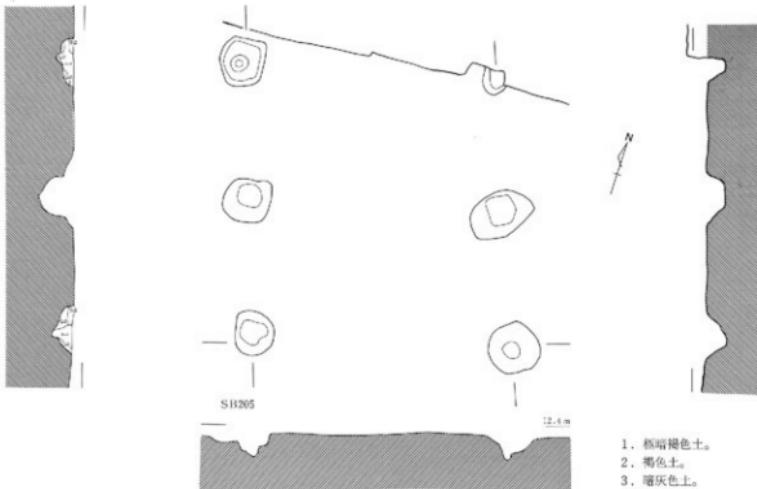
0 1 2m

第2区握立柱建物址 S B 204・S B 209 実測図 (1/80)

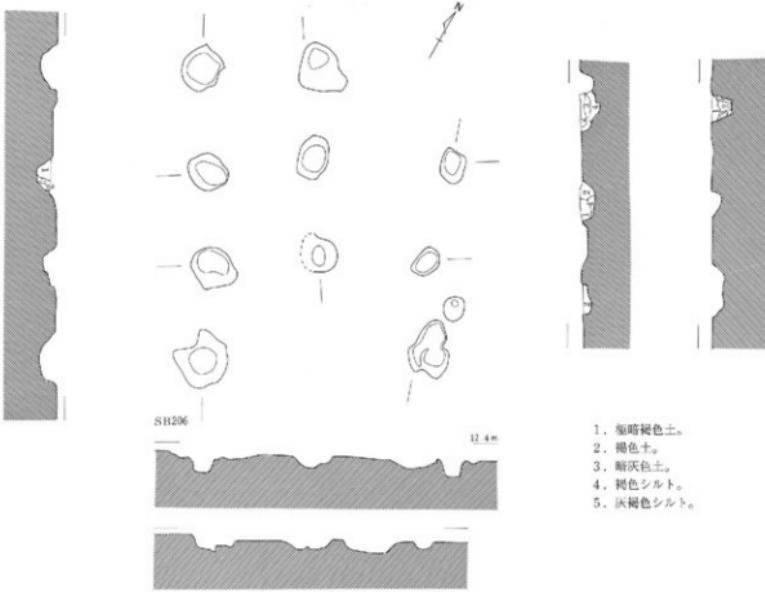
圖一二六

遺溝実測図

麻生谷遺跡平成七年度調査地区



1. 深暗褐色土。
2. 黄色土。
3. 暗灰色土。

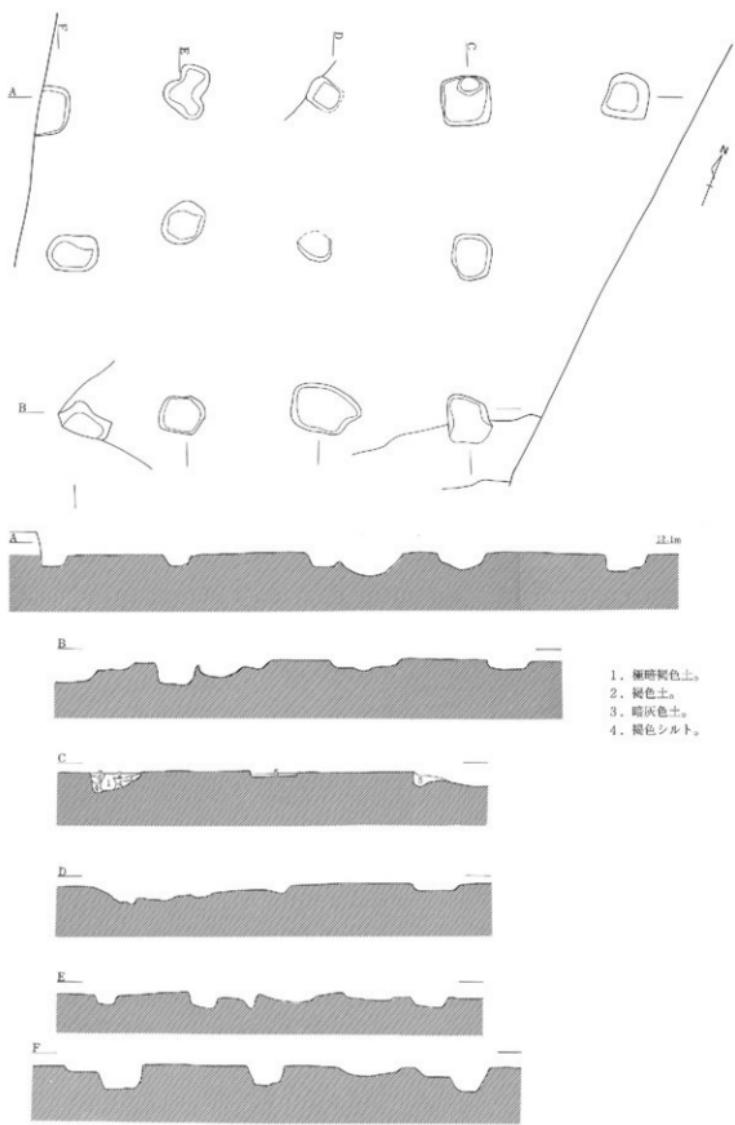


1. 深暗褐色土。
2. 黄色土。
3. 暗灰色土。
4. 黄色シルト。
5. 灰褐色シルト。

第2区据立柱建物址 S B 205・S B 206 実測図 (1/80)



図面二二七 遺構実測図
麻生谷遺跡平成七年度調査地区

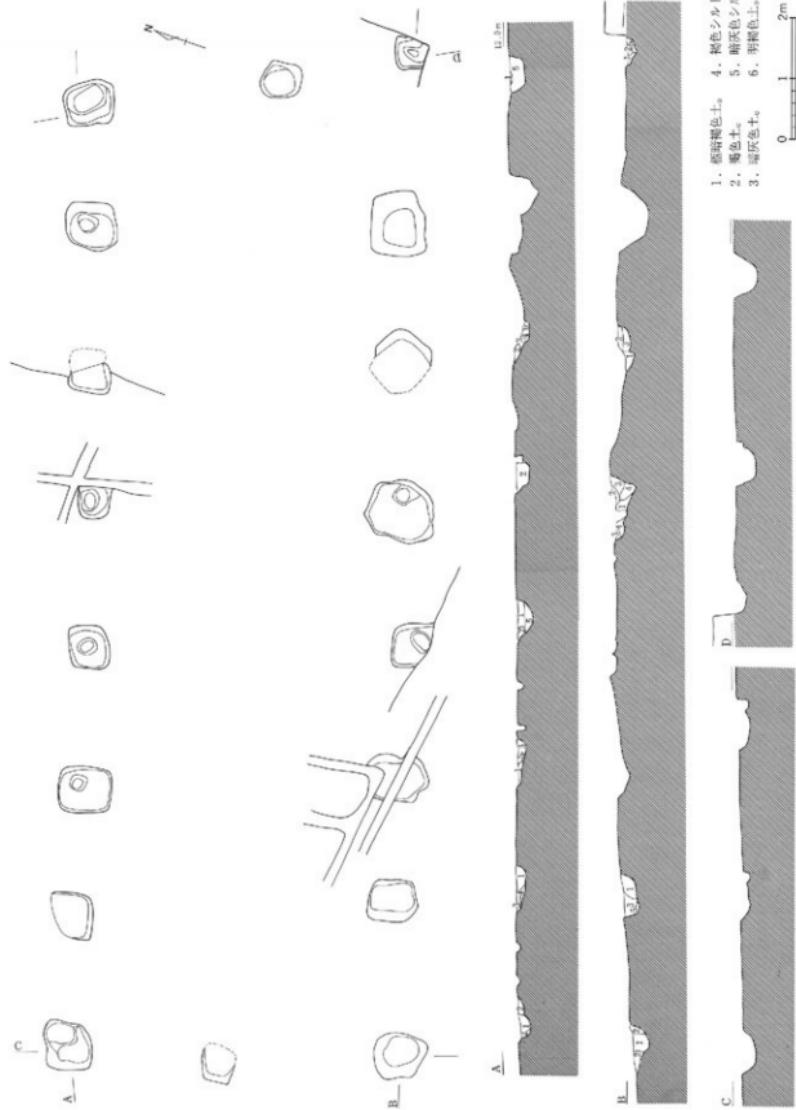


第2区掘立柱建物址 S-B-207 実測図 (1/80)

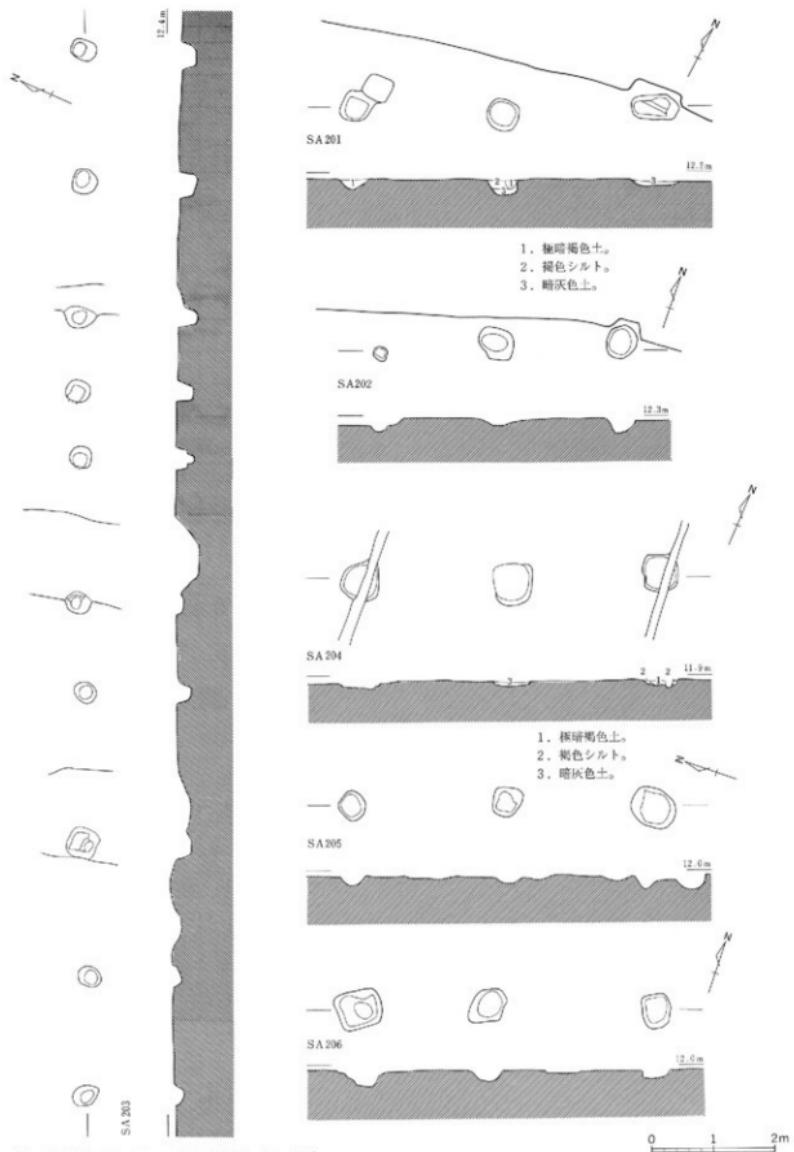
圖面二二八

遺溝実測図

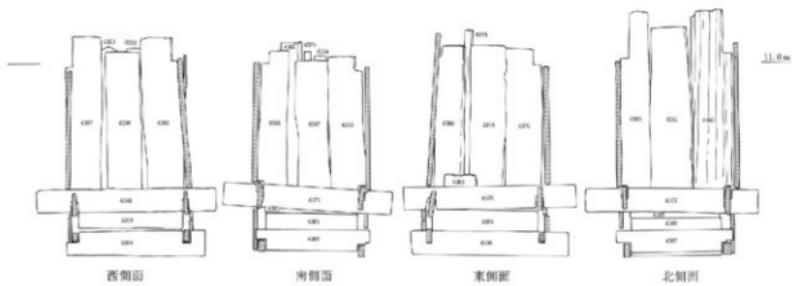
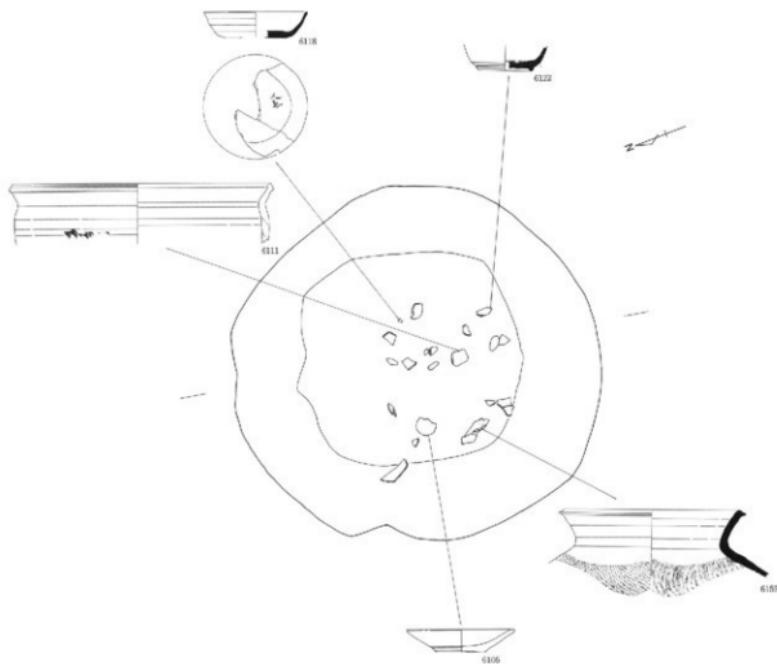
麻生谷遺跡平成七年度調査地区



第2区掘立柱建物址 S B 208 実測図 (1 / 80)

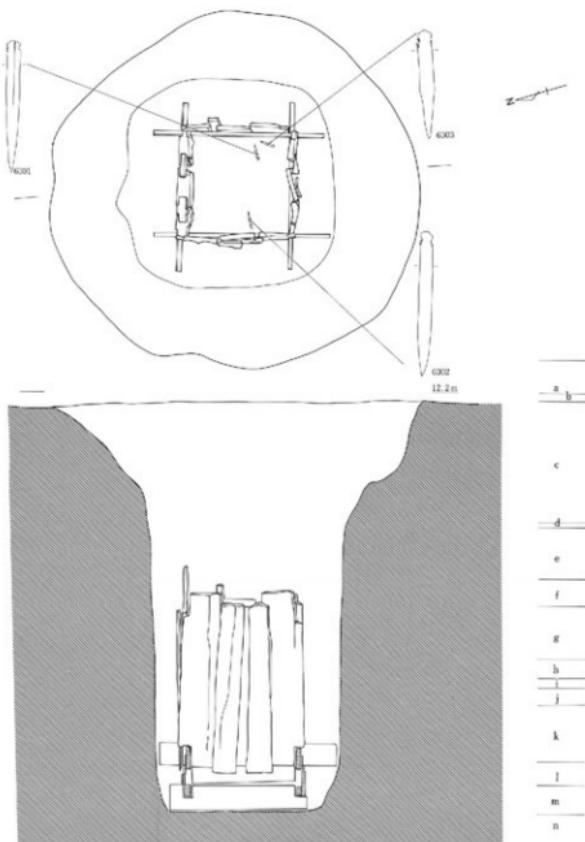


第2区横断 SA 201～206 実測図 (1/80)



第2区井戸址 S E 202 上層遺物出土状態図 (1/30)



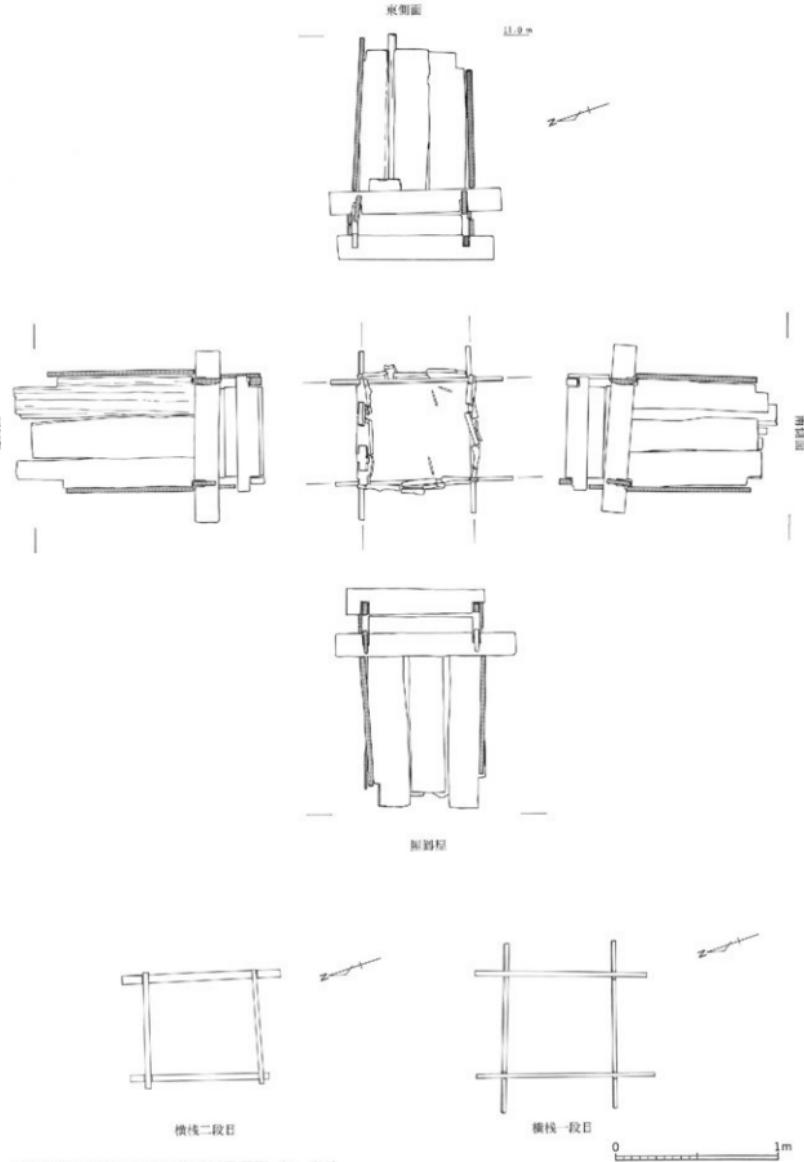


- a. 灰褐色土、本層上面は現在の地表面になる。粗耕作土。
- b. 暗灰褐色土、本層上面は水浸化鉄の沈着した近代以前の水田面になる。
- c. 揭色粘質土、褐色シルトと褐灰色細砂をラミナ状に含む。
- d. 暗灰褐色粘土。
- e. 明青灰色粘土。
- f. 暗灰褐色土。
- g. 青灰色粘土。
- h. 青灰色シルト、やや砂質に近く透水がある。
- i. 青灰色細砂、本層も透水のある透水層である。東壁のS E 203の水溜は本層に設けられている。
- j. 揭灰色シルト。
- k. 青灰色粘土。
- l. 暗青灰色粘質土、自然沈木や葉次の植物を含む。
- m. 明青灰色細砂、本層はi層よりも更に透水性の多い透水層である。本壁S E 202の水溜は本層に設けられている。
- n. 揭灰色砂礫、径5~20mmの大玉石と灰褐色粗砂を主体とする。

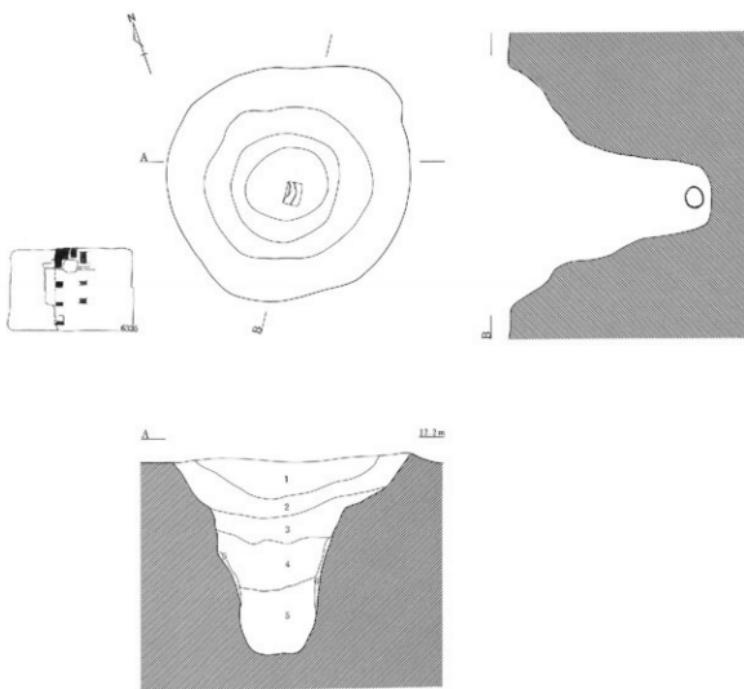
第2区井戸址 S E 202 平面・土層断面図 (1/30)



圖面一三二
遺溝実測図
麻生谷遺跡平成七年度調査地区



第2区井戸址 S E 202 井戸側展開図 (1 / 30)



1. 極暗褐色土、炭化粒を含み、やや粘性がある。
2. 暗褐色土、ややシルト質で、水酸化鉄の沈着が著しい。
3. 暗灰色粘質土、炭化粒及び灰色細粉を少量含む。
4. 黒褐色粘質土、焼土粒及び灰色シルトを少量含む。
5. 灰黑色粘質土、炭化粒を少量含む。
6. 灰白色粘土。

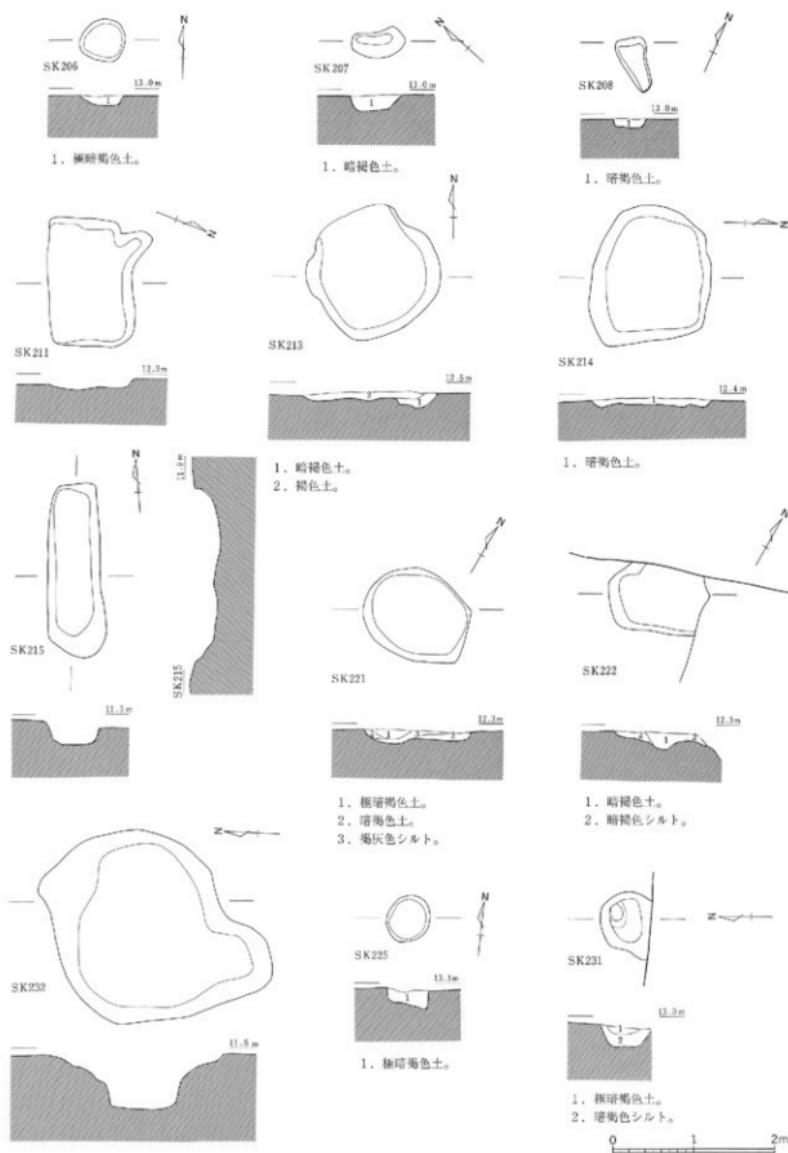
第2区井戸址 S E 203 平面・土層断面図 (1/30)



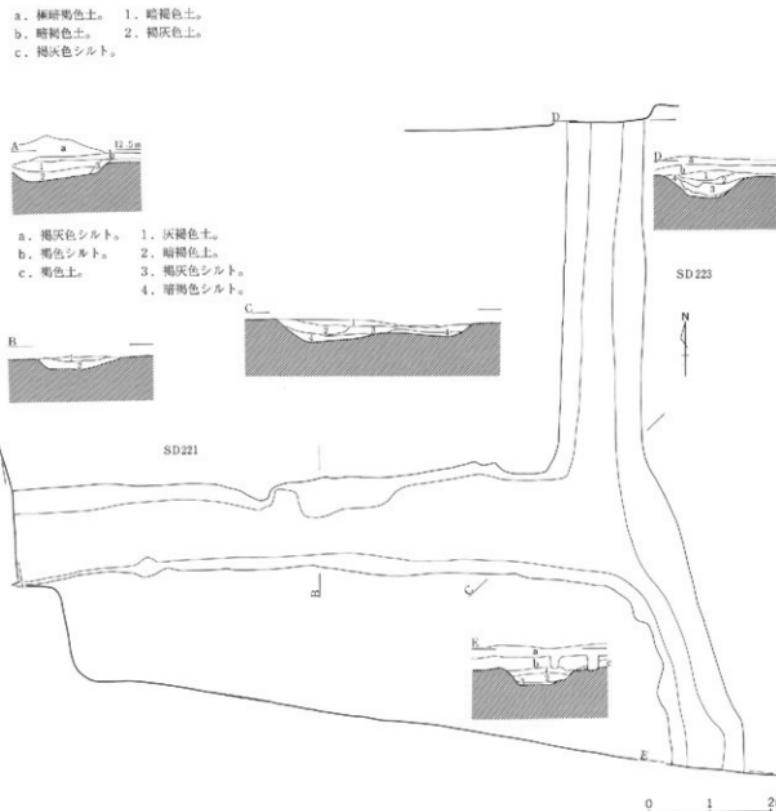
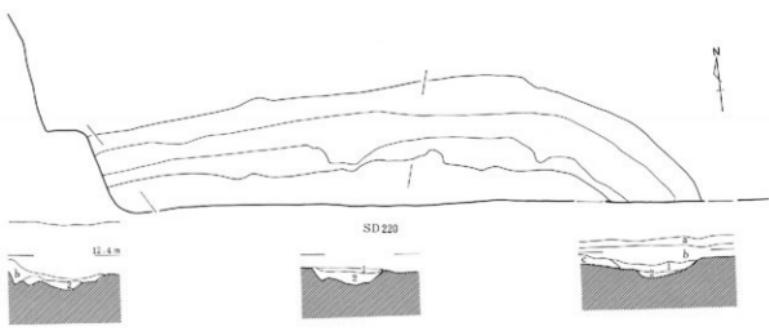
図面
一三四

遺構実測図

麻生谷遺跡平成七年度調査地区

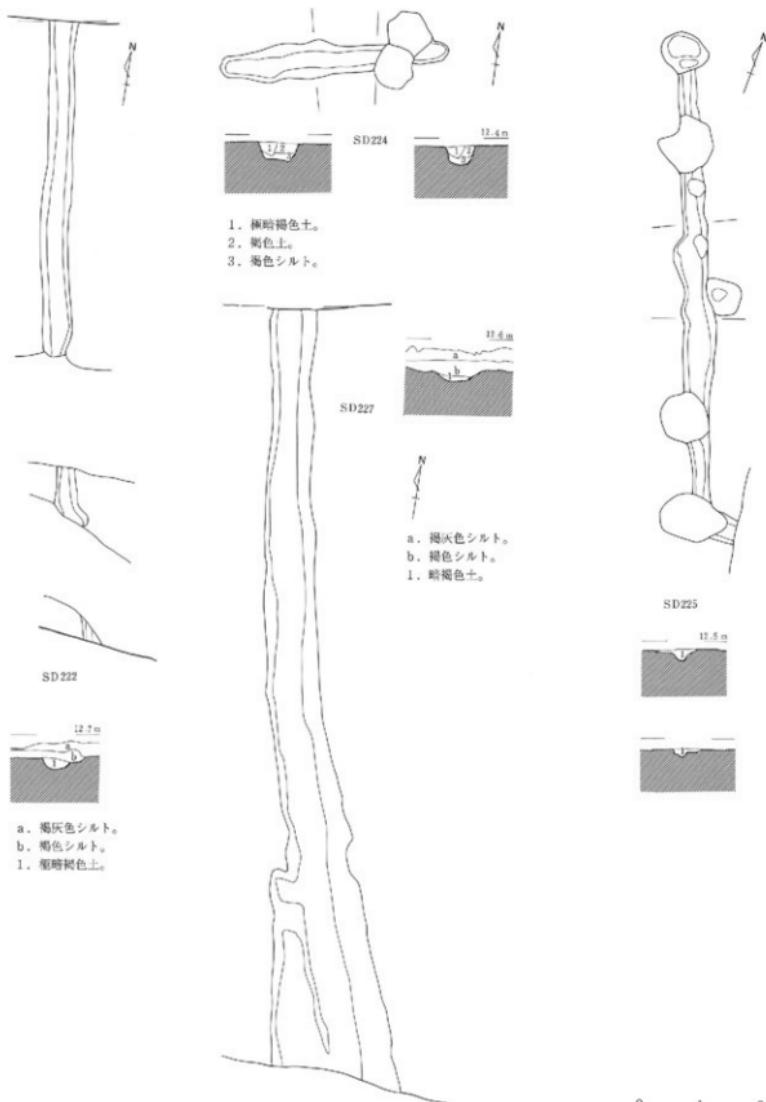


第2区土坑SK 206 ~ 208・211・213 ~ 215・221・222・225・231・232 実測図 (1 / 60)



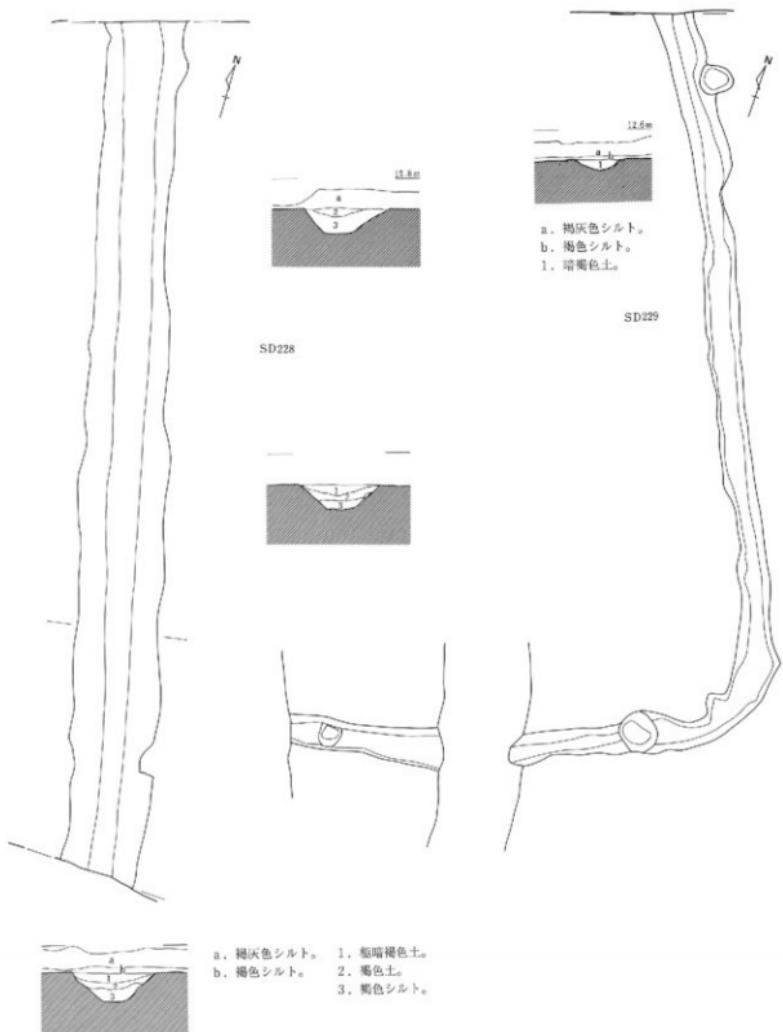
第2区溝SD 220・221・223実測図 (1/80)

図面一三六 遺溝実測図 麻生谷遺跡平成七年度調査地区



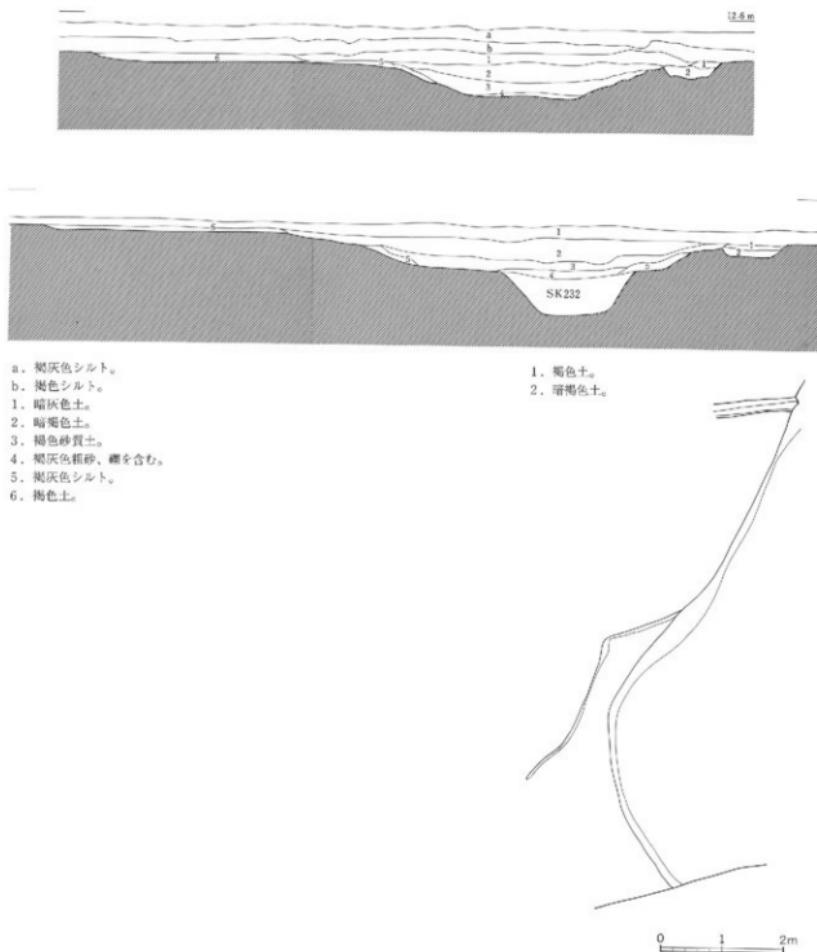
第2区溝 S D 222・224・225・227 実測図 (1/80)

0 1 2m



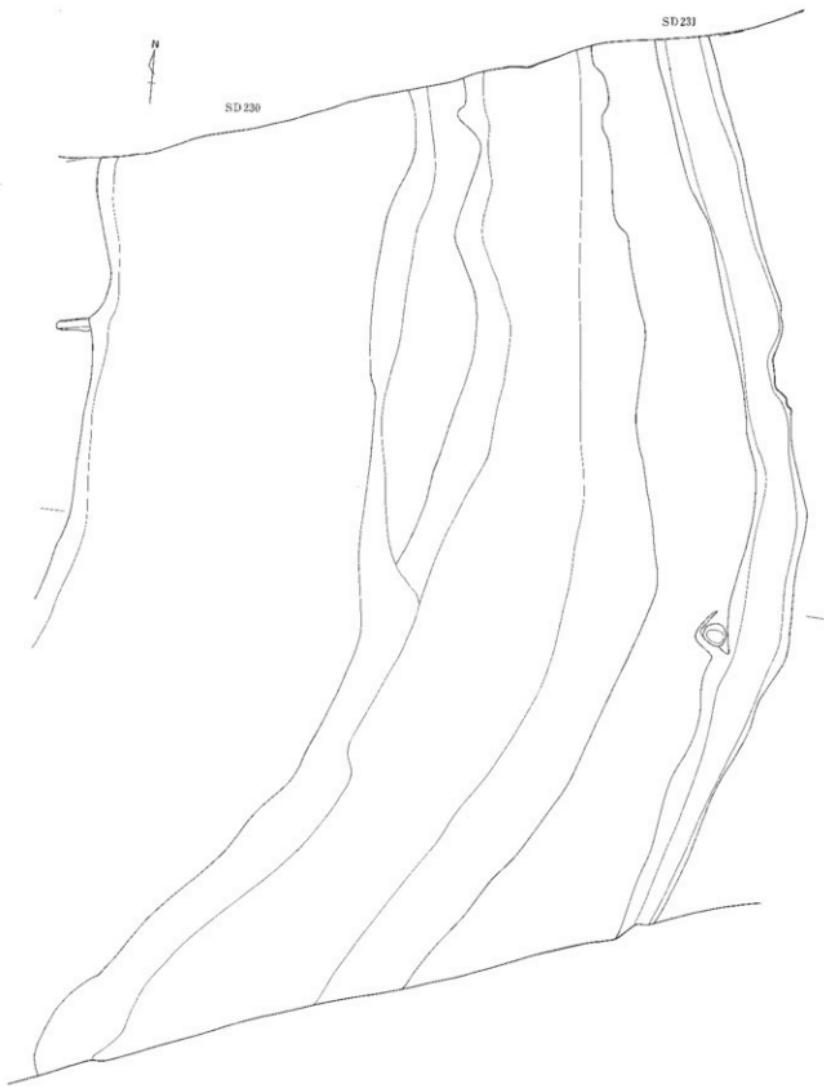
0 1 2m

第2区溝SD228・229実測図(1/80)



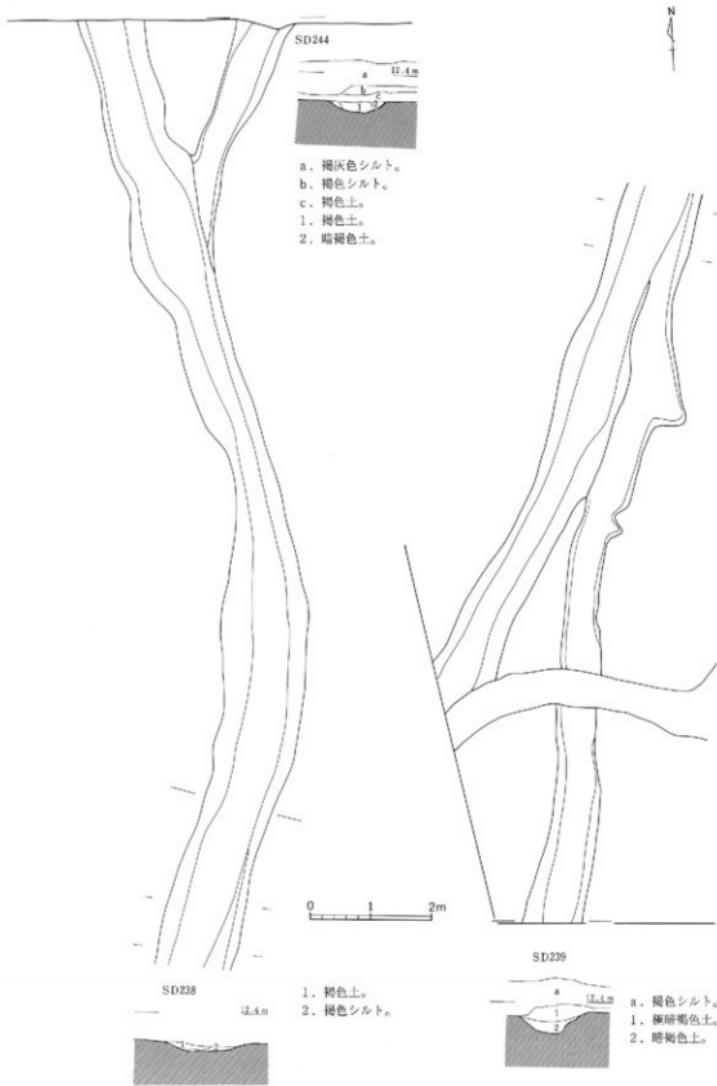
第2区溝SD 230・231実測図〔1〕(1/80)

図面一三九 遺溝実測図 麻生谷遺跡平成七年度調査地区

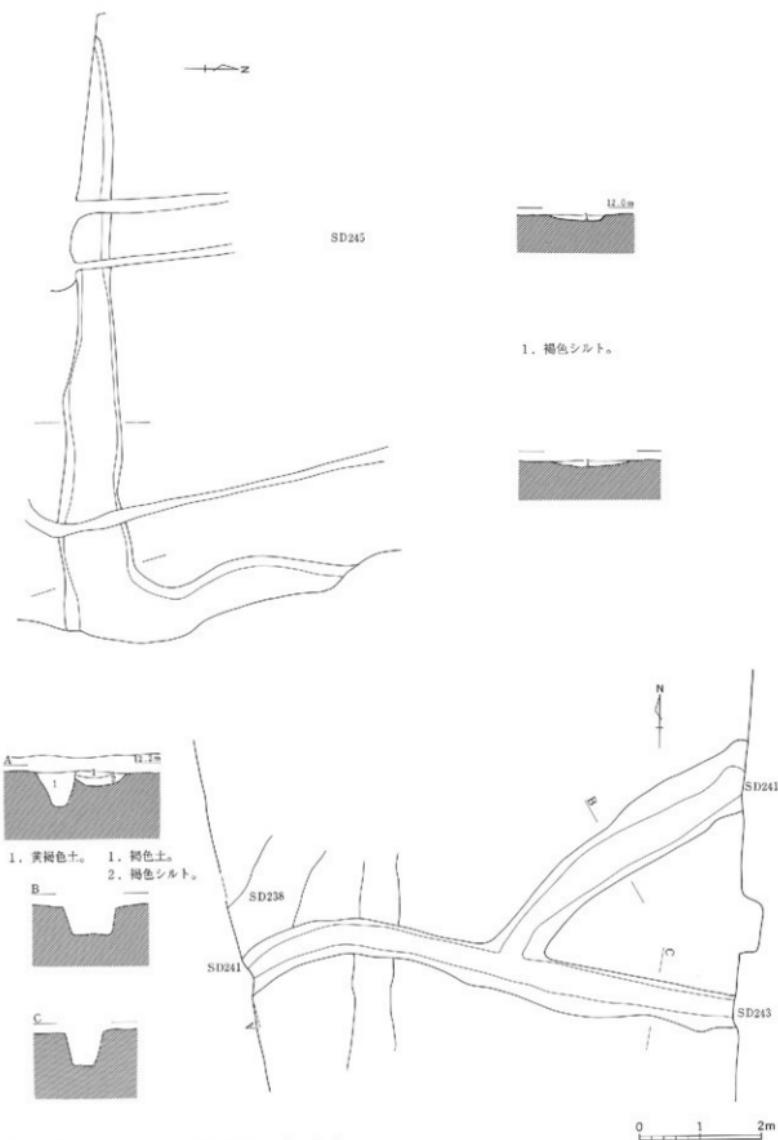


第2区溝 S D 230・231 実測図 [2] (1 / 80)

0 1 2m



第2区溝 S D 238・239・244 実測図 (1/80)



第2区溝SD 241・243・245実測図 (1/80)



1. 暗褐色土。



1. 極暗褐色土。
2. 褐色土。



1. 暗褐色土。



1. 暗褐色土。
2. 褐色土。
3. 暗褐色土。



1. 暗褐色土。



a. 錫灰色シルト。
b. 錫色シルト。
1. 暗褐色土。
2. 極暗褐色土。
3. 褐色土。



P226 12.3m

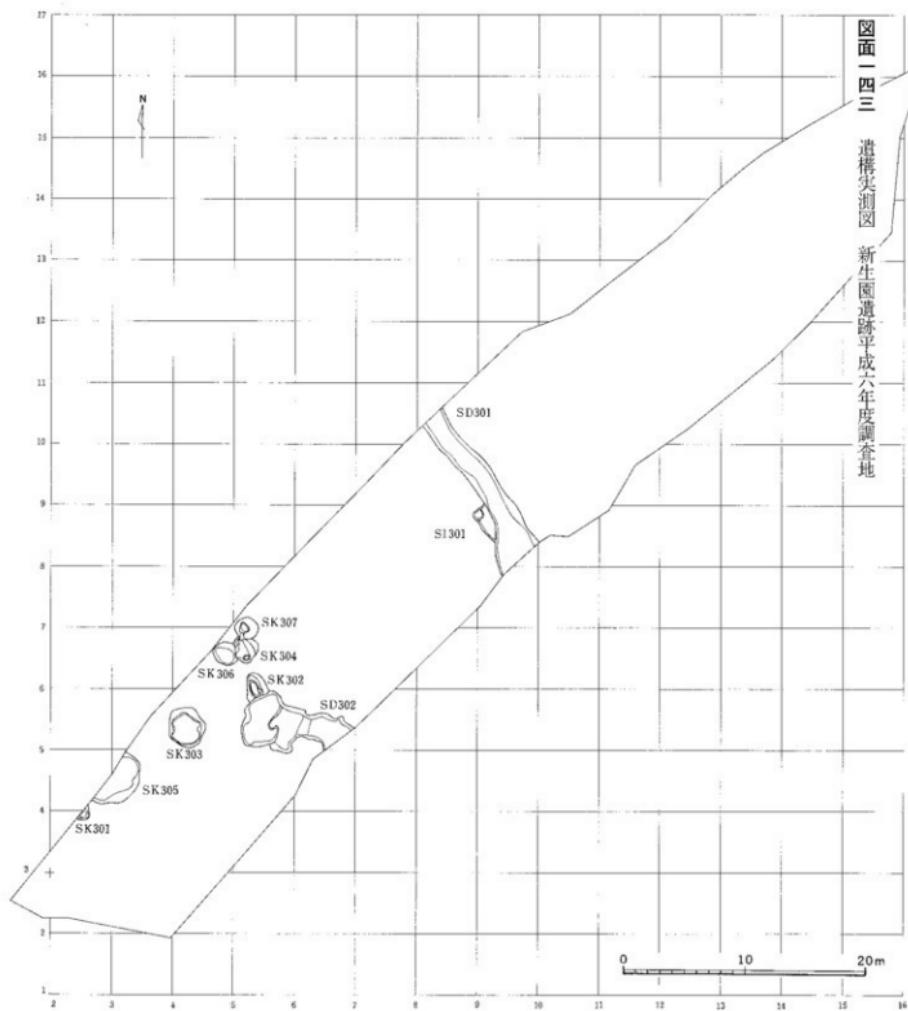


1. 極暗褐色土。 1. 褐色土。
2. 暗褐色土。



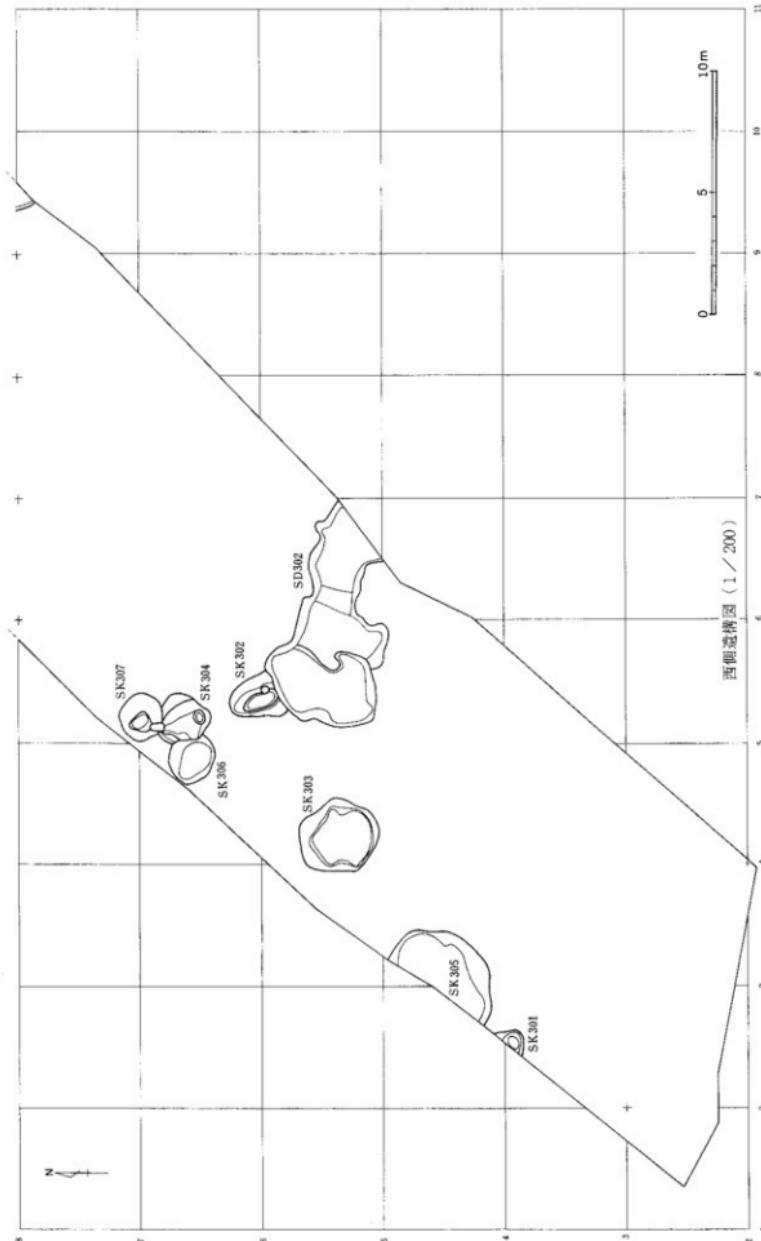
0 1 2m

第2区ピット P 222・224～226・244・247・249～251 実測図 (1/60)

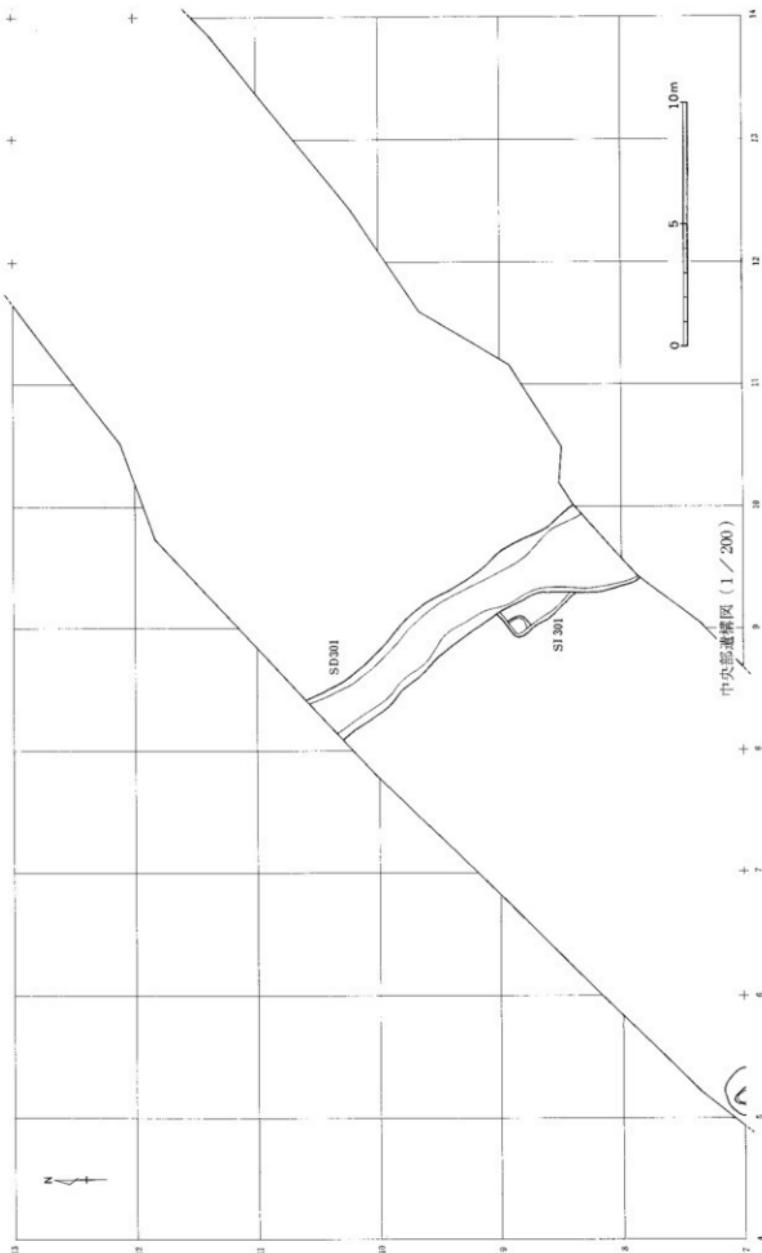


遺構図 (1/400)

図面一四四 遺構実測図 新生南遺跡平成六年度調査地区



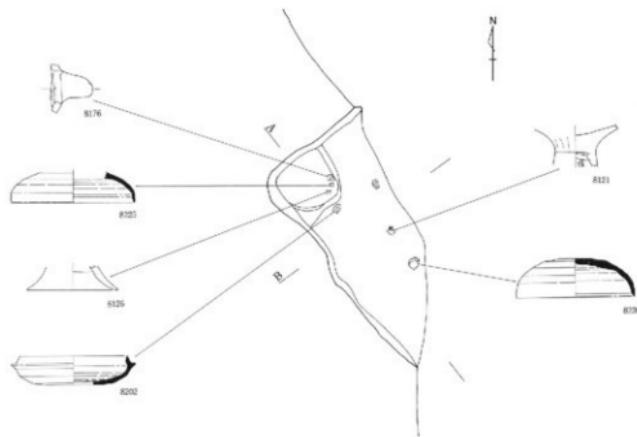
図面一四五　遺構実測図
新生園遺跡平成六年度調査地区



圖面一四六

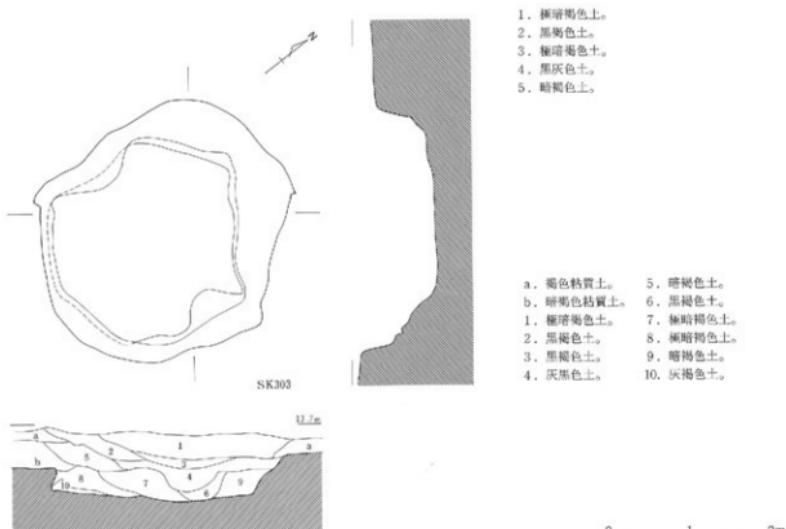
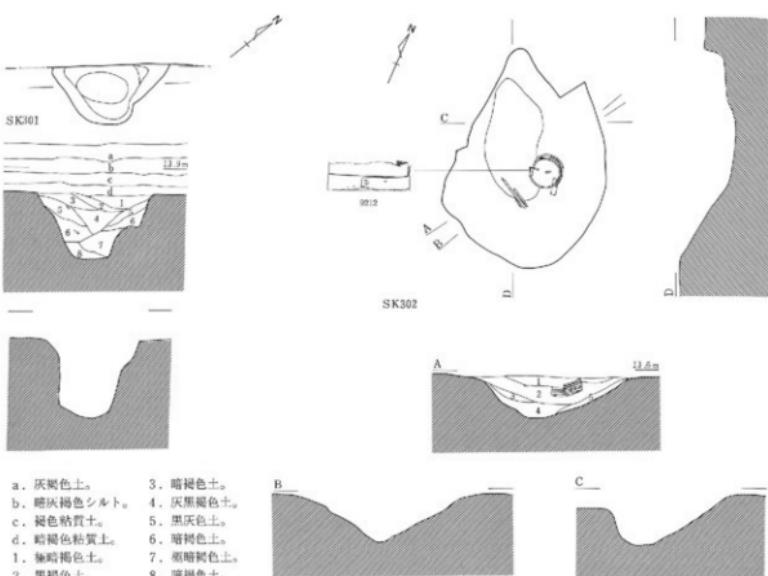
遺構実測図

新生園遺跡平成六年度調査地区



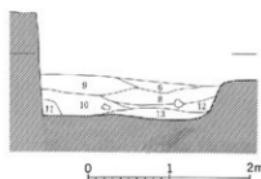
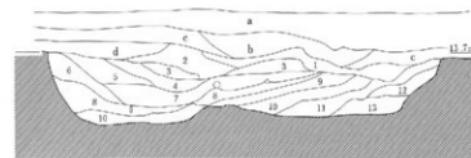
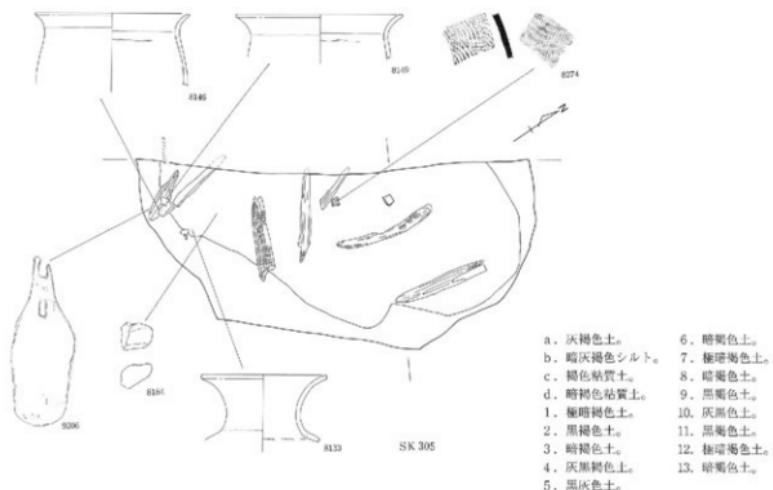
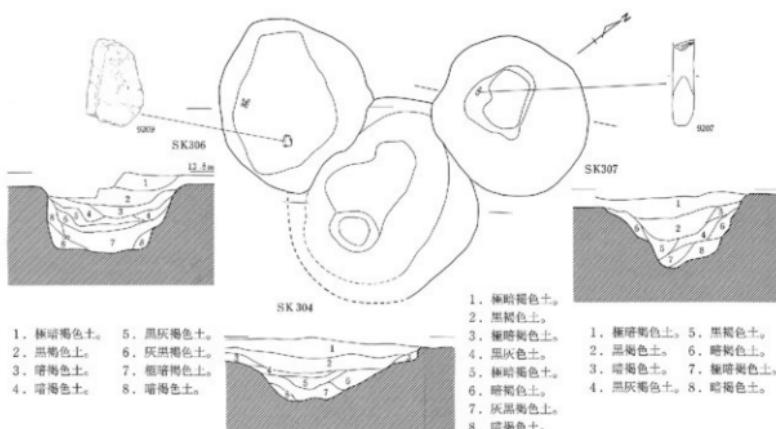
堅穴住居址 S I 301 実測図 (1/60)

0 1 2m



土坑SK301～303実測図(1/60)

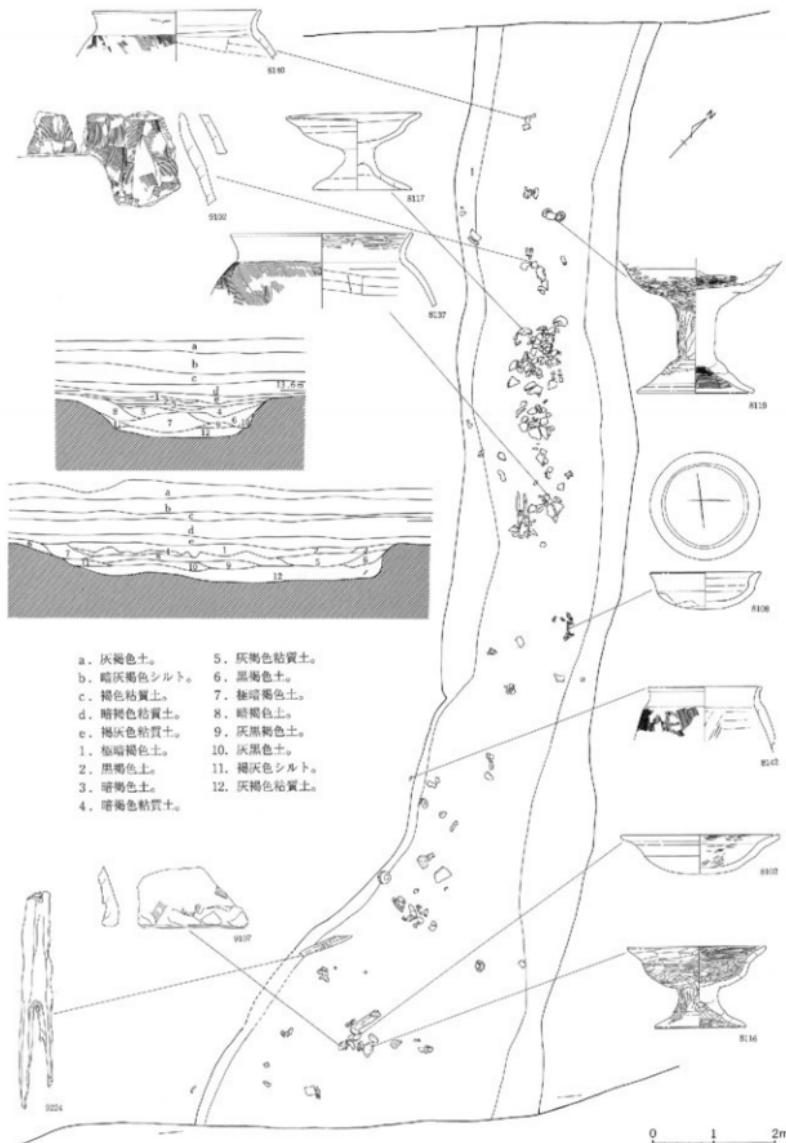
0 1 2 m



土坑 SK 304 ~ 307 実測図 (1/60)

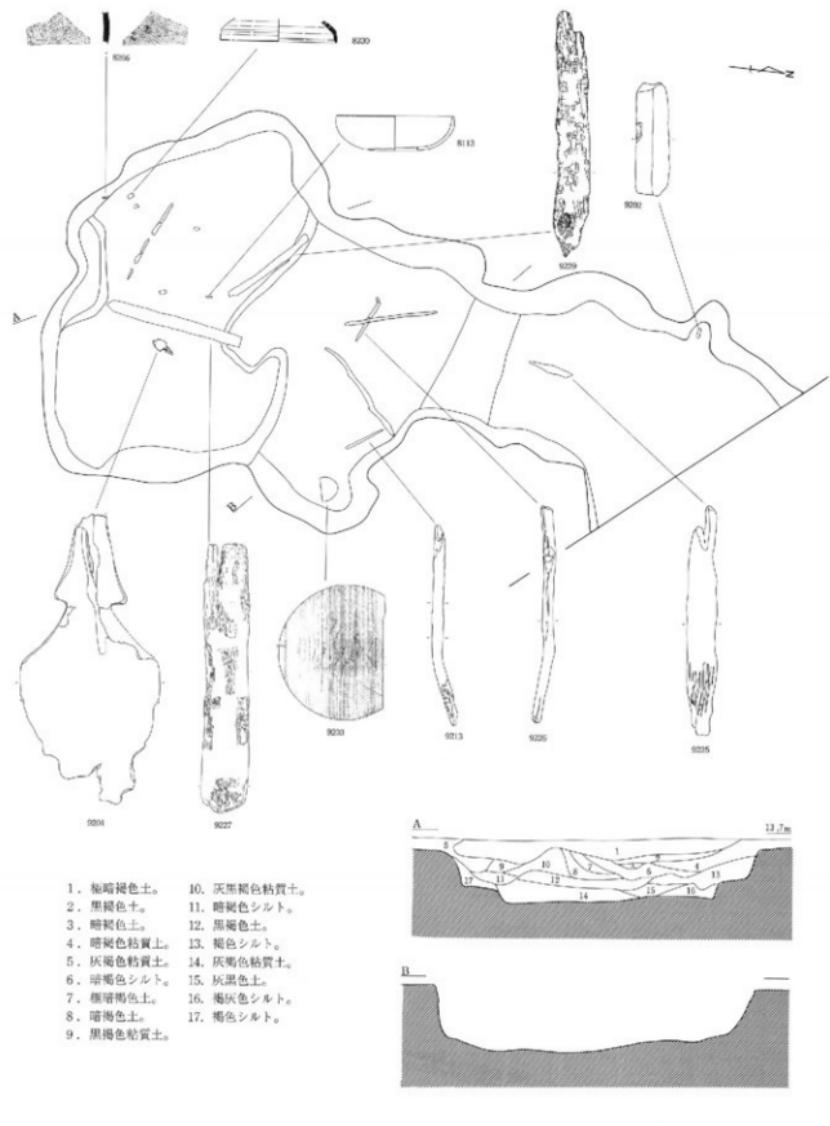
図面一四九

遺構実測図 新生二園遺跡平成六年度調査地区



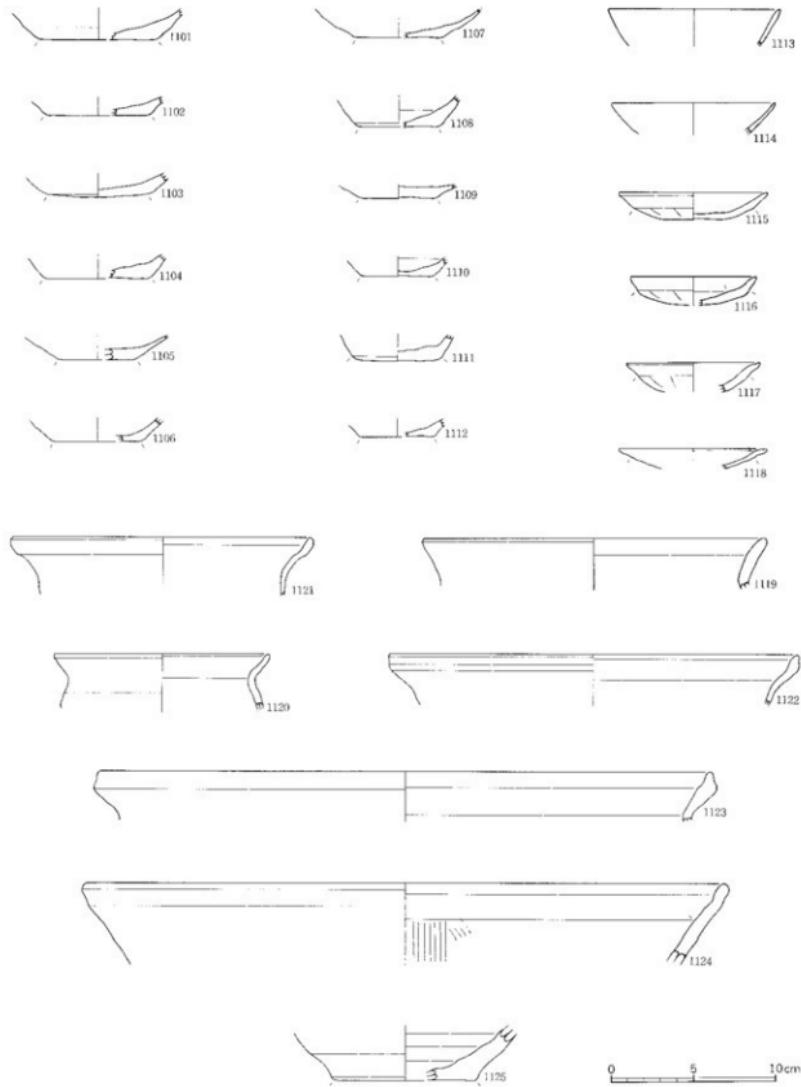
溝SD 301 実測図 (1/60)

図面一五〇 遺構実測図 新生園遺跡平成六年度調査地区



溝 S D 302 実測図 (1/60)

図面〔2〕遺物実測図



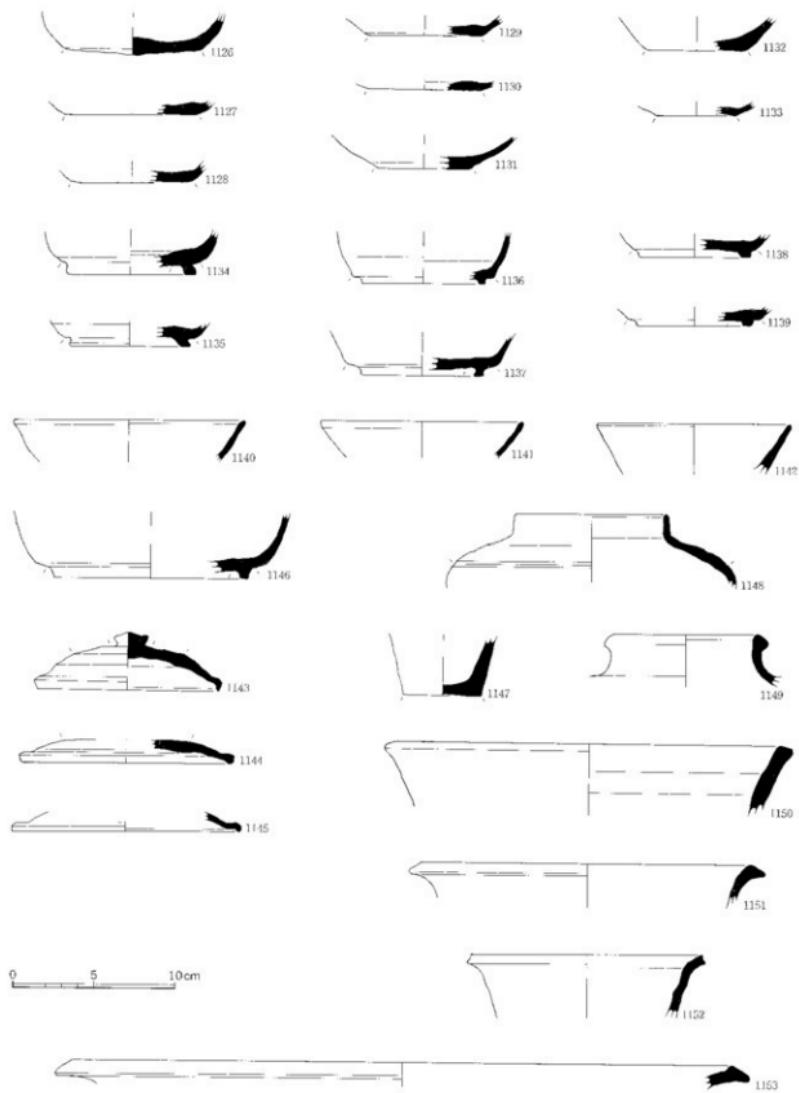
県道地区土器類 土師器；1101～1123, 瓦質土器；1124・1125

縮尺1/3

圖二〇二

遺物実測図

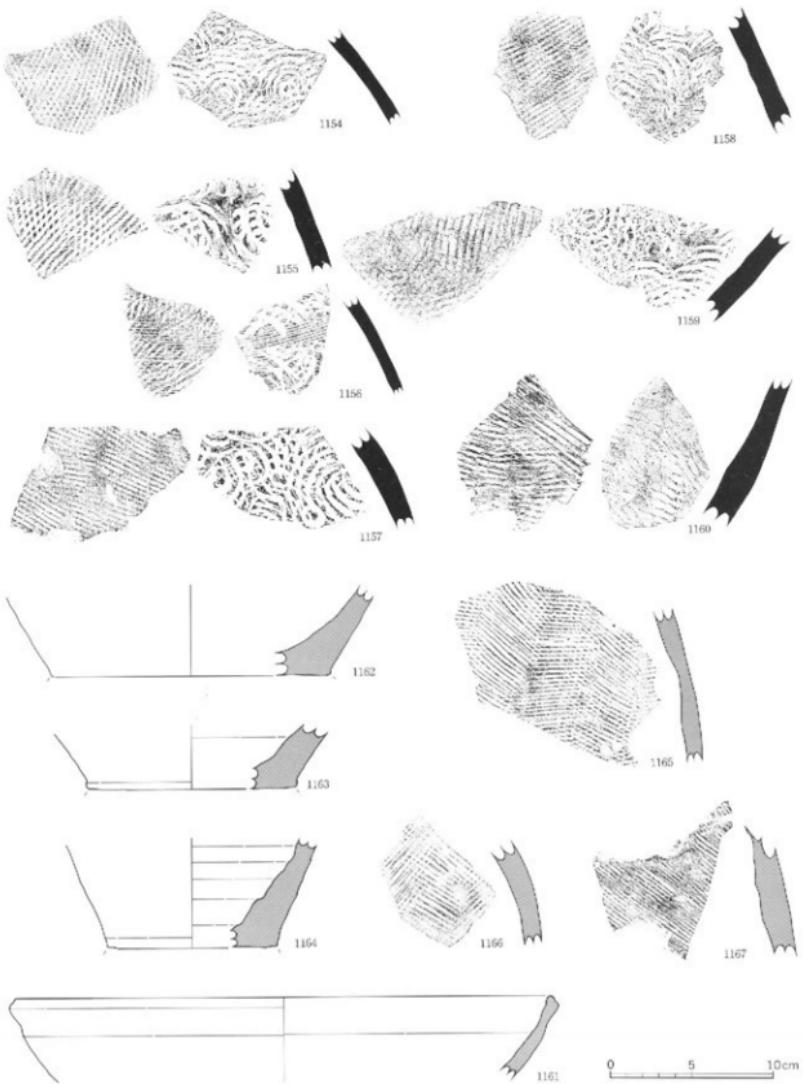
麻生谷遺跡平成四年度調査地区



県道地区上器類 須恵器；1126～1153

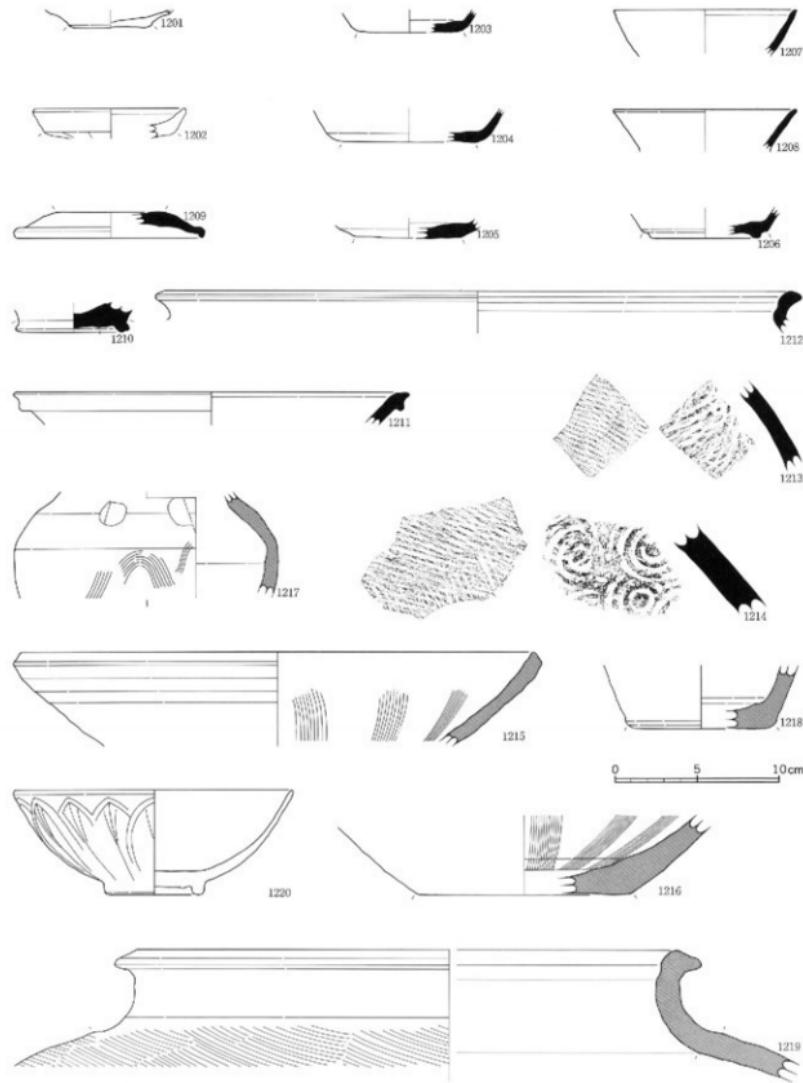
縮尺 $\frac{1}{3}$

圖二〇三 遺物実測図
麻生谷遺跡平成四年度調査地区



県道地区土器類 須恵器：1154～1160、珠洲：1161～1167

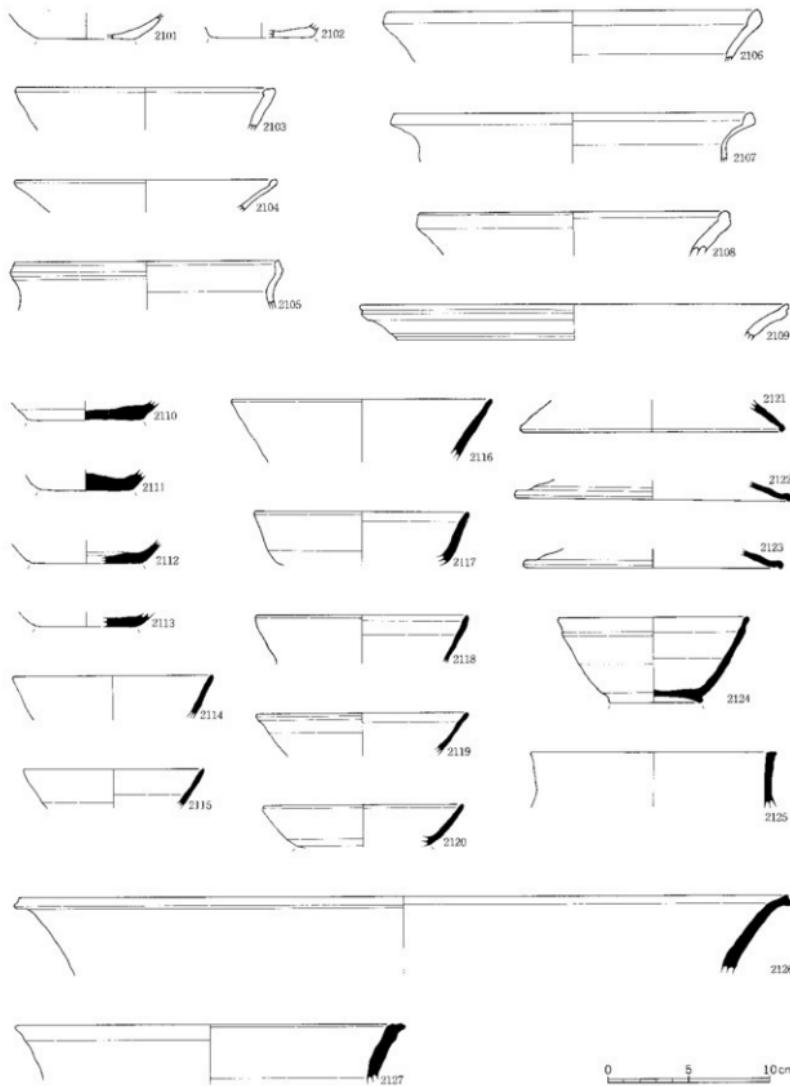
縮尺 $\frac{1}{3}$



市道地区土器類

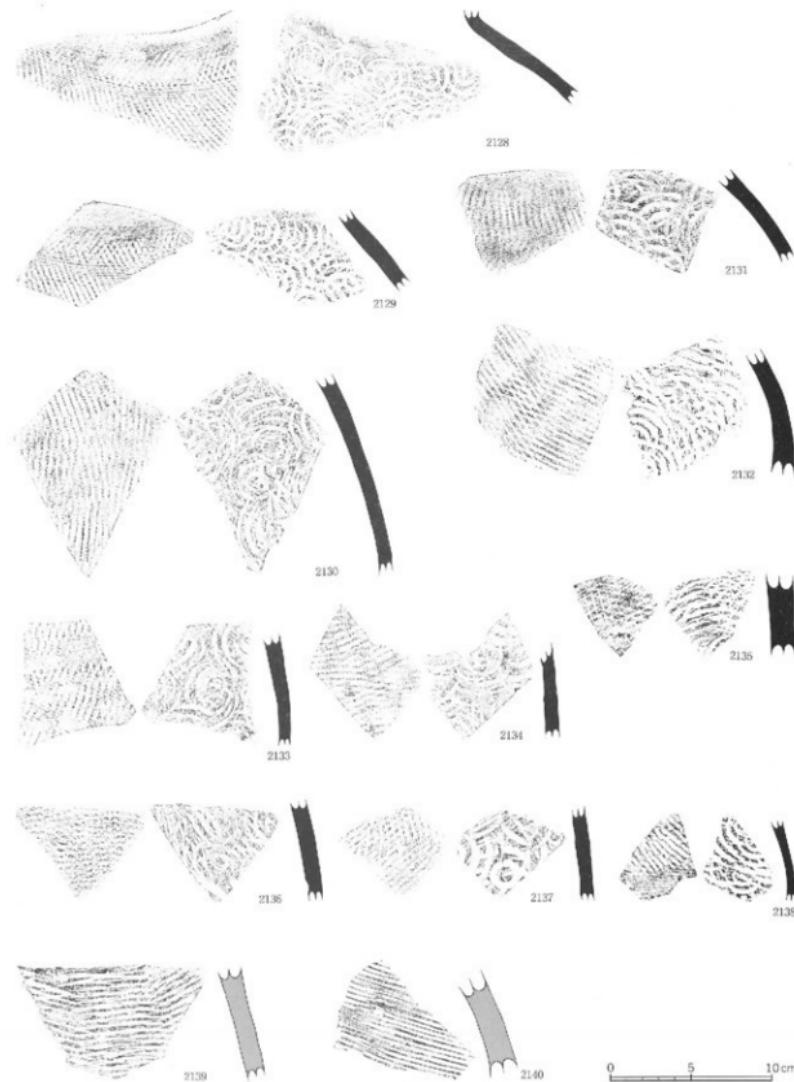
土師器；1201・1202，須恵器；1203～1214
珠洲；1215～1219，青磁；1220

縮尺 $\frac{1}{3}$



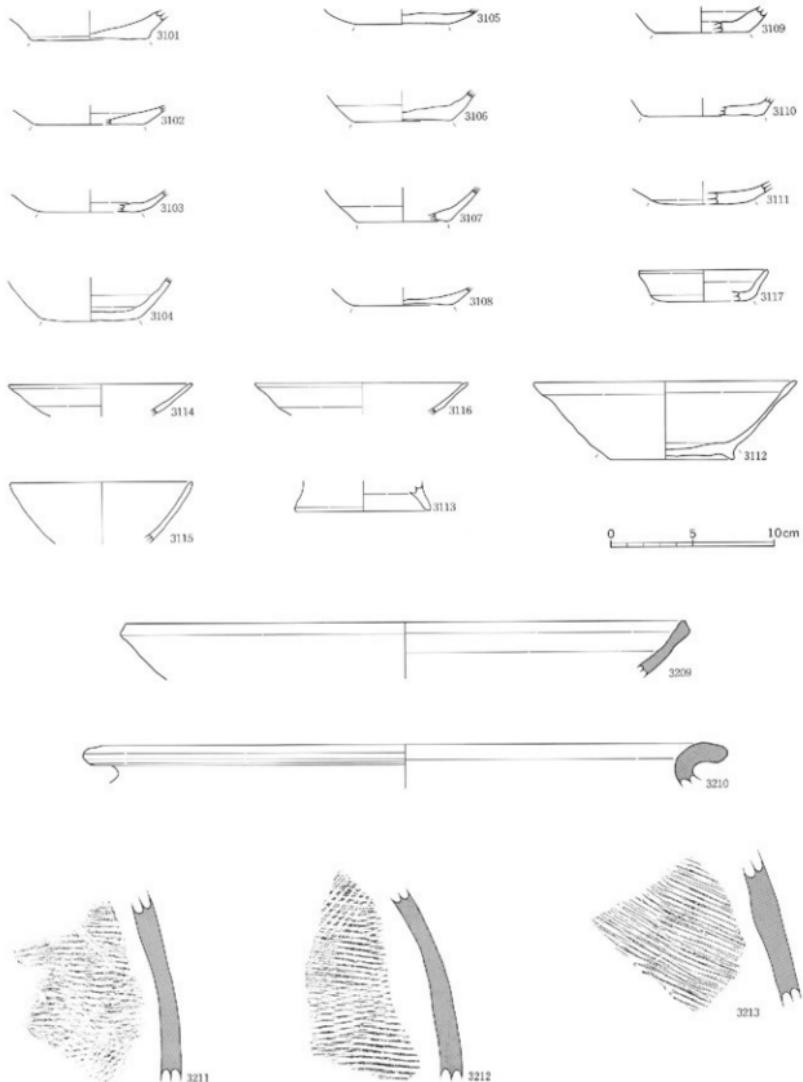
第1区土器類 土師器；2101～2109，須恵器；2110～2127

縮尺 $\frac{1}{3}$



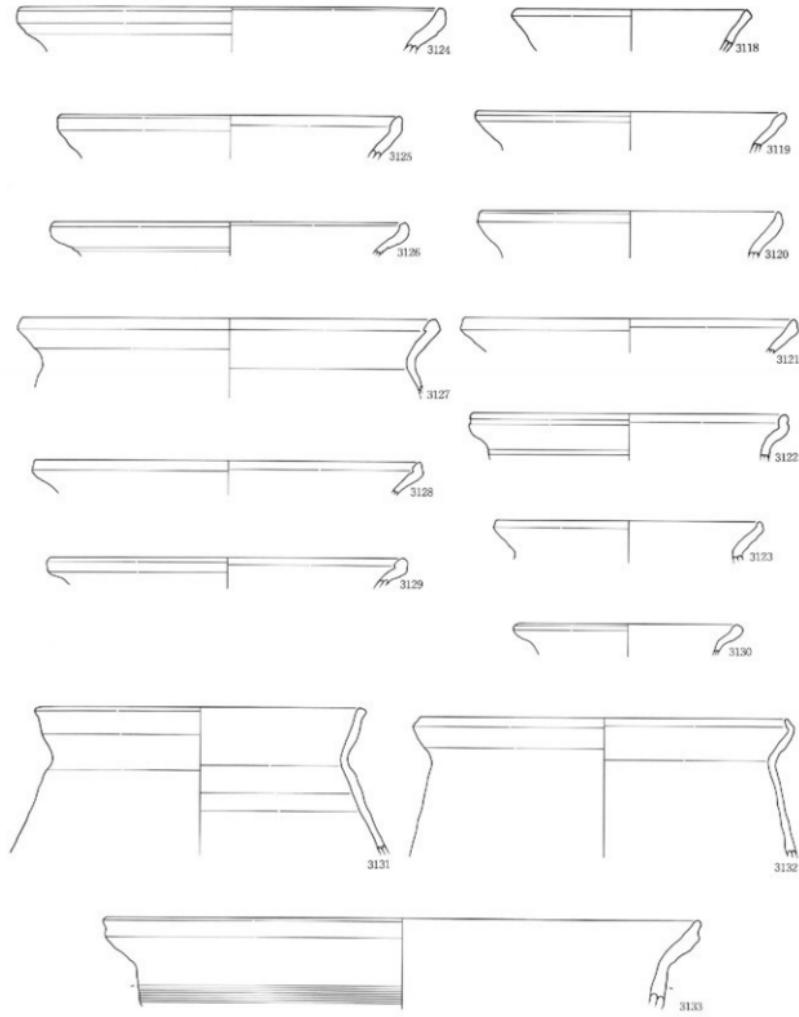
第1区土器類 須恵器；2128～2138、珠糸；2139・2140

縮尺 $\frac{1}{3}$



第2区土器類 土師器；3101~3116, 珠洲；3209~3213

縮尺 $\frac{1}{3}$



0 5 10cm

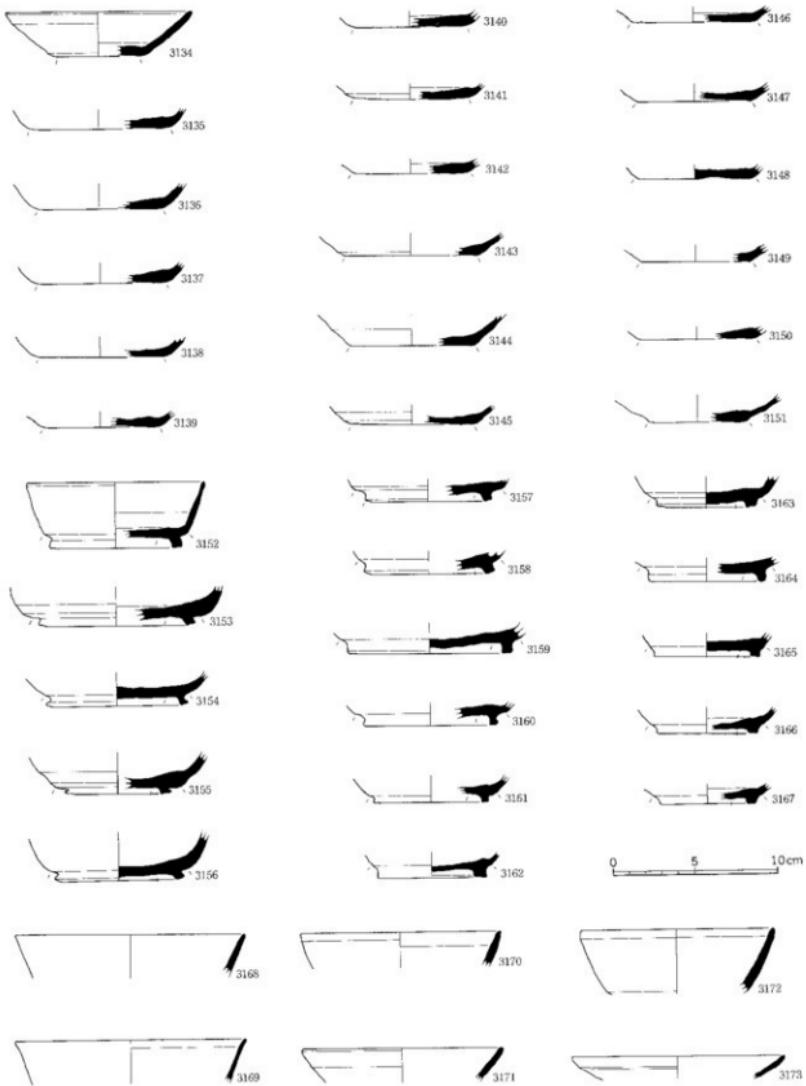
第2区土器類 土師器；3118～3133

縮尺 $\frac{1}{3}$

圖二〇九

遺物実測図

麻生谷遺跡平成五年度調査地区



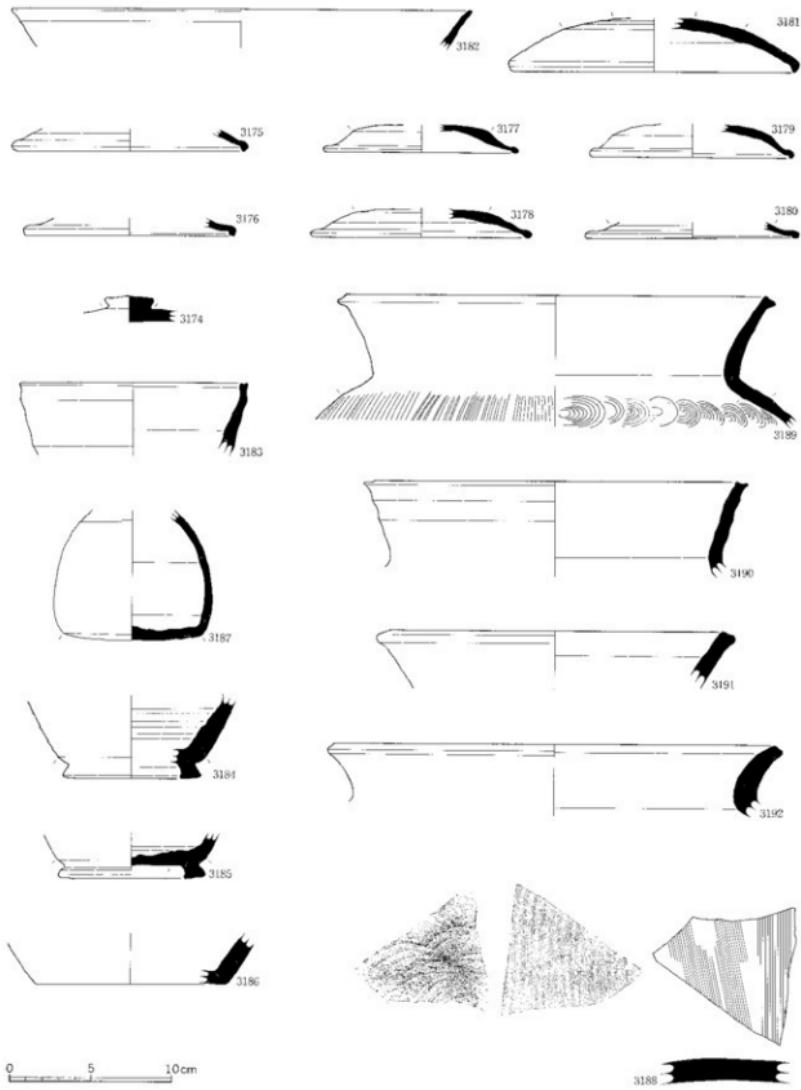
第2区土器類 須恵器；3134～3173

縮尺 $\frac{1}{3}$

圖二一〇

遺物実測図

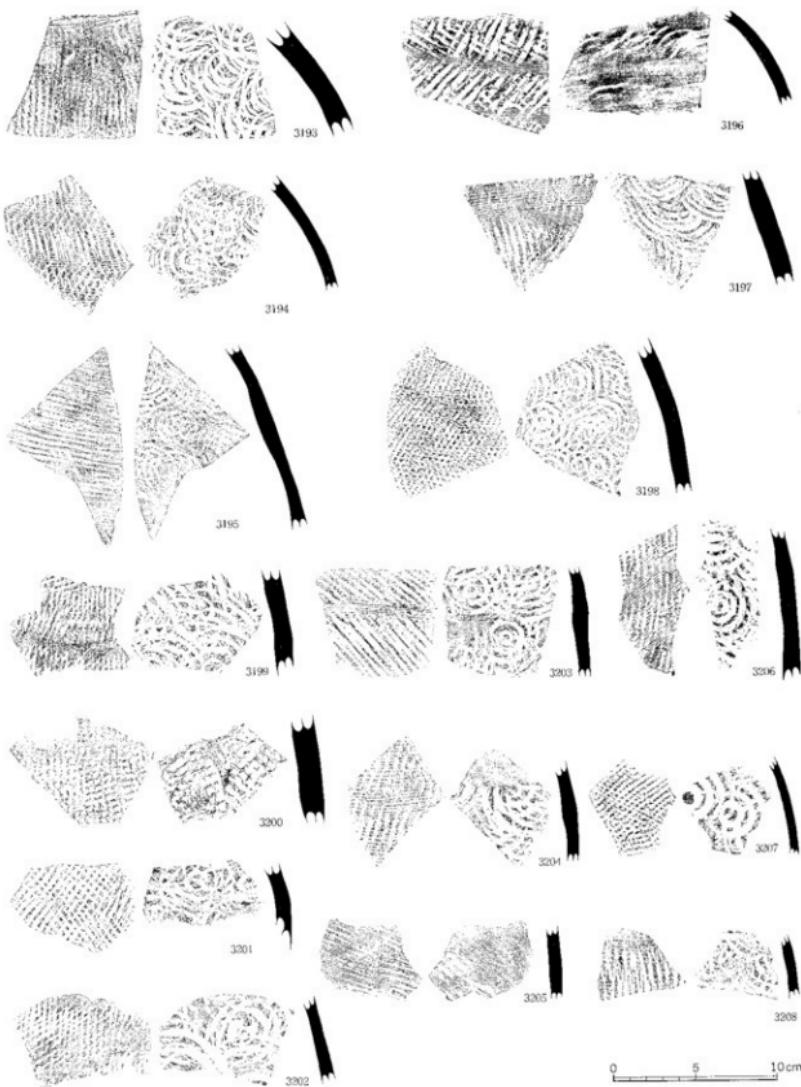
麻生谷遺跡平成五年度調査地区



第2区土器類 須恵器；3174~3192

縮尺 $\frac{1}{3}$

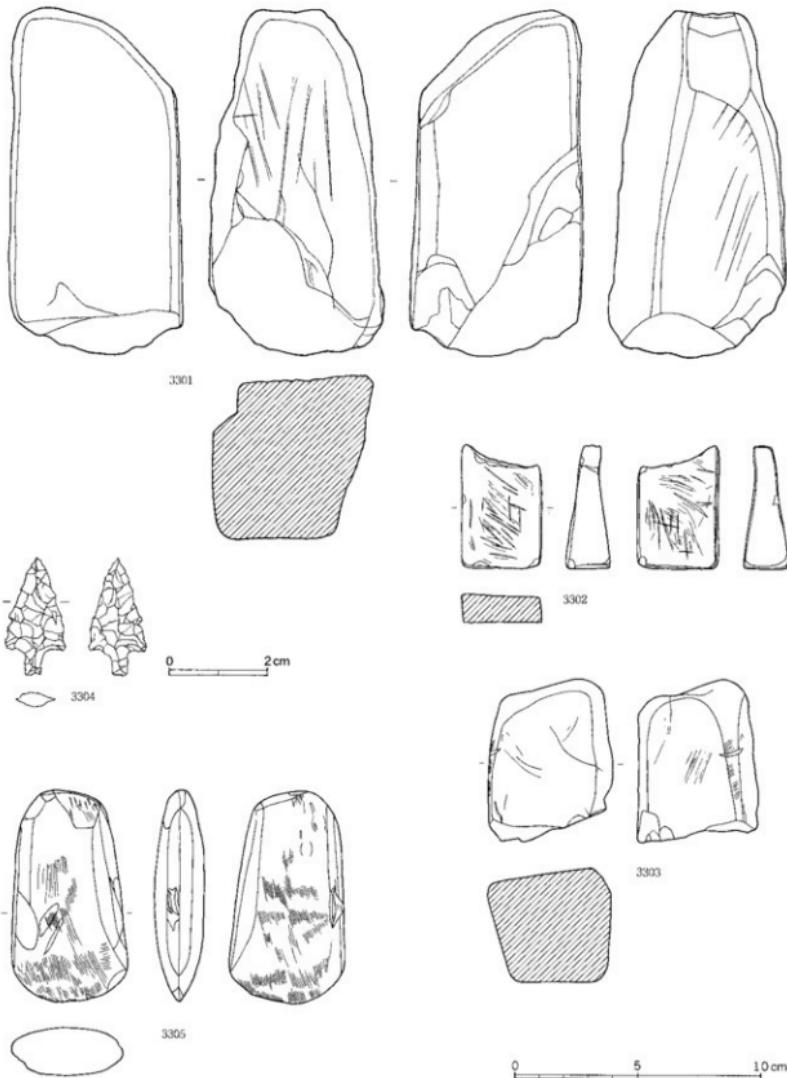
図面二一一　遺物実測図
麻生谷遺跡平成五年度調査地区



第2区土器類　須恵器；3193～3208

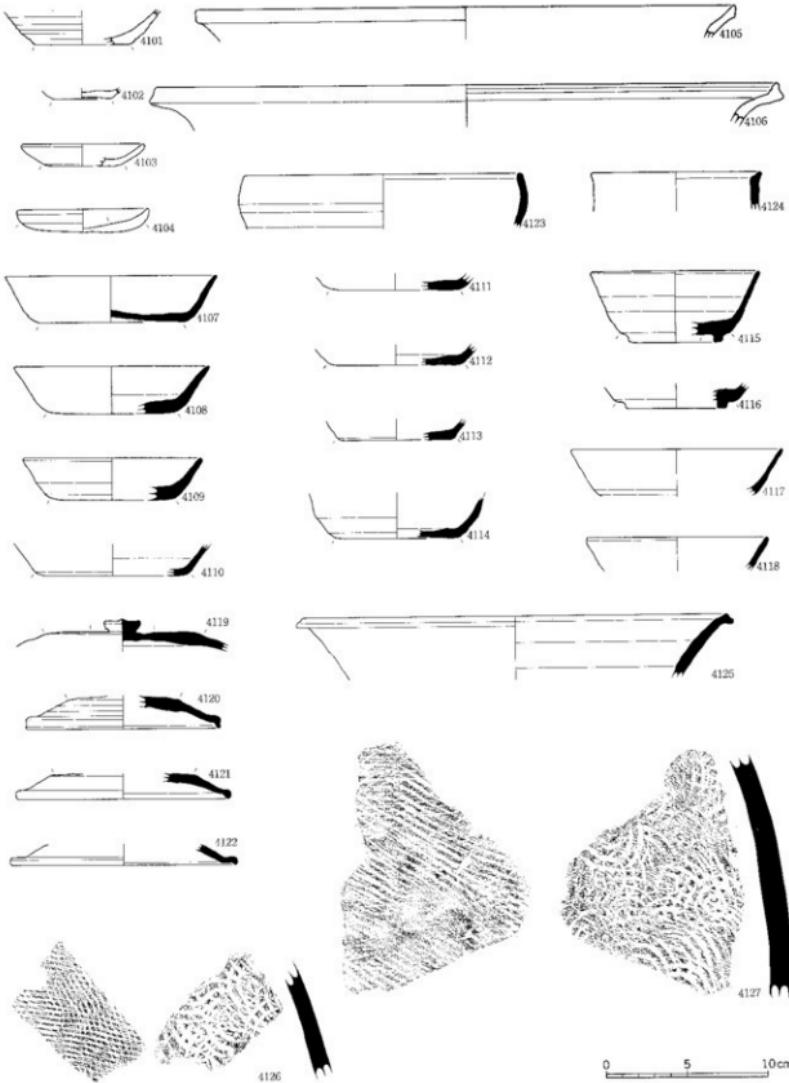
縮尺1/3

圖面二二二 遺物実測図 麻生谷遺跡平成五年度調査地区



第2区石製品 砥石；3301～3303, 石鏽；3304, 磨製石斧；3305

縮尺2倍 実大



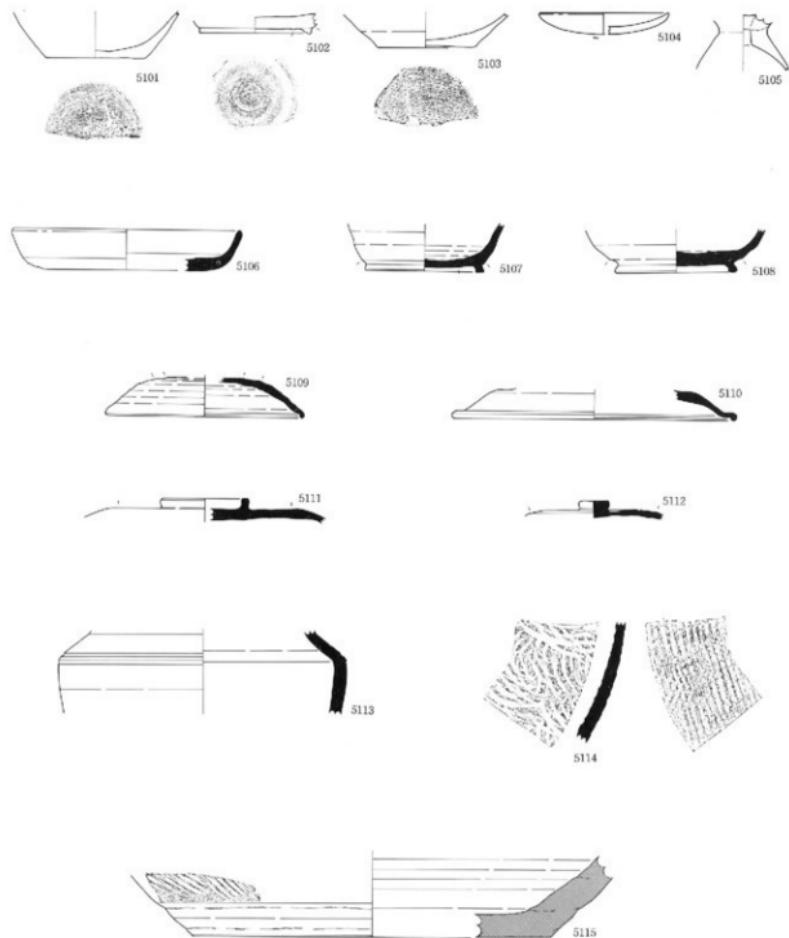
第3区七器類 土師器；4101~4106, 須恵器；4107~4127

縮尺1/3

圖二二四

遺物測量圖

麻生谷遺跡平成七年度測量地圖



0 5 10 cm
縮尺 $\frac{1}{3}$

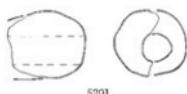
第1区土器類 土師器；5101～5105，須恵器；5106～5114，珠淵；5115

縮尺 $\frac{1}{3}$

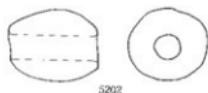
図面二二五

遺物実測図

麻生谷遺跡平成七年度調査地区



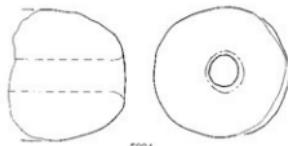
5201



5202



5203



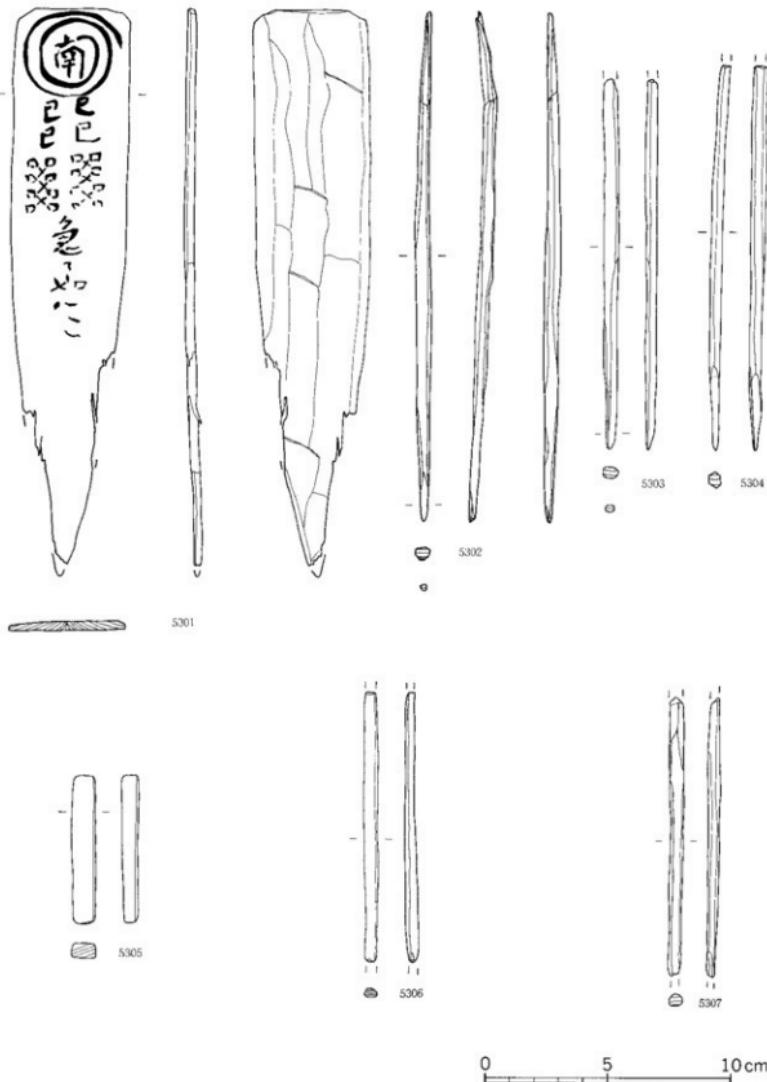
5204

0 5 10cm

第1区土製品 土錘：5201～5204

縮尺 $\frac{1}{2}$

図面二一六 遺物実測図
麻生谷遺跡平成七年度調査地区

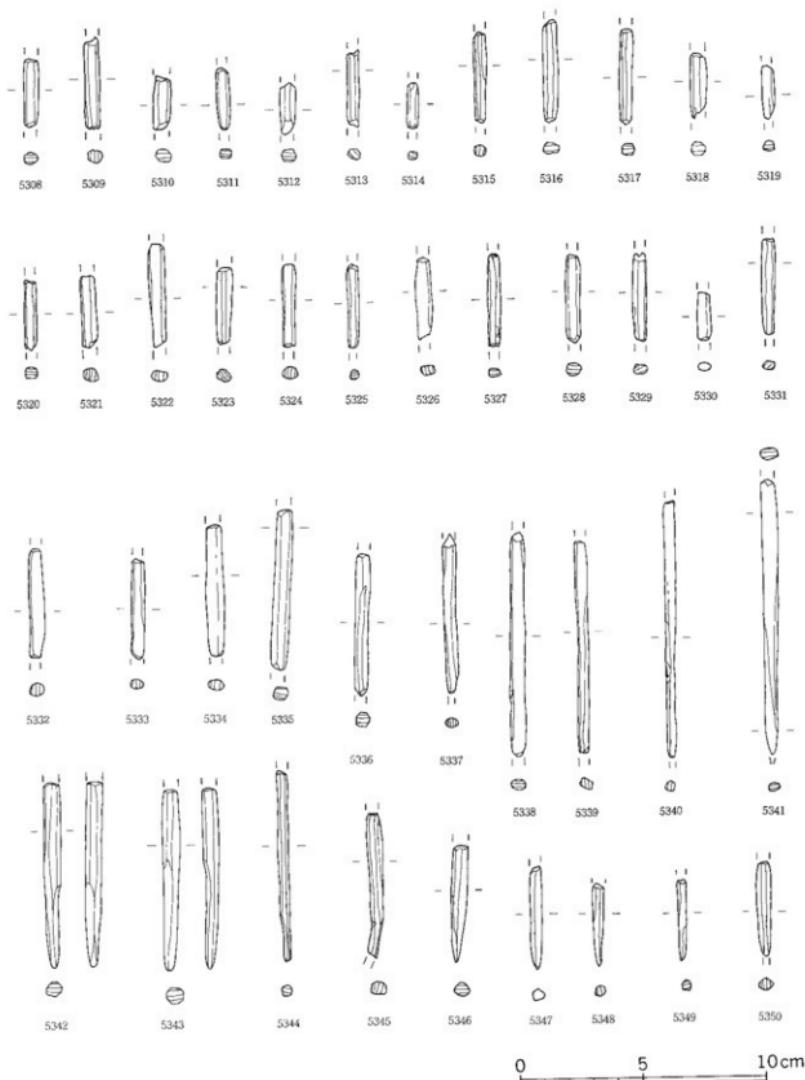


第1区木製品 呪符；5301, 箸；5302～5304・5306・5307, 角棒状品；5305

縮尺1/2

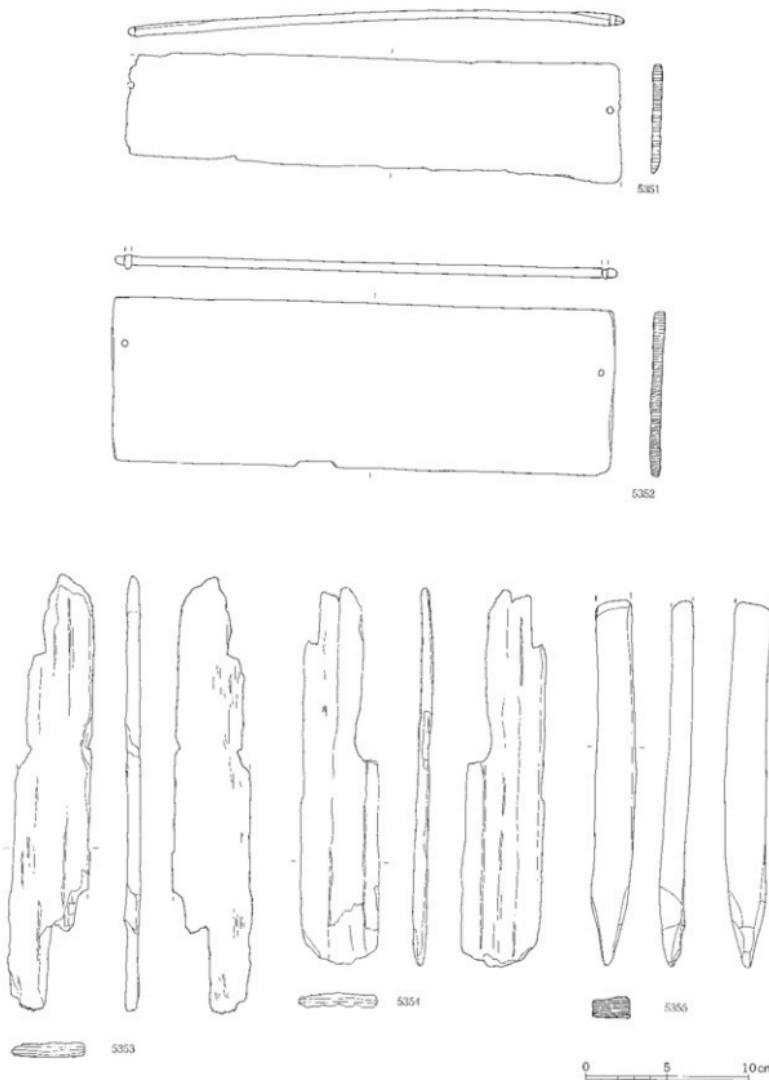
図面二二七 遺物実測図

麻生谷遺跡平成七年度調査地区



第1区木製品 算: 5308~5350

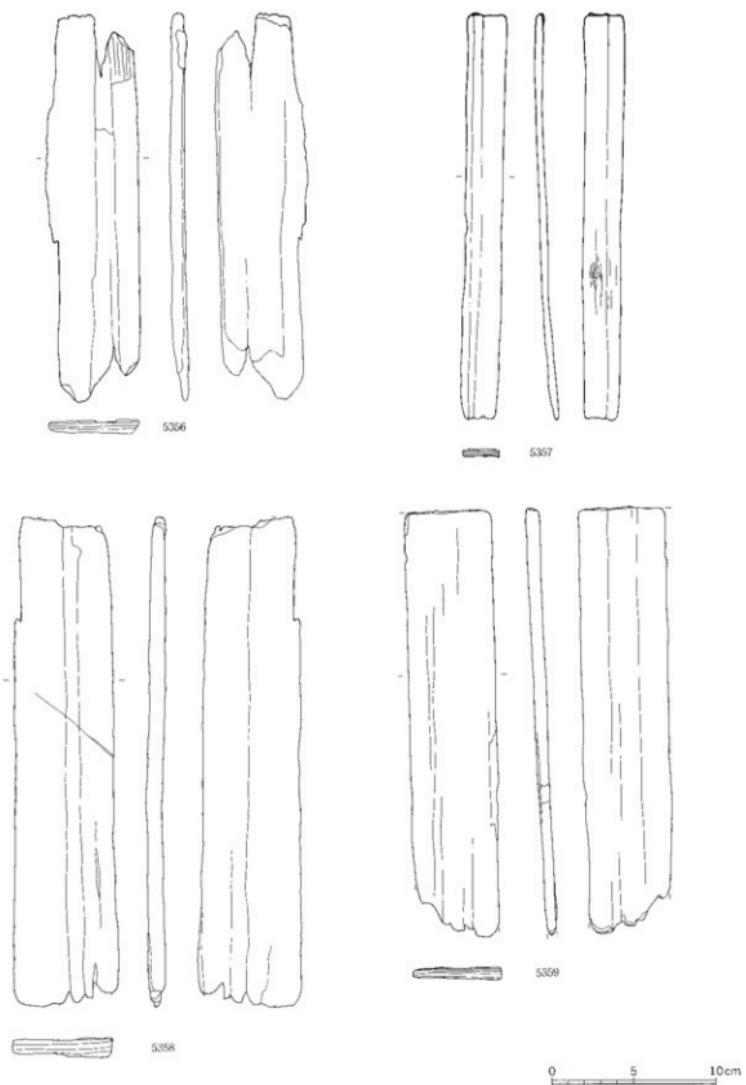
縮尺 $\frac{1}{2}$



第1区木製品 方形曲物：5351・5352, 井戸側緩板；5353・5354, 杭；5355

縮尺1/3

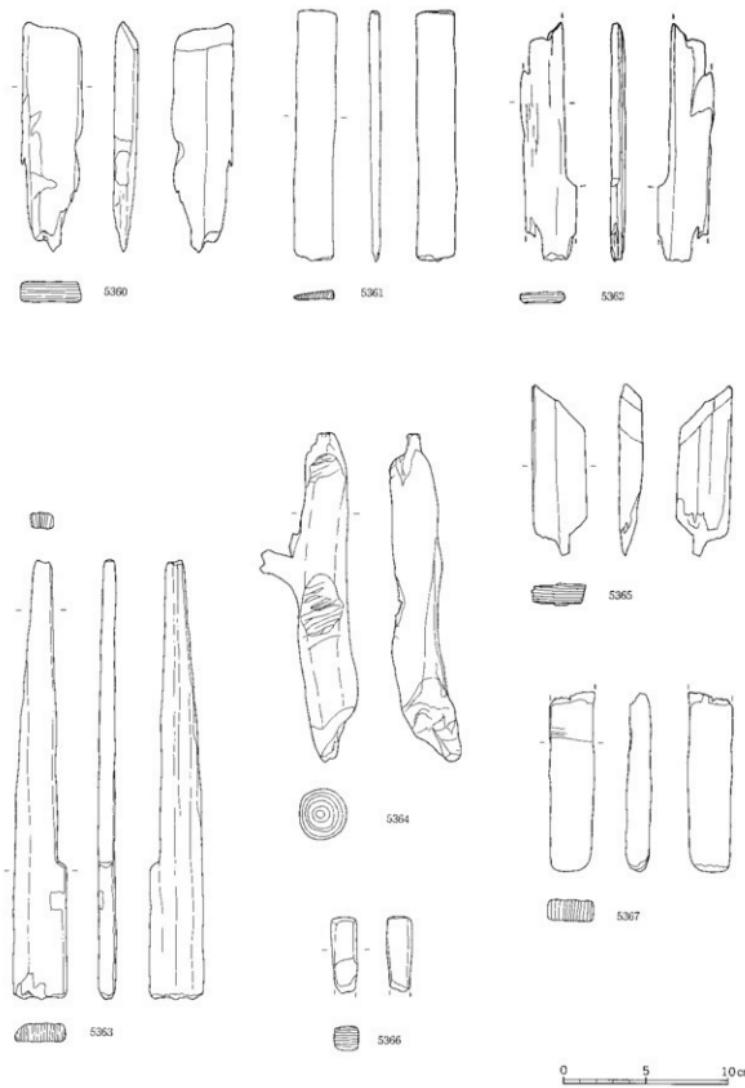
図面二二九 遺物実測図
麻生谷遺跡平成七年度調査地区



第1区木製品 井戸割縱板；5356～5359

縮尺1/3

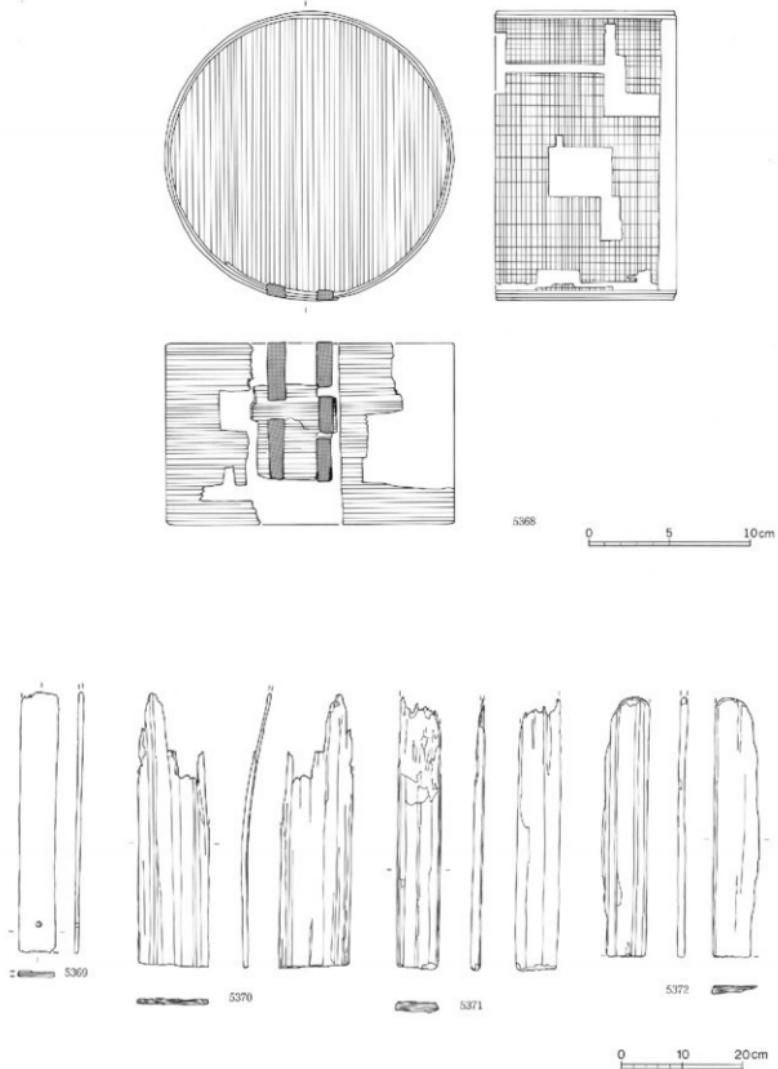
圖二二〇 遺物実測図
麻生谷遺跡平成七年度調査地区



第1区木製品 梱；5360～5363・5365・5367、芯持材；5364、角棒状品；5366

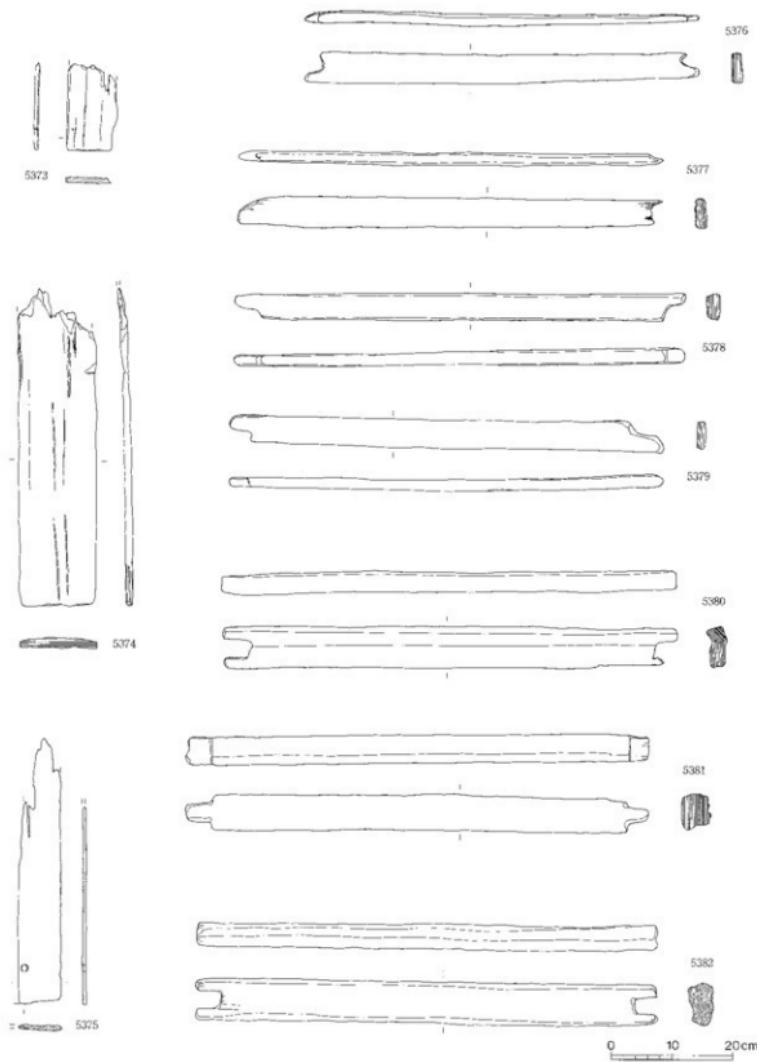
縮尺1/3

図面二二一 遺物実測図
麻生谷遺跡平成七年度調査地区



第1区木製品 円形曲物；5368、井戸側縦板；5369～5372

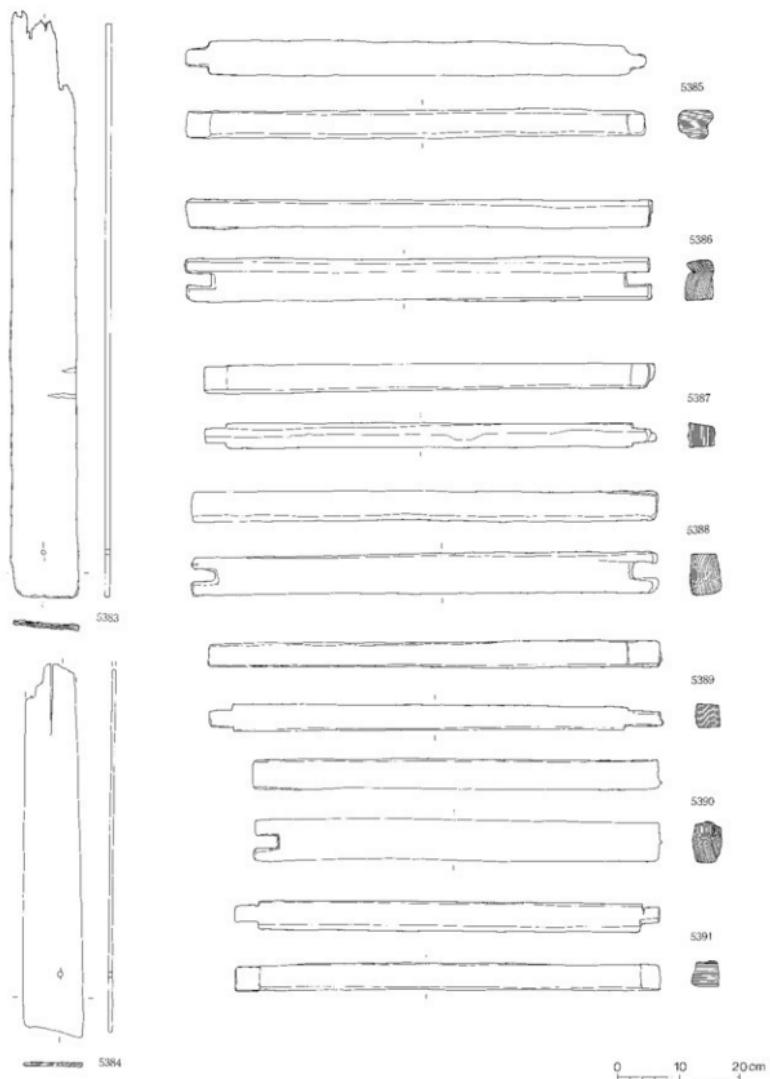
縮尺 $\frac{1}{5}$, $\frac{1}{8}$



第1区木製品 井戸側継板；5373～5375, 井戸側横桟；5376～5382

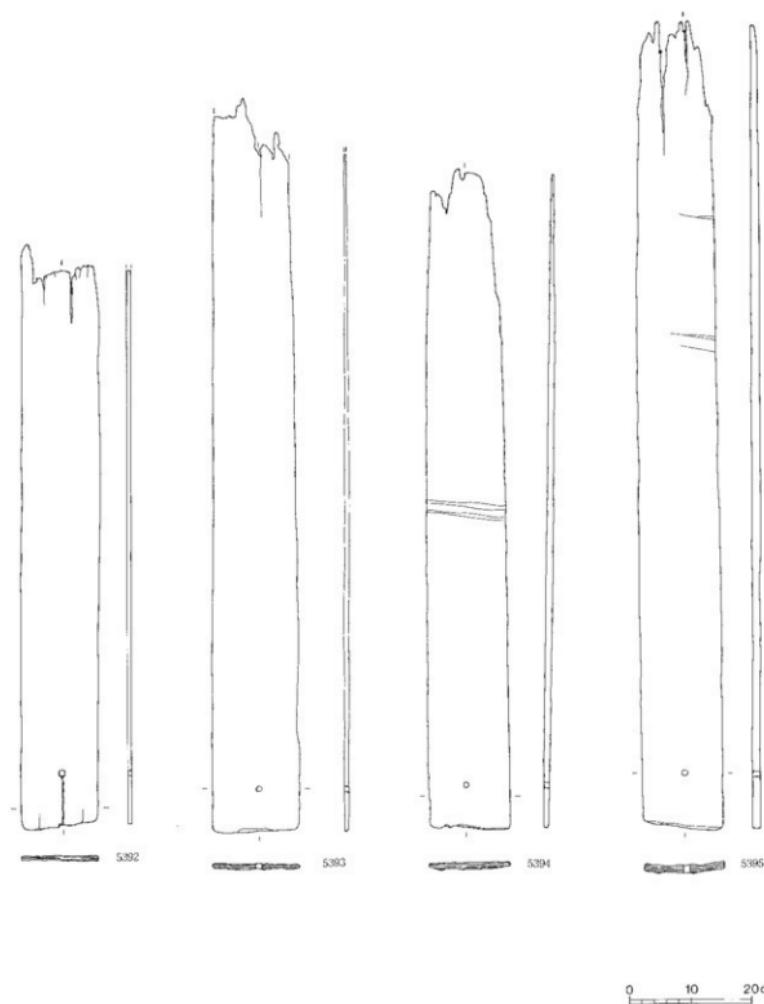
縮尺 $\frac{1}{8}$

図面二二三 遺物実測図 麻生谷遺跡平成七年度調査地区



第1区木製品 井戸側縦板；5383・5384, 井戸側横桿；5385～5391

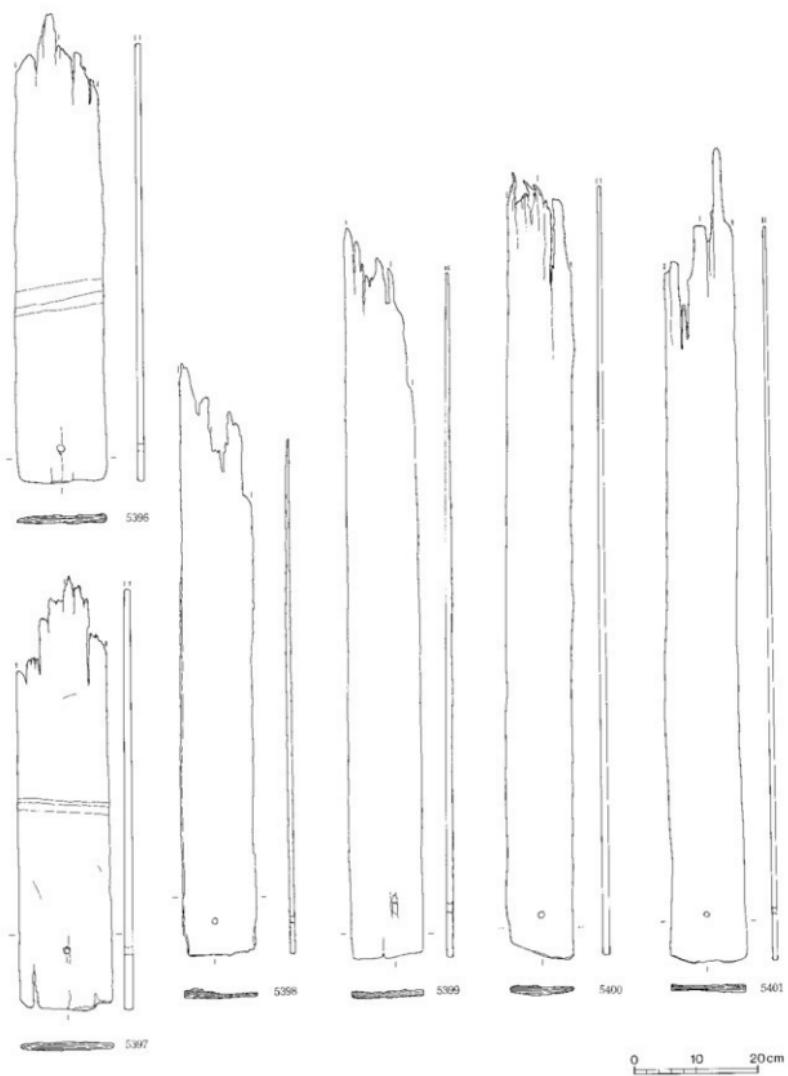
縮尺1/8



第1区木製品 井戸側縦板；5392～5395

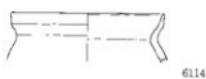
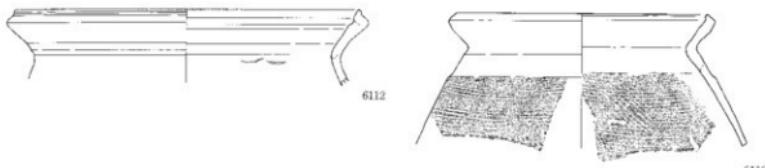
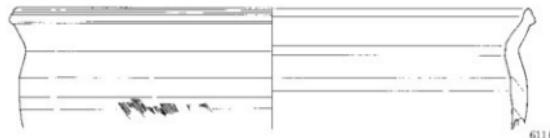
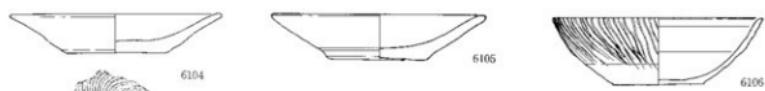
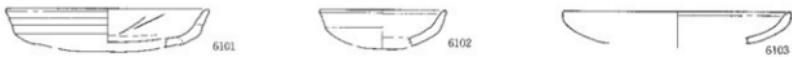
縮尺1/8

圖二二五 遺物実測図
麻生谷遺跡平成七年度調査地区

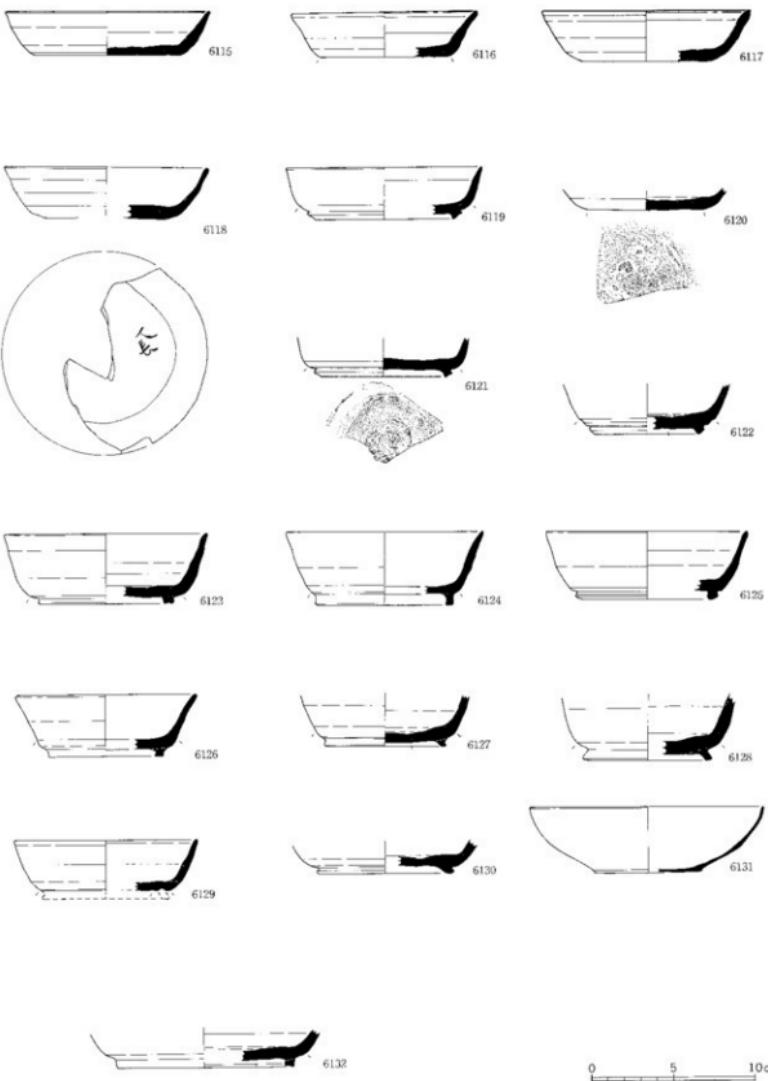


第1区木製品 井戸側縫板；5396～5401

縮尺1/8

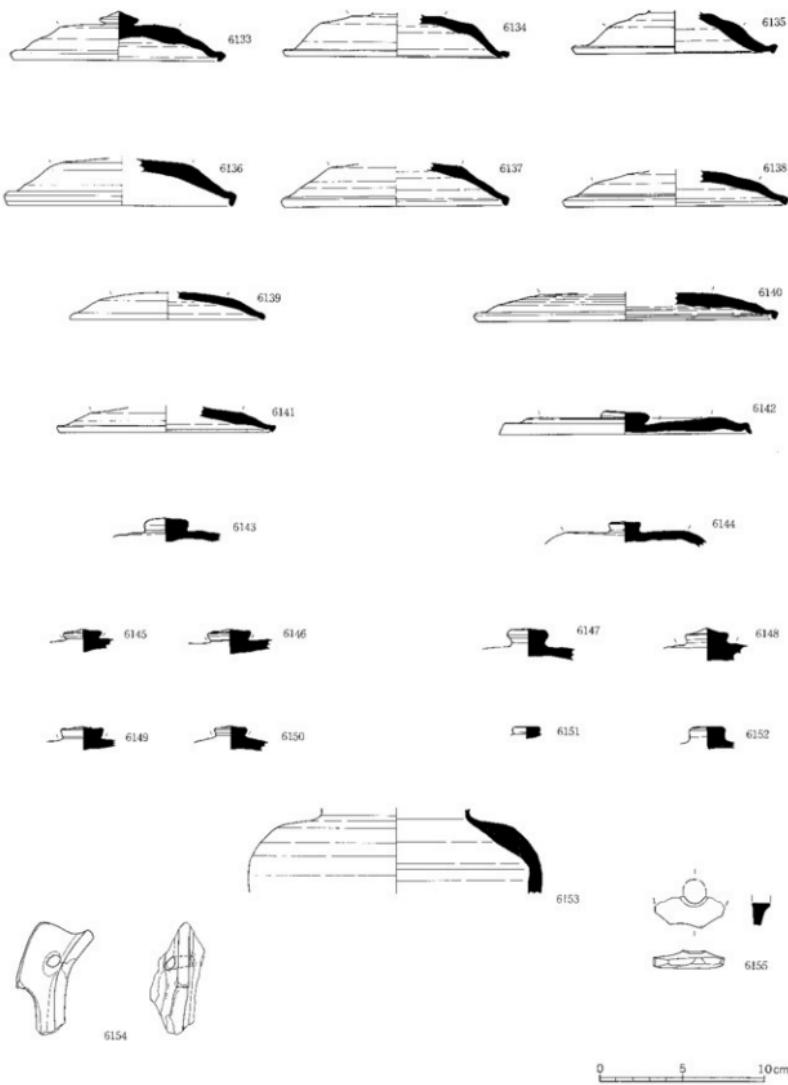


0 5 10cm



第2区土器類 須恵器；6115~6132

縮尺1/3



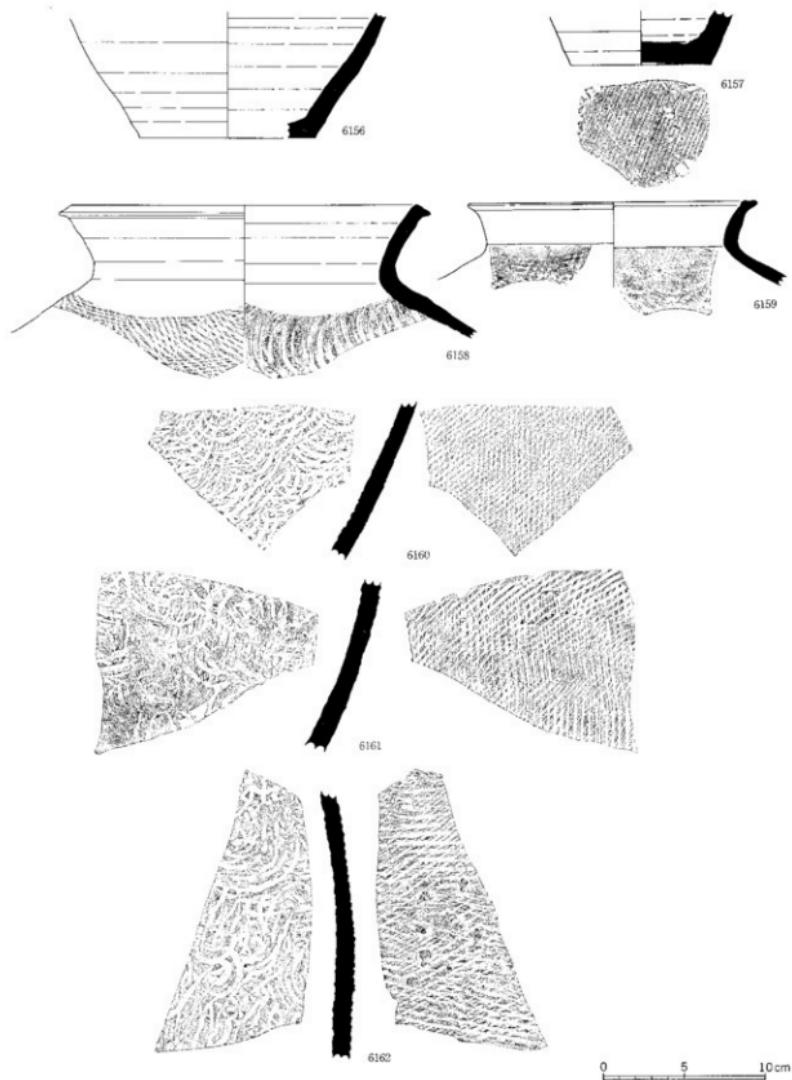
第2区土器類 須恵器；6133～6155

縮尺1/3

図面二二九

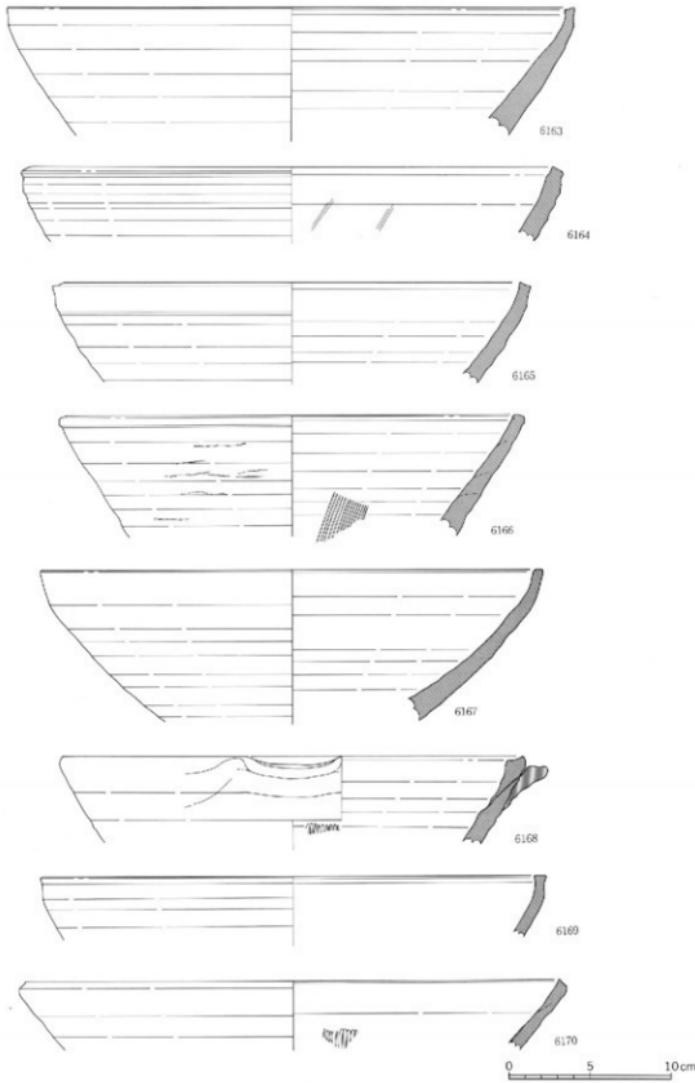
遺物実測図

麻生谷遺跡平成七年度調査地区



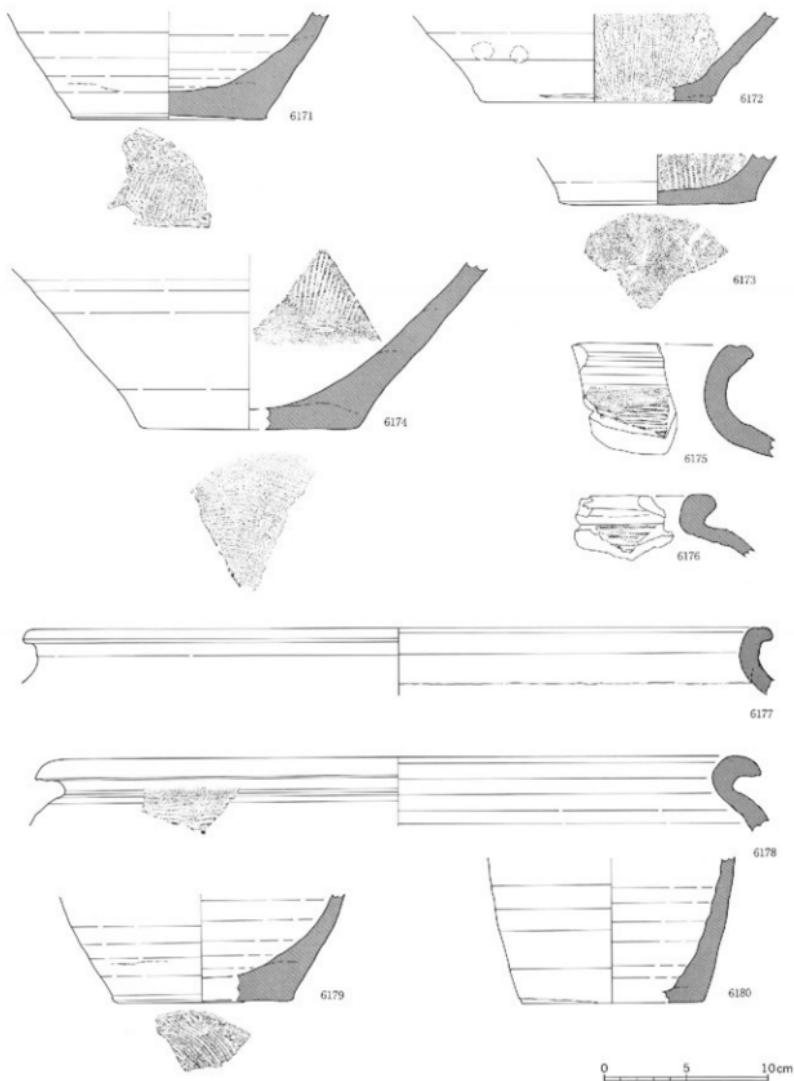
第2区土器類 須恵器；6156~6162

縮尺1/5



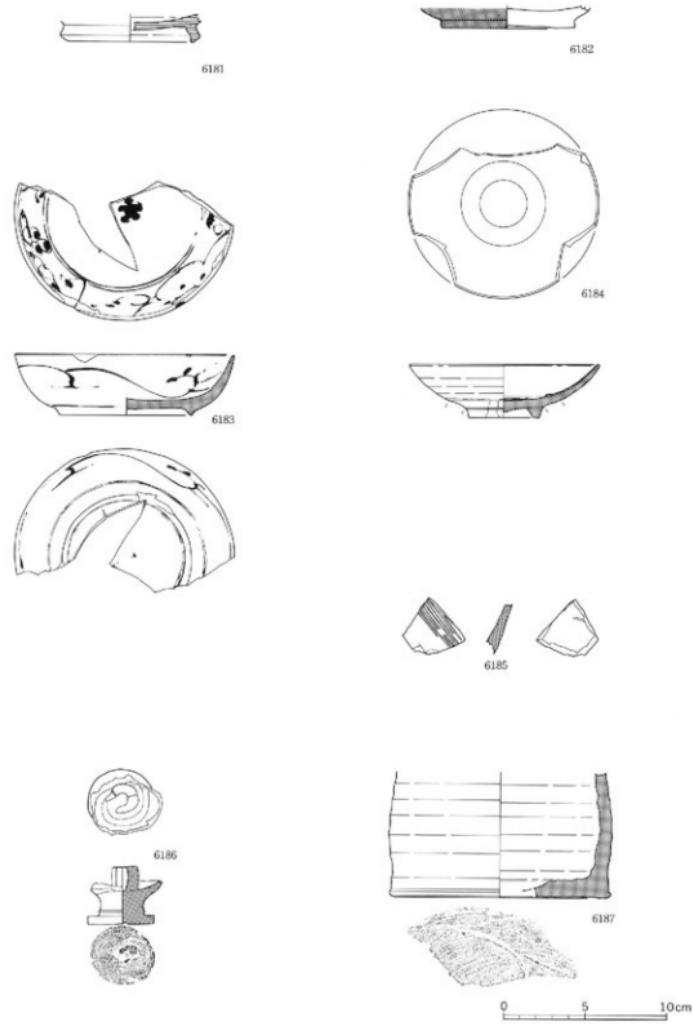
第2区土器類 珠洲；6165~6172

縮尺 $\frac{1}{3}$



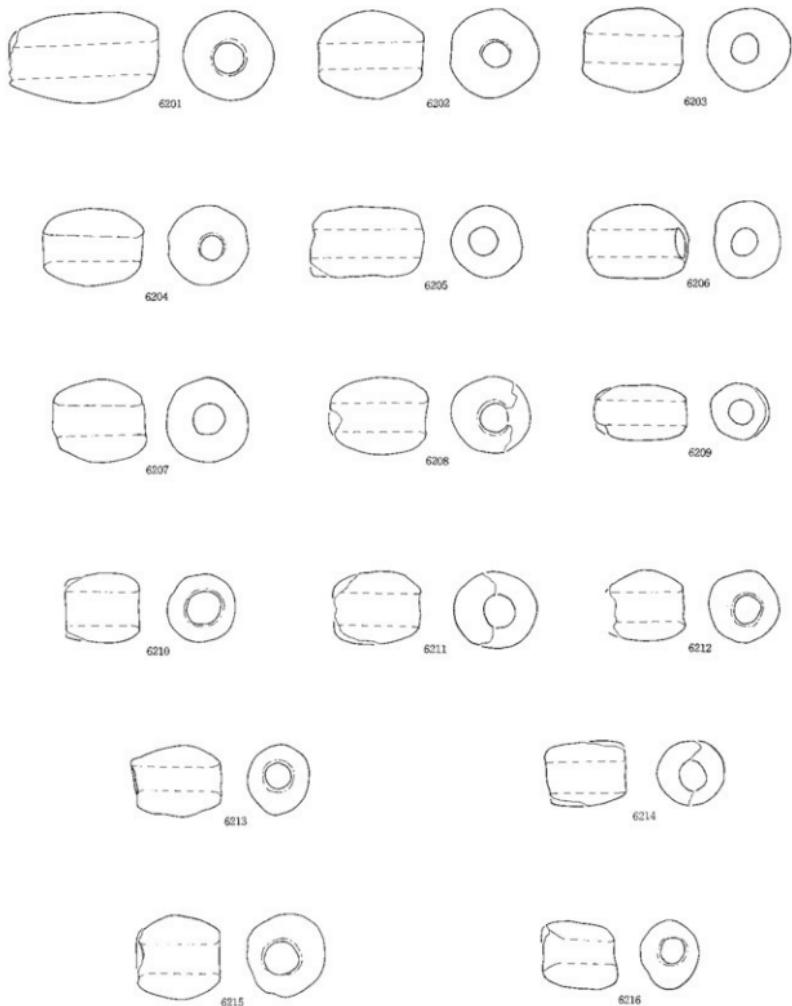
第2区土器類 珠洲；6173~6182

縮尺 $\frac{1}{3}$

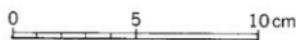
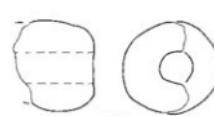
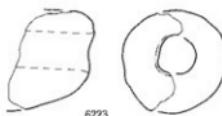
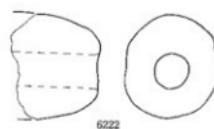
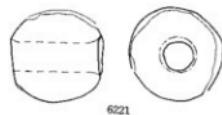
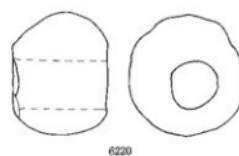
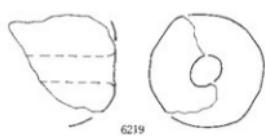
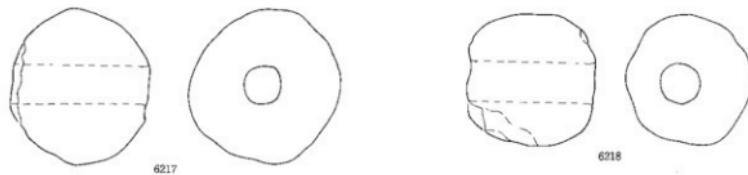


第2区上器類
灰釉陶器；6163、綠釉陶器；6164、青磁；6183、伊万里；6184・6185、
瀬戸；6186・6187

縮尺1/3



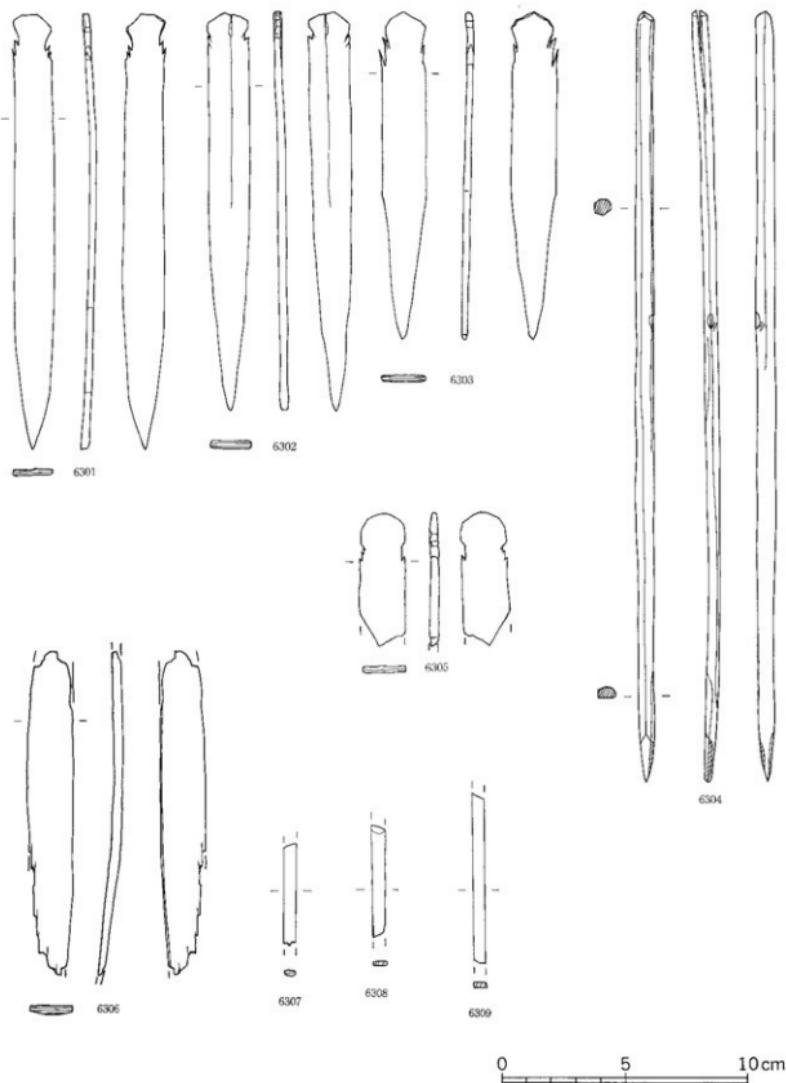
0 5 10 cm
縮尺 $\frac{1}{2}$



第2区土製品 土錘；6217～6226、用途不明品；6227

縮尺 $\frac{1}{2}$

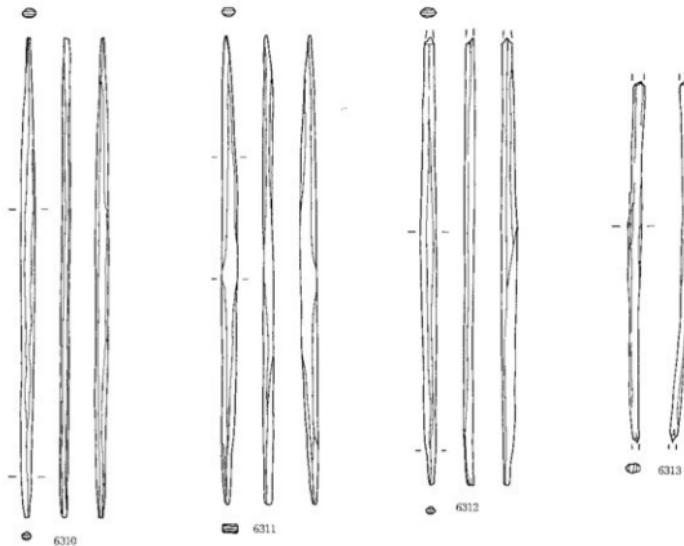
図面二三五 遺物実測図 麻生谷遺跡平成七年度調査地区



第2区木製品 斧串: 6301~6306, 扇子骨: 6307~6309

縮尺 $\frac{1}{2}$

図面二三六 遺物実測図
麻生谷遺跡平成七年度調査地区



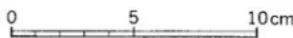
6314



6315

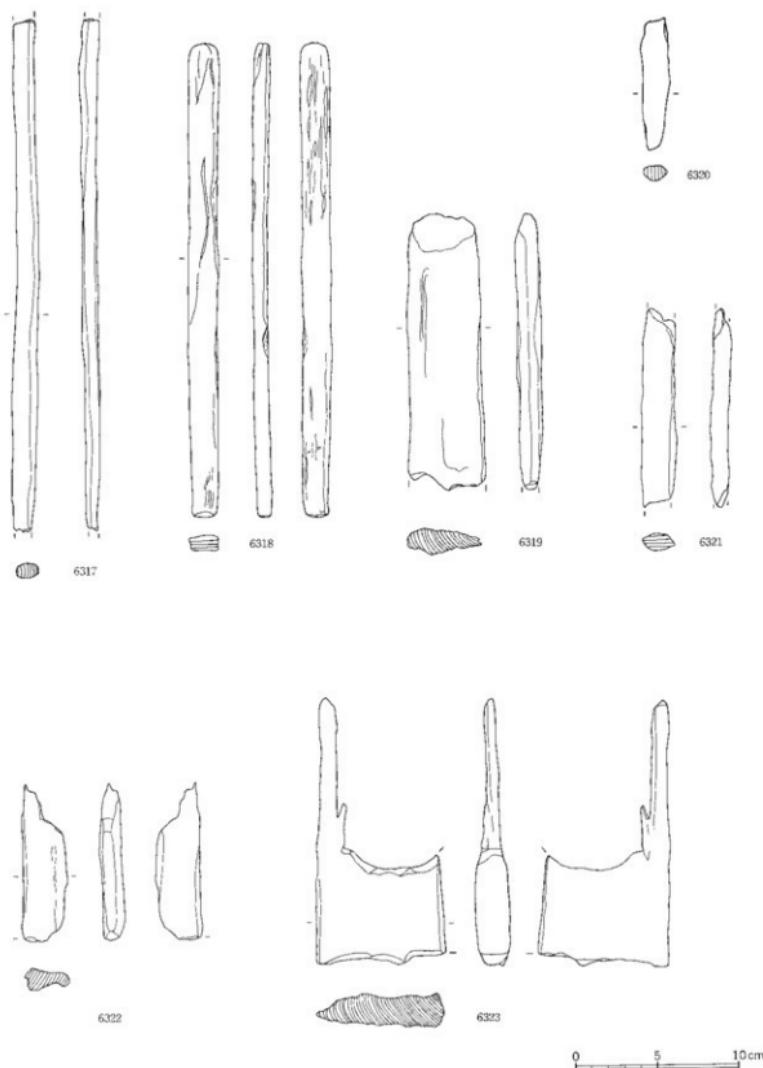


6316



第2区木製品 箸: 6310~6316

縮尺 $\frac{1}{2}$



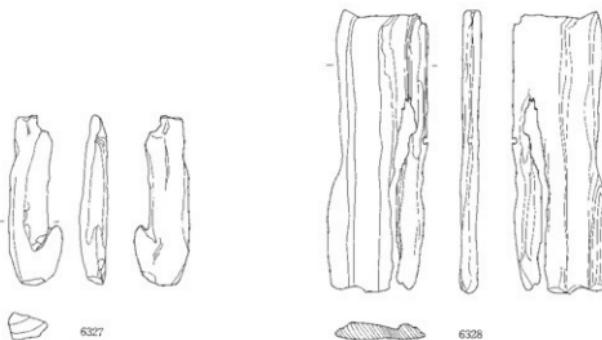
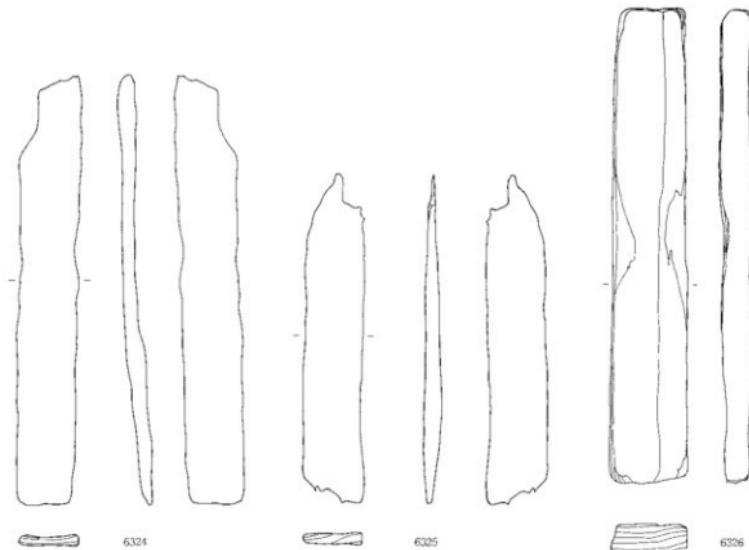
第2区木製品 角棒状品；6317・6318・6320・6321，板；6319・6322・6323

縮尺1/3

圖二三八

遺物実測図

麻生谷遺跡平成七年度調査地区

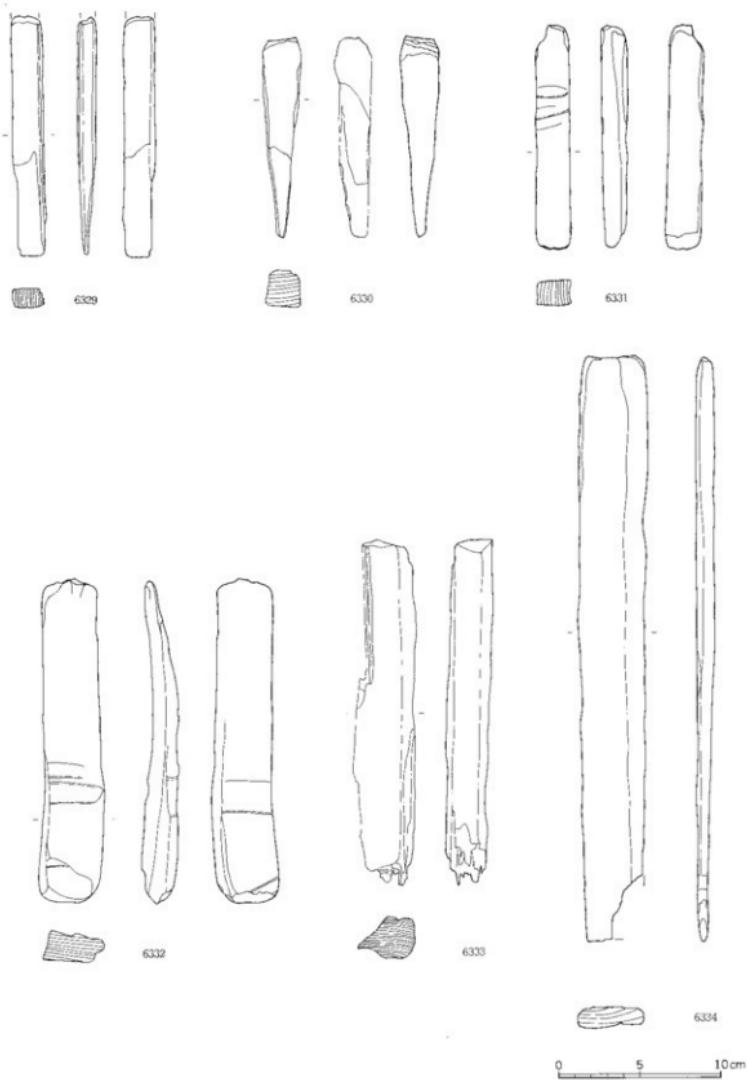


0 5 10cm

第2区木製品 板：6324～6326・6328、鉤状品：6327

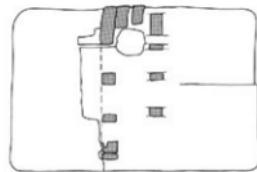
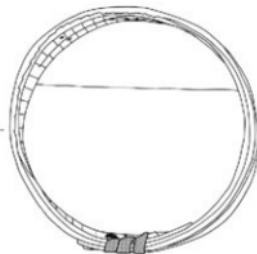
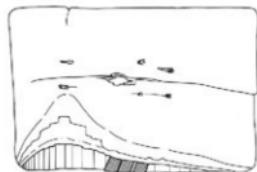
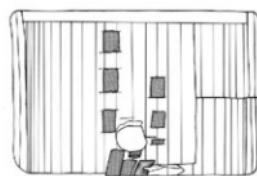
縮尺1/3

圖面二三九 遺物寒御図
麻生谷遺跡平成七年度調査地区

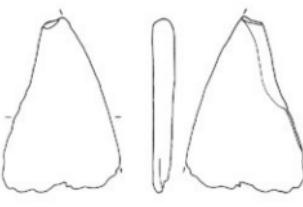


第2区木製品 楔: 6329~6332, 板: 6333・6334

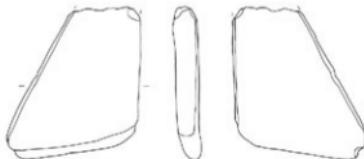
縮尺1/2



6335



6336



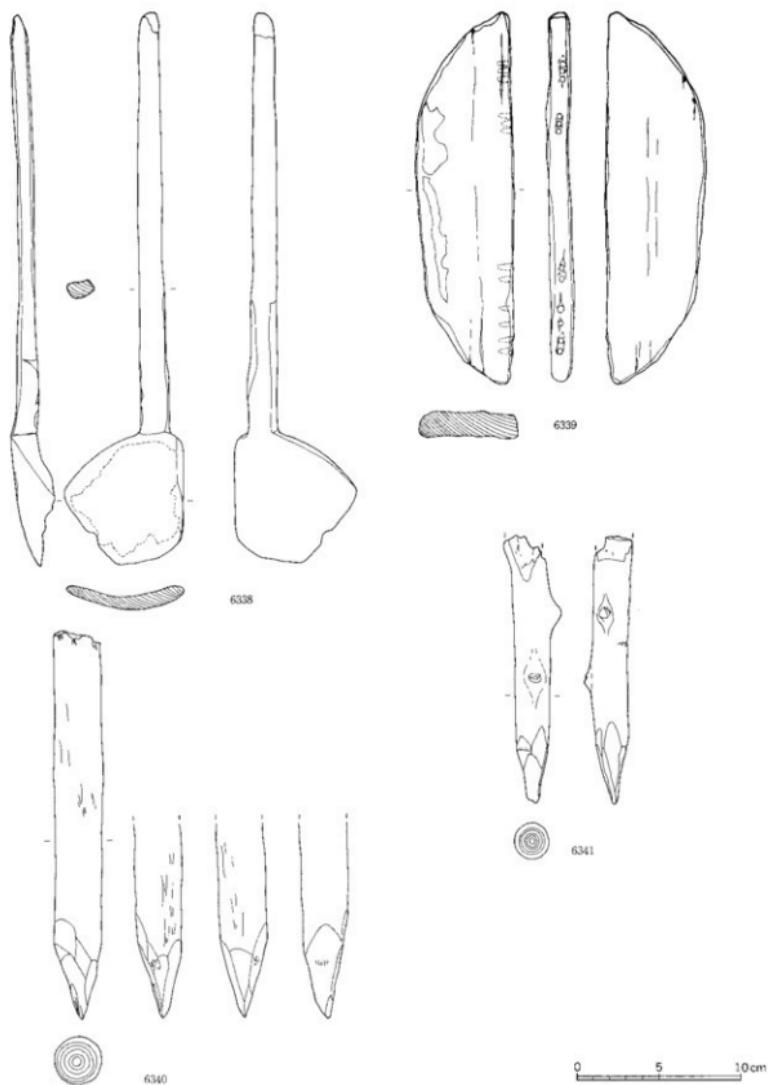
6337

0 5 10cm
縮尺1/3

第2区木製品 曲物柄勺：6335、三角板状品：6336・6337

縮尺1/3

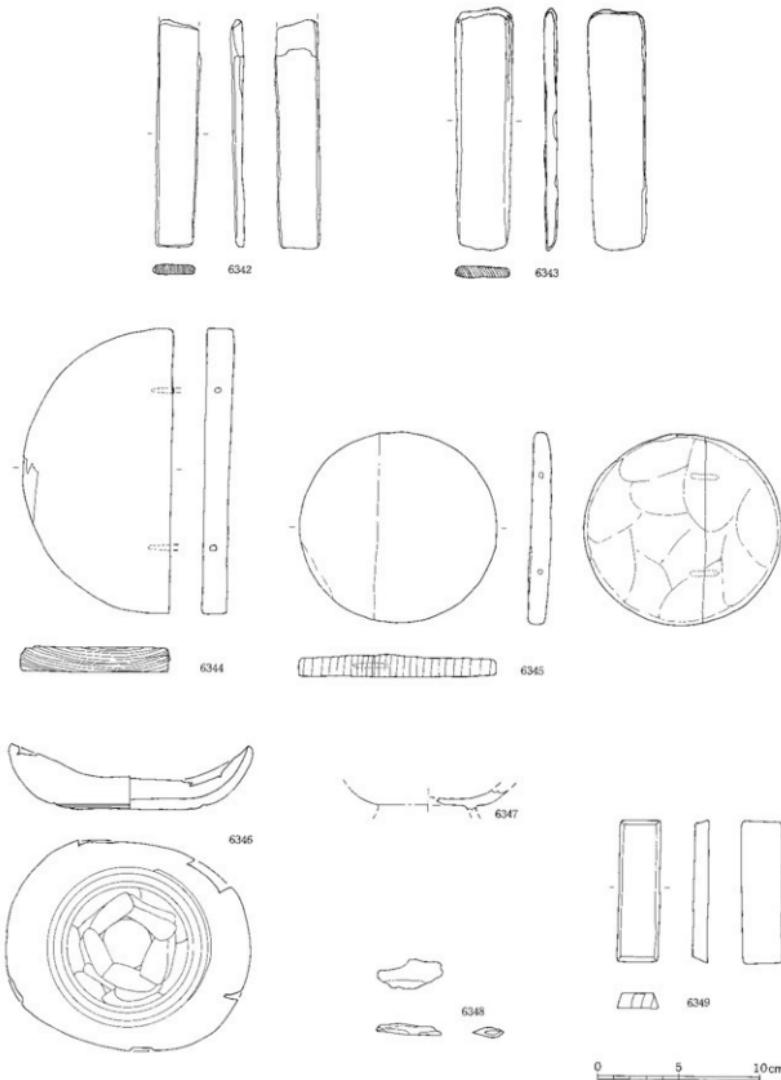
図面二四一 遺物実測図
麻生谷遺跡平成七年度調査地区



第2区木製品 約文字: 6338, 曲物底板: 6339, 杖: 6340・6341

縮尺1/3

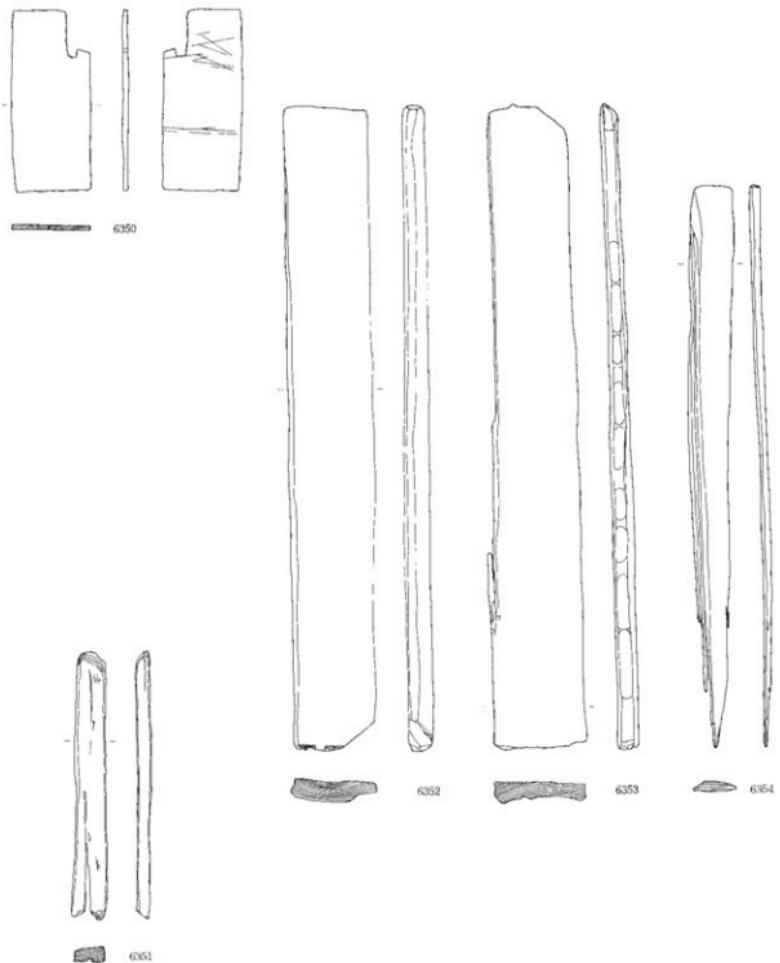
圖二四二
遺物実測図
麻生谷遺跡平成七年度調査地区



第2区木製品
板；6342・6243、円形曲物底板；6344・6345、
挽物；6346～6348、角棒状品；6349

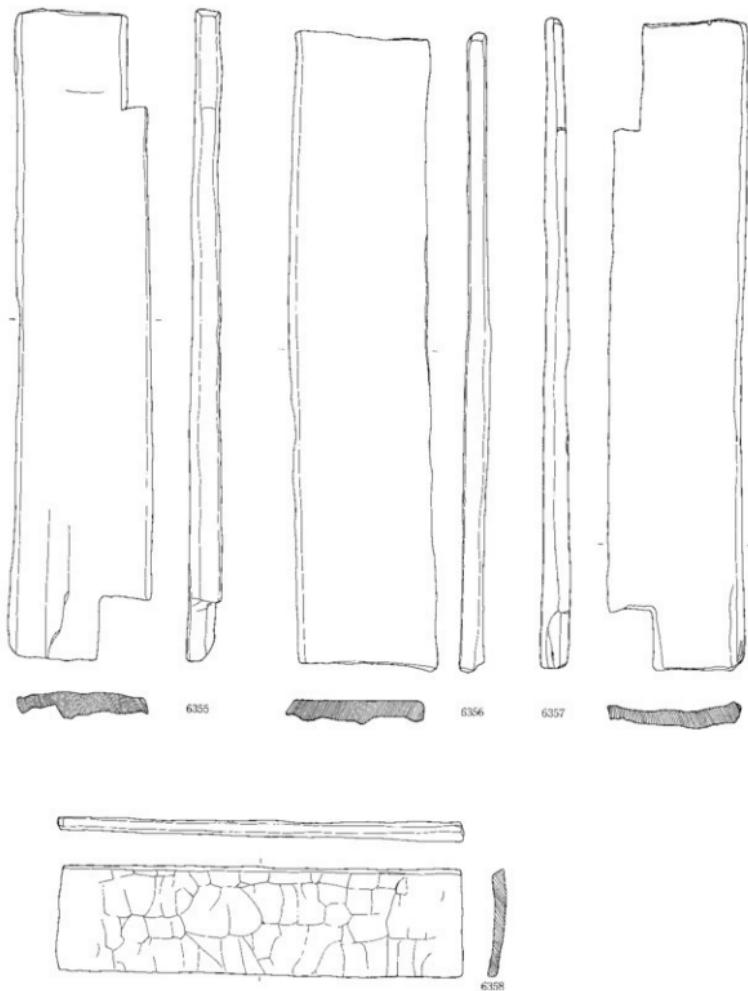
縮尺1/3

図面一四二 遺物実測図 麻生谷遺跡平成七年度調査地区



第2区木製品 井戸側縦板；6350～6354

縮尺1/8

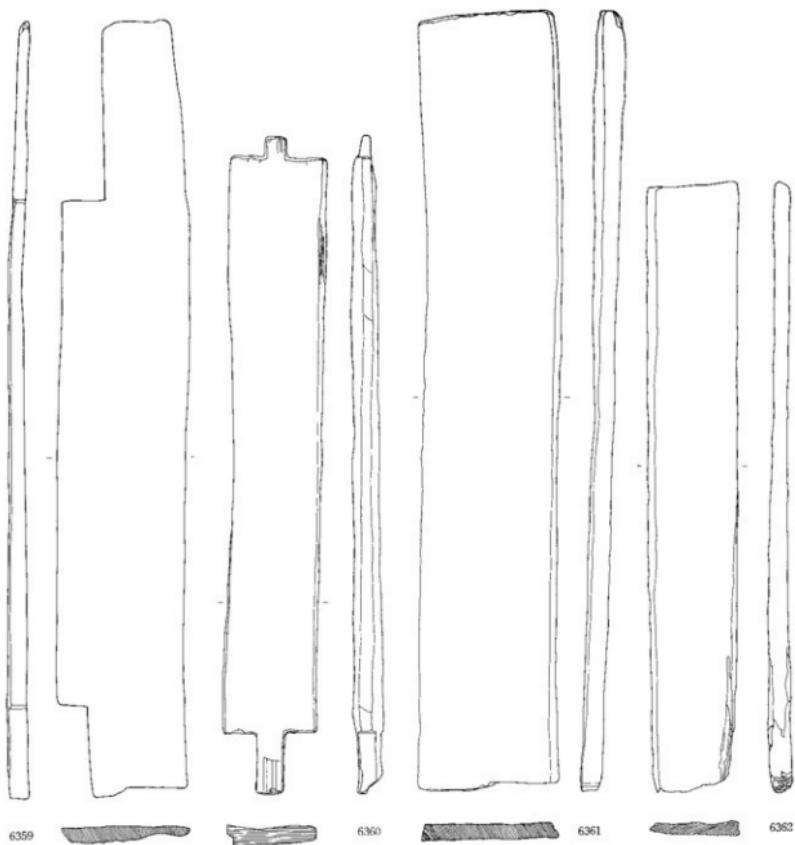


第2区木製品 井戸側縦板；6355～6357、井戸側横板；6358

縮尺1/8

0 10 20cm

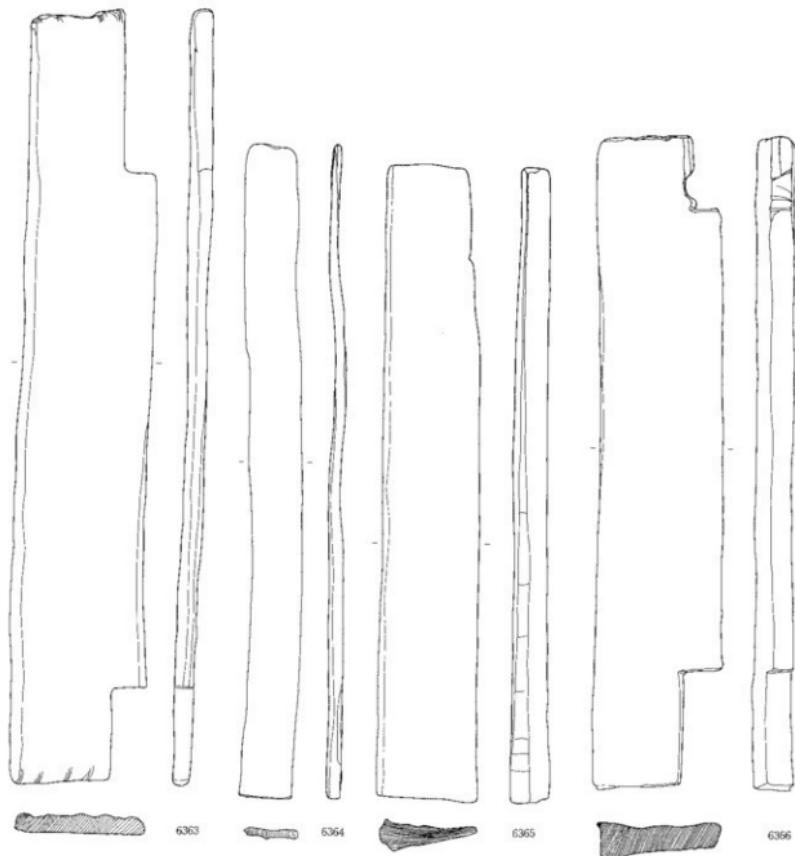
図面二四五 遺物実測図 麻生谷遺跡平成七年度調査地区



第2区木製品 井戸側縦板；6359～6362

縮尺1/8

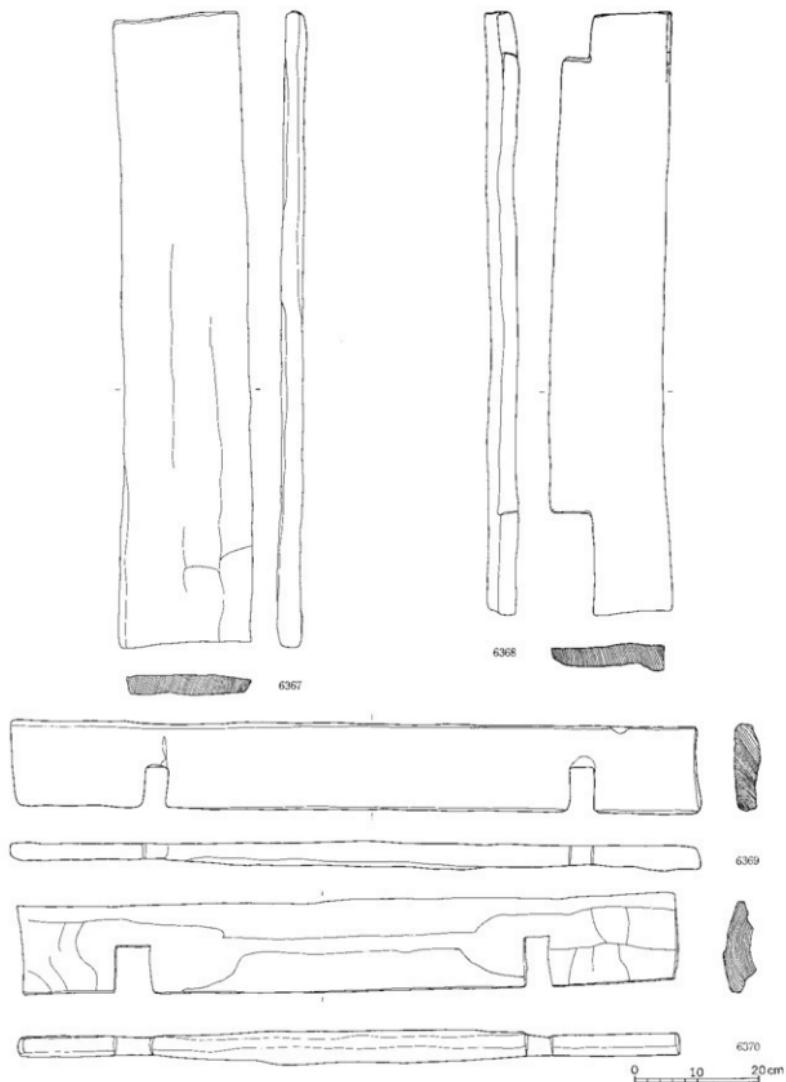
0 10 20 cm



0 10 20cm

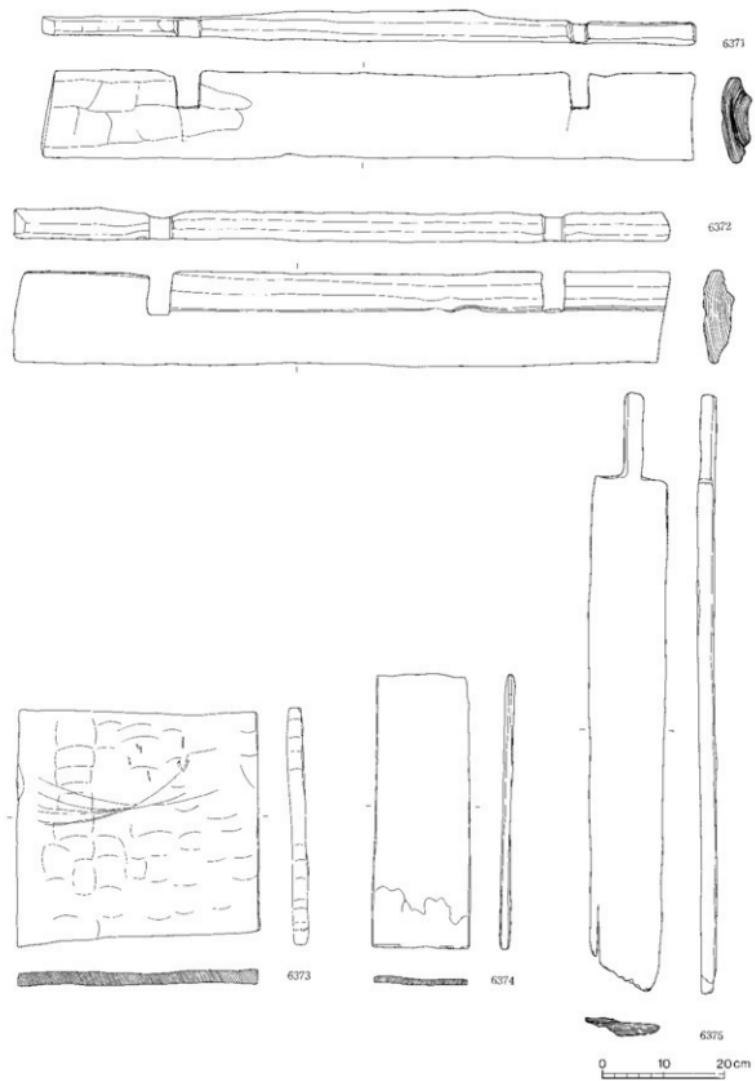
第2区木製品 井戸側縦板；6363～6366

縮尺1/8



第2区木製品 井戸側縦板；6367・6368、井戸側横棟；6369・6370

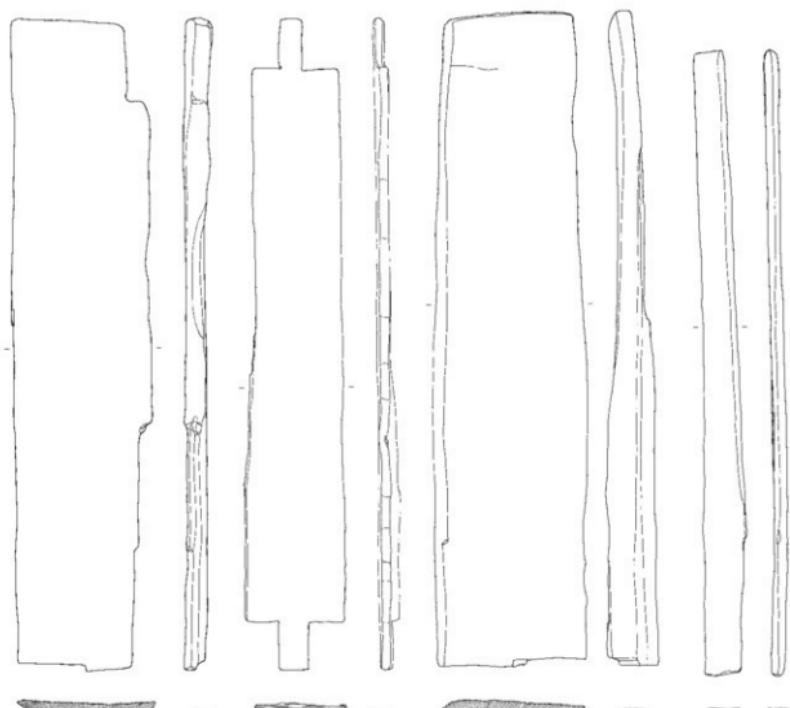
縮尺1/8



第2区木製品 井戸側横棟；6371・6372, 井戸側横板；6373
井戸側縦板；6374・6375

縮尺1/8

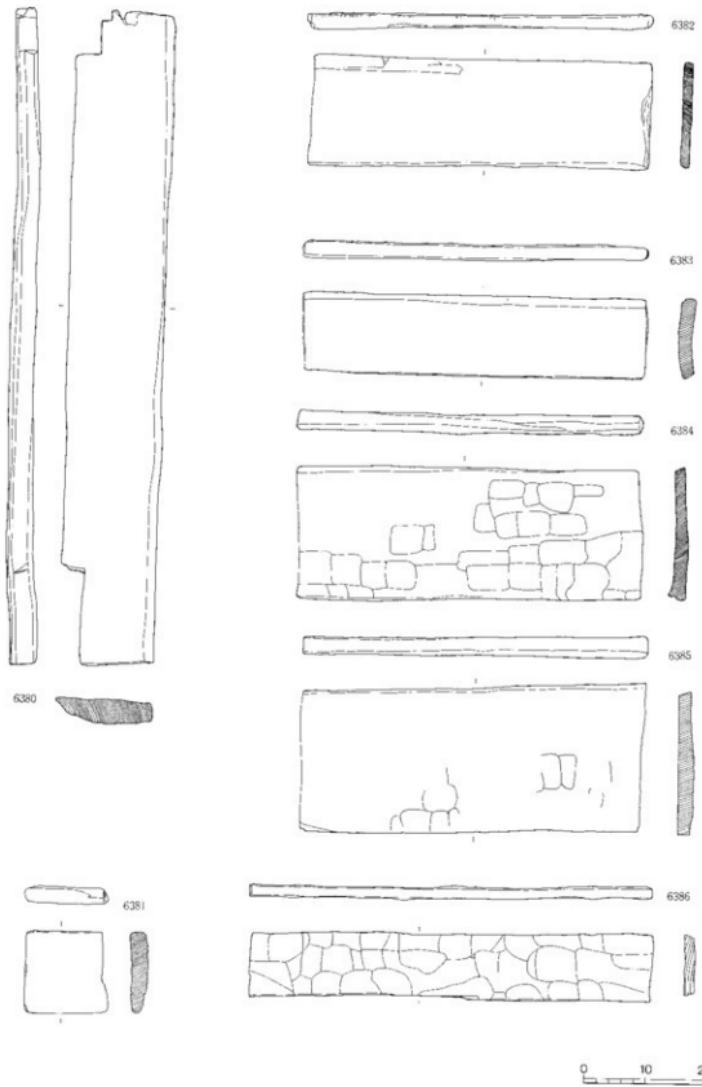
図面一四九 遺物実測図
麻生谷遺跡平成七年度調査地区



0 10 20 cm

第2区木製品 井戸側縦板；6376~6379

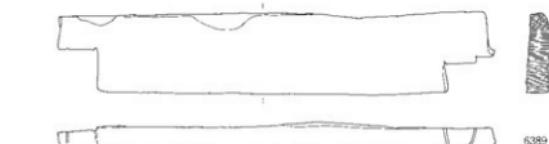
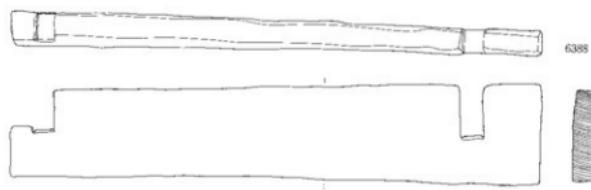
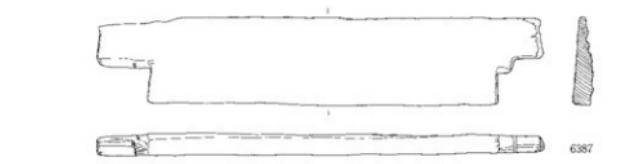
縮尺1/8



第2区木製品 井戸側縦板；6380・6381, 井戸側横板；6382～6386

縮尺1/8

0 10 20 cm



0 10 20 cm

第2区木製品 井戸側横桟；6387～6390

縮尺1/8



6501



6502

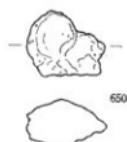


5 cm

0



6503



6504



6505



6506



6507

10 cm

0

5



6601

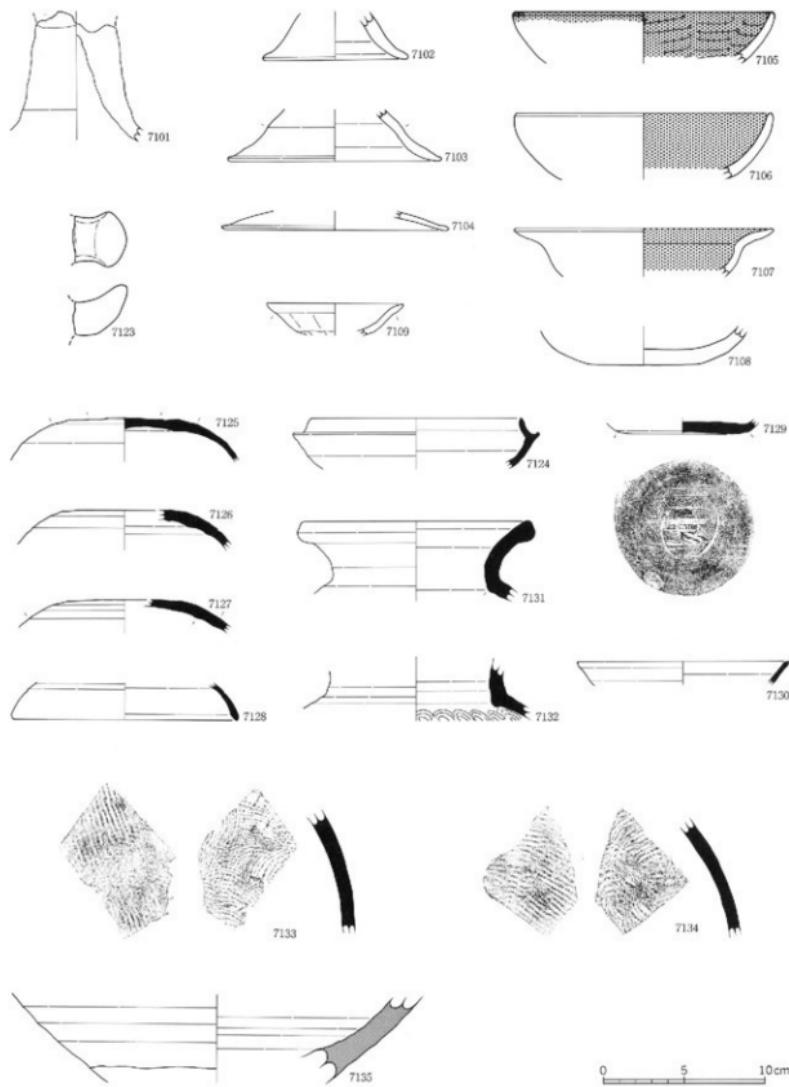


0 5 10 cm

第2区銅、鉄・石製品

錢貨；6501・6502、鐵滓；6503・6504、釘；6505、
用途不明品；6506・6507、磨石；6601

縮尺実大、½、½



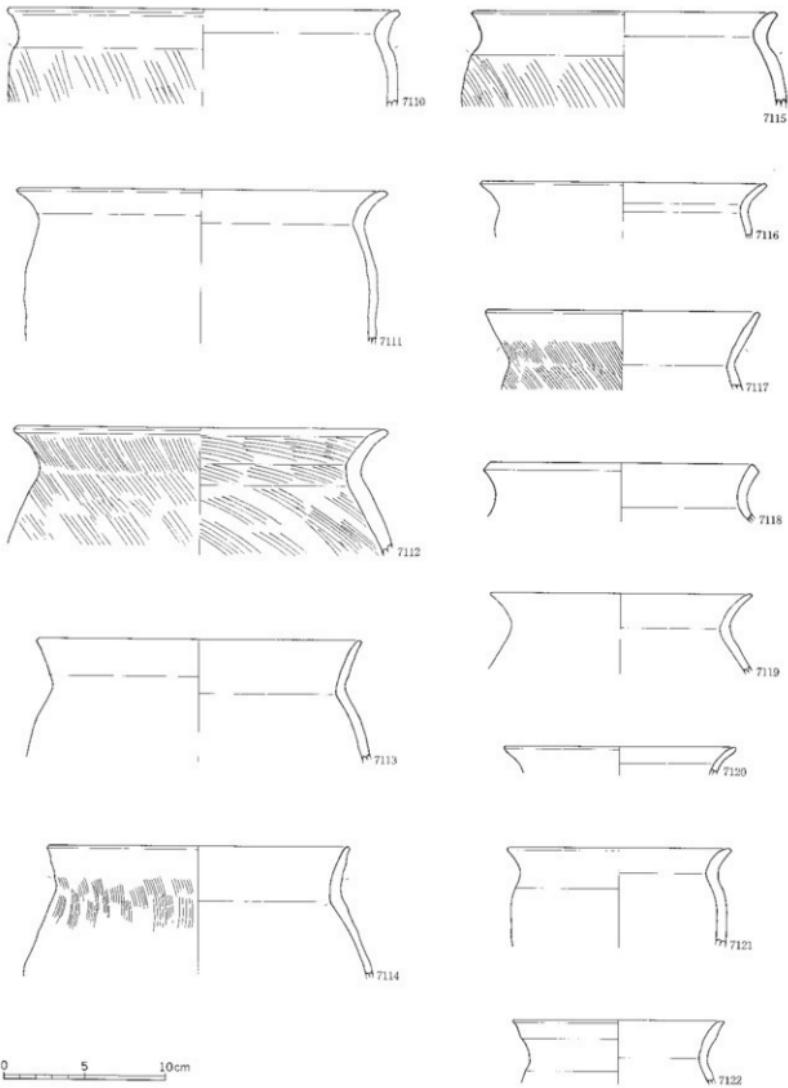
土器類 土師器；7101~7109・7123；須恵器；7124~7134，株洲；7135

縮尺 $\frac{1}{3}$

圖面二五四

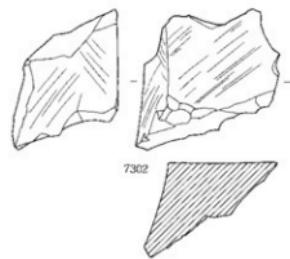
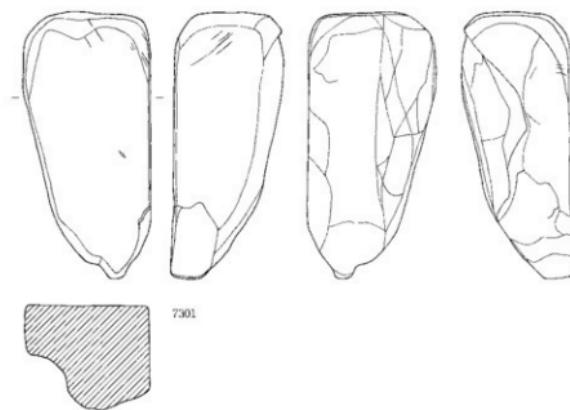
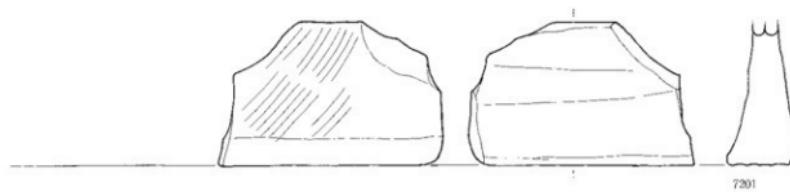
遺物実測図

新生園遺跡平成四年度調査地区



土器類 土師器；7110~7122

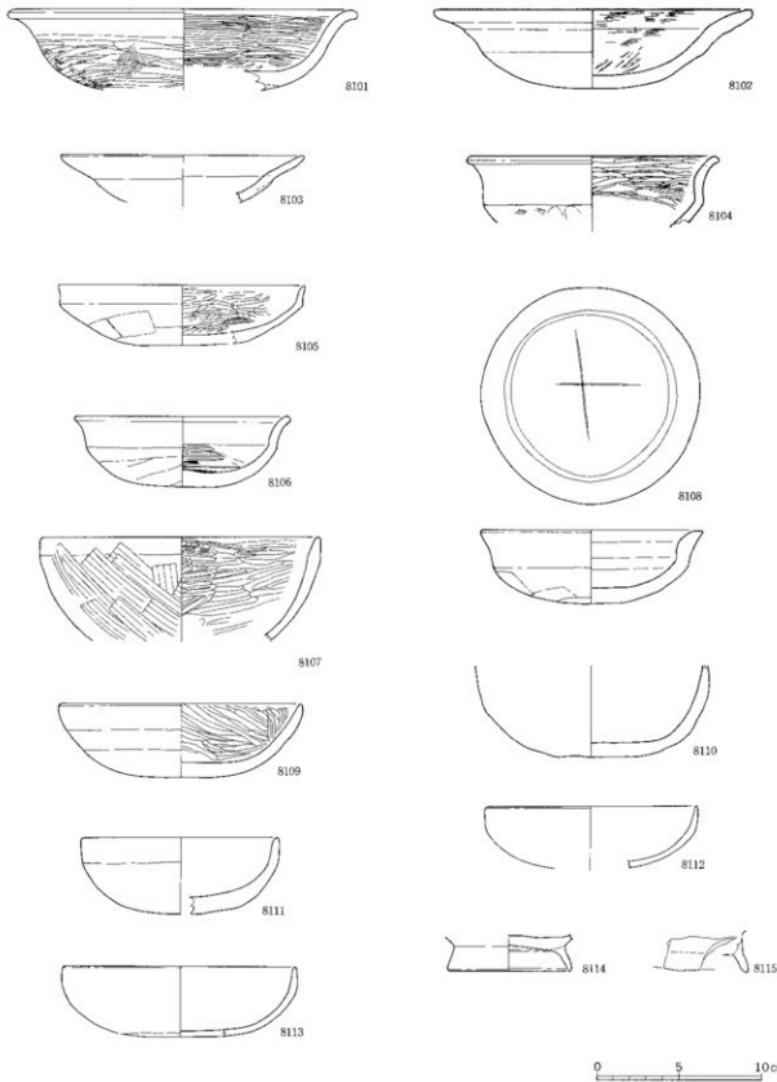
縮尺 1/3



0 5 10 cm

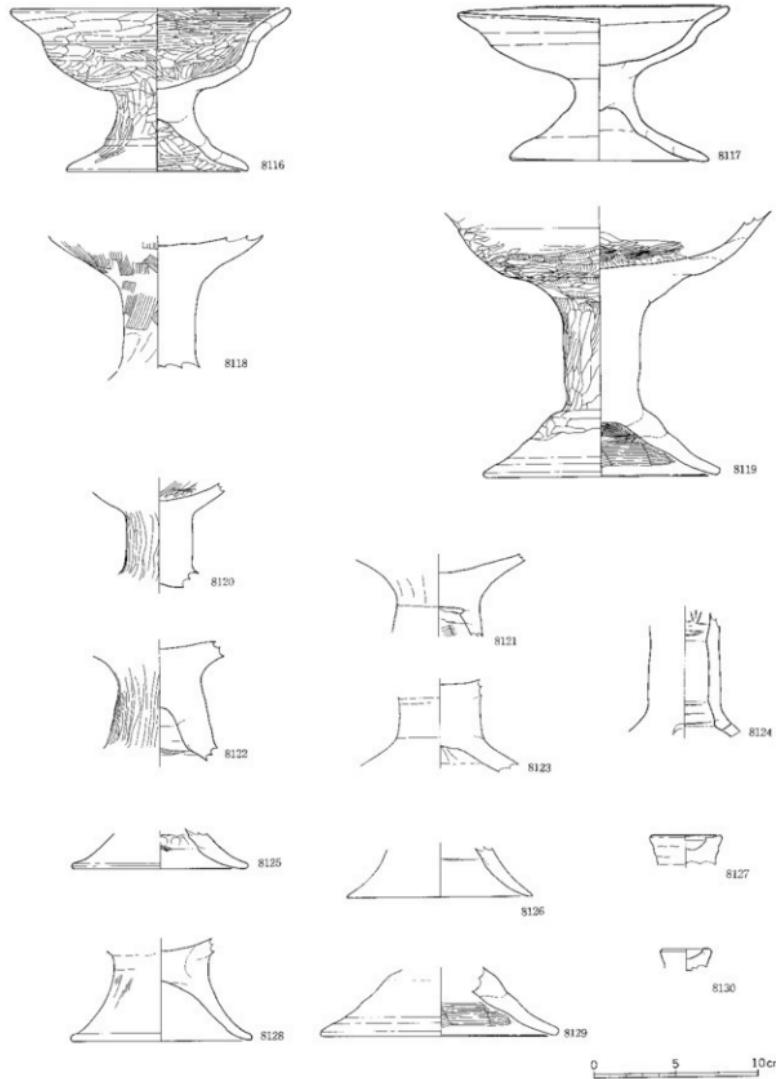
土製品、石製品 置き甌；7201、砥石；7301・7302

縮尺 $\frac{1}{2}$



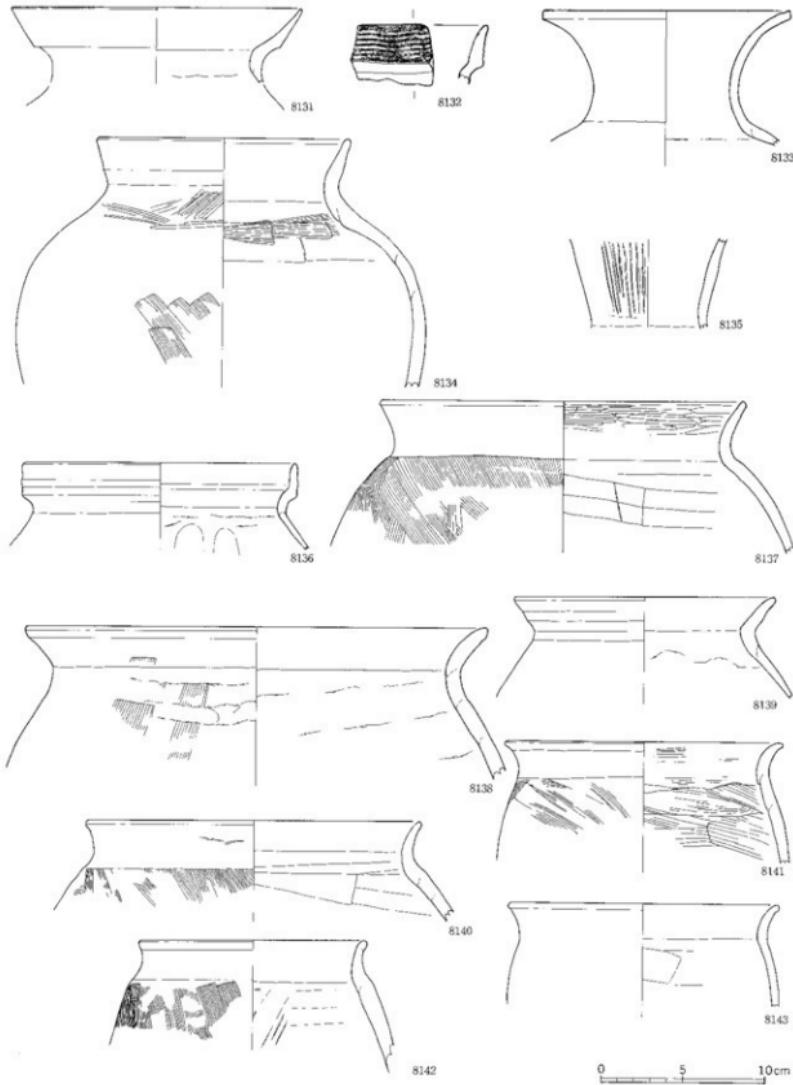
土器類 土師器；8101～8115

縮尺 $\frac{1}{3}$



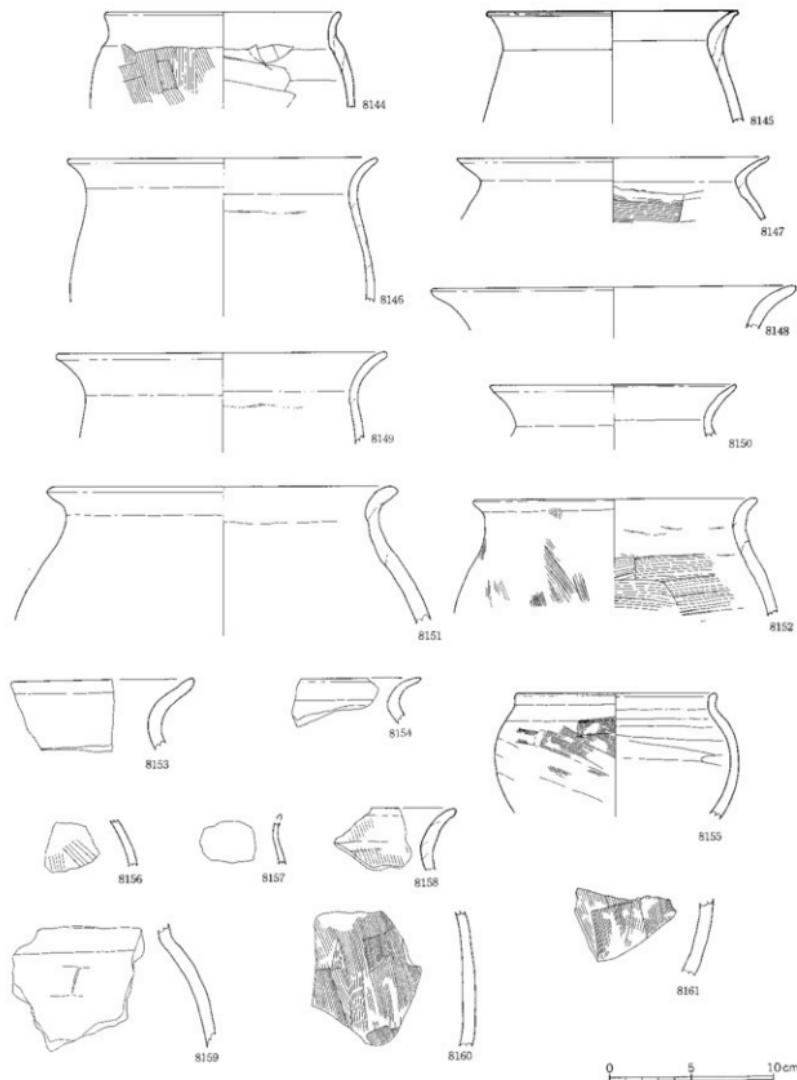
土器類 土師器：8116～8130

縮尺1/3



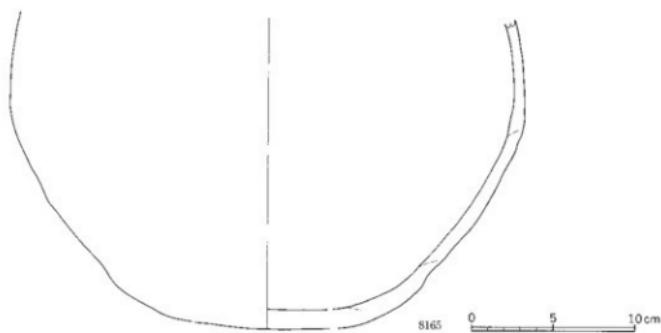
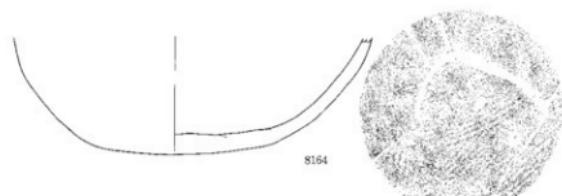
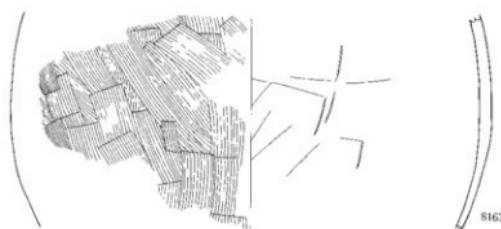
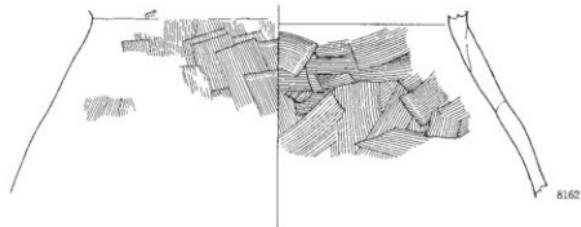
土器類 土師器；8131～8143

縮尺 $\frac{1}{3}$



土器類 土師器；8144~8161

縮尺1/3



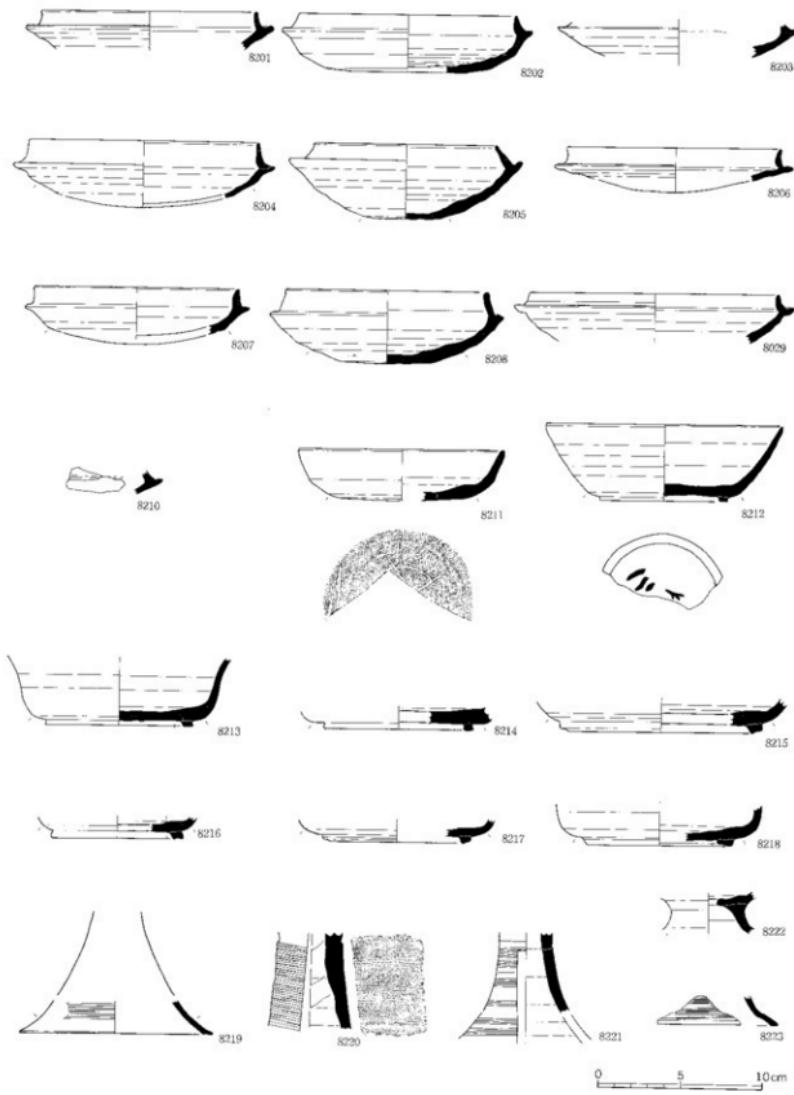
土器類 土師器；8162～8165

縮尺 $\frac{1}{3}$



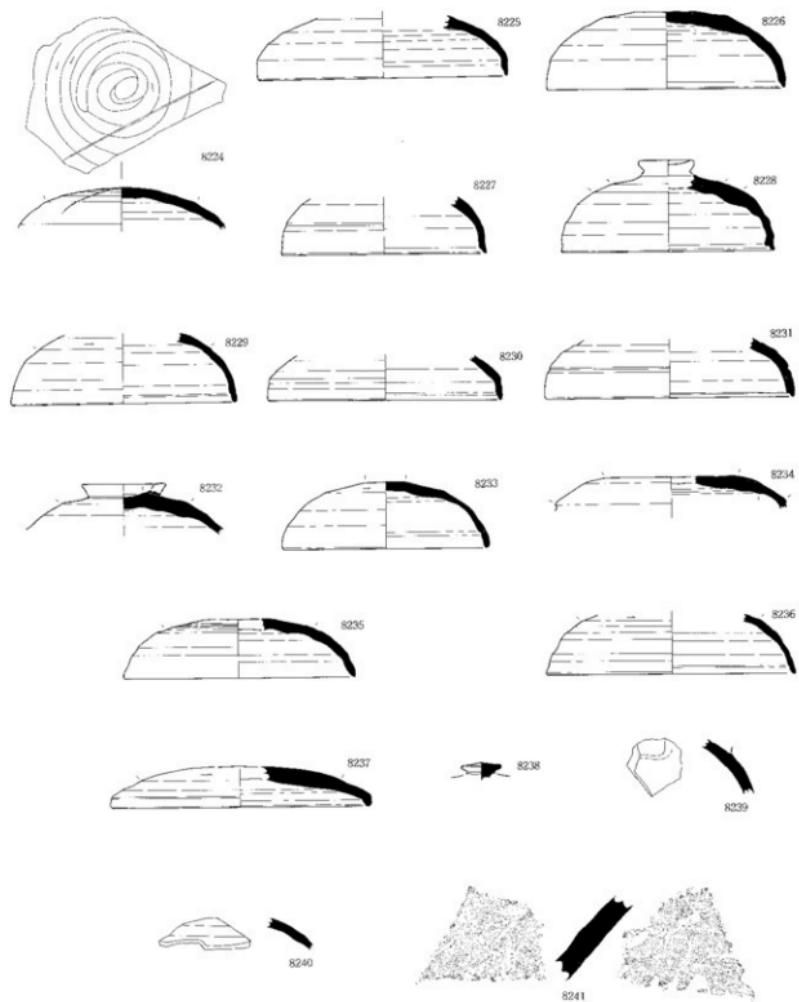
土器類 土師器；8166~8184

縮尺1/3



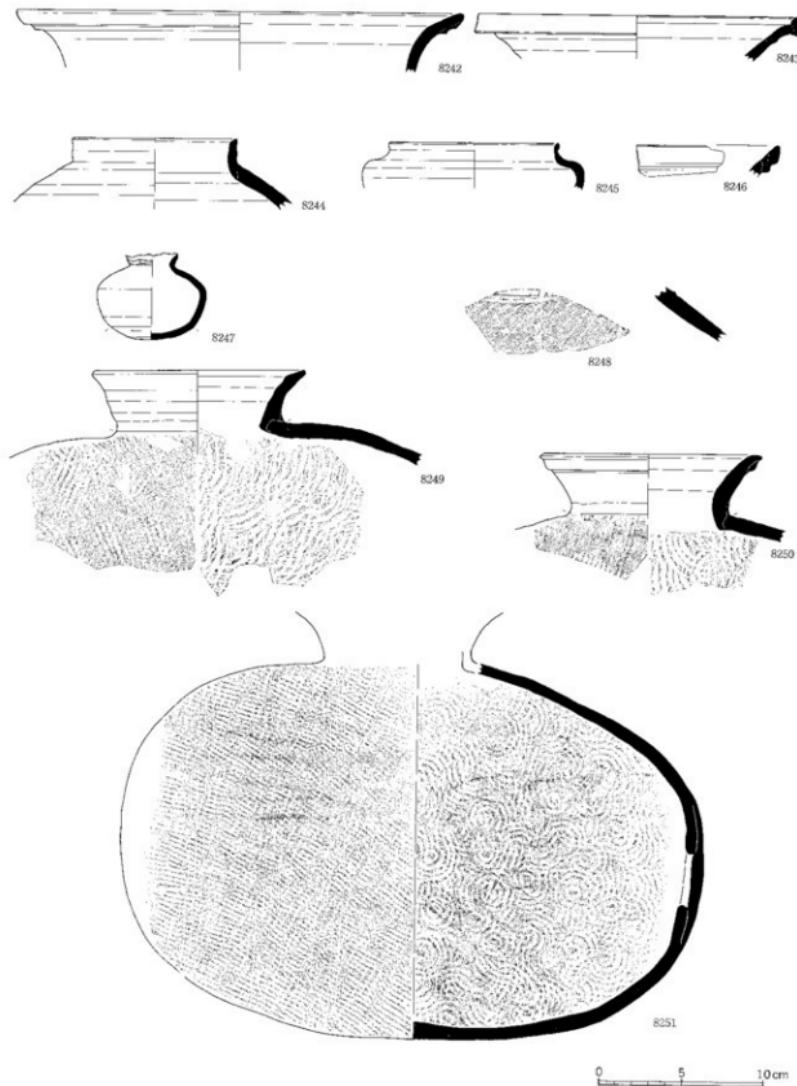
土器類 須恵器；8201～8223

縮尺1/3



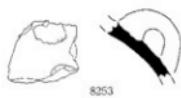
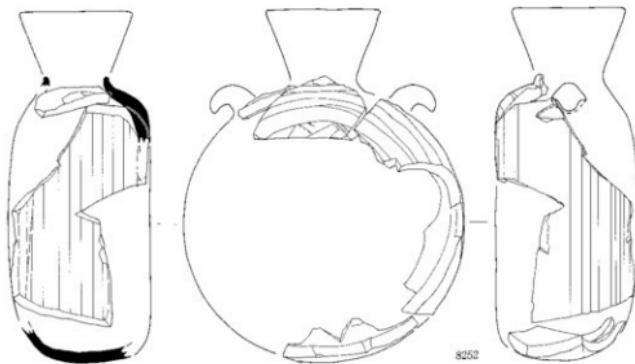
土器類 須恵器；8221～8241

縮尺1/3



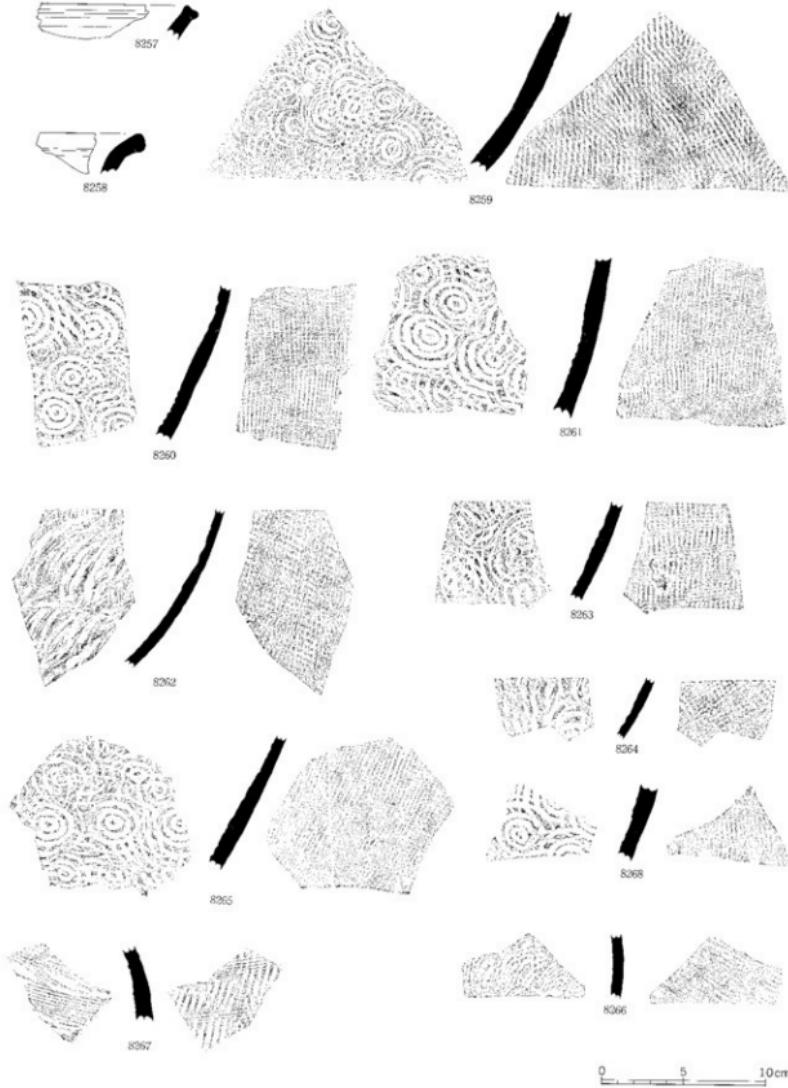
土器類 須恵器：8242～8251

縮尺1/3



土器類 須恵器；8252～8256

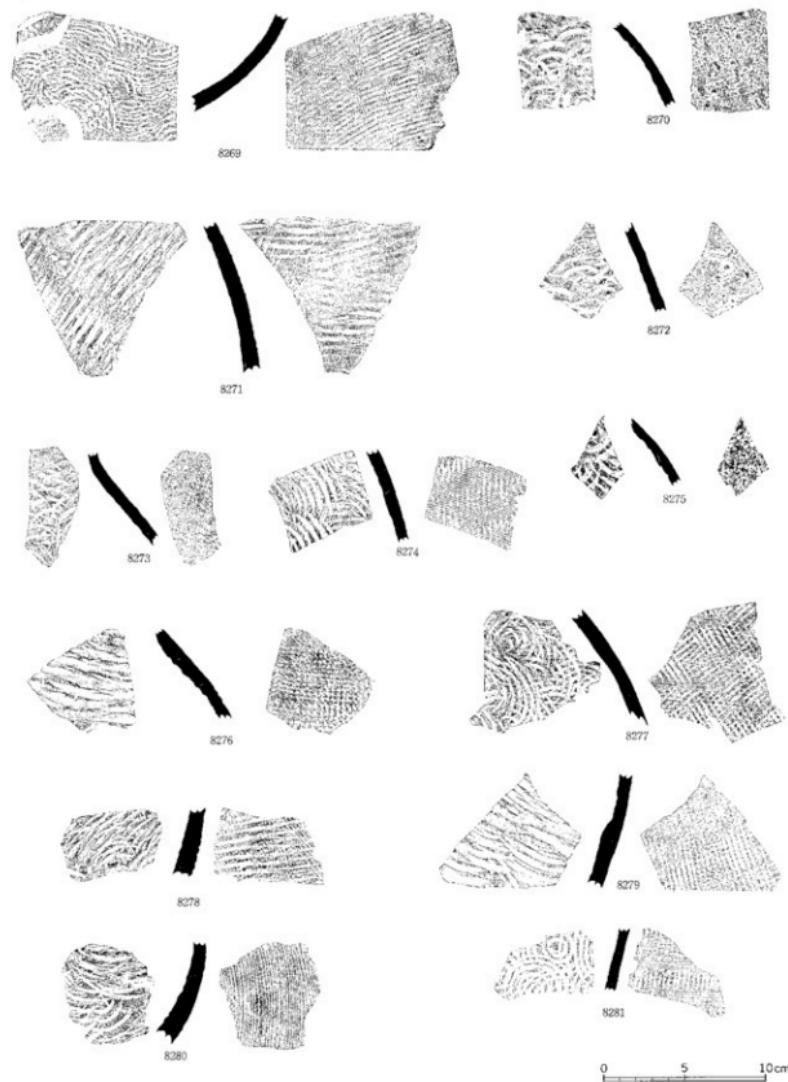
縮尺1/3



土器類 須恵器；8257～8266

縮尺1/2

図面二六七 遺物実測図 新生園遺跡平成六年度調査地区



0 5 10cm 縦尺 $\frac{1}{3}$

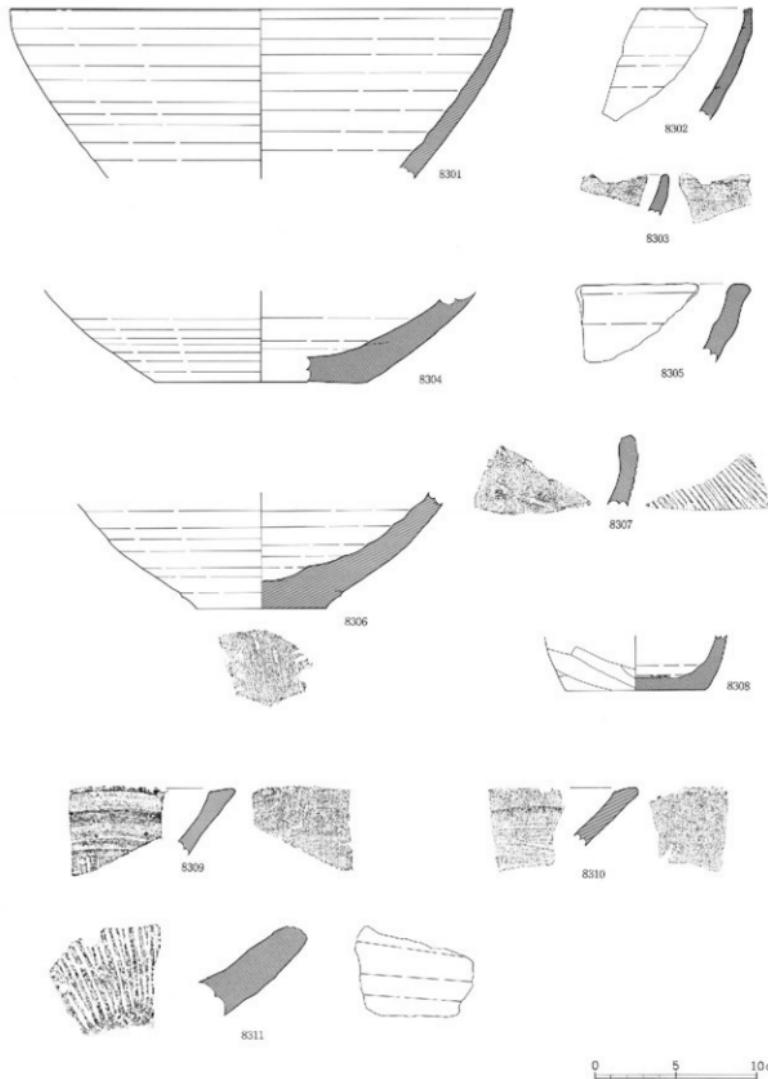
土器類 須恵器；8269～8281

縦尺 $\frac{1}{3}$

圖二六八

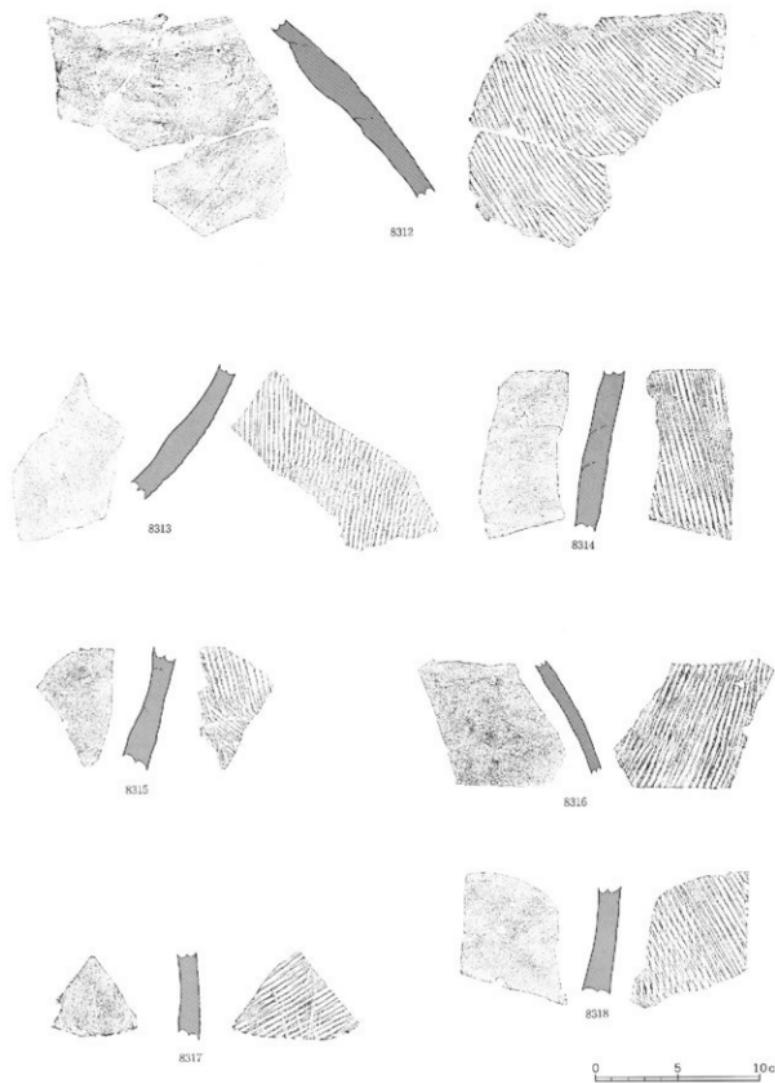
遺物実測図

新生園遺跡平成八年調査地区



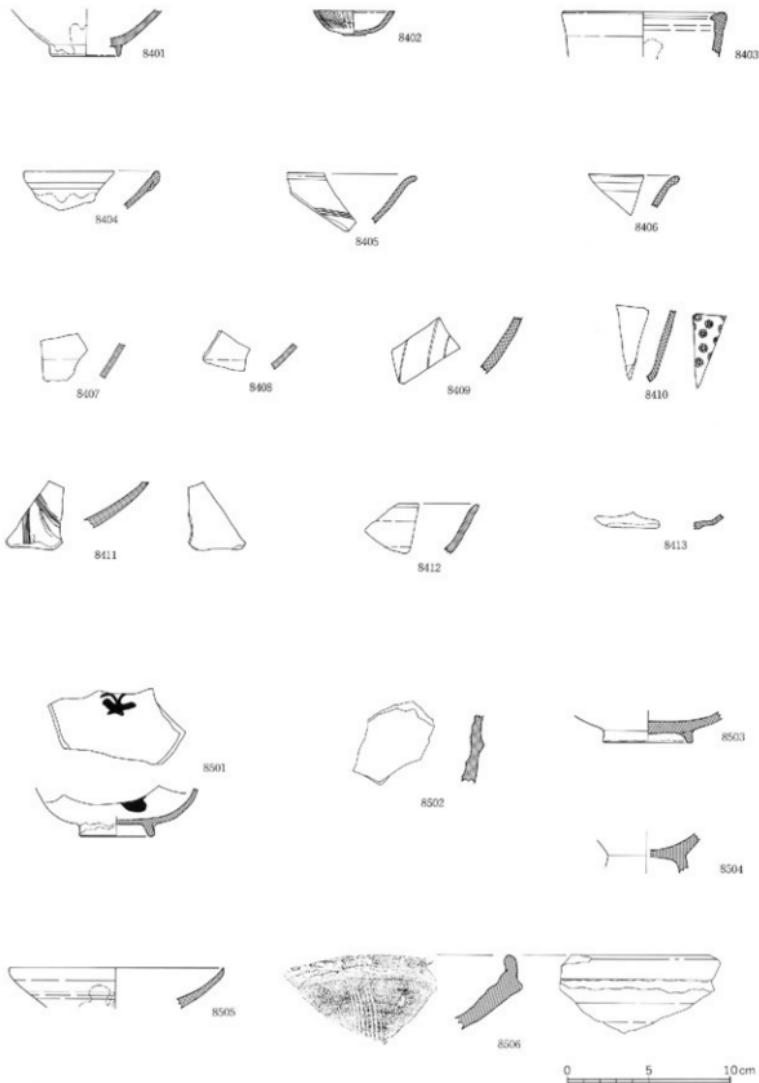
土器類 珠洲；8301～8311

縮尺 $\frac{1}{3}$



土器類 珠洲；8312～8318

縮尺 $\frac{1}{3}$



土器類 白磁；8401・8402・8404，青磁；8403・8405～8412，
灰釉陶器；8413，瀬戸美濃；8502・8504・8505，
志野織部；8501，志野；8503，越前；8506

縮尺1/3



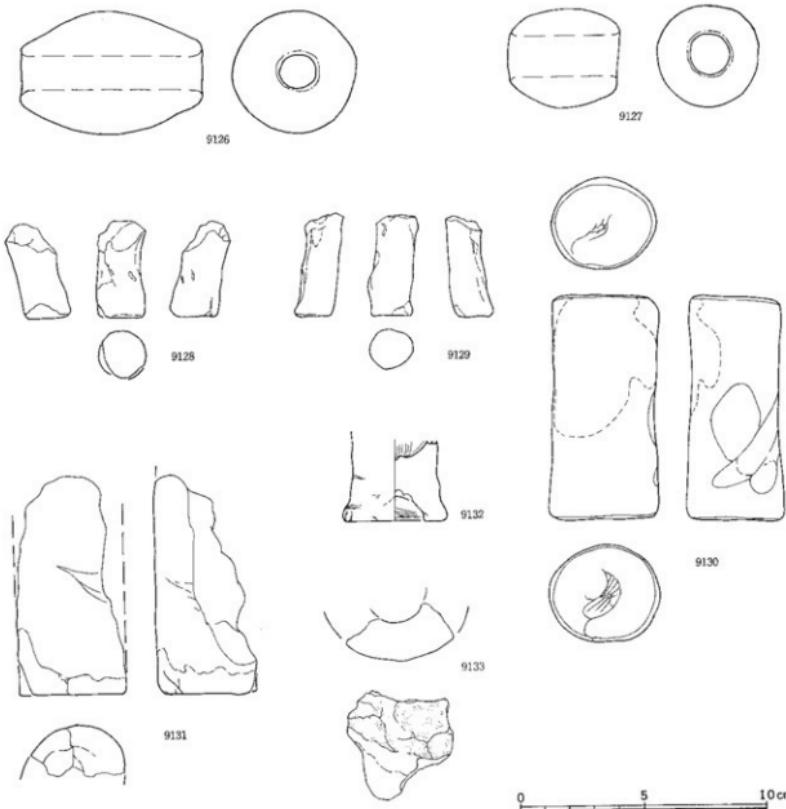
土製品 置き甌：9101～9109

縮尺1/3



土製品 置き甕；9110～9124、支脚；9125

縮尺1/3



土製品・銅製品

土鉢；9126・9127、脚部土製品；9128・9129、
支脚；9130・9131、ミニチュア土器；9132、輪羽口；9133、
銭貨；9301・9302

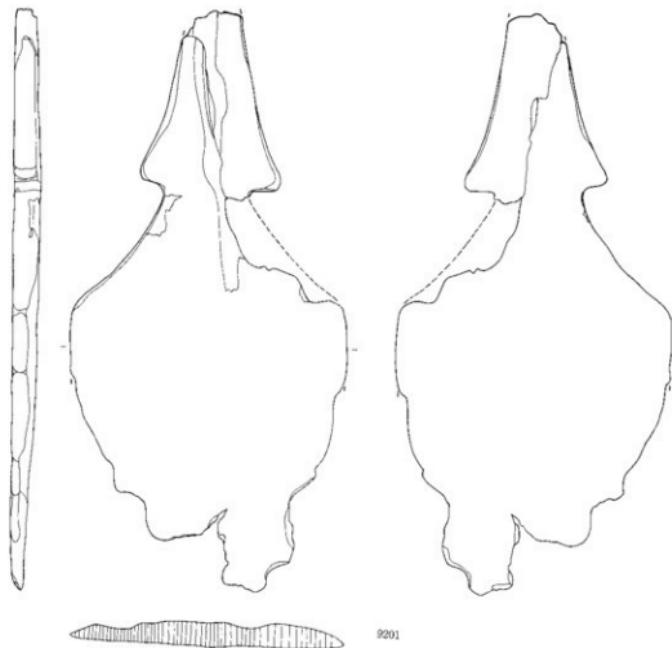
縮尺½、実大

0 5 cm

図面二七四

遺物実測図

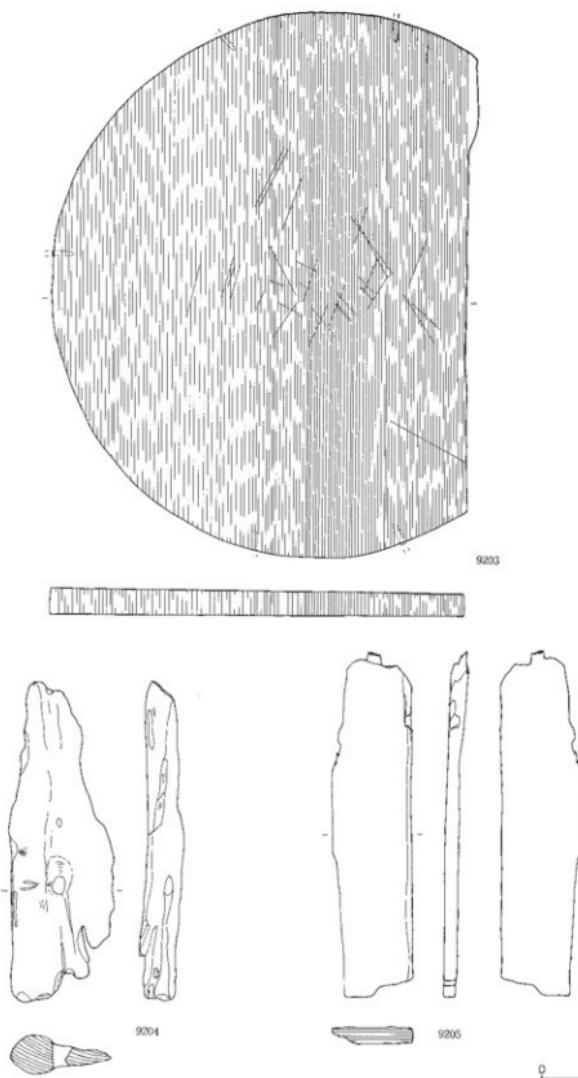
新生園遺跡平成六年度調査地区



0 5 10cm

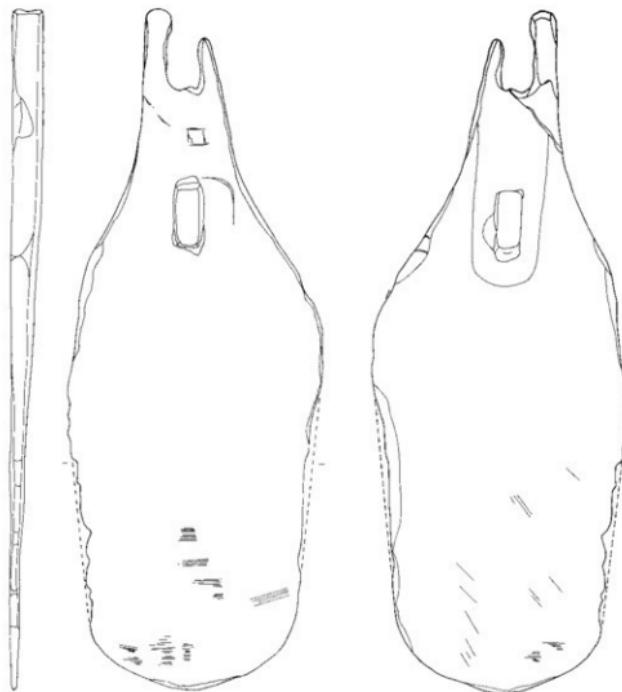
木製品 ナスピ型膝柄鉗；9201、分割材；9202

縮尺 $\frac{1}{3}$

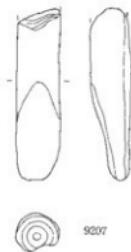


本製品 円形曲物底板；9203，分割材；9204，板；9205

縮尺1/3



9206



9207

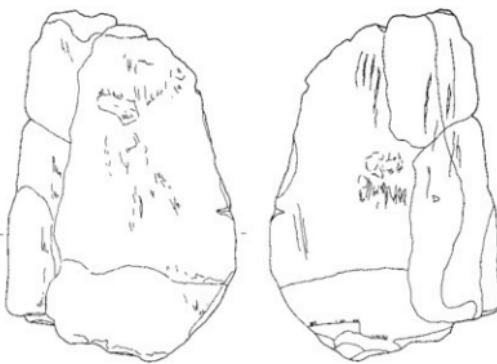


9208 0 5 10 cm

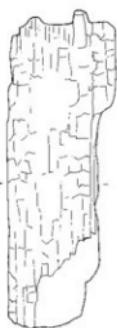
木製品 組合せ鉤；9206、杭；9207・9208

縮尺3/4

図面二七七 遺物実測図 新生園遺跡平成八年度調査地区



9209



9210

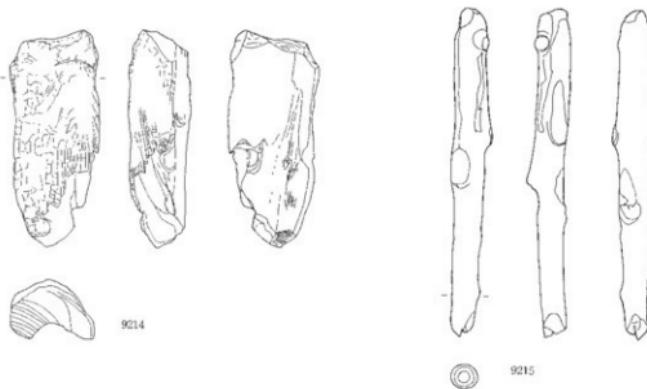
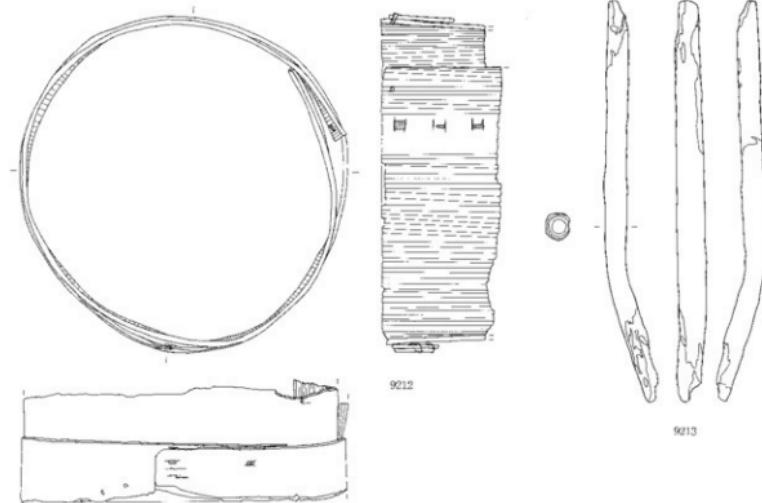


9211

0 5 10cm

木製品 分割材；9209・9210、杭；9211

縮尺3/4

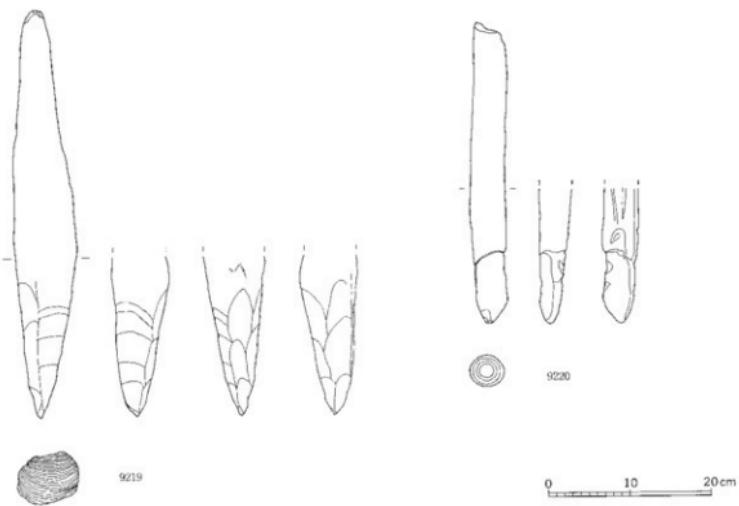
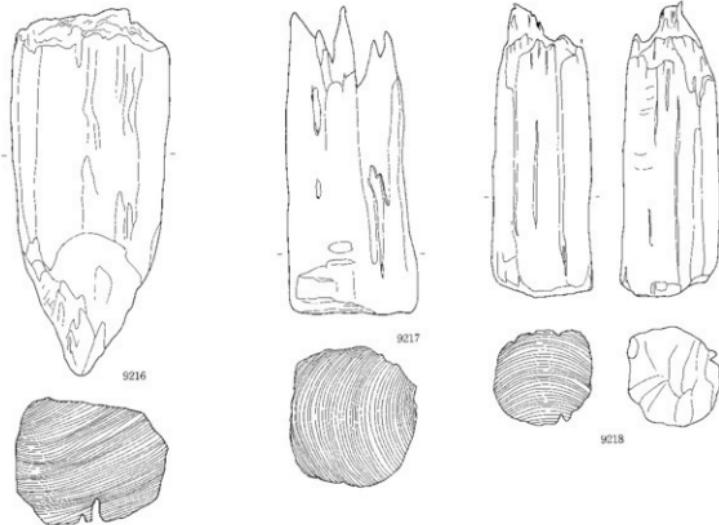


0 10 20 cm

木製品 円形曲物；9212，杭；9213・9215，分割材；9214

縮尺%

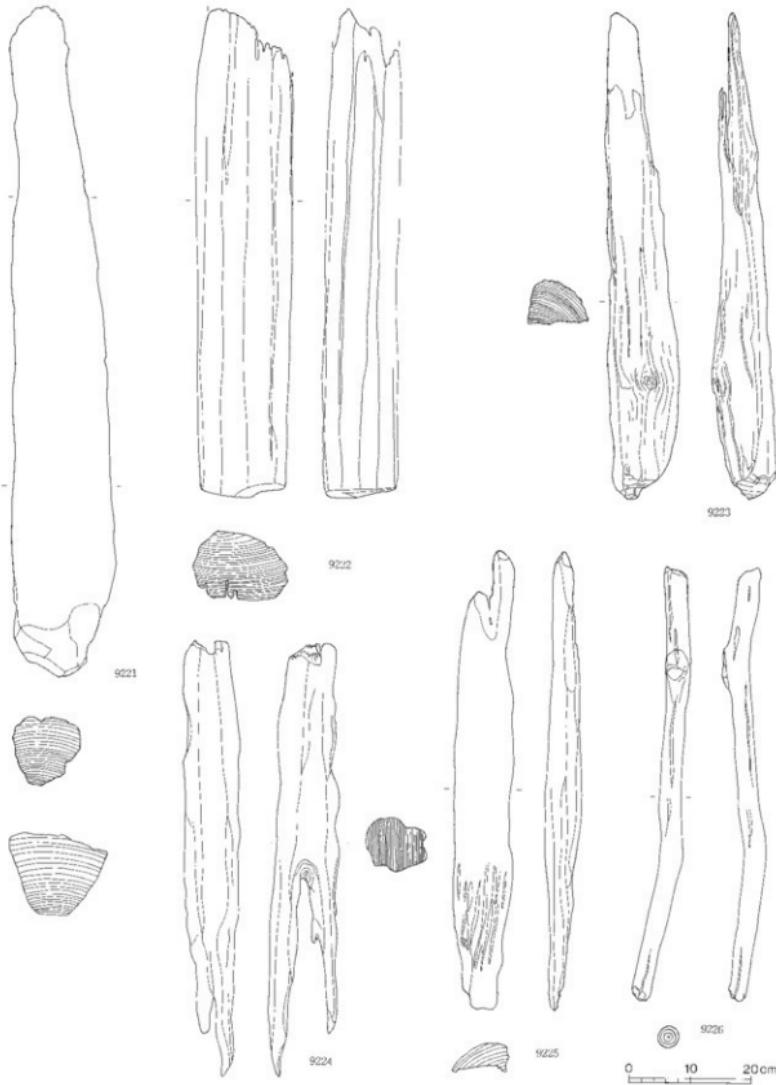
圖面二七九 遺物実測図 新生園遺跡平成六年度調査地区



木製品 杭 ; 9216~9220

縮尺 $\frac{1}{6}$

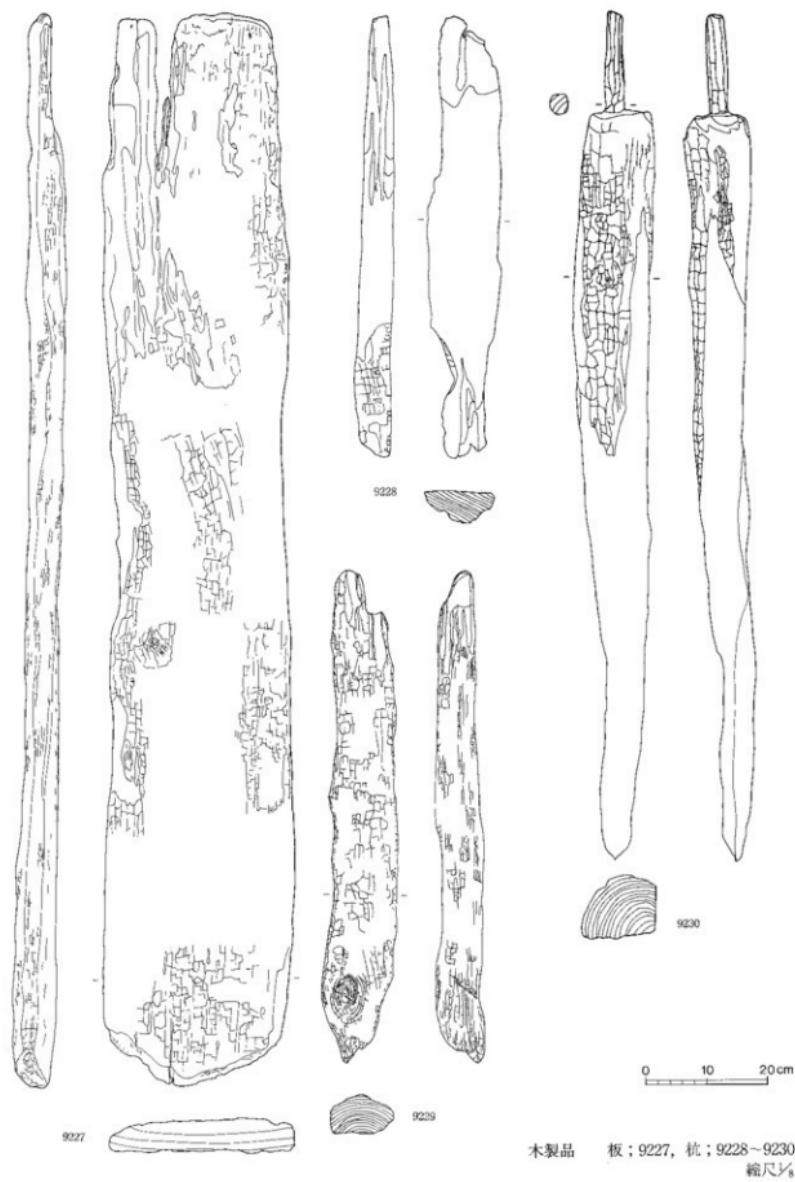
圖面二八〇 遺物実測図
新生園遺跡竪成六年度調査地区

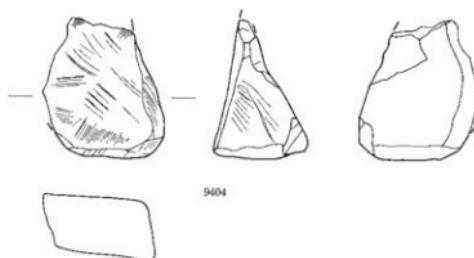
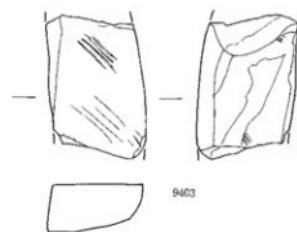
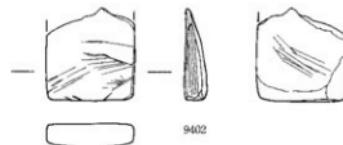
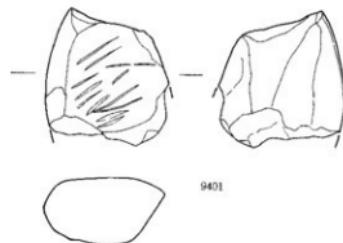


木製品 杖; 9221~9226

縮尺1/8

図面二八一 遺物実測図 新生園遺跡平成六年度調査地区

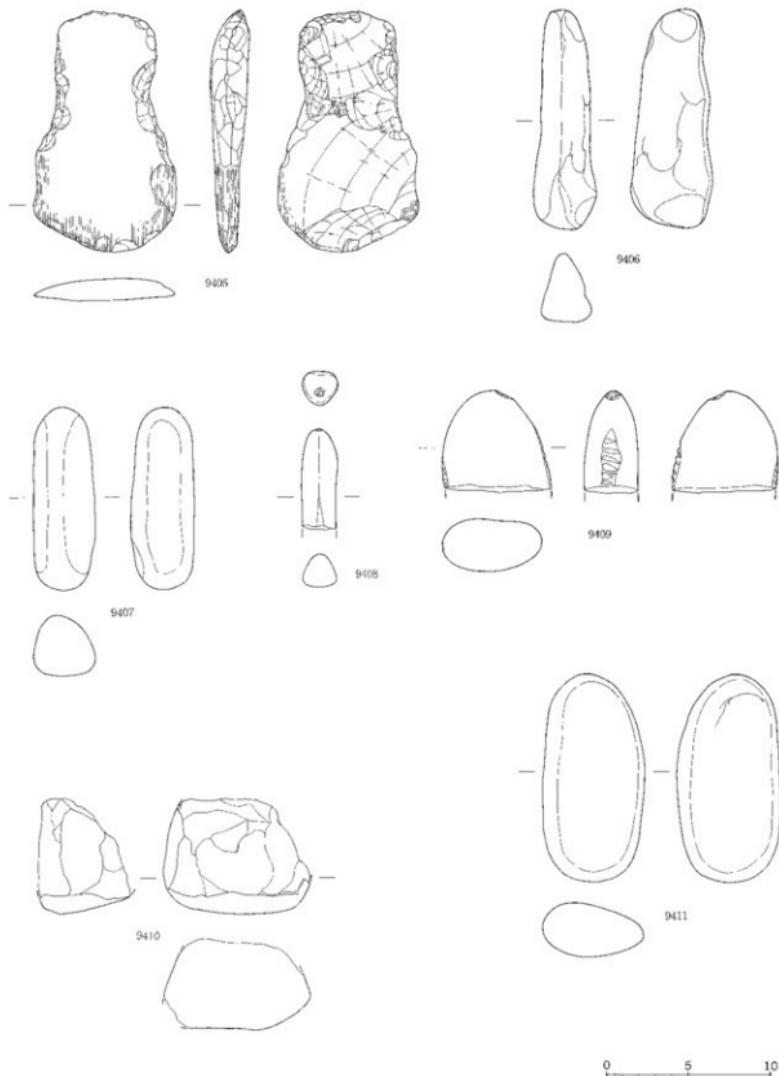




0 5 10cm

石製品 砥石；9401～9404

縮尺 $\frac{1}{2}$



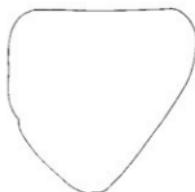
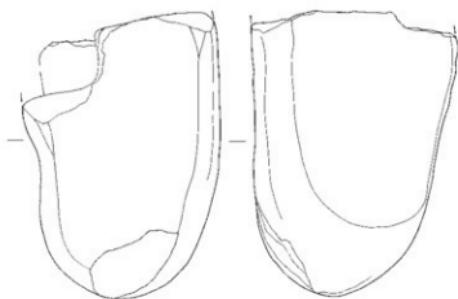
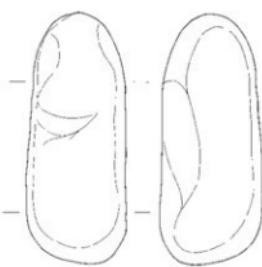
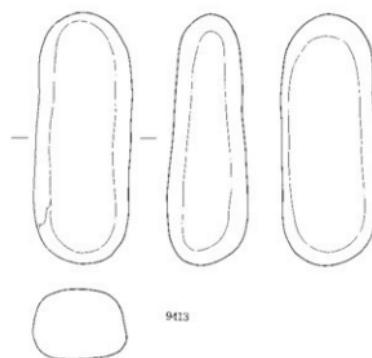
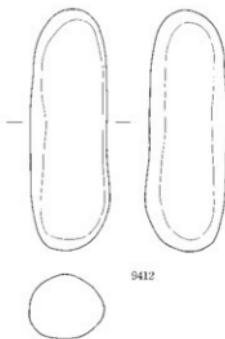
石製品 打製石斧；9405, 蔽石；9406～9409, 磨石；9410, こも編み石；9411

縮尺1/3

圖面二八四

遺物実測図

新生園遺跡平成六年度調査地区



0 5 10cm

石製品 こも編み石：9412～9414, 磨石：9415

縮尺 $\frac{1}{3}$

図版〔1〕遺構写真



1. 全景（南東）



2. 全景（東）



1. 第1区全景（西）



2. 第1区全景（西）



1. 第1区全景（北）



2. 第1区全景（南）



1. 第2区西側全景（北）



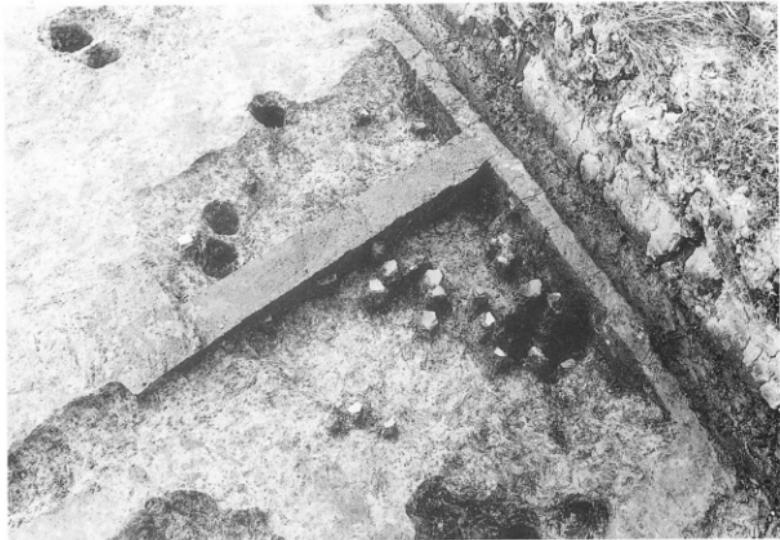
2. 第2区西側全景（南）



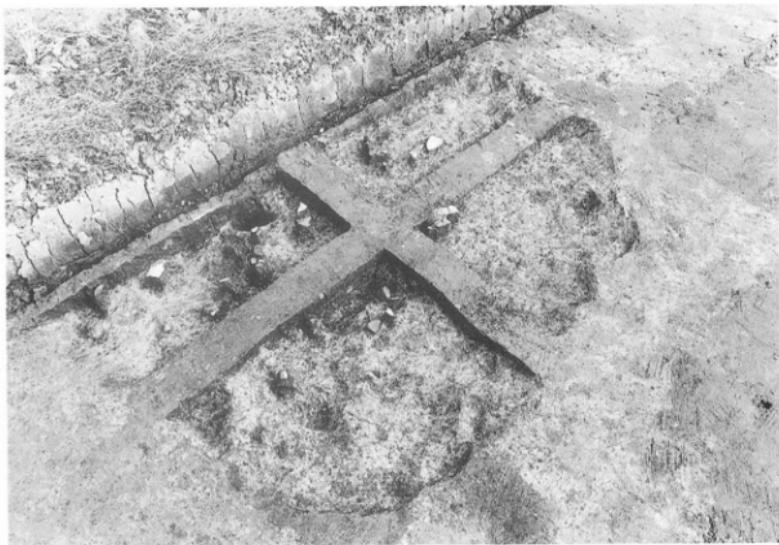
1. 第2区東側全景（北）



2. 第2区東側全景（南）



1. 第2区土坑SK 108全景(南東)



2. 第2区竖穴状遺構SX 104全景(南西)



1. 第2区溝SD 109 全景（南東）



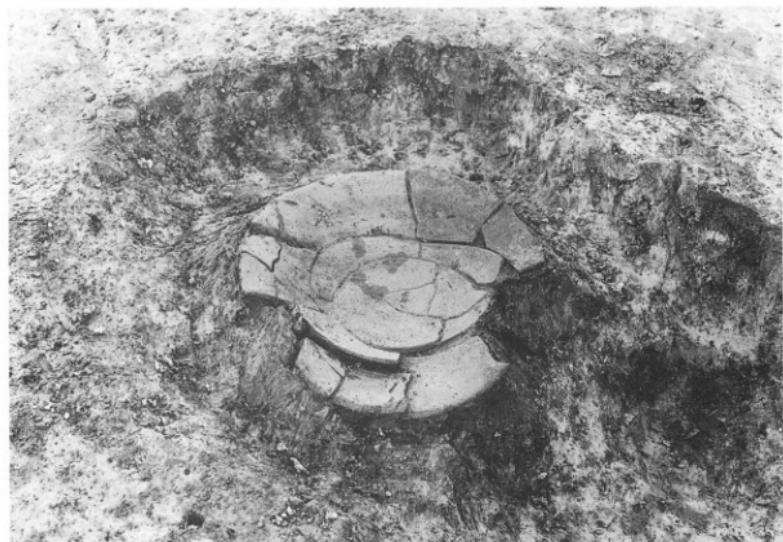
2. 第2区溝SD 109 全景（北西）



1. 第2区溝SD 109 土層断面（南東）



2. 第2区溝SD 109 土層断面（北）



1. 第2区溝S D 129遺物出土状態（南西）



2. 第2区溝S D 129遺物出土状態（北西）



1. 第2区溝SD 134 遺物出土状態（南西）



2. 第2区溝SD 134 遺物出土状態（北西）



1. 第2区溝SD 136 全景（西）



2. 第2区溝SD 138 全景（北西）



1. 第2区調査風景（西）



2. 第2区調査風景（東）



3. 第2区調査風景（南東）



1. 第3区全景（北）



2. 第3区全景（南）



1. 第3区全景（東）



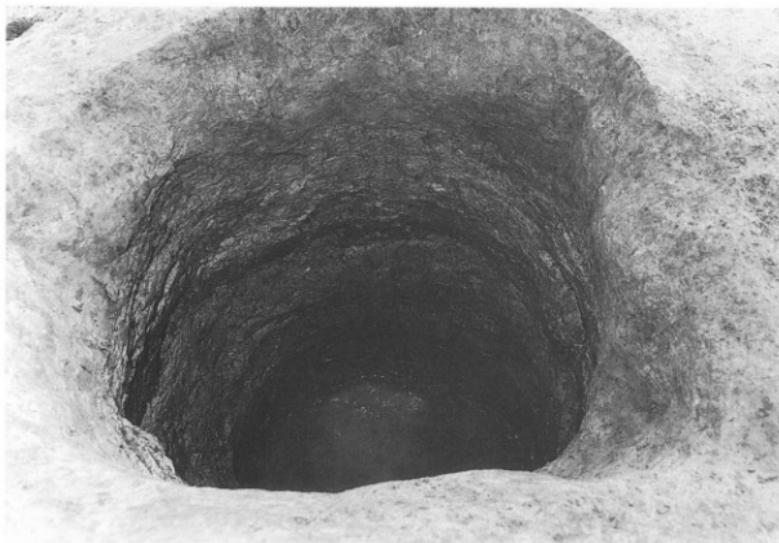
2. 第3区全景（東）



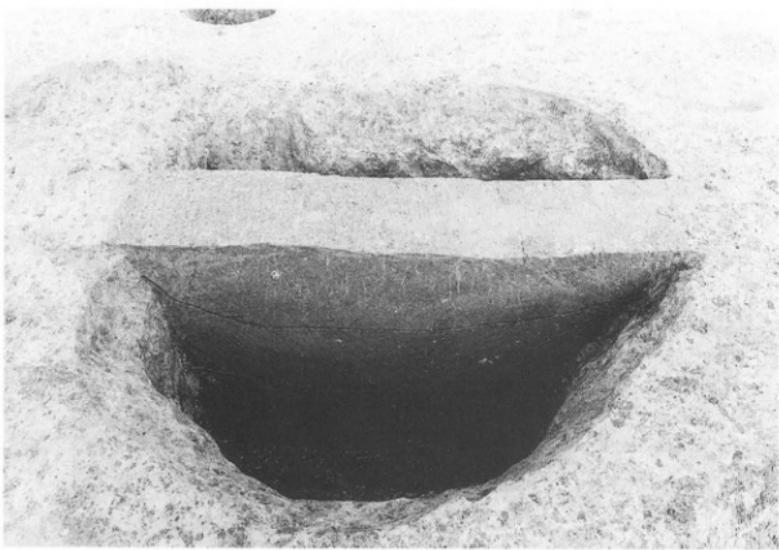
1. 第3区井戸址 S E01全景（南）



2. 第3区井戸址 S E01全景（北）



1. 第3区井戸址 S E01近景（北）



2. 第3区井戸址 S E01土層断面（南）



1. 第3区井戸址S E01遺物出土状態（東）



2. 第3区井戸址S E01遺物出土状態（南東）



1. 第3区溝SD 142 全景（南東）



2. 第3区溝SD 142 全景（北西）



1. 第3区溝SD 142 土層断面（南）



2. 第3区溝SD 142 土層断面（南）



1. 第3区調査風景（南東）



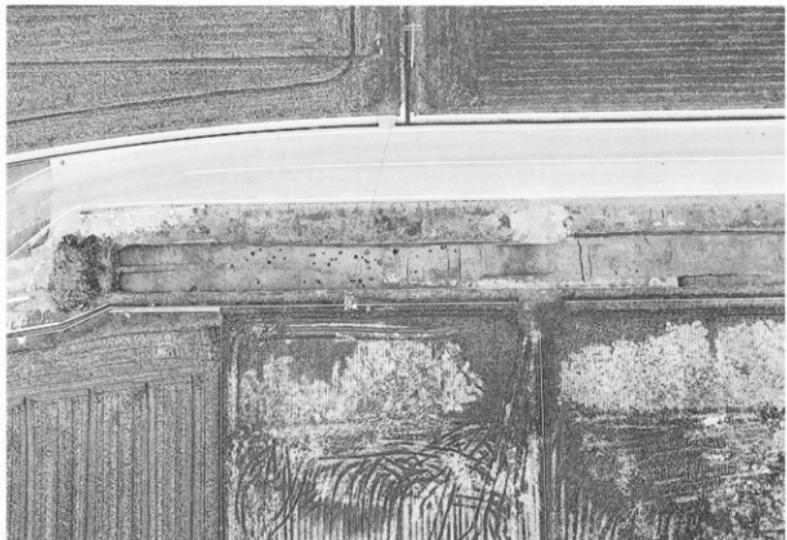
2. 第3区調査風景（南西）



3. 第3区調査風景（南東）



1. 第1区西側全景（南上方）



2. 第1区西側全景（上方）



1. 第1区西側全景（西上方）



2. 第1区西側全景（東上方）



1. 第1区西側全景（南上方）



2. 第1区西側全景（北上方）



1. 第1区東側全景（東上方）



2. 第1区東側全景（西上方）



1. 第1区東側全景（北上方）



2. 第1区東側全景（南上方）



第1区東側近景（東）



1. 第1区井戸址 S E 201 板材出土状態（南東）



1. 第1区井戸址 S E 201 板材出土状態（北）



1. 第1区井戸址 S E 201 木組検出状態（北）



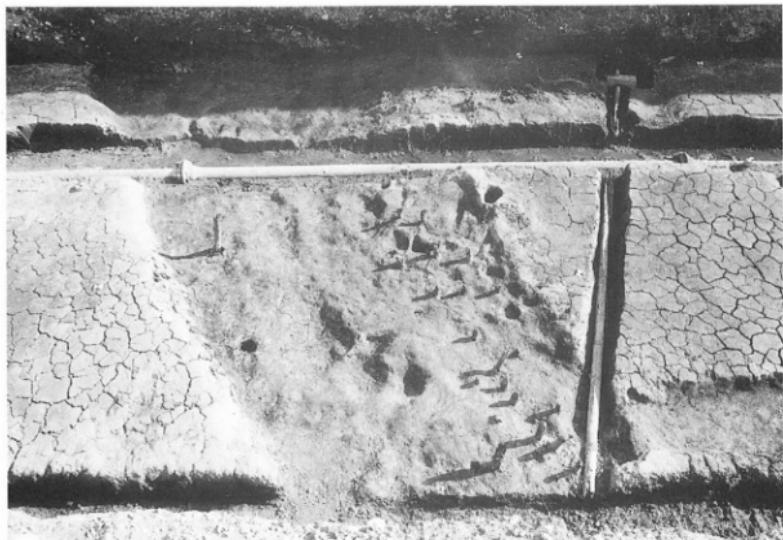
2. 第1区井戸址 S E 201 木組検出状態（北）



1. 第1区井戸址 S E 201 木組検出状態（東）



2. 第1区井戸址 S E 201 木組検出状態（西）



1. 第1区溝SD 201, 203 全景(北)



2. 第1区溝SD 235 全景(南)



1. 第1区調査風景（東）



2. 第1区調査風景（東）



3. 第1区調査風景（北西）



1. 第2区西側全景（東上方）



2. 第2区西側全景（西上方）



1. 第2区西側全景（北西上方）



2. 第2区西側全景（北東）



1. 第2区東側全景（北西上方）



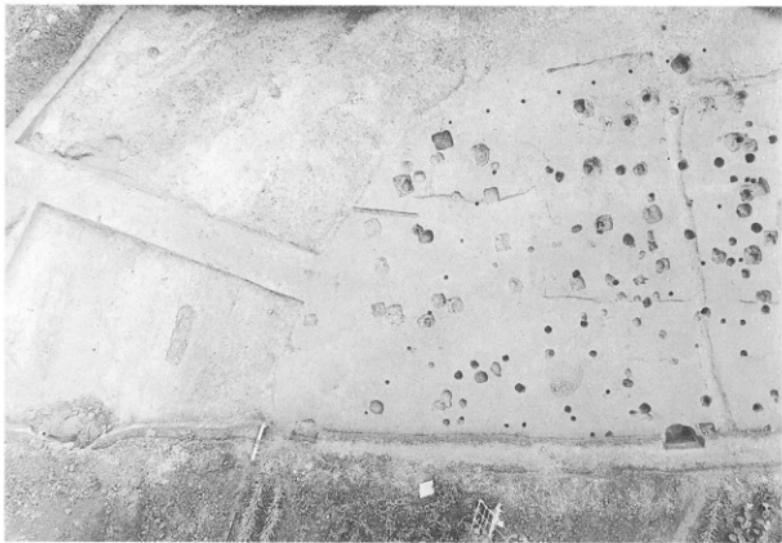
2. 第2区東側全景（南東上方）



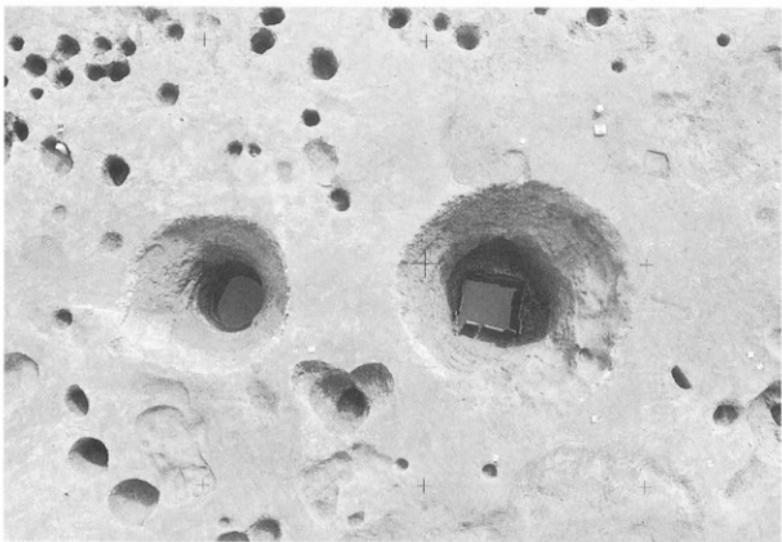
1. 第2区東側全景（西上方）



2. 第2区東側全景（南上方）



1. 第2区中央部全景（北上方）



2. 第2区井戸址付近全景（上方）



1. 第2区掘立柱建物址 S B 201, 203 檢出状態（南東）



2. 第2区掘立柱建物址 S B 201, 203 全景（南東）



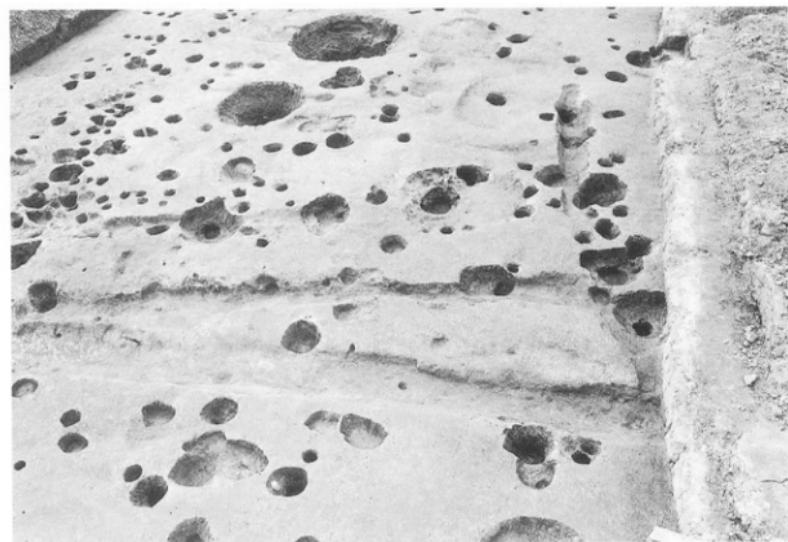
1. 第2区掘立柱建物址 S B 202, 204 検出状態（南東）



2. 第2区掘立柱建物址 S B 202, 204 全景（北東）



1. 第2区掘立柱建物址SB 205 全景(東)



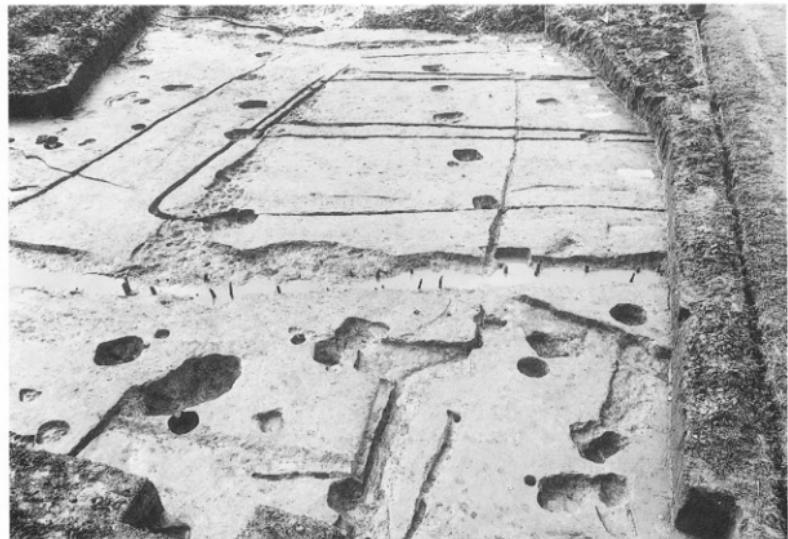
2. 第2区掘立柱建物址SB 206 全景(東)



1. 第2区掘立柱建物址S B 207 檢出状態（北）



2. 第2区掘立柱建物址S B 207 全景（東）



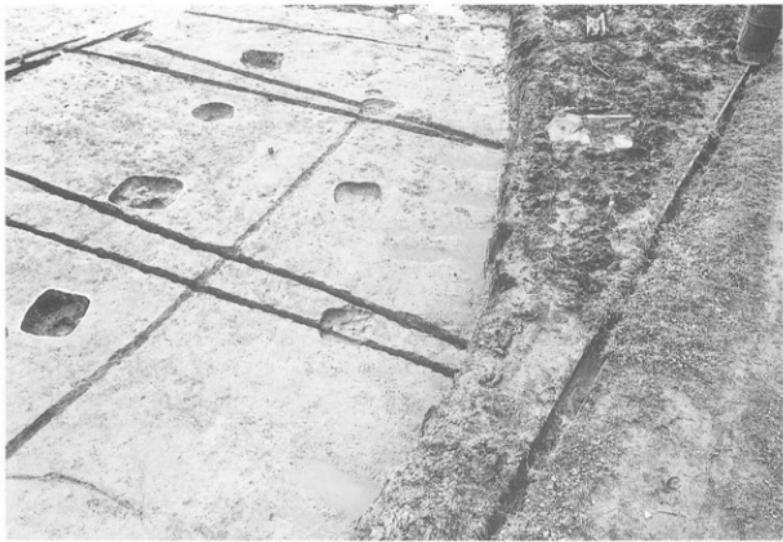
1. 第2区掘立柱建物址 S B 208 全景（東）



1. 第2区掘立柱建物址 S B 208 全景（西）



1. 第2区掘立柱建物址 SB 209 全景（東）



2. 第2区柵址 SA 204 全景（東）



1. 第2区井戸址 S E 202 上層遺物出土状態（西）



2. 第2区井戸址 S E 202 蒜串出土状態（南）



1. 第2区井戸址 S E 202 木組検出状態（西）



2. 第2区井戸址 S E 202 木組検出状態（西）



第2区井戸址 S E 202 木組検出状態（西）



1. 第2区井戸址 S E 202 木組南西隅（西）



2. 第2区井戸址 S E 202 木組北西隅（西）



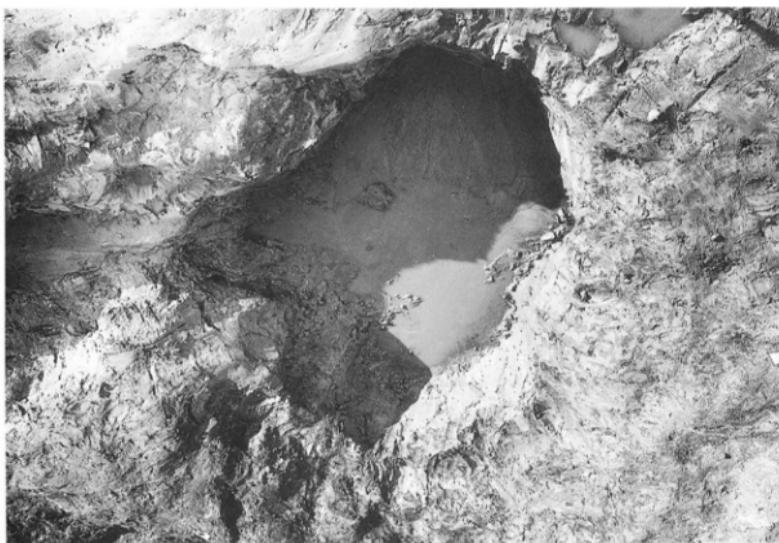
1. 第2区井戸址 S E 203 全景（南）



2. 第2区井戸址 S E 203 近景（西）



1. 第2区土坑SK 215全景(西)



2. 第2区土坑SK 232全景(西)



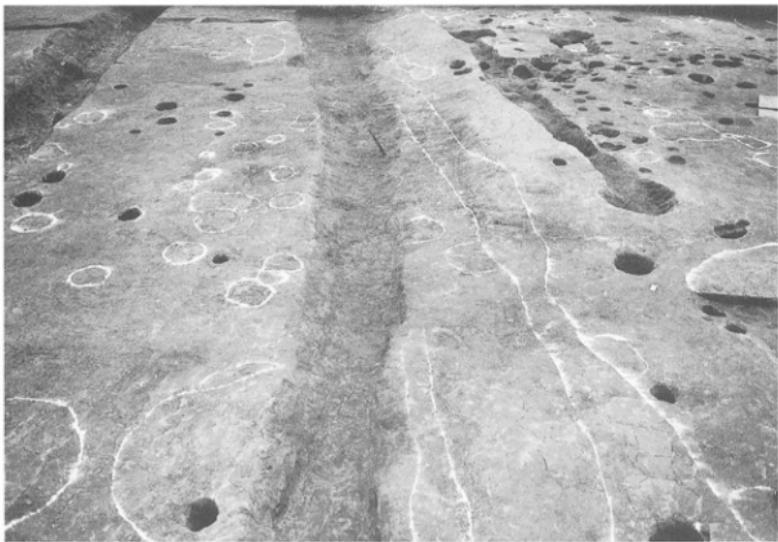
1. 第2区溝S D 220, 221全景(東)



2. 第2区溝S D 222全景(北)



1. 第2区溝S D 223 全景（北）



2. 第2区溝S D 227 全景（北）



1. 第2区溝SD 228 全景(北)



2. 第2区溝SD 230 全景(南)



1. 第2区調査風景（西）



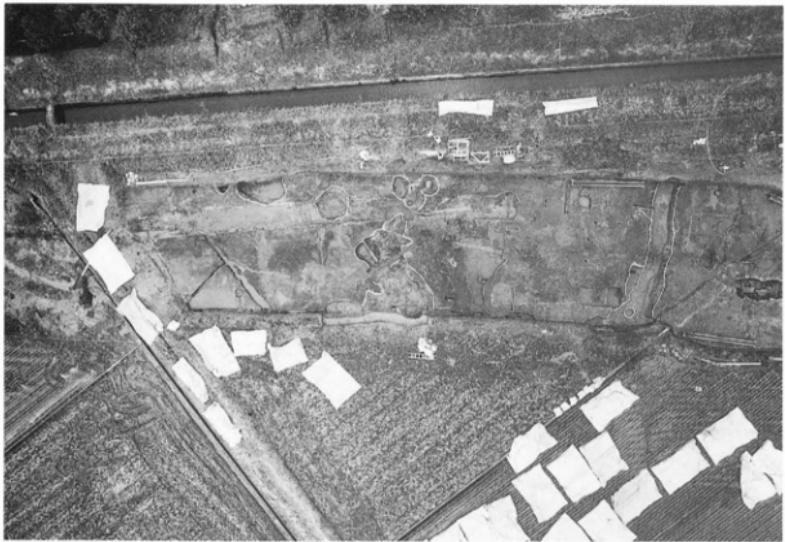
2. 第2区調査風景（北）



3. 第2区調査風景（南）



1. 全景（南東上方）



2. 全景（上方）



全景（南東上方）



1. 全景（北東）



2. 基本土層断面（北西）



1. 壓穴住居址 S I 301 全景（東）



2. 壓穴住居址 S I 301 貯藏穴内種子出土状態（南）



1. 土坑SK 301 土層断面（南）



2. 土坑SK 301 遺物出土状態（南西）



1. 土坑SK 302 土層断面（北西）



2. 土坑SK 302 曲物出土状態（北東）



1. 土坑SK302曲物出土状態（北東）



2. 土坑SK302曲物出土状態（北東）



1. 土坑SK 303全景(南東)



2. 土坑SK 305遺物出土状態(南東)



1. 土坑SK 305 土層断面（南）



2. 土坑SK 305 壁先出土状態（南）



1. 土坑SK 306 土層断面（南）



2. 土坑SK 304, 306, 307 全景（北東）



1. 溝SD 301 全景（北西）



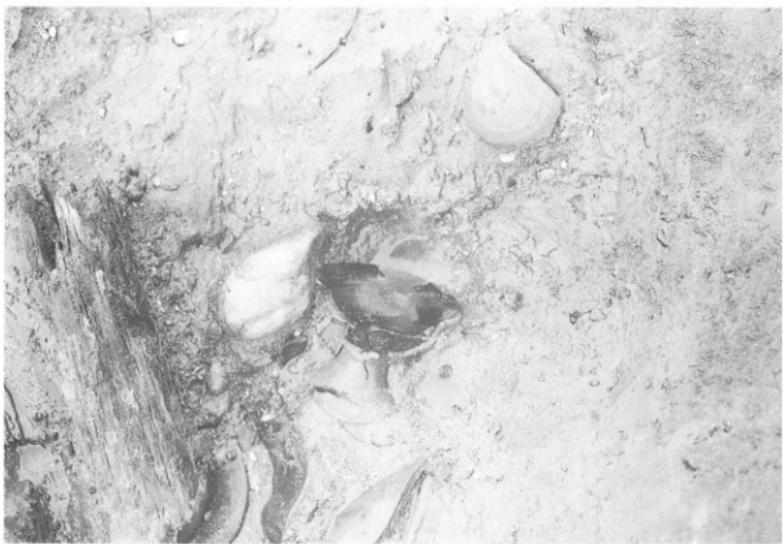
2. 溝SD 301 全景（南東）



1. 溝SD 301 遺物出土状態全景（南東）



2. 溝SD 301 遺物出土状態近景（北東）



1. 溝SD 301 高環出土状態（南）



2. 溝SD 301 木製品出土状態（南）



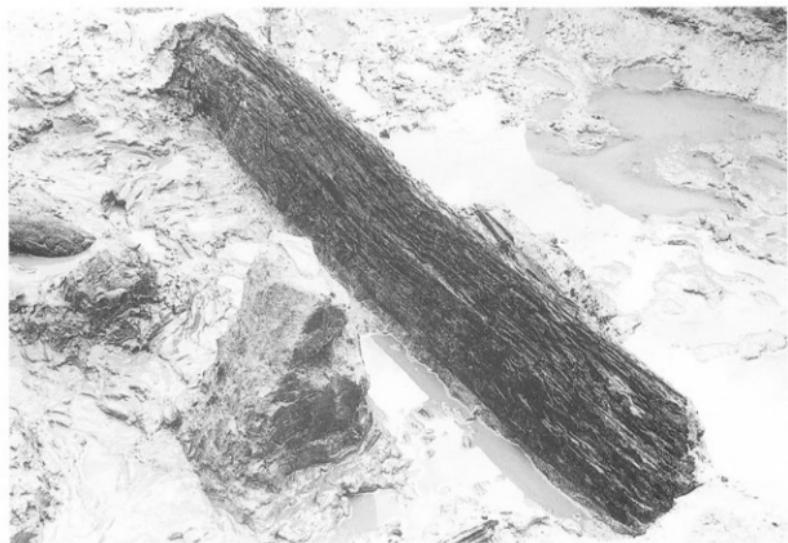
1. 溝SD 301 土層断面（南）



2. 溝SD 302 遺物出土状態近景（北西）



1. 溝SD302 鋤先(9201)出土状態近景(南)



2. 溝SD302 板材(9227)出土状態近景(南)



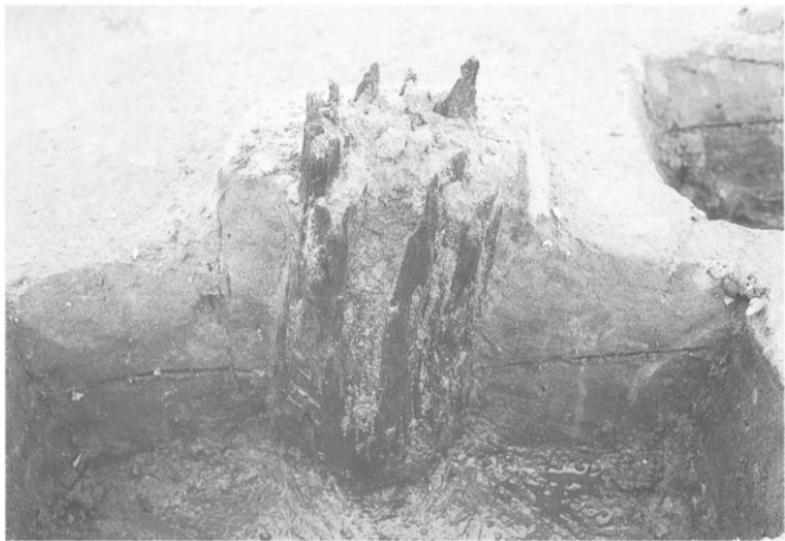
1. 杭（9219）出土状態近景（南西）



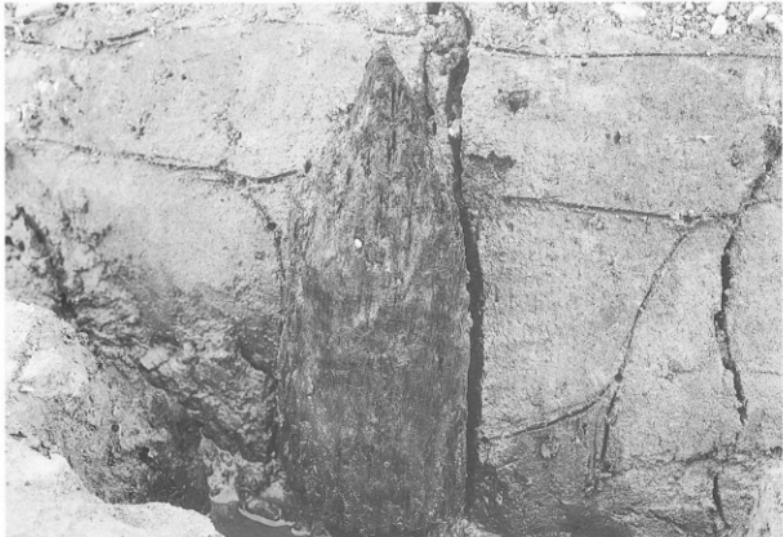
2. 杭（9218）出土状態近景（南西）



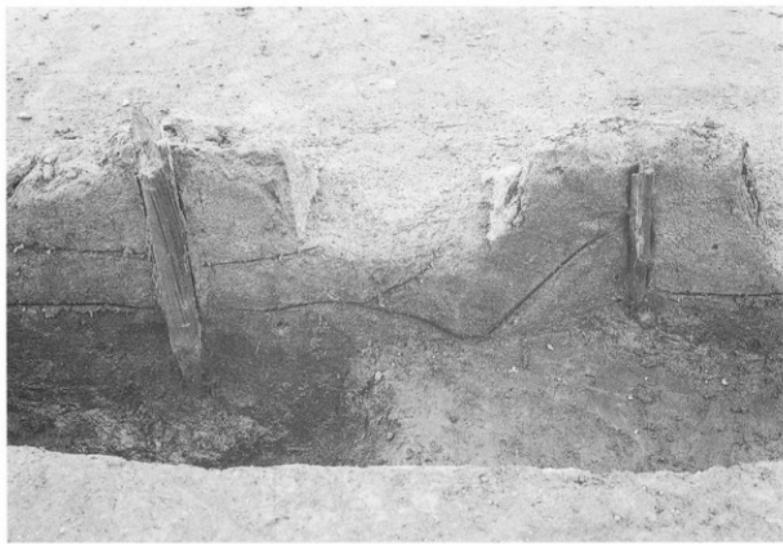
1. 杭（9222）出土状態近景（南西）



2. 杭（9217）出土状態近景（南西）



1. 杭(9216)出土状態近景(西)



2. 杭(9211)出土状態近景(南西)



1. 調査風景（北東）



2. 調査風景（西）



3. 調査風景（北東）



1. 調査風景（南）

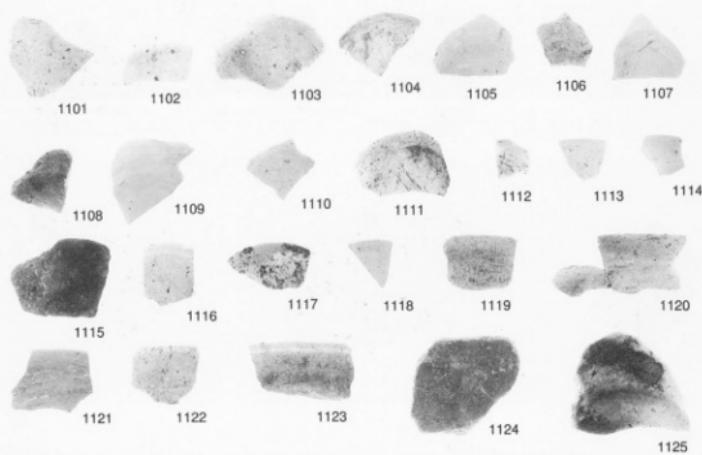


2. 調査風景（南西）

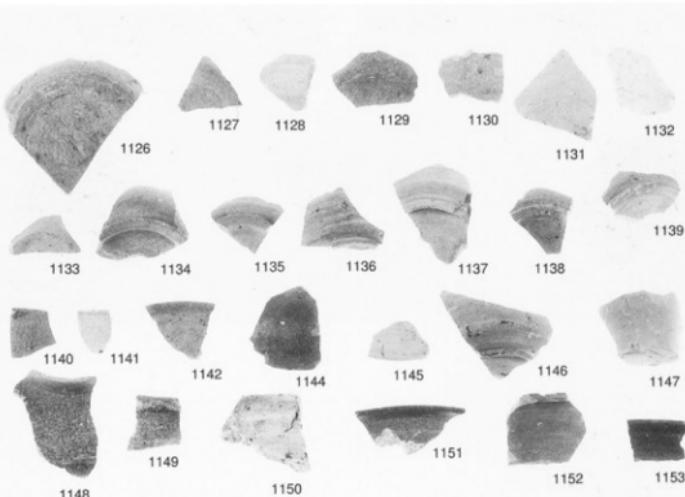


3. 調査風景（北西）

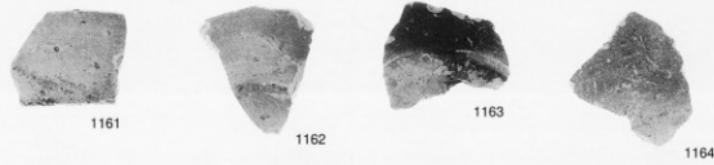
図版〔2〕遺物写真



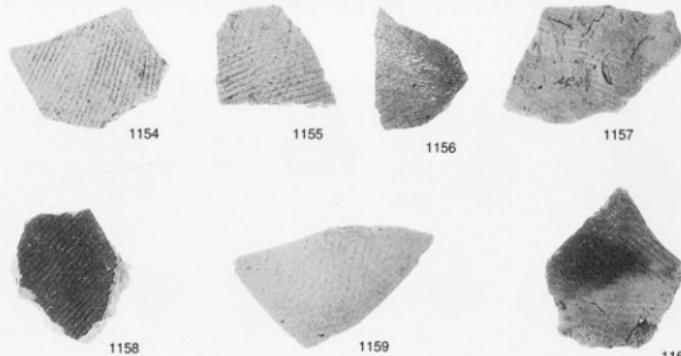
1. 県道地区上部器・瓦質土器



2. 県道地区須恵器



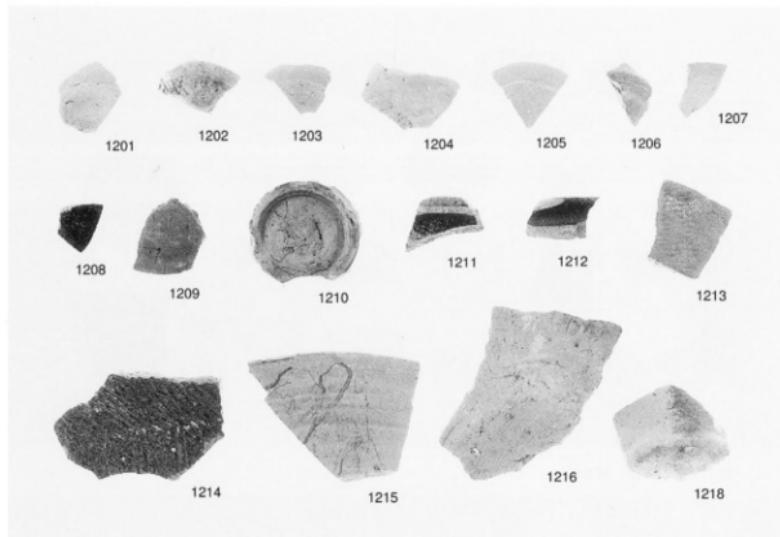
1. 県道地区須恵器



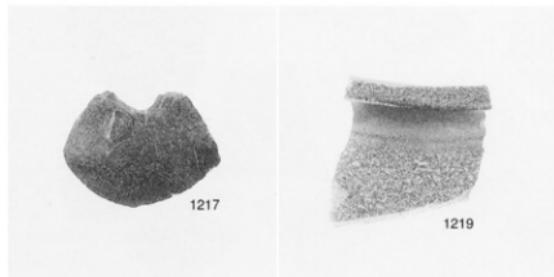
2. 県道地区須瀬器



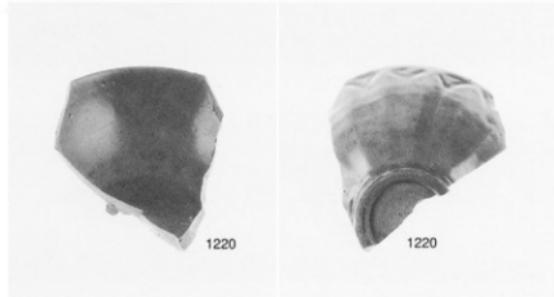
3. 県道地区須恵器



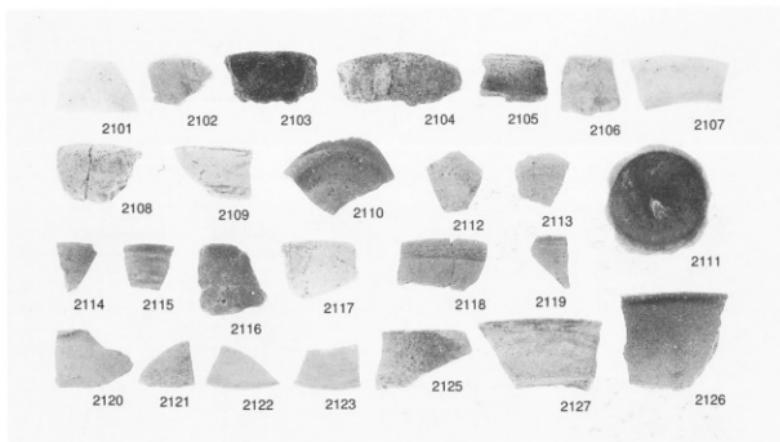
1. 市道地区土師器・須恵器・珠潤



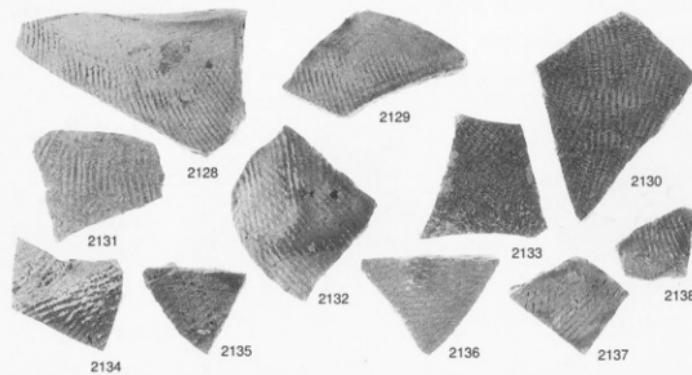
2. 市道地区珠潤



3. 市道地区青磁



1. 第1区 土師器・須恵器

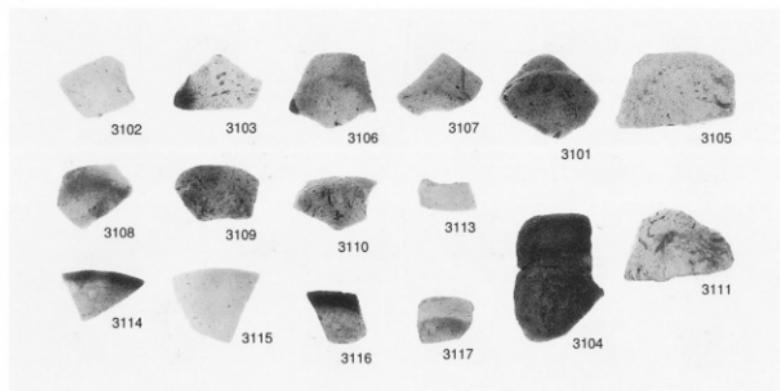


2. 第1区 須恵器

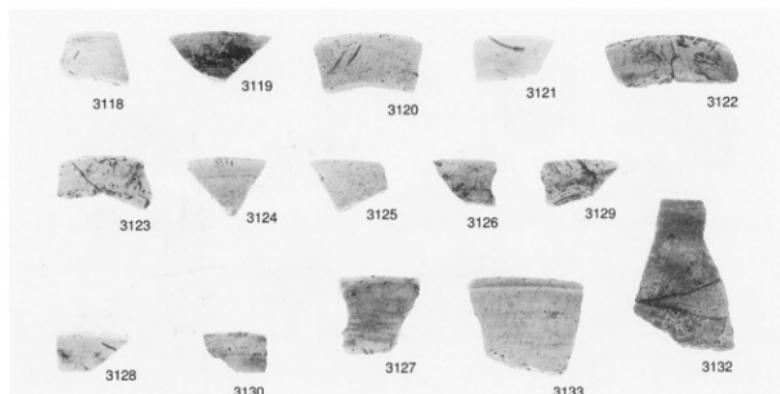


3. 第1区 須恵器

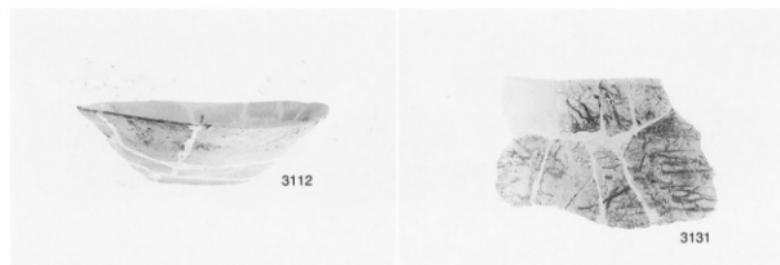
4. 第1区 珠洲



1. 第2区 土師器

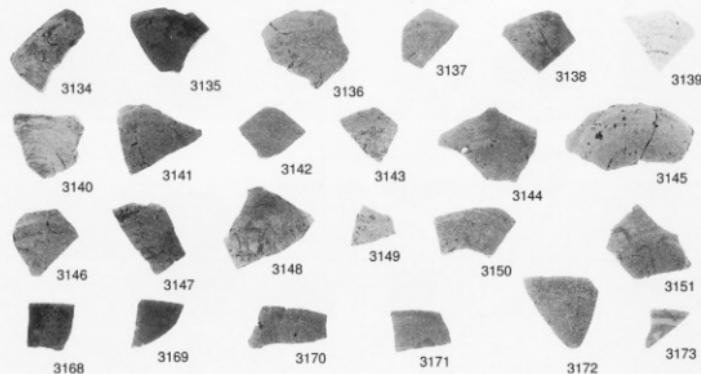


2. 第2区 土師器



3. 第2区 土師器

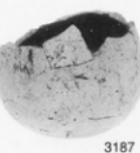
4. 第2区 土師器



1. 第2区 須恵器



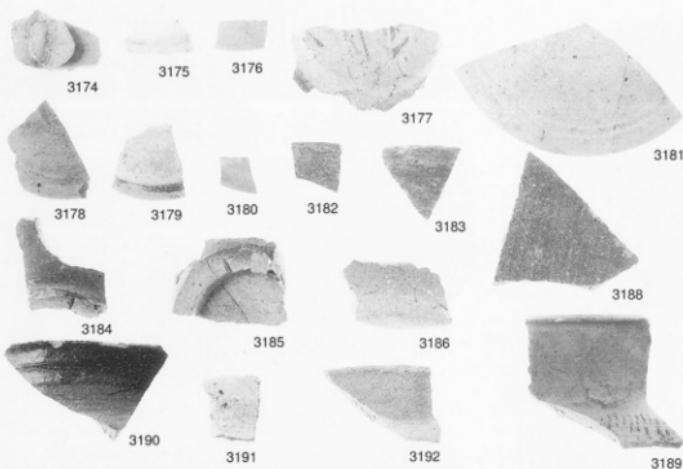
2. 第2区 須恵器



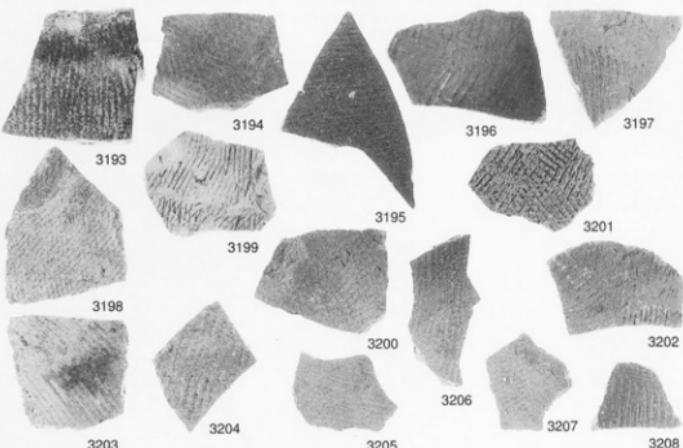
3. 第2区 須恵器



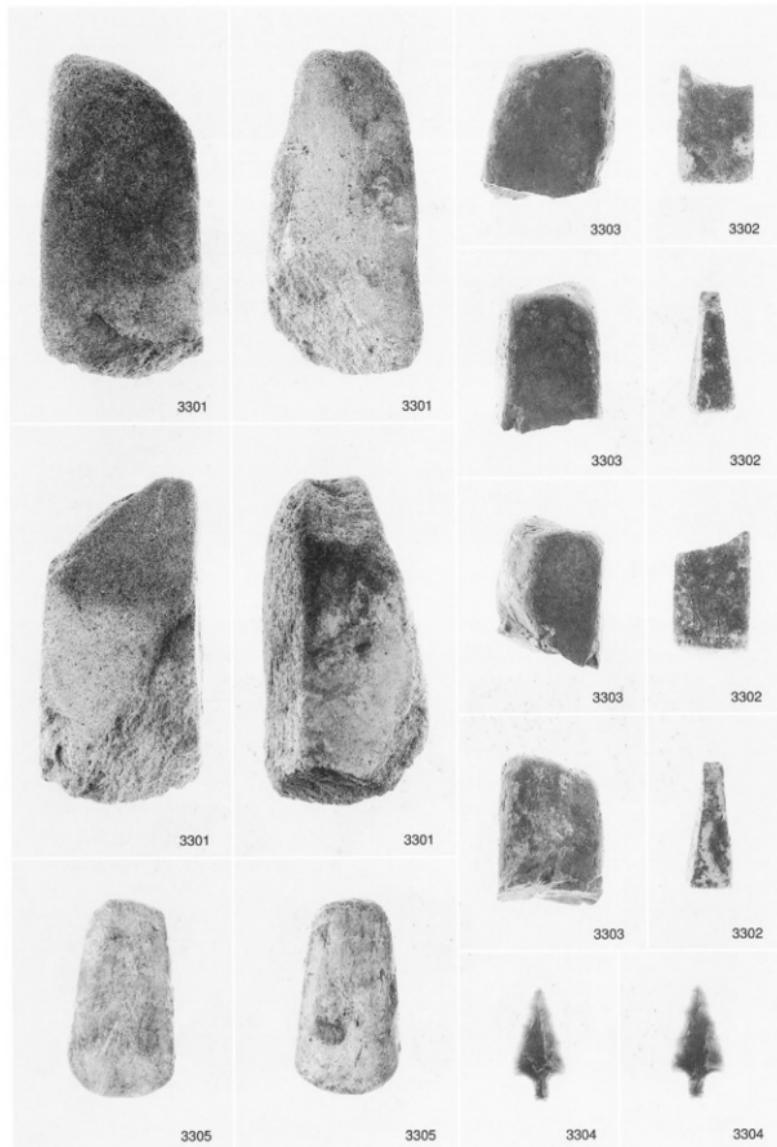
4. 第2区 珠洲



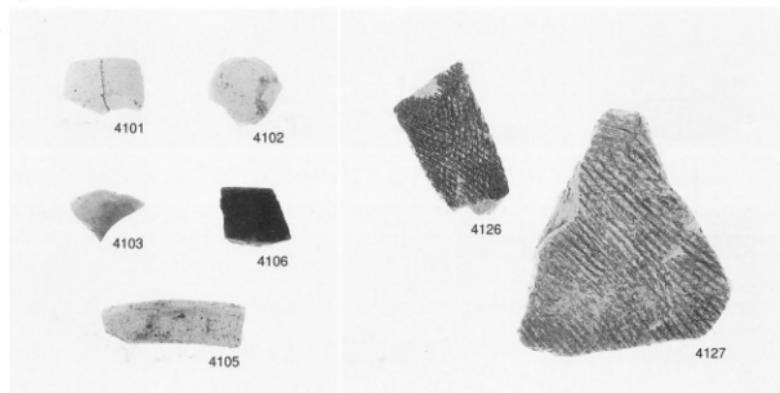
1. 第2区 須恵器



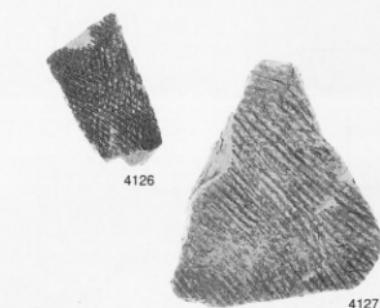
2. 第2区 須恵器



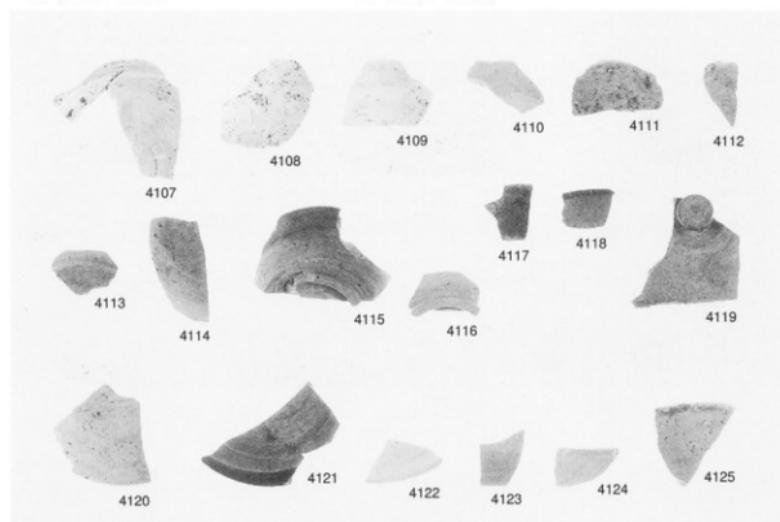
第2区 石製品



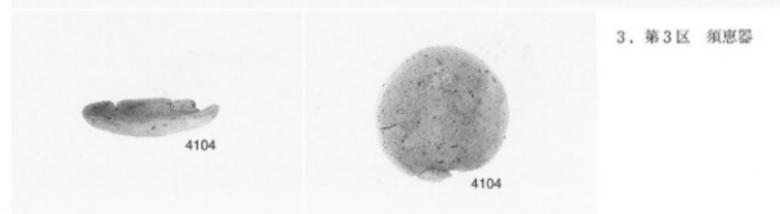
1. 第3区 土師器



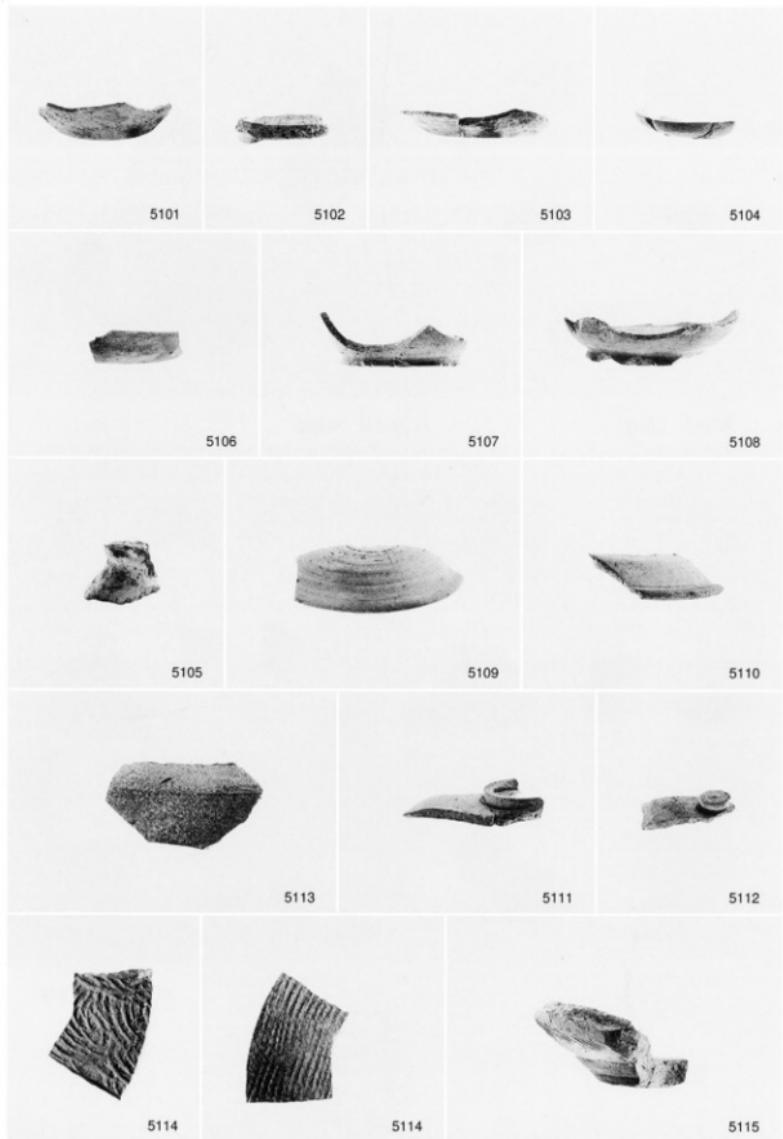
2. 第3区 須恵器



3. 第3区 須恵器



4. 第3区 土師器



第1区 土師器・須恵器・珠洲

圖版二二一 遺物 麻生谷遺跡平成七年度調査地区



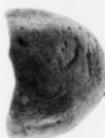
5201



5202

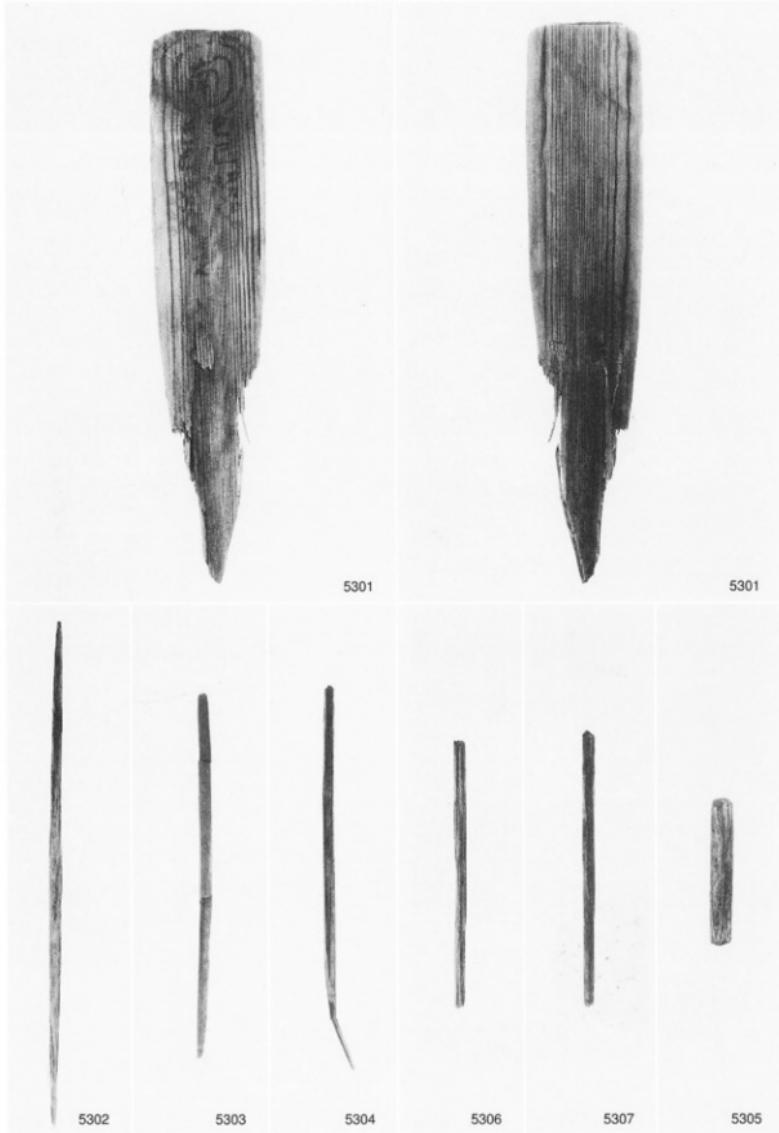


5203

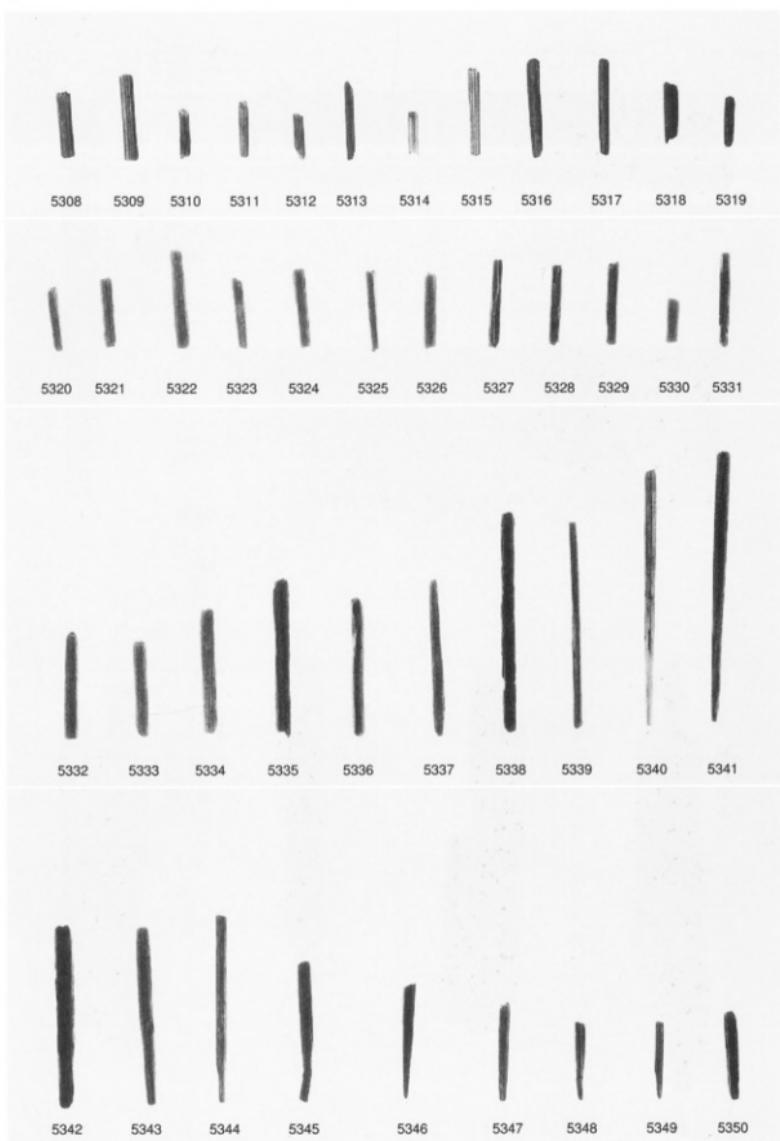


5204

第1区 土製品



第1区 木製品



第1区 木製品



5351



5352



5357



5353



5354



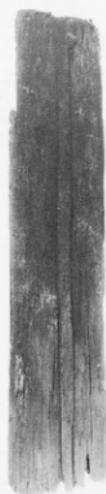
5355



5356

第1区 木製品

圖版二一五 遺物 麻生谷遺跡平成七年度調査地区



5358



5359



5363



5360



5361



5362

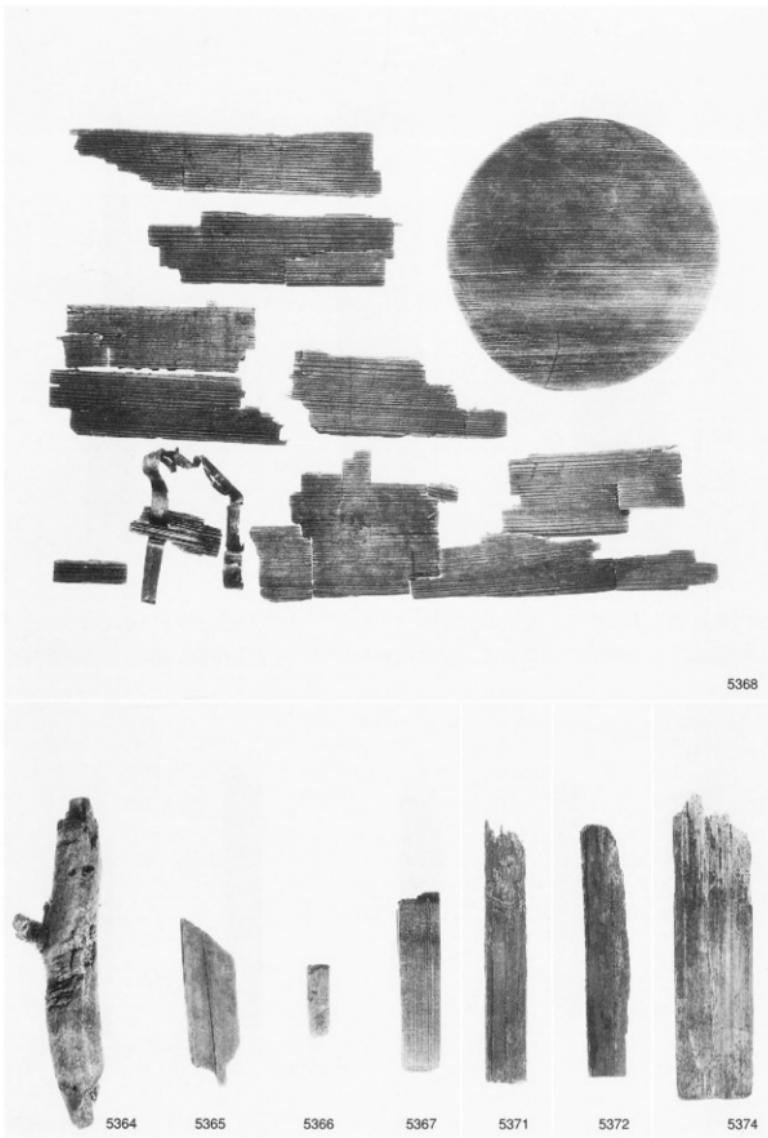


5369

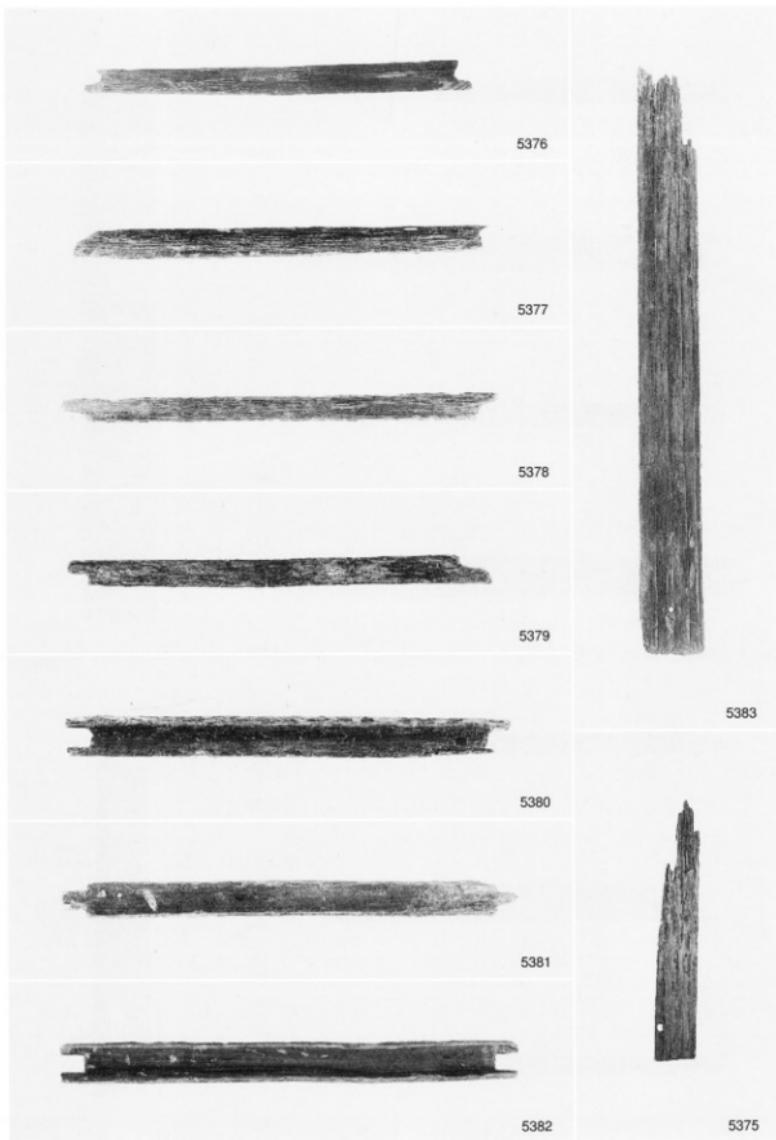


5370

第1区 木製品



第1区 木製品



第1区 木製品



5385



5386



5387



5388

5392



5389



5390



5391



5384

第1区 木製品



5373



5394



5393



5395

第1区 木製品



5397

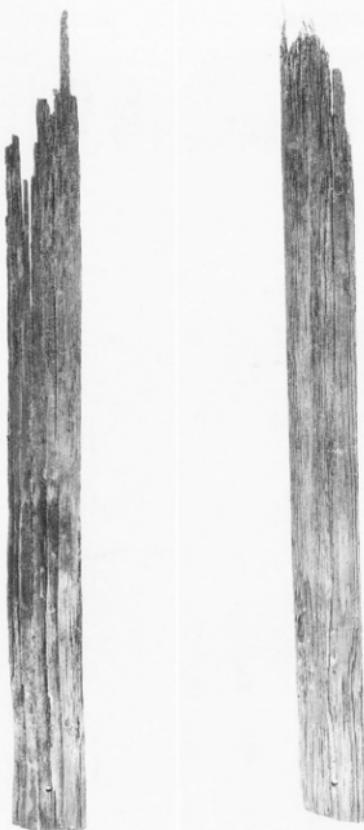


5398



5399

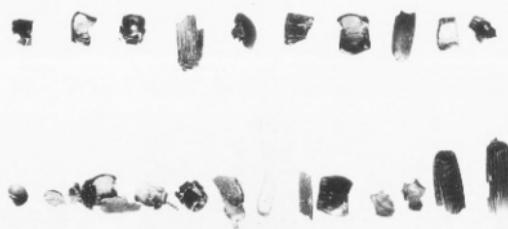
第1区 木製品



5401

5400

第1区 木製品



5701



5702



5703

第1区 昆虫遺存体・種子類



5704



5705

第1区 種子類



5706

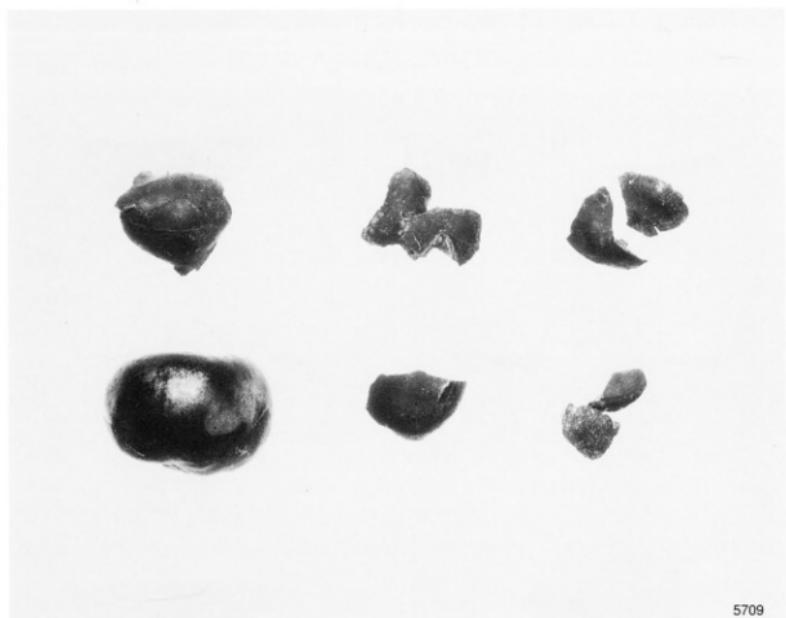


5707



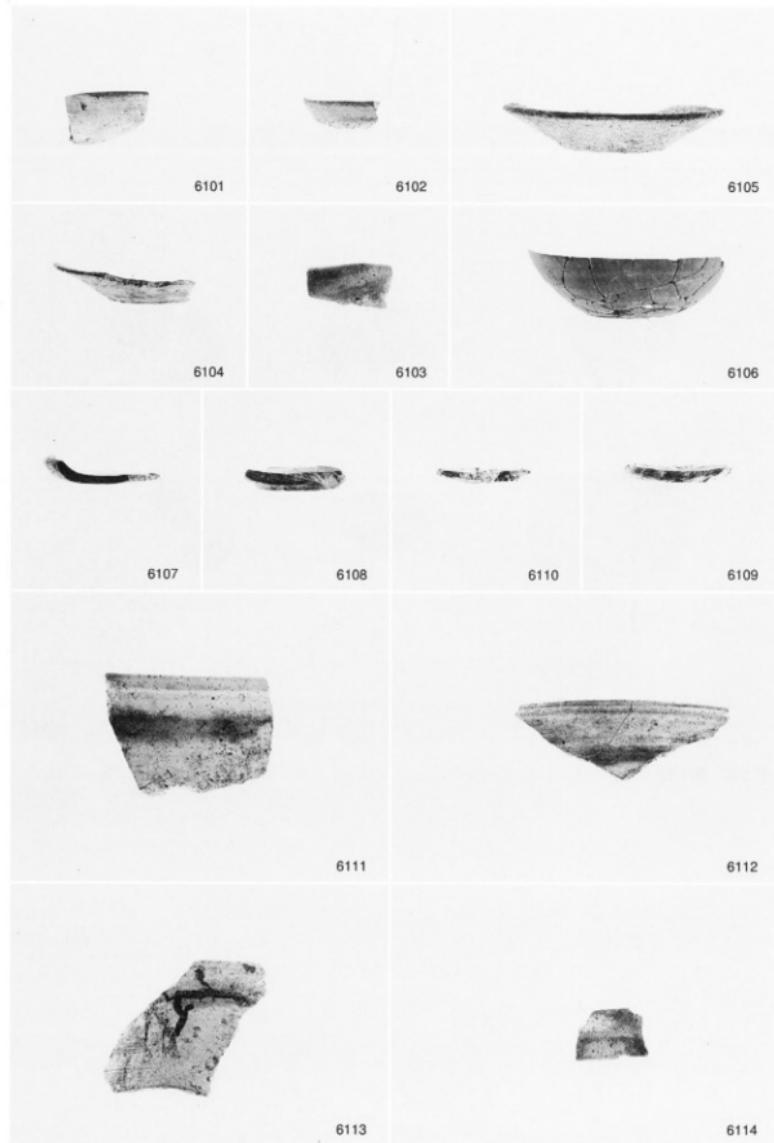
5708

第1区 種子類

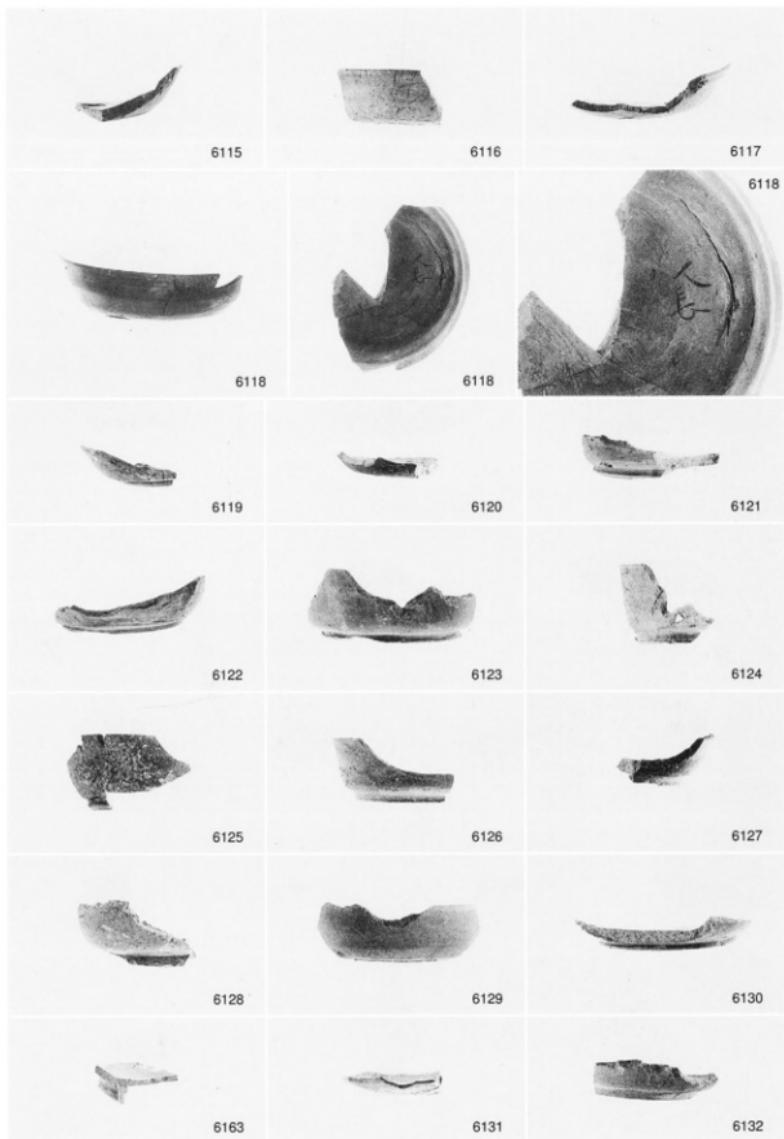


5709

第1区 種子類



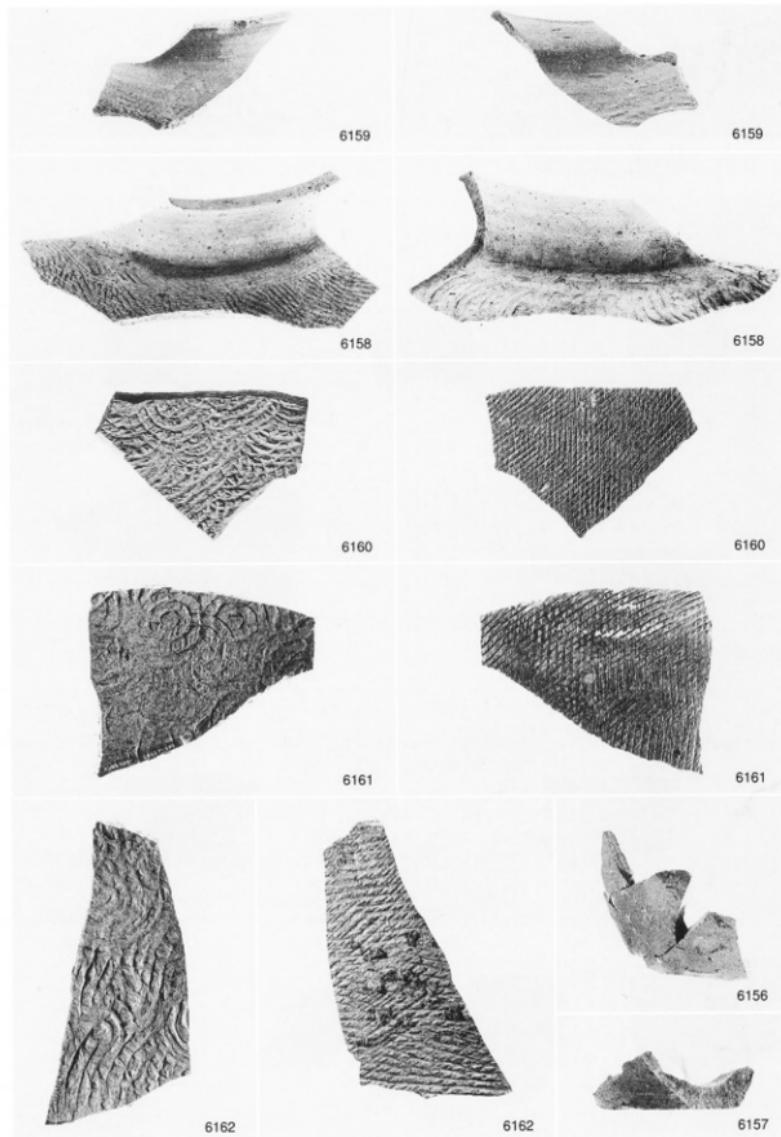
第2区 土築器



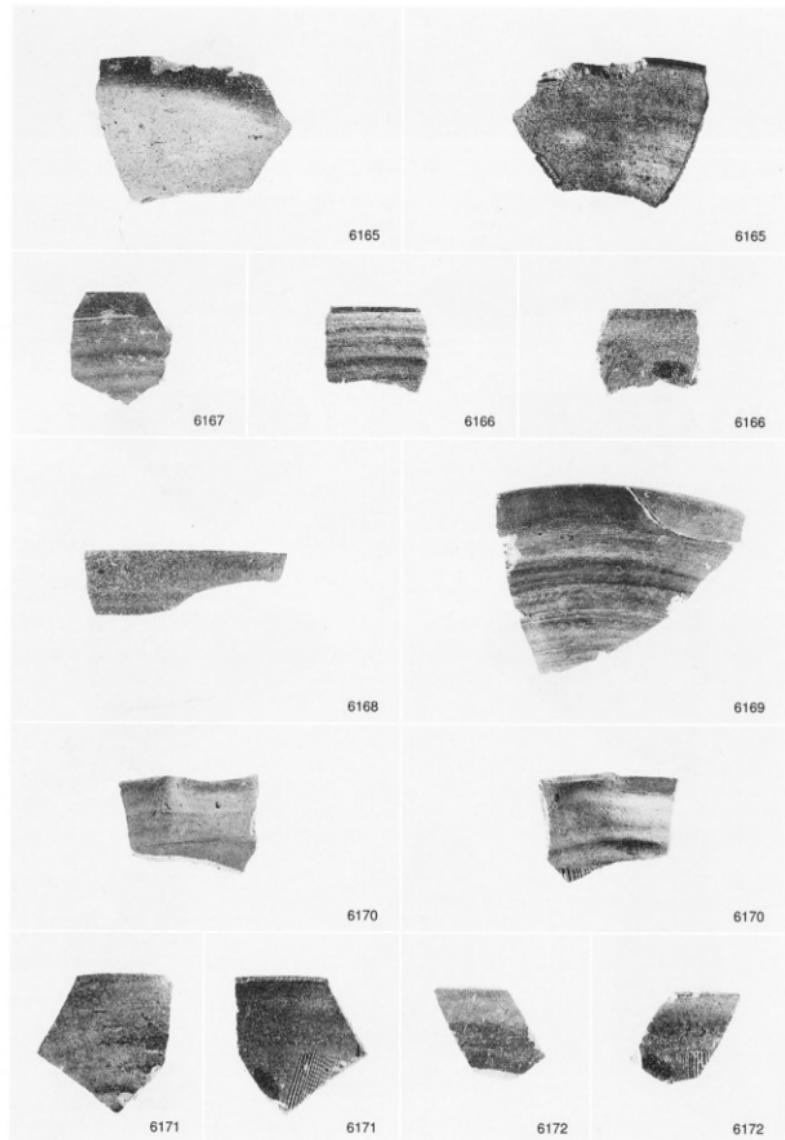
第2区 須恵器・灰釉陶器

			
6133	6134	6135	
			
6136	6137	6138	
			
6139	6140	6141	
			
6142	6143	6144	
			
6145	6146	6147	6148
			
6149	6150	6151	6152
			
6153	6154	6155	

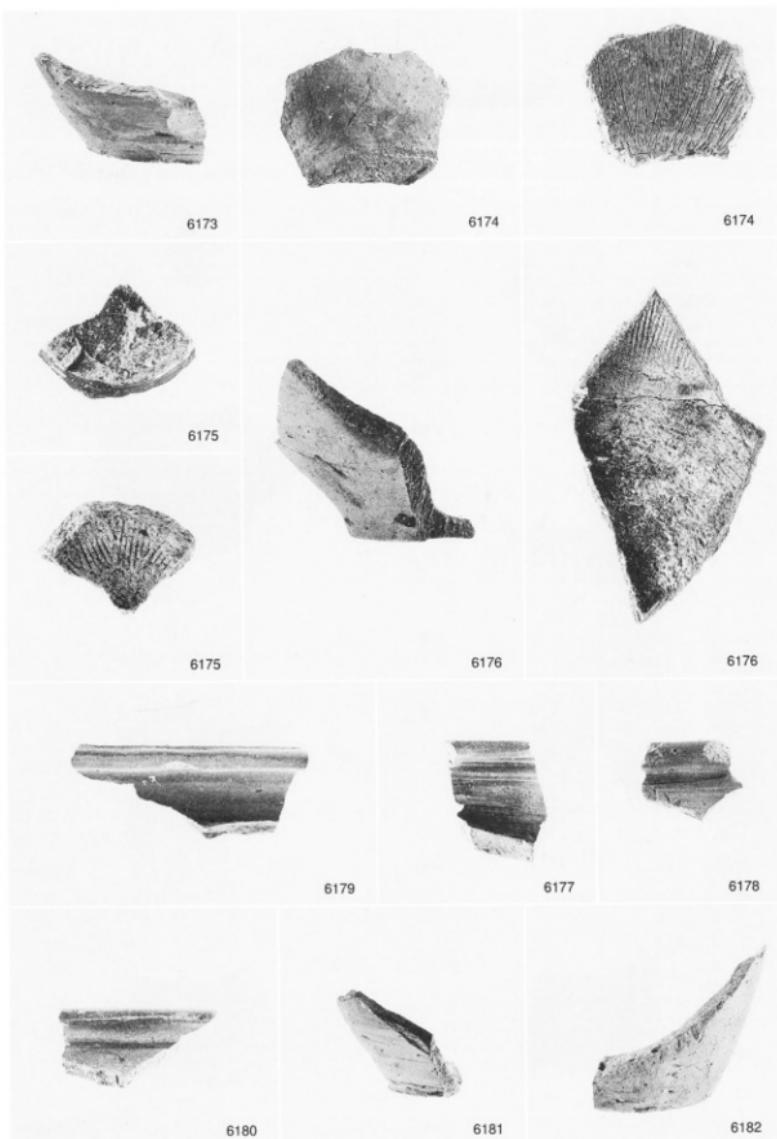
第2区 須恵器



第2区 須恵器



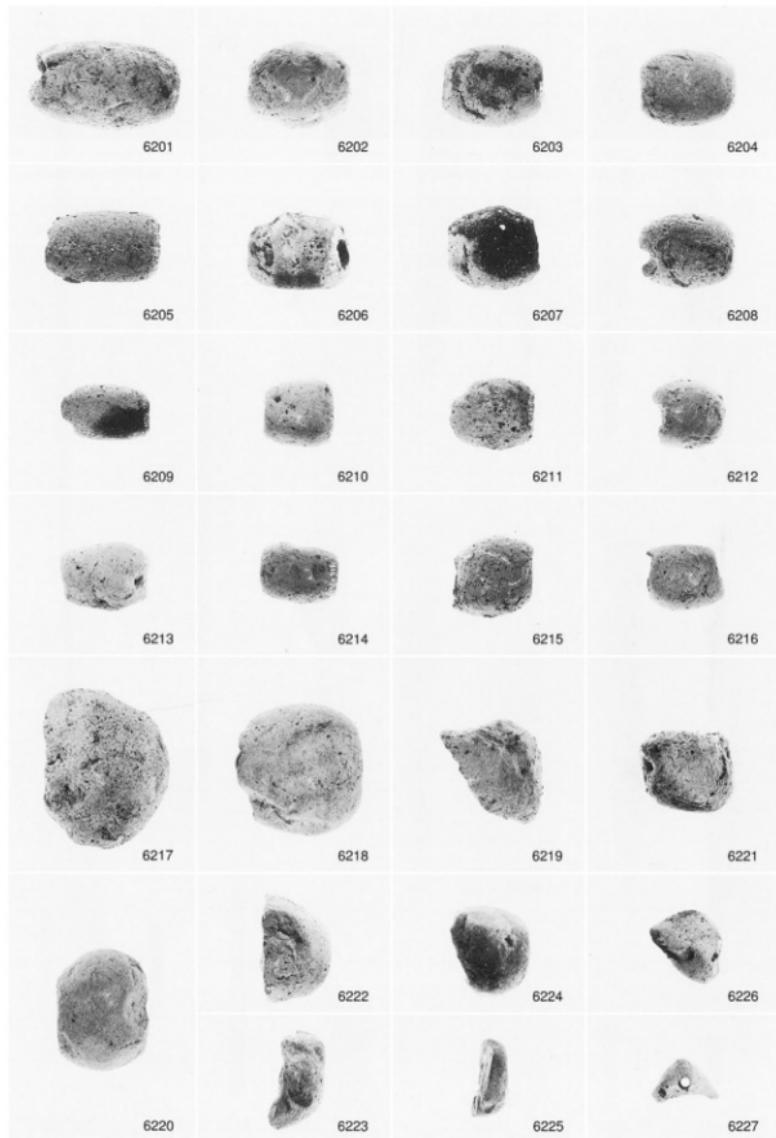
第2区 珠潤



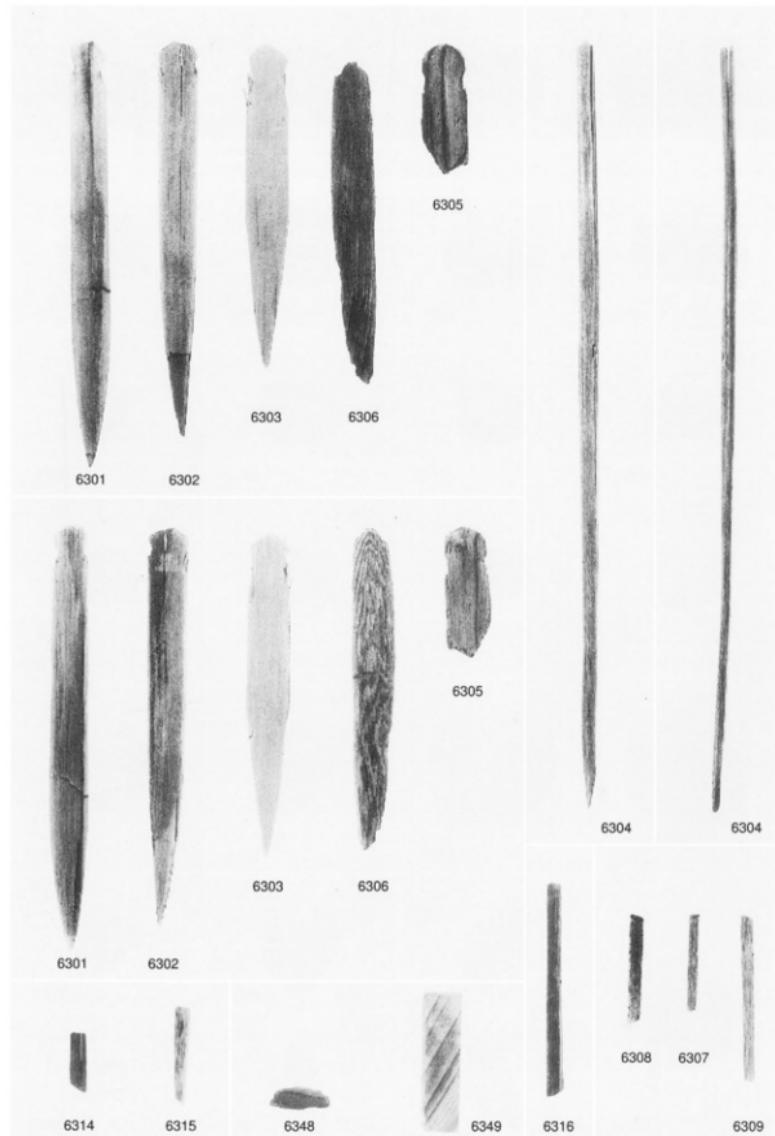
第2区 珠淵



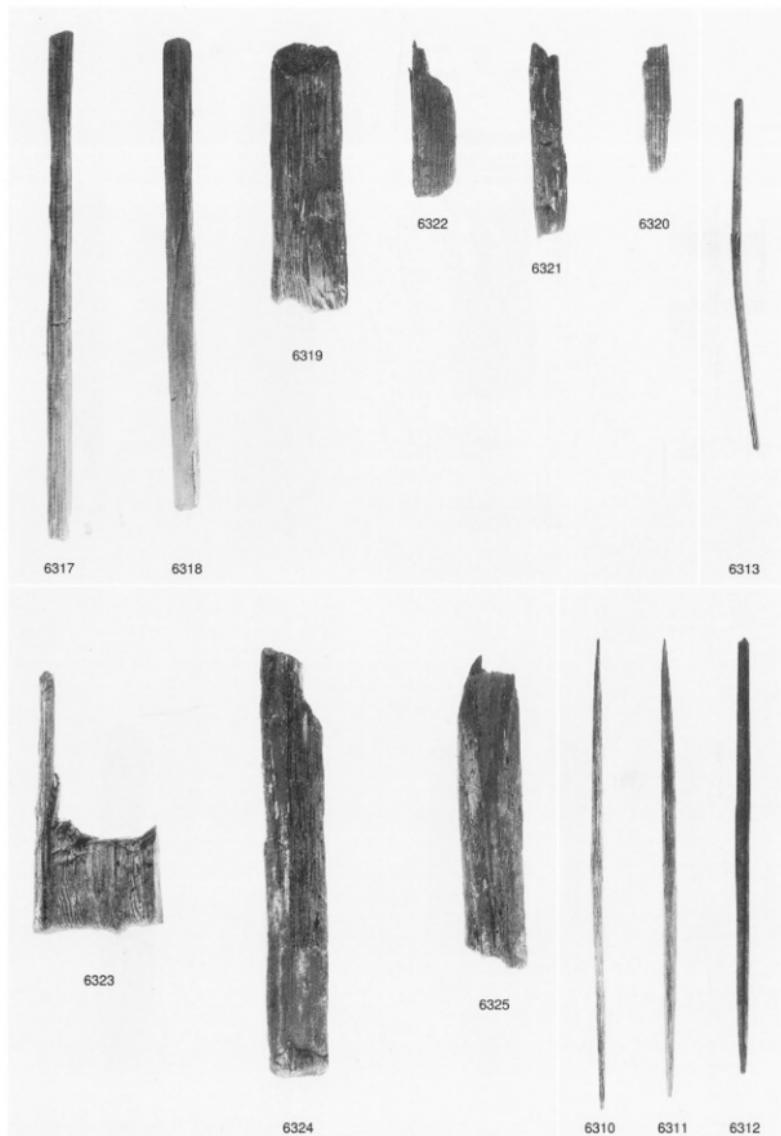
第2区 緑釉陶器・伊万里・瀬戸美濃



第2区 土製品



第2区 木製品



第2区 木製品



6327



6328



6326



6334



6329



6330



6331



6332



6333

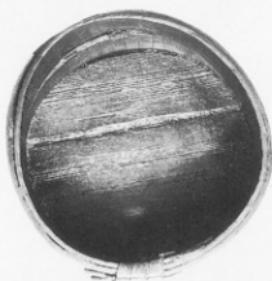
第2区 木製品



6335



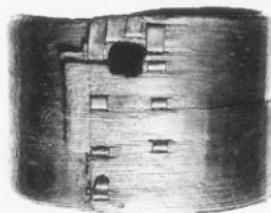
6337



6335



6336



6335



6345

第2区 木製品



6339



6338



6340



6341



6342



6343



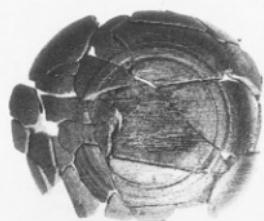
6344



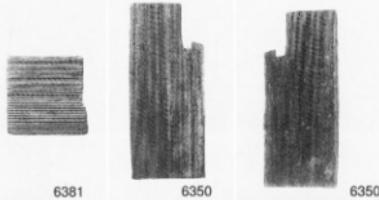
6347



6347



6346



6381

6350

6350



6374



6374



6382



6352



6353



6383



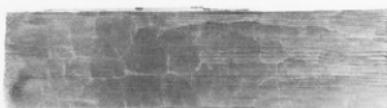
6355



6354



6356



6358



6384



6373

第2区 木製品



6357



6360

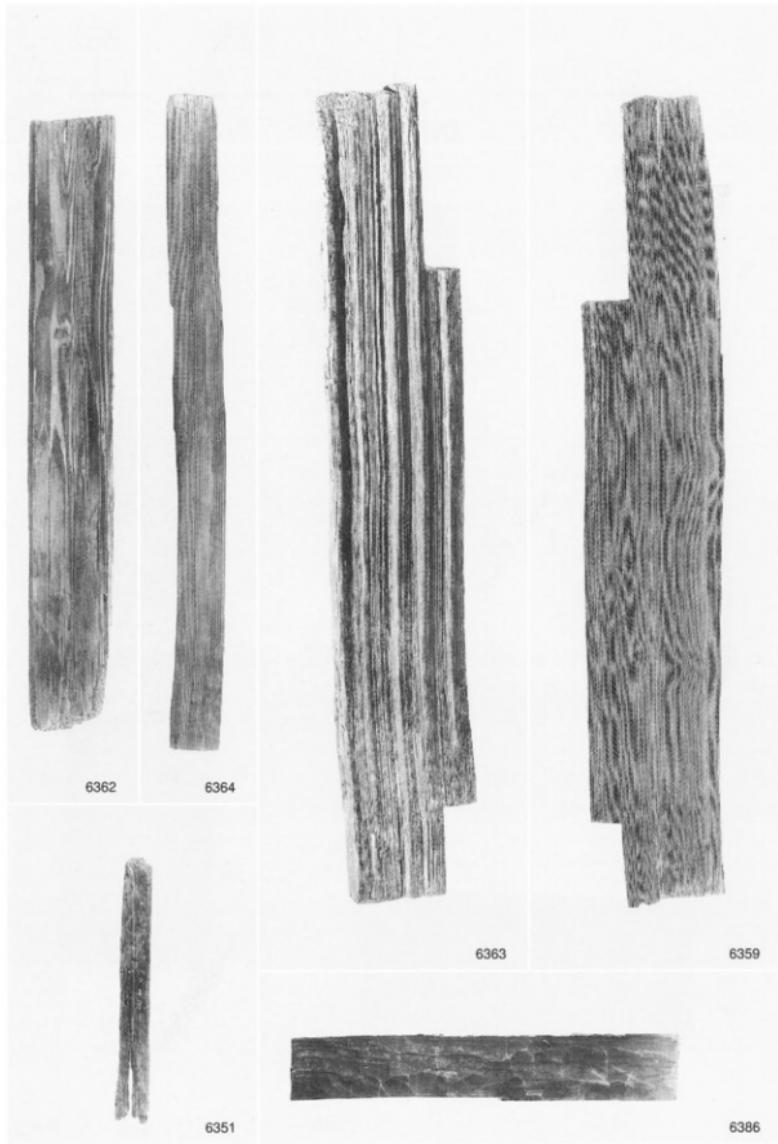


6361

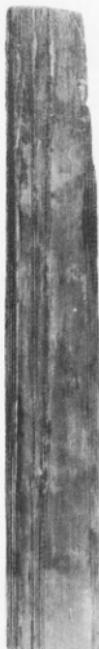


6385

第2区 木製品



第2区 木製品



6365



6367



6366



6369



6370

第2区 木製品



6368



6375



6376



6387



6388

第2区 木製品



6377



6378



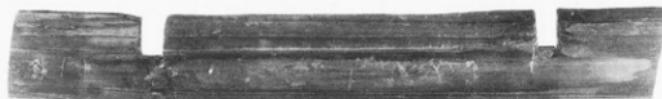
6379



6380



6371



6372

第2区 木製品



6389



6390

第2区 木製品



6501



6501



6502



6502



6503



6504



6506



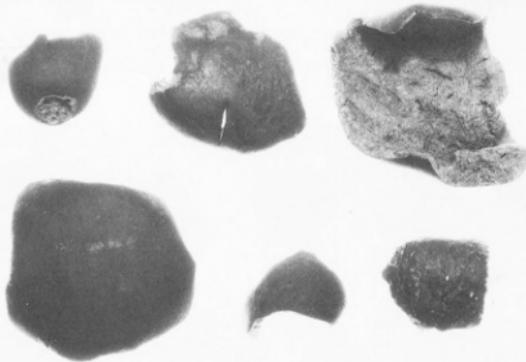
6601



6505

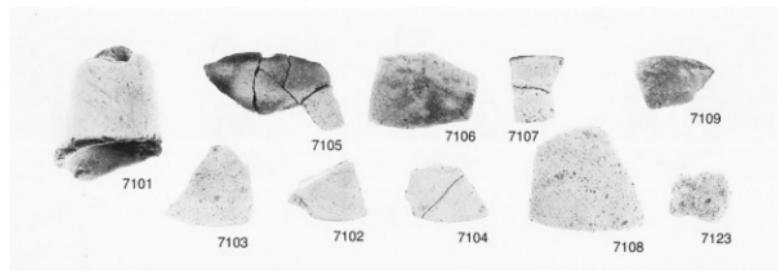


6507

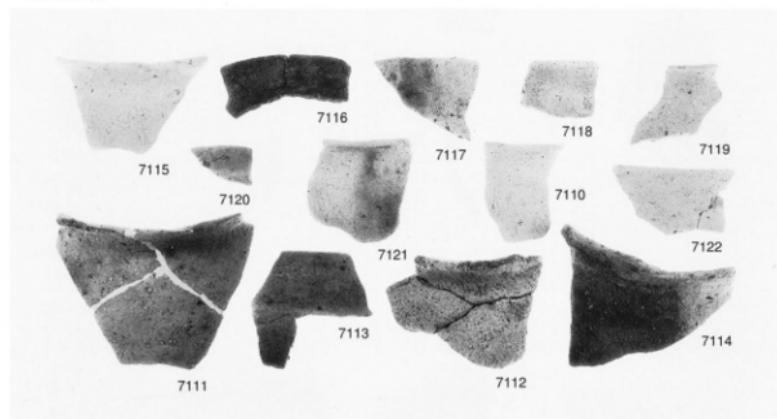


6701

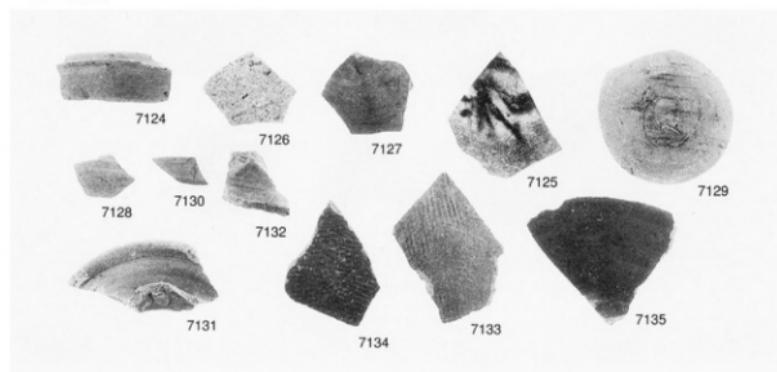
第2区 銅製品・鉄製品・石製品・植物遺存体



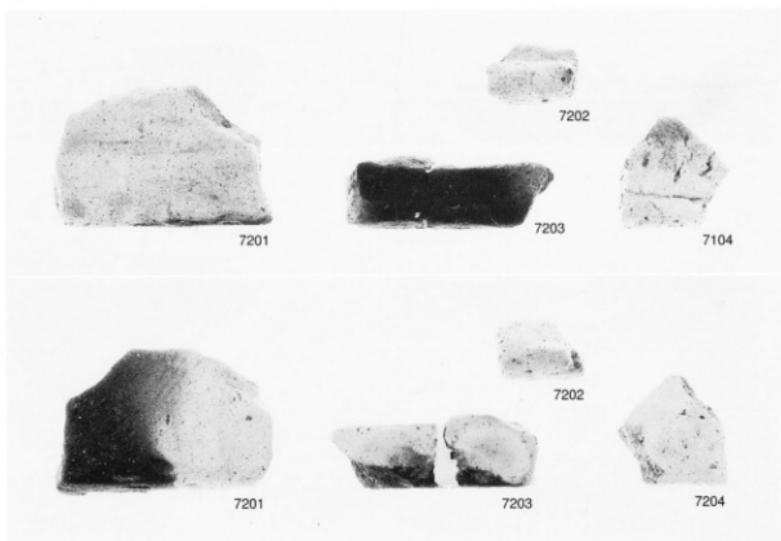
1. 土師器



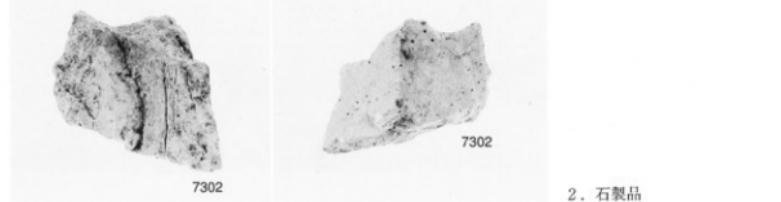
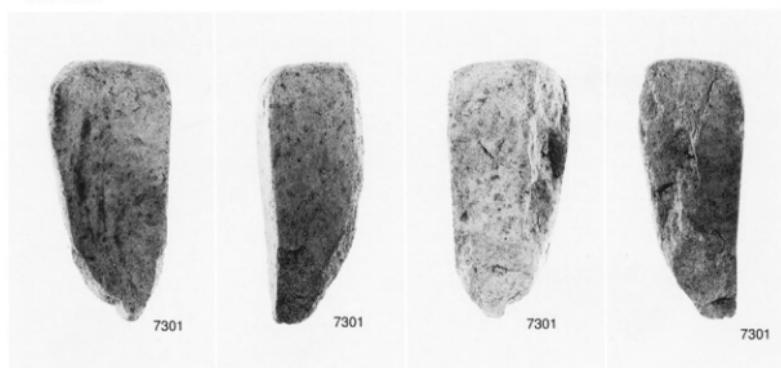
2. 土師器



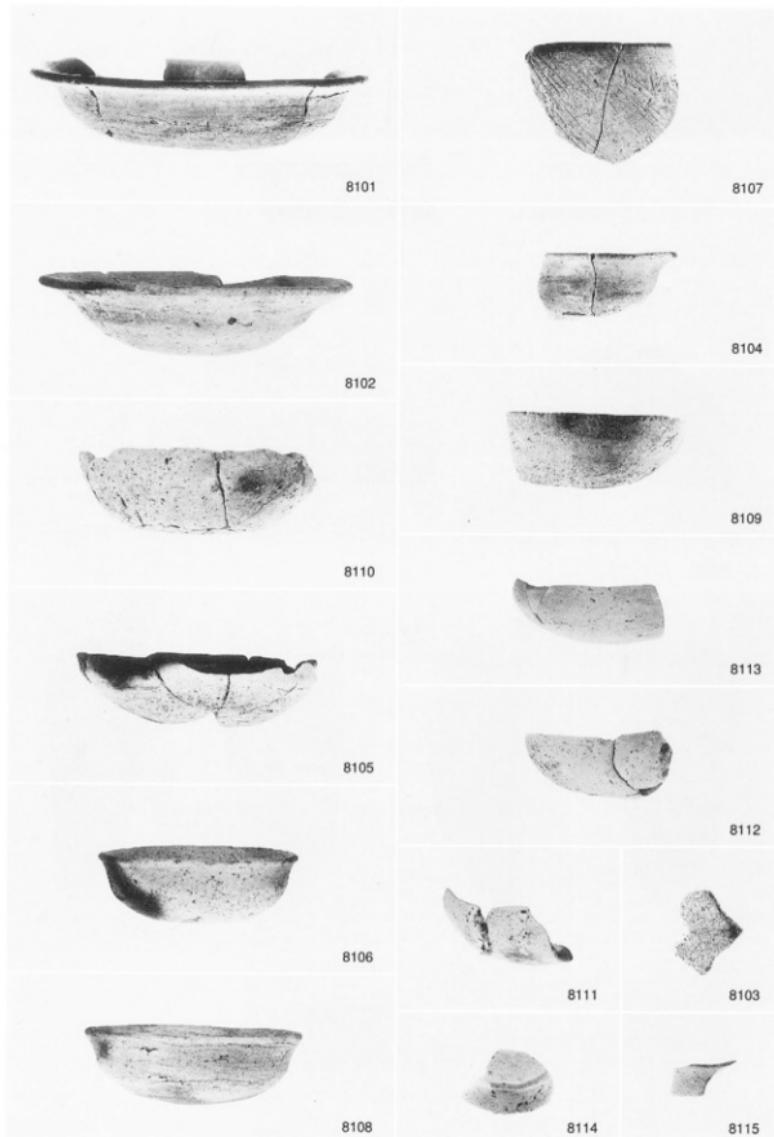
3. 須恵器・珠淵



1. 土製品



2. 石製品



土器



8116



8117



8122



8119



8118



8124



8120



8123



8121



8128



8127



8130



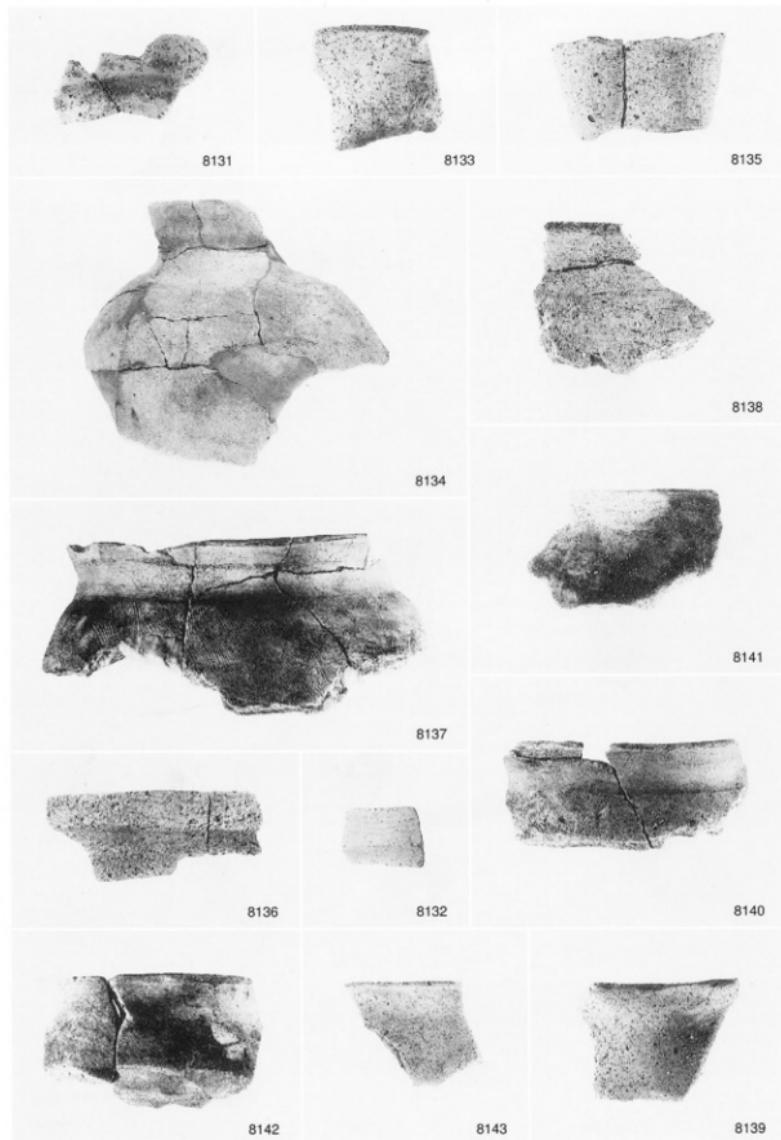
8125



8126



8129



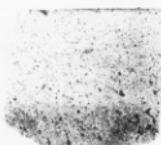
土師器



8144



8145



8146



8147



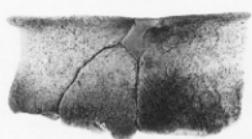
8148



8149



8151



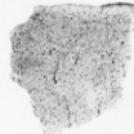
8152



8150



8153



8154



5156



8157



8158



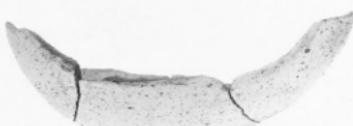
8159



8162



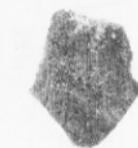
8162



8164



8163



8160

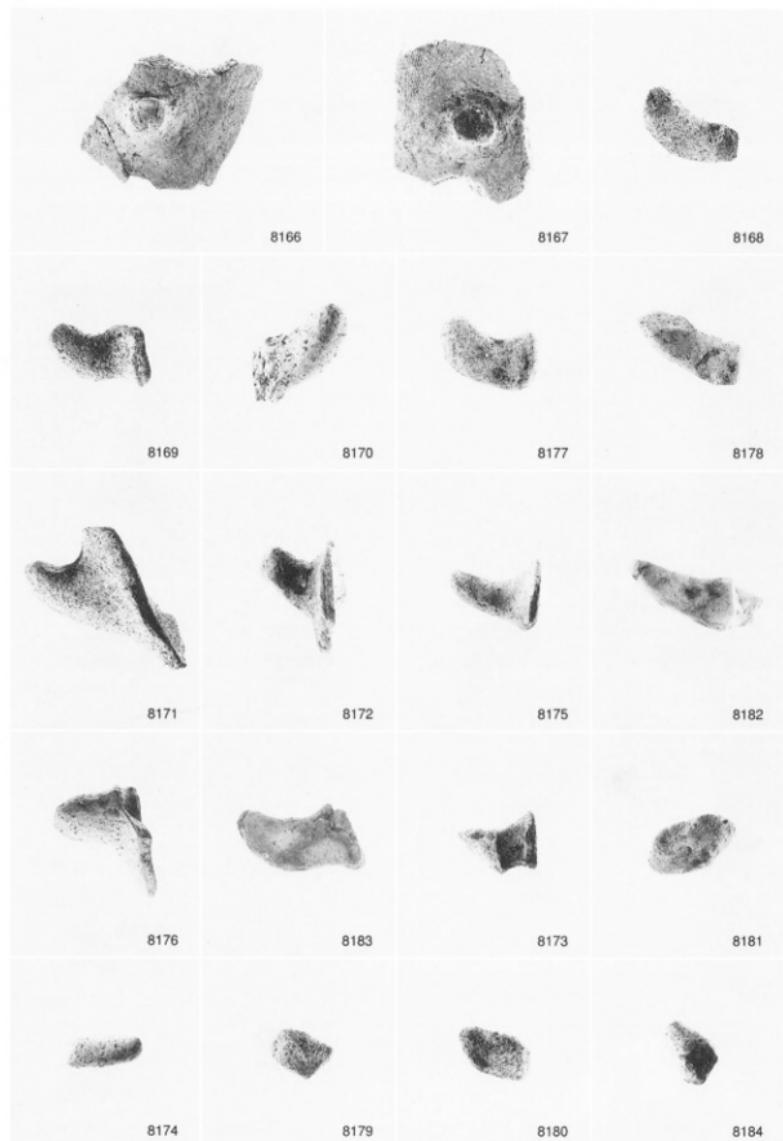


8165

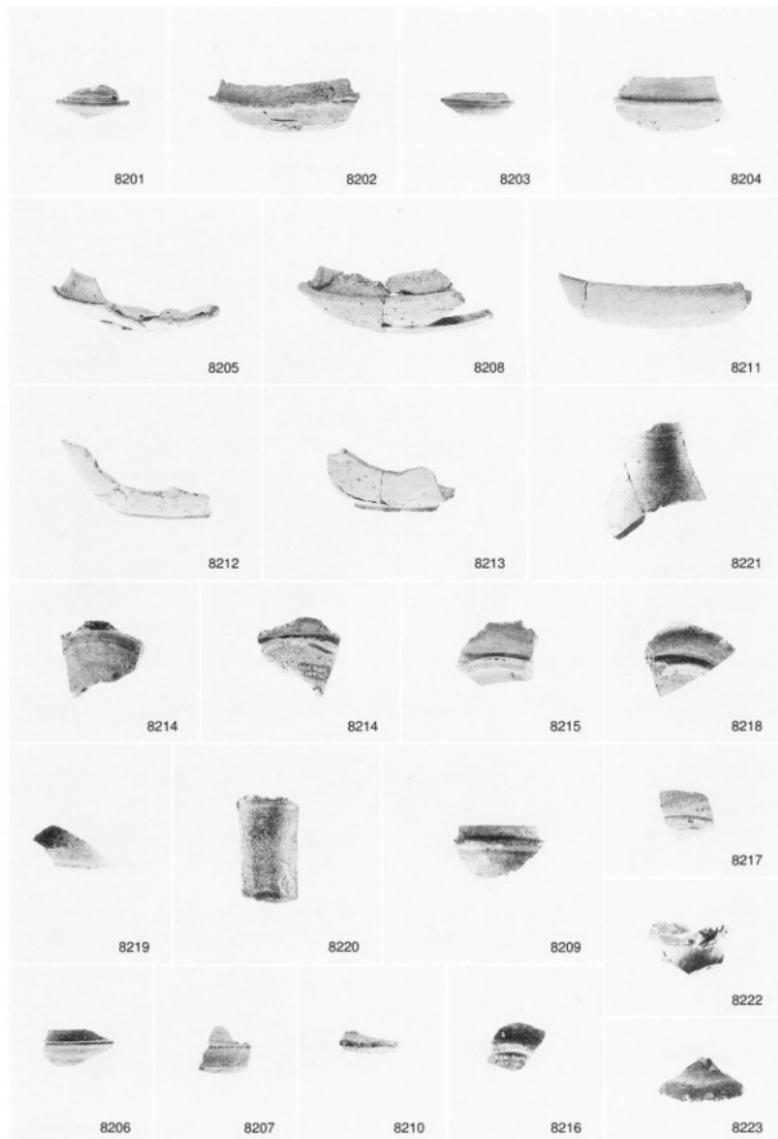


8161

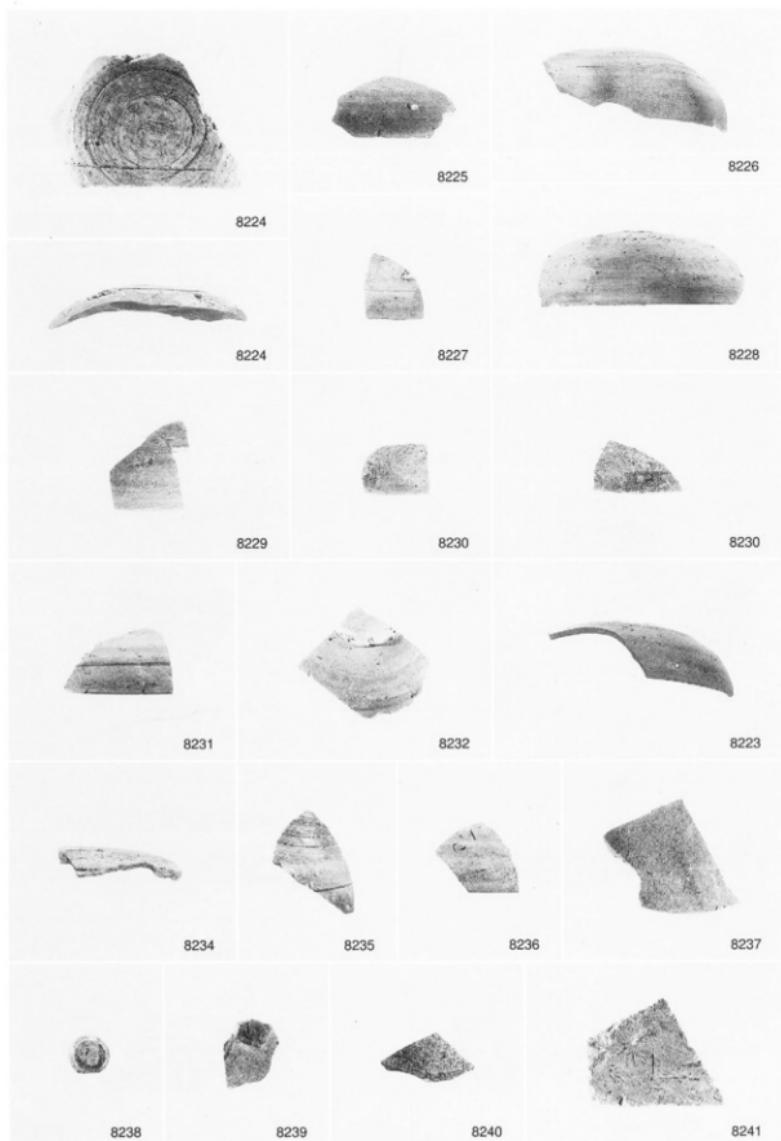
土師器



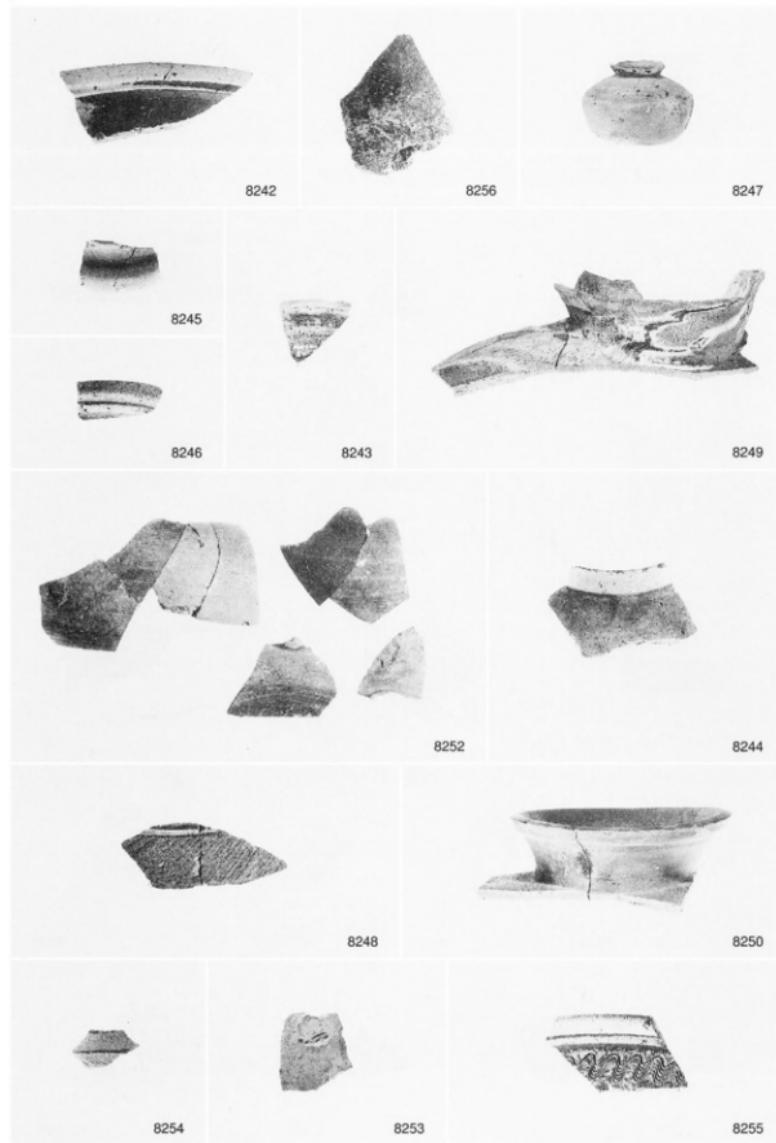
土師器



須恵器



須惠器



須惠器



8251



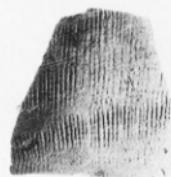
8251



8257



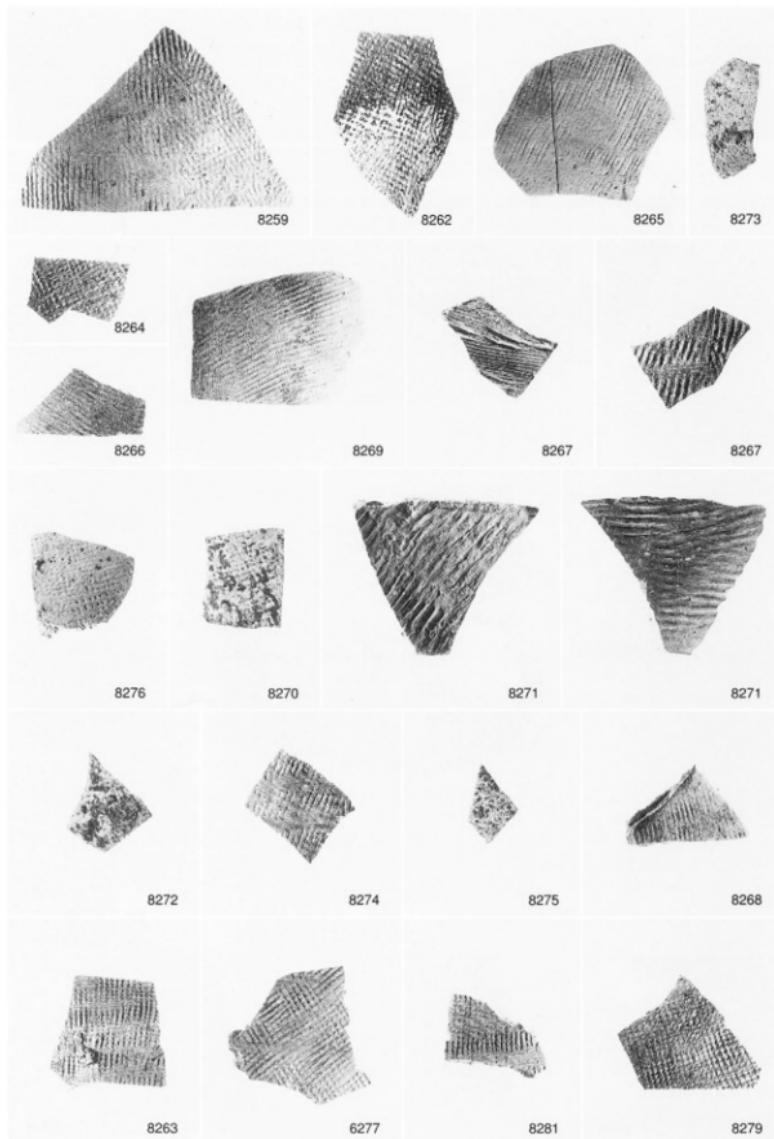
8258



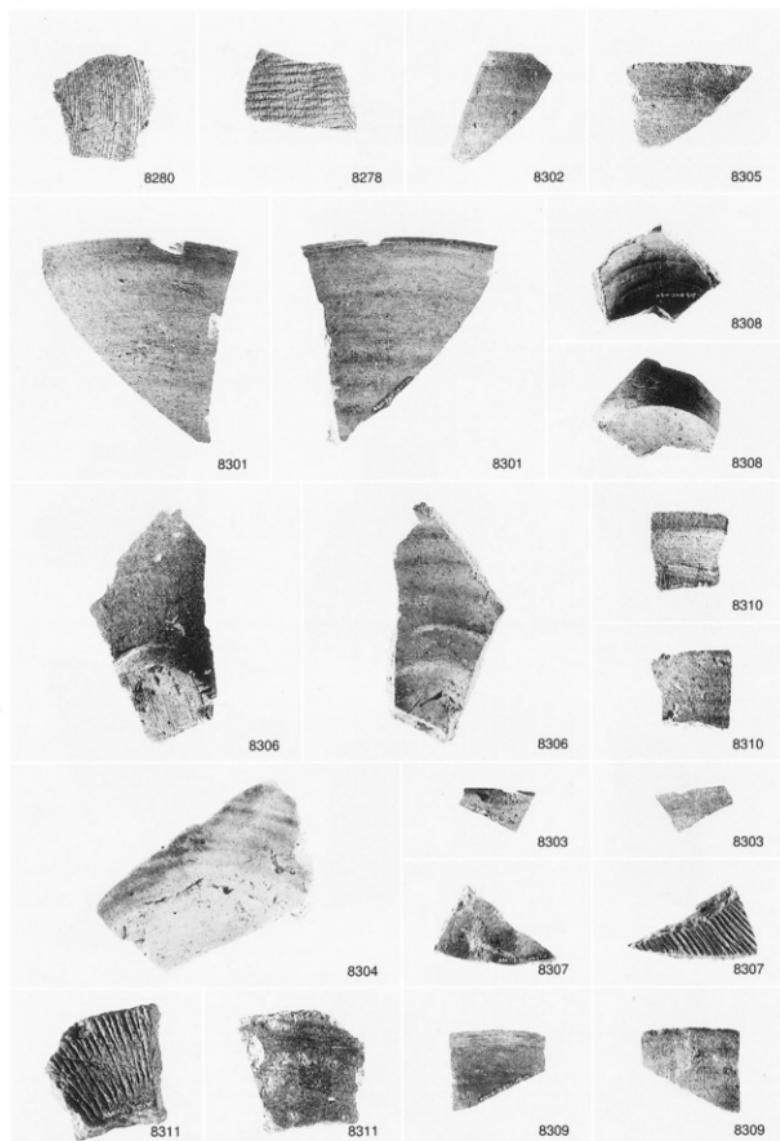
8261

8260

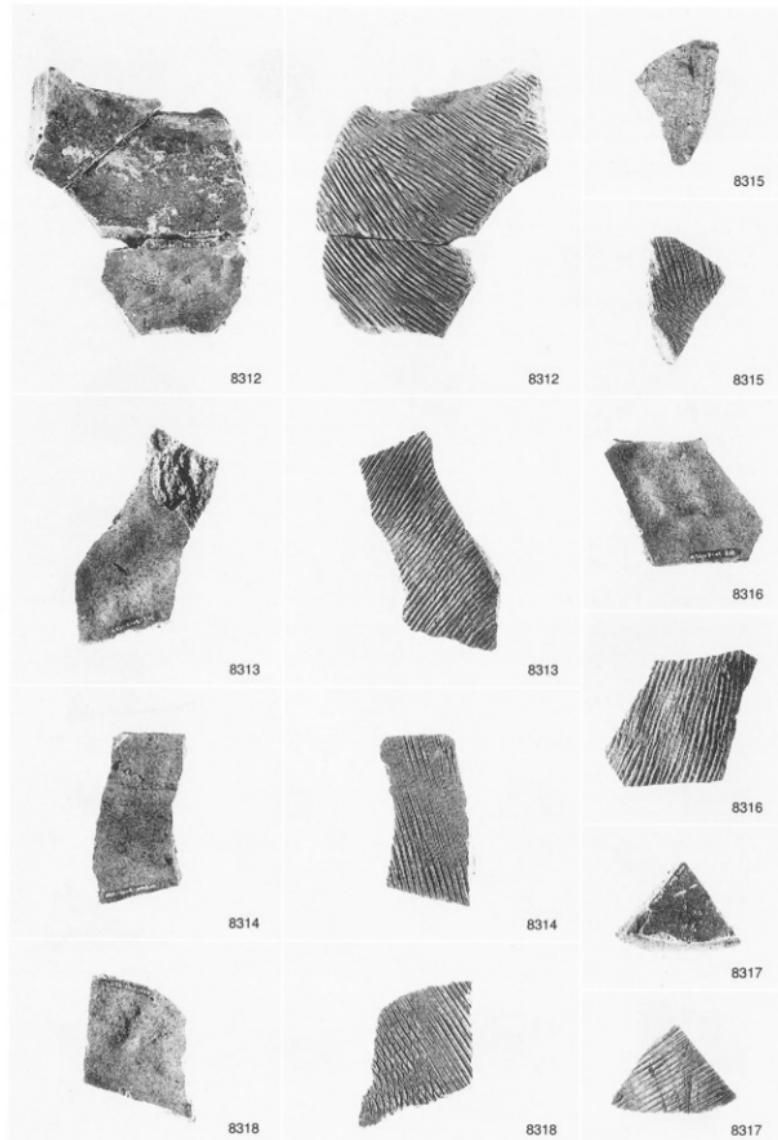
須恵器



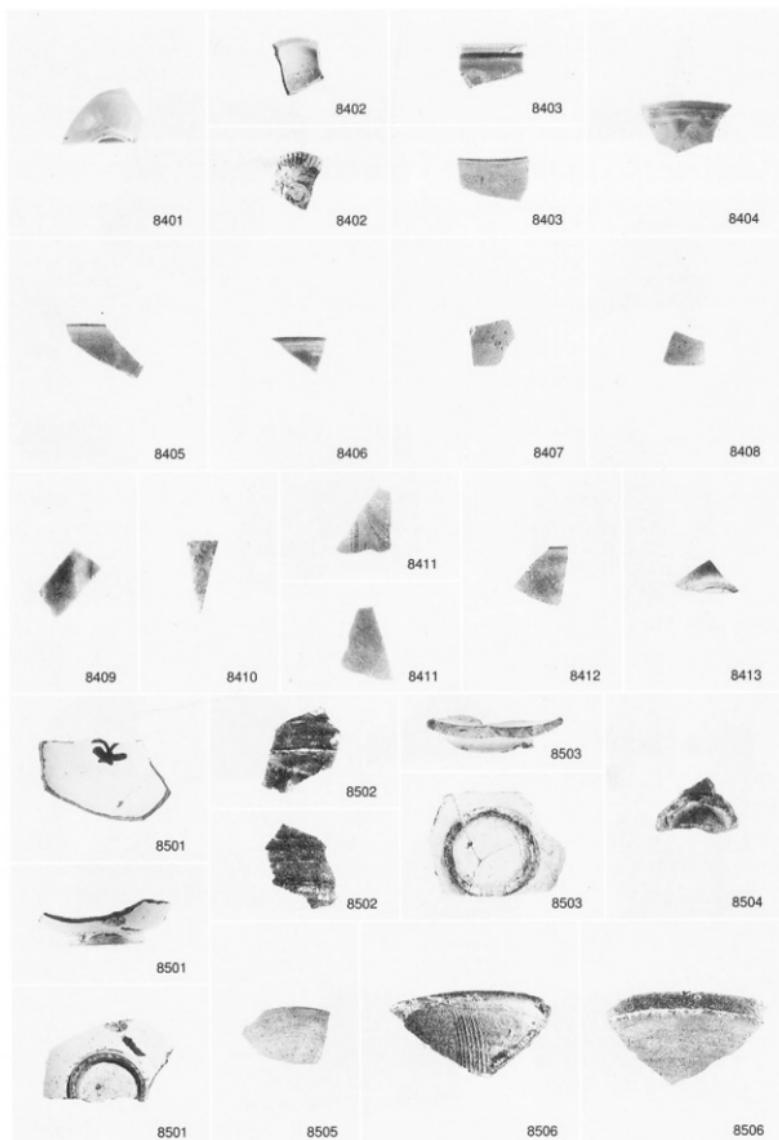
須恵器



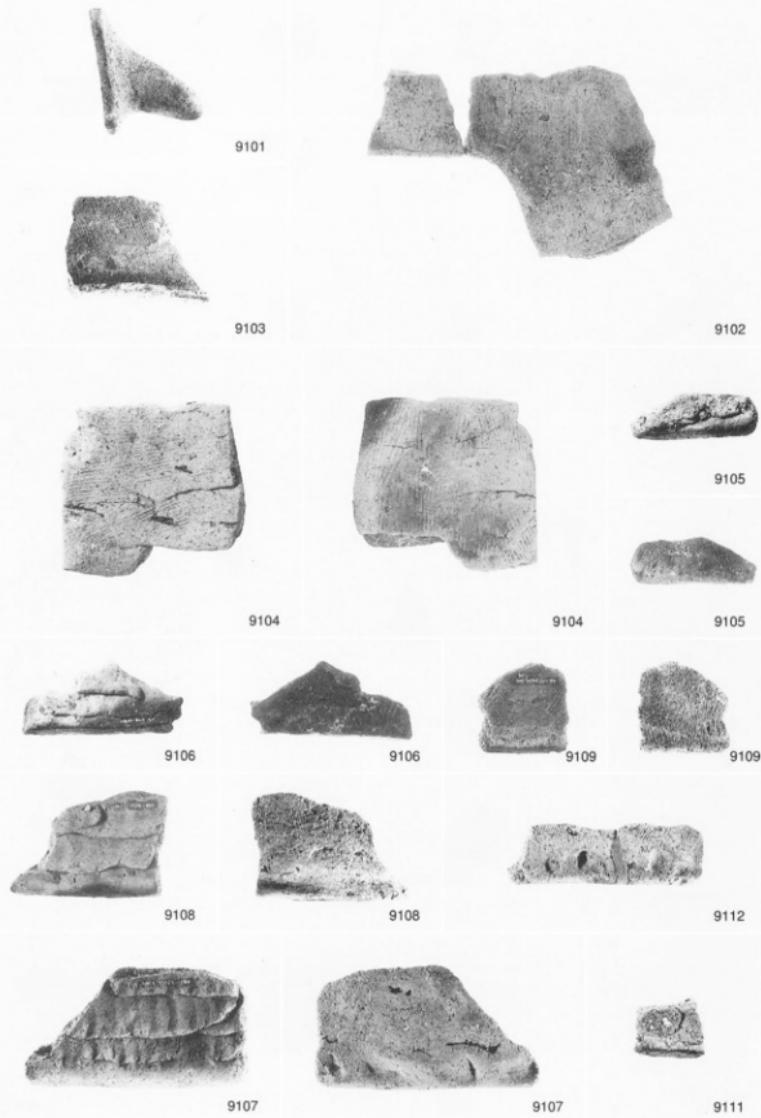
珠洲



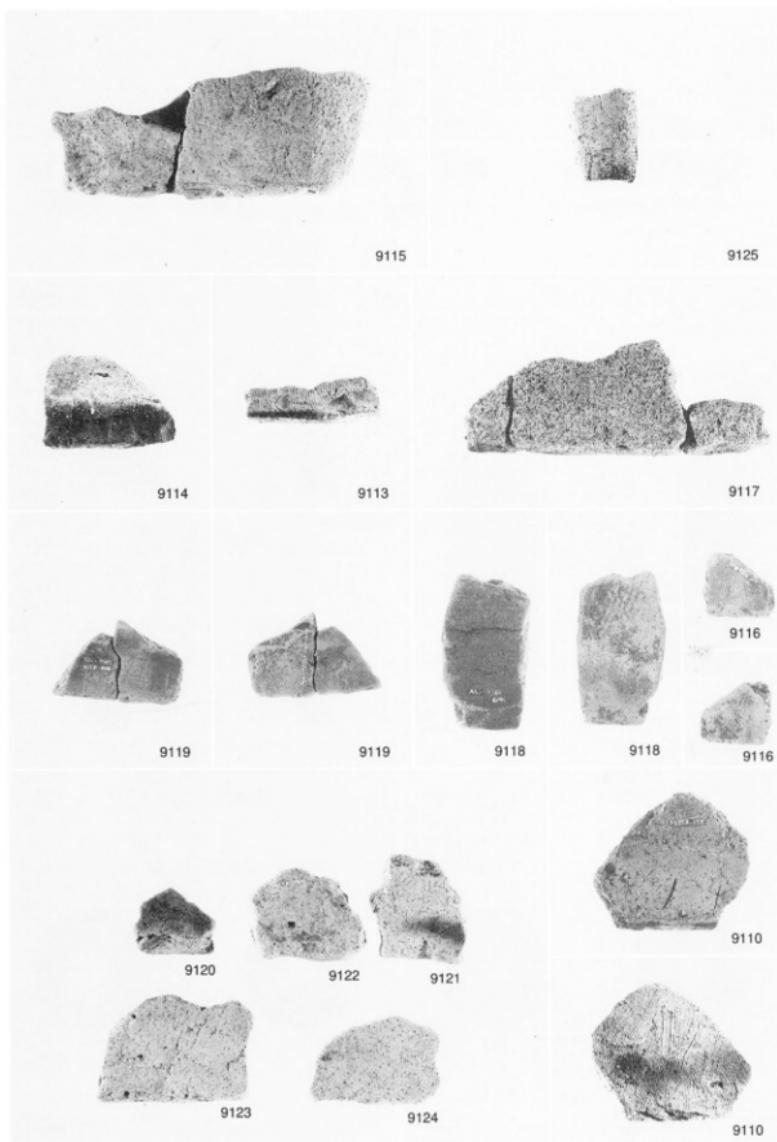
珠洲



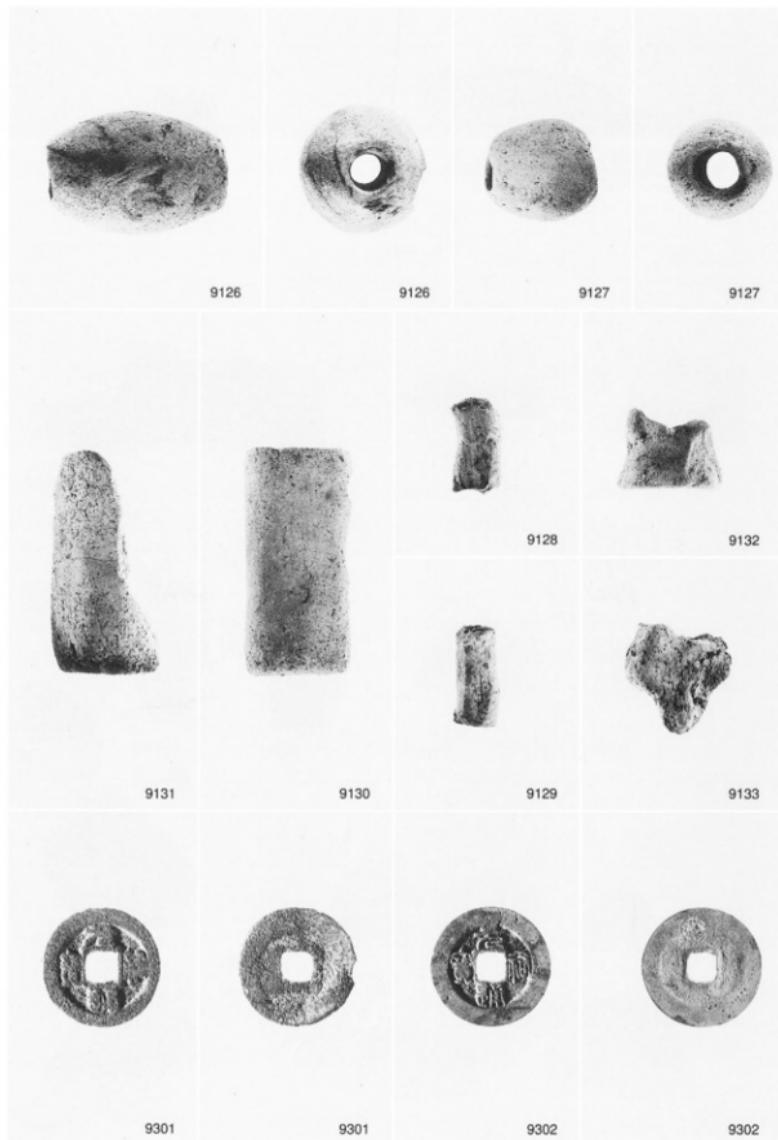
白磁・青磁・灰釉陶器・瀬戸美濃・志野織部・志野・越前



土製品



土製品



土製品・銅製品



9201

9201



9202

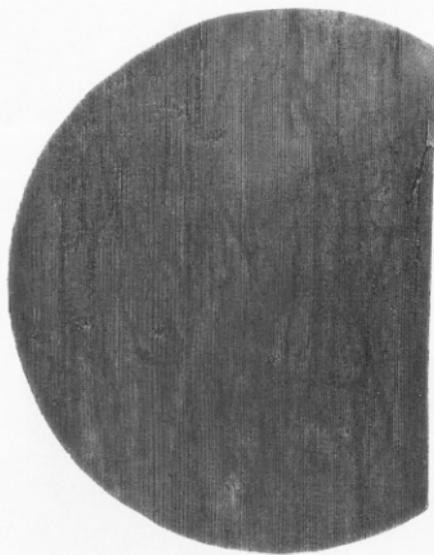


9204



9205

木製品



9210



9209



9208



9211

木製品



9206

9206



9207



9214



9218

木製品



9212



9212



9216



9219



9213



9220



9215



9225

木製品



9221



9222



9230



9217



9223

木製品



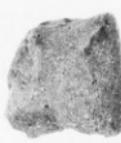
木製品



9401



9401



9401



9401



9402



9402



9402



9402



9403



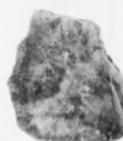
9403



9403



9403



9404



9404

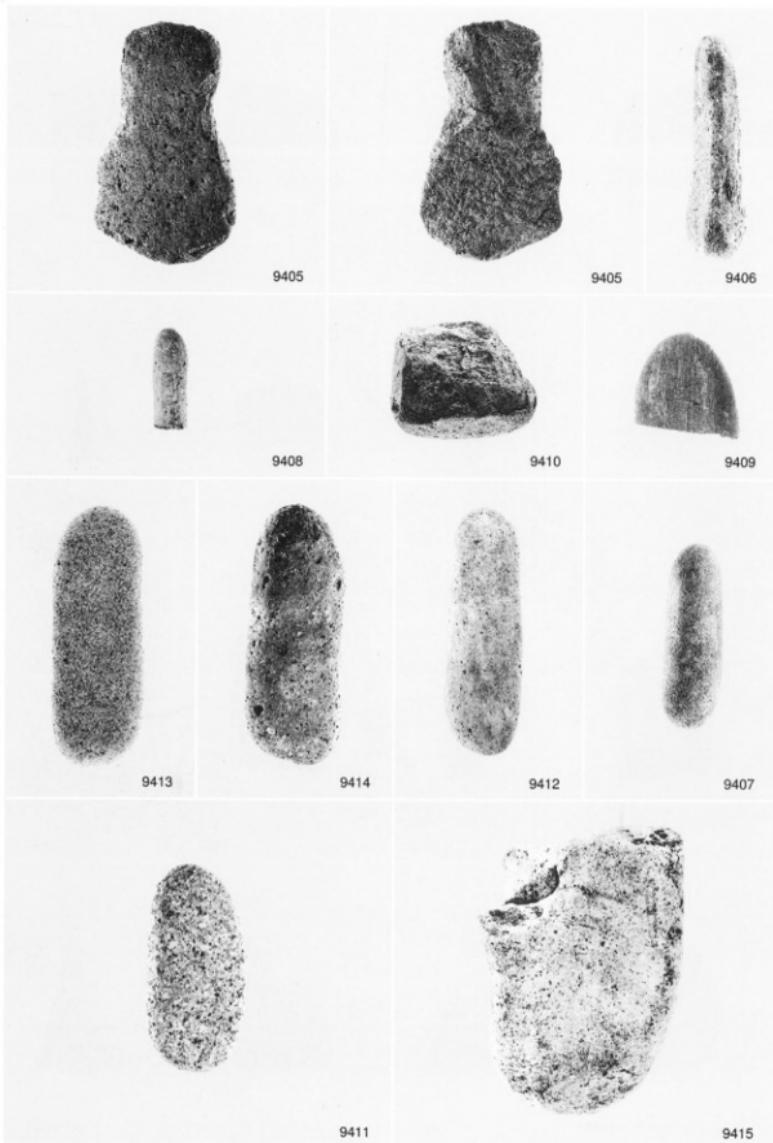


9404



9404

石製品



石製品



9501



9502

種子類

報告書抄録

ふりがな	あそうやいせき あそうやしんせいいんいせきちょうさほうこく						
書名	麻生谷遺跡・麻生谷新生園遺跡調査報告						
副書名	平成4~7年度、主要地方道小矢部伏木港線道路改良工事に伴う調査						
卷次							
シリーズ名	高岡市埋蔵文化財調査報告						
シリーズ番号	第1冊						
編集者名	山口辰一・武部喜光・高柳正春						
編集機関	高岡市教育委員会						
所在地	〒933 富山県高岡市広小路5-70 TEL 0766-20-1453						
発行年月日	西暦 1997年3月31日						
ふりがな 所取遺跡	所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 度 分 秒	東經 度 分 秒	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
あそうや 麻生谷	こうまけんたかおかし 富山県高岡市 あそうや 麻生谷	16202 202037	36度 44分 34秒	136度 56分 50秒	試掘調査 19920701~ 19921218 本調査・1 19930810~ 19931228 本調査・2 19950703~ 19951130	2,720	主要地方道 小矢部伏木港線 道路改良工事に 伴う事前調査
あそうや 麻生谷新生 園	こうまけんたかおかし 富山県高岡市 あそうや 麻生谷	16202 202036	36度 44分 34秒	136度 56分 36秒	試掘調査 19920701~ 19921218 本調査 19940805~ 19941209	1,400	
所取遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	等記事項		
麻生谷	集落跡	平安	井戸址4基 掘立柱建物址9棟 構址6条 土坑35基 溝70条 堅穴状遺構6基	土師器、須恵器 斎串、祝符 墨書き土器「人長」	古代北陸道の「川入駅」 推定地付近の遺跡である		
麻生谷新生 園	集落跡	古墳	堅穴住居址1軒 土坑7基 溝2条	土師器、須恵器 器、鐵			

高岡市埋蔵文化財調査報告第1編
麻生谷遺跡・麻生谷新生園遺跡調査報告

発行者 高岡市教育委員会
富山県高岡市庄小路7番50号

1997年3月31日

印刷所 (株)モトヨシ美術印刷
富山県高岡市石瀬本町768
